

3～4年生用

2021年度以前入学生用

教 育 要 項

2023年度開講科目



順天堂大学 医療看護学部

JUNTENDO UNIVERSITY Faculty of Health Care and Nursing

目 次

授業科目		学年	時期	頁数	
人間と教養	人間の理解	英米文学	3	後後	1
	人間と社会	現代社会と経済	3	後後	3
	人間と言語表現	医療英語講読Ⅰ(初級)	3	後	5
		医療英語講読Ⅱ(中級)	4	前	8
		メディア英語	3	前	11
スポーツと健康	夏季野外スポーツ実習	1~3	前	14	
人間の健康	健康と社会	助産学概論	3	前前	15
		保健統計	3	前後	17
		保健医療福祉行政論	3	前前	19
	心の健康	臨床心理学	3	後後	22
		母性の心理・社会学	3	前後	24
	健康と医療	形態機能学Ⅱ	3	後後	26
臨床薬理学		3	後後	28	
看護の理論と方法	看護の基本	看護倫理	3	前前	30
		フィジカルアセスメント	3	前	32
	ライフステージと看護	小児看護方法論Ⅰ(病期別援助論)	3	前前	35
		小児看護方法論Ⅱ(状況別援助論)	3	前後	37
		小児看護学実習	3・4	複期	40
		成人看護方法論Ⅳ(がん看護論)	3	前後	43
		成人看護学実習Ⅰ	3・4	複期	46
		成人看護学実習Ⅱ	3・4	複期	48
		高齢者看護学実習	3・4	複期	50
	ウイメンズヘルスと看護	母性看護学実習	3・4	複期	52
		助産診断技術学総論	3	後後	54
		助産診断技術学Ⅰ(妊娠・分娩期の助産診断)	3	後後	56
		助産診断技術学Ⅱ(妊娠・分娩期の助産技術)	4	前前	59
		助産診断技術学Ⅲ(分娩助産技術)	4	前後	61
		助産診断技術学Ⅳ(産褥期)	4	前前	63
		助産診断技術学Ⅴ(新生児・乳児期)	4	前後	65
		助産管理	4	前後	67
		周産期の医療安全	4	前前	69
		助産学実習	4	後	71
	ソーシャルライフと看護	精神看護方法論Ⅰ(精神看護援助の基礎)	3	前前	73
		精神看護方法論Ⅱ(精神看護援助論)	3	前後	75
		精神看護学実習	3・4	複期	78
		在宅看護方法論Ⅱ(在宅看護技術論)	3	前前	80
		在宅看護学実習	3・4	複期	83
		公衆衛生看護活動論	3	前前	85
		地域診断論	3	前後	88
		学校保健	3	後後	90
		産業保健	3	後後	92
		公衆衛生看護学実習Ⅰ(行政・地域)	4	後前	94
	公衆衛生看護学実習Ⅱ(産業)	4	後前	96	
医療看護の統合と発展	看護研究の原理と方法	3	前前	98	
	医療看護研究Ⅰ	3	後後	100	
	医療看護研究Ⅱ	4	通期	102	
	看護の質と安全管理	3	前後	104	
	看護管理学	3	後後	106	
	医療と看護政策	4	前前	108	
	地域包括ケアシステム論	3	後後	110	
	感染看護	3	前後	112	
	リハビリテーション看護	3	後後	114	
	エンド・オブ・ライフケア論	3	後後	116	
	救急看護	4	前前	118	
	統合実習	4	前	120	
	順天堂の先端医療と看護	2~4	前前	122	
	看護職キャリア開発論	3	前前	124	
	看護健康教育論	3	後後	126	
	ナーシング・スキルアップ	4	後前	128	
	国際保健	3	前前	131	
	災害看護	4	前前	133	
多文化の医療と看護(海外研修)	2~4	通年	135		

※時期:前期,後期,通年,前前(前期前半),前後(前期後半),後前(後期前半),後後(後期後半)

科目名	英米文学	必修・選択	選択
英語科目名	English Literature	対象学年	3年
開講学期	後期後半	単位数	2単位
代表教員	山崎 遼	ナンバリング	PNL11A1
担当教員	山崎 遼	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	英語を介して行う異文化コミュニケーションには、英米社会で教養とされる主要文学作品（随筆、小説、演劇等）の知識が不可欠である。この授業では、近世（ルネサンス期）頃から現代までの英米文学の概要を学ぶことで、そして、文学作品に投影された時代・社会背景から欧米文化への理解を深めることを目標とする。文学作品の鑑賞を通して、英米文学・文化を理解する「教養ある医療人」となることを目指す。				
授業の位置づけ	この科目は「人間の理解」に位置付けられ、古典から現代の学術までに触れ、文化・芸術・文学への理解を深め、豊かな人間性を養うために3年次後期後半に学ぶ科目である。人間の本質を理解し、自己を見つめ直すことによって他者との円滑な人間関係を築こうとする基本的態度を身につける科目でもある。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	©DPI-II				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 近世（ルネサンス期）頃からの英米文学の概略を説明できる。 2. 英米文学史上、代表的な作家の文学作品の内容が説明できる。 3. 文学作品のテーマや作品が書かれた時代の社会背景を説明できる。 4. 文学作品が書かれた時期の英米文化と日本文化の違いが説明できる。 5. 文学作品のテーマを理論的に分析したエッセイを作成できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	なし				
学修上の注意	欧米文化の教養としての文学作品に親しむとともに、作品から学び感じたことを自分の言葉で表現する。授業中のディスカッションには主体的に参加すること。毎回授業の最後に、その日の授業がどれだけ理解できたか確かめるためのミニ・テストを出題するので、しっかり授業に取り組み、メモ等を取る。また、全授業終了後に提出するレポート作成時には、授業内でのディスカッションを踏まえ、議論を深め、発展させる形で主題を論じること。				
成績評価の方法					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート1題（50%）：最終授業（14回目の授業）にてレポート内容・提出期限についての説明がある。 ・授業時の課題（ミニ・テスト）（40%）：毎回の授業後に、その日の授業内容がきちんと把握できているか測るためのミニ・テストを実施する。ミニ・テストはオンライン（Googleフォーム）で出題・採点し、返却する際にフィードバックを与える予定。 ・日々の学習状況・授業参画度（10%）：授業態度など。 以上の項目から総合的に評価する。				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ルネサンス期頃からの英米文学の概略を理解しているか ・英米文学史上、代表的な作家の作品とその内容を理解しているか ・主な作品について、その時代の社会背景を理解しているか ・同時代の英米文化と日本文化の違いを把握しているか ・文学作品のテーマを理解したうえで、テーマに関する理論的な文章を書くことができるか 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
<ul style="list-style-type: none"> ・ミニ・テストの結果は、次の授業までに返却し、解説する。 ・ミニ・テスト等に対するフィードバックの希望者には随時メールで受け付ける。 ・レポート課題のフィードバックはJuntendo-PASSPORTで行う。 					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
William Shakespeare, Hamlet Mark Twain, Adventures of Huckleberry Finn Nathaniel Hawthorne, The Scarlet Letter Toni Morrison, Beloved Amy Tan, The Joy Luck Club その他、文学作品を取り上げる。レポート作成時には作品の原書（もしくは翻訳）を参照することが望ましい。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時メール（r.yamasaki.ch@）にて質問等受け付ける				
備考	授業時にプリントを配布する。				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	山崎	イントロダクション ・歴史と文学 ・英米文学史概観	講義	[予習]「文学」(literature)の意義について考えてくる。(学習時間:70分) [復習]授業で学習した作品の時代背景、内容・テーマ、感想をまとめる。(学習時間:70分)
2	山崎	イギリス文学 —15世紀まで— ・イギリスの始まり(ノルマン人による征服まで) ・文学の始まり —チョーサーの時代(14・15世紀)— ・シェイクスピアのイントロダクション	講義 ディスカッション	[予習]14・15世紀イギリスの時代思潮について調べてくる。(学習時間:70分) [復習]授業で学習した作品の時代背景、内容・テーマ、感想をまとめる。(学習時間:70分)
3	山崎	イギリス文学 —16世紀— ・16世紀イギリスの時代思潮 ・文学 詩/演劇:シェイクスピア作品	講義 ディスカッション	[予習]16世紀イギリスの時代思潮について調べてくる。(学習時間:70分) [復習]授業で学習した作品の時代背景、内容・テーマ、感想をまとめる。(学習時間:70分)
4	山崎	イギリス文学 —17・18世紀— ・17・18世紀イギリスの時代思潮 ・文学 詩:形而上詩人、新古典主義 小説・散文:伝記文学、近代小説、ゴシック小説	講義 ディスカッション	[予習]17・18世紀イギリスの時代思潮について調べてくる。(学習時間:70分) [復習]授業で学習した作品の時代背景、内容・テーマ、感想をまとめる。(学習時間:70分)
5	山崎	イギリス文学 —19世紀①— ・19世紀初期～中期イギリスの時代思潮 ・文学 詩:ロマン主義 小説・散文:社会的階層、写実的物語	講義 ディスカッション	[予習]19世紀(初期～中期)イギリスの時代思潮について調べてくる。(学習時間:70分) [復習]授業で学習した作品の時代背景、内容・テーマ、感想をまとめる。(学習時間:70分)
6	山崎	イギリス文学 —19世紀②・20世紀①— ・19世紀後期～20世紀初頭のイギリスの時代思潮 ・文学 小説・散文:デカダンス、世紀末・ブルームズベリー・グループ 演劇:演劇の大衆化 ・パレエ・リュスとのつながり	講義 ディスカッション	[予習]19世紀(後期)～20世紀初頭のイギリスの時代思潮について調べてくる。(学習時間:70分) [復習]授業で学習した作品の時代背景、内容・テーマ、感想をまとめる。(学習時間:70分)
7	山崎	イギリス文学 —20世紀②— ・20世紀イギリスの時代思潮 ・文学 詩:モダニズム、牧歌的、イマジスト 小説・散文:「意識の流れ」、「性」の表現	講義 ディスカッション	[予習]20世紀イギリスの時代思潮について調べてくる。(学習時間:70分) [復習]授業で学習した作品の時代背景、内容・テーマ、感想をまとめる。(学習時間:70分)
8	山崎	アメリカ文学 —植民地時代～19世紀初期— ・植民地時代～19世紀初期アメリカの時代思潮 ・文学 小説・散文: ・先住民の口承文学、航海記録、ピューリタン文学 ・英国感傷小説、ゴシック・ロマンス	講義 ディスカッション	[予習]植民地時代～19世紀(初期)アメリカの時代思潮について調べてくる。(学習時間:70分) [復習]授業で学習した作品の時代背景、内容・テーマ、感想をまとめる。(学習時間:70分)
9	山崎	アメリカ文学 —ロマンティシズム— ・19世紀中・後期アメリカの時代思潮 ・文学 詩/小説・散文:超越主義、懐疑ロマン主義	講義 ディスカッション	[予習]19世紀(中期)アメリカの時代思潮について調べてくる。(学習時間:70分) [復習]授業で学習した作品の時代背景、内容・テーマ、感想をまとめる。(学習時間:70分)
10	山崎	アメリカ文学 —リアリズム— ・19世紀後期～20世紀初頭アメリカの時代思潮 ・文学 小説・散文:リアリズム文学、地方色文学、自然主義文学	講義 ディスカッション	[予習]19世紀(後期)～20世紀(初頭)アメリカの時代思潮について調べてくる。(学習時間:70分) [復習]授業で学習した作品の時代背景、内容・テーマ、感想をまとめる。(学習時間:70分)
11	山崎	アメリカ文学 —1920年代— ・1920年代アメリカの時代思潮 ・文学 小説・散文:「失われた世代」と呼ばれる作家たち	講義 ディスカッション	[予習]1920年代アメリカの時代思潮について調べてくる。(学習時間:70分) [復習]授業で学習した作品の時代背景、内容・テーマ、感想をまとめる。(学習時間:70分)
12	山崎	アメリカ文学 —世界恐慌後— ・1930年代アメリカの時代思潮 ・文学 小説・散文:プロレタリア文学、南部作家	講義 ディスカッション	[予習]1930年代アメリカの時代思潮について調べてくる。(学習時間:70分) [復習]授業で学習した作品の時代背景、内容・テーマ、感想をまとめる。(学習時間:70分)
13	山崎	アメリカ文学 —第2次世界大戦後～1960年頃まで— ・第2次大戦後～1960年頃までのアメリカの時代思潮 ・文学 小説・散文:南部作家、黒人文学、ビート小説	講義 ディスカッション	[予習]第2次世界大戦後～1960年頃までのアメリカの時代思潮について調べてくる。(学習時間:70分) [復習]授業で学習した作品の時代背景、内容・テーマ、感想をまとめる。(学習時間:70分)
14	山崎	アメリカ文学 —1960年代～現代— ・1960年代～現代のアメリカの時代思潮 ・文学 小説・散文:不条理小説、ビート小説、ユダヤ系作家、女性の文学 レポート課題の説明	講義 ディスカッション	[予習]1960年代以降のアメリカの時代思潮について調べてくる。(学習時間:70分) [復習]これまでの授業で学習し、まとめたものを整理し、レポート作成の準備をする。(学習時間:70分)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記(PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	現代社会と経済	必修・選択	選択
英語科目名	Modern Society and Economy	対象学年	3年
開講学期	後期後半	単位数	2単位
代表教員	鈴木 慶春	ナンバリング	PNL12A1
担当教員	鈴木 慶春	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	経済学の用語や概念を理解したのち、それらを用いて具体的な経済問題を分析する。人々の経済行動を分析するミクロ経済学、および一国全体の経済状況を分析するマクロ経済学の双方をバランス良く学習する。				
授業の位置づけ	テレビや新聞等で報じられる経済ニュースは社会に出た途端に自身のビジネスや生活に関わるものとなる。経済学の学習を通じて、社会・経済で生活する上での基礎知識と考察力を習得することを、本講義の位置づけとする。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DPI-IT⑤、◎DPI-IT⑥、△DPI-IT⑧				
到達目標	1. ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的用語を理解し、それぞれの概念の定義について説明できる。 2. GDPや失業率など現実経済の様々な指標を、データから計算できる。 3. 具体的な経済問題を、講義で学んだ用語により解釈できる。				
先修要件	なし				
関連科目	なし				
学修上の注意	1. 講義内容に関係した演習問題を、毎回の授業内で行います。 2. 経済学に初めて触れる学生を対象として講義しますので、予備知識は要求しません。				
成績評価の方法					
評価方法	定期試験(筆記)100%で評価します。				
評価基準	1. ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的用語について説明できるか、定期試験で評価する。 2. GDPや失業率など現実経済の様々な指標をデータから正しく計算できるか、定期試験で評価する。 3. 現実の具体的な経済問題が、講義で学んだどの用語・概念と合致すると判断できるかを、定期試験で評価する。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
毎回の授業内で課す演習問題は、次回の授業の講義冒頭にて解答・解説を行います。また期末試験については模範解答をポータルにアップロードします。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし					
参考文献					
授業内で適宜紹介します。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	担当教員は非常勤のため浦安キャンパスにオフィスがありません。質問があればいつでもメールで対応しますので、要件を添えて以下まで送信して下さい。 ksuzuki@chiba-u.jp				
備考	なし				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	鈴木 慶春	・この講義の概要と成績評価の基準についてガイダンスを行う。 ・経済学はどのような学問か、分析の対象と方法について理解する。 ・経済学の二大分野であるミクロ経済学とマクロ経済学の概要について解説する。	講義	予習：最近の日本や世界で起きた経済ニュースについて調査する。(学習時間：2時間) 復習：ミクロ経済学とマクロ経済学の特徴や相違点について整理し理解を再確認する。(学習時間：2時間)	
2	鈴木 慶春	・分業と交換のメリット、国際間の自由貿易のメリット・デメリットについて学習する。 ・機会費用、比較優位という概念を理解したのち、交易がもたらす経済的利益について素朴なモデルを用いて分析する。	講義	予習：なぜ自由貿易に反対する人々がいるのか、彼らの意見について調査する。(学習時間：2時間) 復習：自由貿易の長所と短所を把握して、どのような貿易政策が望ましいのかを考察する。(学習時間：2時間)	
3	鈴木 慶春	・ゲーム理論の基本的なトピックである、支配戦略均衡とナッシュ均衡、囚人のジレンマについて学習する。 ・複数の人の意思決定が相互に作用する状況において、各人がどのように行動するのか、そしてその結果どのような状態が実現するのかを分析する。	講義	予習：現実の企業間の価格競争の具体例を調べる。(学習時間：2時間) 復習：現実のどの事象が「囚人のジレンマ」に当てはまっているかを考える。(学習時間：2時間)	

4	鈴木 慶春	・ゲーム理論の基本的なトピックである、チキンゲーム、協調の失敗、サブゲーム完全均衡について学習する。 ・複数の人の意思決定が異なるタイミングで行われる状況において、各人がどのように行動するのか、そしてその結果どのような状態が実現するのかを分析する。	講義	予習: 「相手の行動を先読みして行動する」具体例を探す。また「相手より早く行動する」ことが自分の得になる例と損になる具体例を考える。(学習時間: 2時間) 復習: 現実のどの事象がチキンゲーム、協調の失敗に当てはまっているか考える。(学習時間: 2時間)
5	鈴木 慶春	・財が取引される「市場」において、財・サービスの価格はどのようにして決まるのかを学習する。 ・経済学の基礎となる「需要曲線」と「供給曲線」について学習する。	講義	予習: 世の中の財・サービスはどのようにしてそれぞれで価格が異なるのかを考える。また、どのようなときに価格が変化するか考える。(学習時間: 2時間) 復習: 経済に様々な外的ショックが発生したときに市場均衡がどう動くのかを整理する。(学習時間: 2時間)
6	鈴木 慶春	・政府が市場介入したときに均衡価格や均衡数量がどのように動くのかを学習する。 ・前回の内容を発展させ、価格規制や課税などの政策が市場に与える影響を需要曲線と供給曲線の図を用いて議論する。	講義	予習: 現実の政府はどのような財・サービスに対して市場介入を行っているか考える。(学習時間: 2時間) 復習: 現実の各種の課税がどの「租税原則」に則っているのかを考える。(学習時間: 2時間)
7	鈴木 慶春	・消費税や所得税など、日本や世界各国における税制の役割について学習する。 ・課税が持つ様々な経済学的機能を学習する。	講義	予習: 日本や世界にある税制について調査する。特に消費税率の違いについて調査する。(学習時間: 2時間) 復習: 日本の税制が講義で学んだ理論通りの経済学的機能を有しているか考察する。(学習時間: 2時間)
8	鈴木 慶春	・民間保険と社会保険の違いと役割を学ぶ。 ・現実の保険の種類や、逆選択やモラルハザードなど保険に付随する経済問題について解説する。	講義	予習: 日本にはどのような公的保険制度があるか調査する。また民間の保険会社がどのような種類の保険を販売しているか調べる。(学習時間: 2時間) 復習: 民間保険と社会保険の役割分担について再整理し、それぞれの保険が国または民間で提供されている理由を考察する。(学習時間: 2時間)
9	鈴木 慶春	・労働市場と失業について学習する。 ・失業が発生する理論的な理由を説明したのち、失業対策として政府がどのような政策をしているかを解説する。	講義	予習: 日本や世界の主要国の失業率の推移を調査する。また失業率が上下する理由を考える。(学習時間: 2時間) 復習: 失業の発生理由と政府の失業対策について再整理し理解を深める。(学習時間: 2時間)
10	鈴木 慶春	・社会的選択理論、特に投票理論について学習する。 ・メカニズムデザインと呼ばれる分野のうちのマッチング理論を学習する。	講義	予習: アメリカのボストンにおける公立学校の進学システムについて調査する。(学習時間: 2時間) 復習: 講義で学んだアルゴリズムを自分の手で再現できるかを確認する。(学習時間: 2時間)
11	鈴木 慶春	・日本と世界各国のマクロ経済の状態を、経済成長率や失業率等のデータを用いて把握する。 ・なぜ日本が長期的な不況に陥っているのかを考察する。	講義	予習: 日本のバブル崩壊、アメリカのリーマンショックなど、世界各国で起きた金融危機について調査する。(学習時間: 2時間) 復習: 世界各国の経済的特徴を把握し、相違点や共通点を見つける。(学習時間: 2時間)
12	鈴木 慶春	・一国の経済活動の規模を測る指標としての国内総生産 (GDP) について学習する。 ・GDPの定義や測定方法を説明する。	講義	予習: 日本や世界の国々のGDPの推移を調査する。(学習時間: 2時間) 復習: 名目GDPと実質GDPの違いについて整理し、講義の計算問題を自分の手で再現できるか確認する。(学習時間: 2時間)
13	鈴木 慶春	・日本の物価はどのように動いてきたのか、物価水準はどのようにして計測されるのかを学習する。 ・物価水準の指標をいくつか紹介したのち、それぞれの相違点を学習する。	講義	予習: 世界各国の物価の動向を調べる。(学習時間: 2時間) 復習: 過去と現在の貨幣価値を換算する方法を整理し、講義の計算問題をもう一度解く。(学習時間: 2時間)
14	鈴木 慶春	・2国間の為替レートはどのような原因で変動するのかを理論面から学ぶ。 ・購買力平価の概念を学び、2国間の本当の意味での経済的豊かさを比較する。	講義	予習: 日本円の為替レートの推移を調べる。また円ドルが固定相場制から変動相場性に変わった歴史的背景を調査する。(学習時間: 2時間) 復習: 購買力平価で測ったGDPのランキングを調べる。また講義で学んだ計算方法により講義資料のクロスレートをもう一度計算する。(学習時間: 2時間)
15	鈴木 慶春	・期末試験を行う。	期末試験	予習: 全ての講義内容を復習し、これまでに出題した演習問題をもう一度解く。(学習時間: 2時間) 復習: 模範解答を確認し、自己採点を通じて間違った問題を復習する。(学習時間: 2時間)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記 (PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	医療英語講読I (初級)	必修・選択	選択
英語科目名	Medical English Reading I	対象学年	3年
開講学期	後期	単位数	1単位
代表教員	山崎 遼	ナンバリング	PNL14A1
担当教員	山崎 遼	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	これまでの英語学習を基礎に、医療系のニューズレター、医療記事、論文などを中心に読解練習を重ね、医療系の語彙、表現を学び、さまざまな医療文献が読める英語力を養う。また、大学院進学や留学なども視野に入れ、医療英語とともに、語彙、リスニング、スピーキング練習も行い、充実した英語基礎力を身につける。				
授業の位置づけ	この科目は「人間と言語表現」に位置付けられ、実践的な英語運用能力の中でも読解力を向上させるために3年次後期に学ぶ科目である。2年次までに培った英語力や知識を応用しながら医療文献を読み理解することで、グローバルに活躍できる医療従事者となる素地を作る科目でもある。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP1-IV、◎DP4-I				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 特に難解でなければ、ほとんどの医療記事・論文などが読めるようになる。 医療系の用語・語彙を理解し、医療文献の内容を理解できる。 テーマに沿って必要な文献や情報を収集し、ディスカッションを通して意見を交換することができる。 自分の関心のある問題についての意見をプレゼンテーションにより発信できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	医療英語講読II (中級) (4年前期選択)				
学修上の注意	テキストのReading部分の不明な単語は辞書で調べ、予習をして授業に臨むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	筆記試験 (40%)、復習課題 (30%)、プレゼンテーション (20%)、授業参画度 (10%) で総合的に評価する。				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 標準的な医療記事・論文などを読むことができるか 医療系の用語・語彙を理解しているか テーマに沿った文献や情報を収集し、意見交換することができるか 関心のある問題について自分の意見を発信することができるか 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
<ul style="list-style-type: none"> 復習課題の結果は、次の授業までに返却し、解説する。 課題等に対するフィードバックの希望者には随時メールで受け付ける。 試験は採点后に返却し、必要に応じてフィードバックを与える。 					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	Because We Care --English for Healthcare Professionals (Second Edition)	Maki Inoue and Tadashi Ihara	センゲージ ラーニング	9784863123687	
参考文献					
John S. Lander, Movie English (Asahi Press)					
『看護英語辞典』 (医学書院) Oxford Advanced Learner's Dictionary					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時メール (r.yamasaki.ch@) にて質問等受け付ける				
備考	シラバス内の授業計画におけるテキスト“Because We Care”は「BWC」、「Movie English」は「ME」と表記する。				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	山崎	オリエンテーション 医療英語学習法：効率的な学び方 [BWC] Introduction: Hospital Floors and Healthcare Professionals	演習 GW ディスカッション	[予習] [BWC] Introductionの語彙を調べ、教員が指示した範囲の予習を行う。(学習時間：30分) [復習] 授業で学んだ語彙や英語表現を見直し、復習課題に取り組む。採点後に返却された解答を見て、再度復習する。(学習時間：30分)
2	山崎	[BWC] Unit 1: Body Parts 人体各部に関する英語を学ぶ	演習 GW ディスカッション	[予習] [BWC] Unit 1の語彙を調べ、教員が指示した範囲の予習を行う。(学習時間：30分) [復習] 授業で学んだ語彙や英語表現を見直し、復習課題に取り組む。採点後に返却された解答を見て、再度復習する。(学習時間：30分)
3	山崎	医療系の記事・論文・ニューズレターの読み方 [ME] Unit 1: The Hunger Games: Catching Fire 『ハンガー・ゲーム2』	演習 GW ディスカッション	[予習] [ME] Unit 1の語彙を調べ、教員が指示した範囲の予習を行う。(学習時間：30分) [復習] 授業で学んだ英語論文の読み方と[ME]Unit 1の語彙や英語表現を見直し、復習課題に取り組む。採点後に返却された解答を見て、再度復習する。(学習時間：30分)
4	山崎	[BWC] Unit 2: Musculoskeletal System 筋肉と骨に関する英語を学ぶ	演習 GW ディスカッション	[予習] [BWC] Unit 2の語彙を調べ、教員が指示した範囲の予習を行う。(学習時間：30分) [復習] 授業で学んだ語彙や英語表現を見直し、復習課題に取り組む。採点後に返却された解答を見て、再度復習する。(学習時間：30分)
5	山崎	医療系の記事・論文・ニューズレターの読み方 & 検索の仕方 [ME] Unit 2: Blue Jasmine 『ブルージャズミン』	演習 GW ディスカッション	[予習] [ME] Unit 2の語彙を調べ、教員が指示した範囲の予習を行う。(学習時間：30分) [復習] 授業で学んだ英語論文の読み方・検索方法と[ME]Unit 2の語彙や英語表現を見直し、復習課題に取り組む。採点後に返却された解答を見て、再度復習する。(学習時間：30分)
6	山崎	[BWC] Unit 3: Cardiovascular System 循環器に関する英語を学ぶ	演習 GW ディスカッション	[予習] [BWC] Unit 3の語彙を調べ、教員が指示した範囲の予習を行う。(学習時間：30分) [復習] 授業で学んだ語彙や英語表現を見直し、復習課題に取り組む。採点後に返却された解答を見て、再度復習する。(学習時間：30分)
7	山崎	医療系の記事・論文・ニューズレターの検索の仕方 [ME] Unit 3: Oz the Great and Powerful 『オズ はじまりの戦い』	演習 GW ディスカッション	[予習] [ME] Unit 3の語彙を調べ、教員が指示した範囲の予習を行う。(学習時間：30分) [復習] 授業で学んだ英語論文の検索方法でプレゼンで取り上げる論文を決める。 [ME]Unit 3の語彙や英語表現を見直し、復習課題に取り組む。採点後に返却された解答を見て、再度復習する。(学習時間：30分)
8	山崎	[BWC] Unit 4: Respiratory System 呼吸器に関する英語を学ぶ	演習 GW ディスカッション	[予習] [BWC] Unit 4の語彙を調べ、教員が指示した範囲の予習を行う。(学習時間：30分) [復習] 授業で学んだ語彙や英語表現を見直し、復習課題に取り組む。採点後に返却された解答を見て、再度復習する。(学習時間：30分)
9	山崎	プレゼンテーションの説明 & 準備について [ME] Unit 4: Trance 『トランス』	演習 GW ディスカッション	[予習] [ME] Unit 4の語彙を調べ、教員が指示した範囲の予習を行う。(学習時間：30分) [復習] 授業で学んだプレゼンテーションの仕方になって、プレゼンテーションの原稿を作成する。 [ME]Unit 4の語彙や英語表現を見直し、復習課題に取り組む。採点後に返却された解答を見て、再度復習する。(学習時間：30分)

10	山崎	[BWC] Unit 5: Digestive System 消化器に関する英語を学ぶ	演習 GW ディスカッション	[予習] [BWC] Unit 5の語彙を調べ、教員が指示した範囲の予習を行う。(学習時間: 30分) [復習] 授業で学んだ語彙や英語表現を見直し、復習課題に取り組む。採点後に返却された解答を見て、再度復習する。(学習時間: 30分)
11	山崎	プレゼンテーションの最終アナウンス [ME] Unit 8: The Imitation Game 『イミテーション・ゲーム/エニグマと天才数学者の秘密』	演習 GW ディスカッション	[予習] [ME] Unit 8の語彙を調べ、教員が指示した範囲の予習を行う。(学習時間: 30分) [復習] 授業で学んだプレゼンテーションの仕方にならって、プレゼンテーションの原稿とスライドを作成する。[ME]Unit 8の語彙や英語表現を見直し、復習課題に取り組む。採点後に返却された解答を見て、再度復習する。(学習時間: 1時間)
12	山崎	[BWC] Unit 6: Brain, Nervous System and Sensory System 脳・神経・感覚に関する英語を学ぶ	演習 GW ディスカッション	[予習] [BWC] Unit 6の語彙を調べ、教員が指示した範囲の予習を行う。(学習時間: 30分) [復習] 授業で学んだ語彙や英語表現を見直し、復習課題に取り組む。採点後に返却された解答を見て、再度復習する。(学習時間: 30分)
13	山崎	試験	試験	[予習] 試験に向けてこれまでに学習したKey ExpressionsやVocabularyを中心に復習しておく。(学習時間: 1時間) [復習] 授業で学んだ語彙や英語表現を見直し、採点後に返却された試験の解答を見て、再度復習する。(学習時間: 30分)
14	山崎	医療系の記事・論文・ニューズレターのプレゼンテーション & ディスカッション	演習 GW ディスカッション	[予習] プレゼンテーションの準備を行う。(発表原稿とPPTスライドの作成) (学習時間: 2時間) [復習] 他の学生からの意見等を振り返りながら、もう一度自分が選んだ文献を読み直す。(学習時間: 2時間)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	医療英語講読II（中級）	必修・選択	選択
英語科目名	Medical English Reading II	対象学年	4年
開講学期	前期	単位数	1単位
代表教員	金子 育世	ナンバリング	ANL14A1
担当教員	金子 育世、山崎 遼	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	これまでの英語学習を基礎に、医療系のニューズレター、医療記事、論文などを中心に読解練習を重ね、医療系の語彙、表現を学び、さまざまな医療文献が読める英語力を養う。また、大学院進学や留学なども視野に入れ、医療英語とともに、語彙、リスニング、スピーキング練習も行い、充実した英語基礎力を身につける。				
授業の位置づけ	この科目は「人間と言語表現」に位置付けられ、実践的な英語運用能力の中でも読解力を向上させるために4年次前期に学ぶ科目である。3年次までに培った英語力や知識を応用しながら医療文献を読み理解することで、グローバルに活躍できる医療従事者となる素地を作る科目でもある。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP1-IV、◎DP4-I				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 特に難解でなければ、ほとんどの医療記事・論文などが読めるようになる。 医療系の用語・語彙を理解し、医療文献の内容を理解できる。 テーマに沿って必要な文献や情報を収集し、ディスカッションを通して意見を交換することができる。 自分の関心のある問題についての意見を、英作文や英語でのプレゼンテーションにより発信できる。 				
先修要件					
関連科目	医療英語講読I（初級）（3年後期選択）				
学修上の注意	テキストのReading部分の不明な単語は辞書で調べ、予習をして授業に臨むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	筆記試験（30%）、復習課題（30%）、プレゼンテーション（30%）、授業参画度（10%）で総合的に評価する。				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 標準的な医療記事・論文などを読むことができるか 医療系の用語・語彙を理解しているか テーマに沿った文献や情報を収集し、意見交換することができるか 関心のある問題について自分の意見を発信することができるか 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
<ul style="list-style-type: none"> 復習課題の結果は、次の授業までに返却し、解説する。 課題等に対するフィードバックの希望者には随時メールで受け付ける。 試験は採点后に返却し、必要に応じてフィードバックを与える。 					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	Because We Care --English for Healthcare Professionals (Second Edition)	Maki Inoue and Tadashi Ihara	センゲージ ラーニング	9784863123687	
参考文献					
John S. Lander, Movie English (Asahi Press) 『看護英語辞典』（医学書院） Oxford Advanced Learner's Dictionary					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時（事前にメールで連絡のこと） ・金子：ikaneko@ ・山崎：r.yamasaki.ch@				
備考	シラバス内の授業計画におけるテキスト“Because We Care”は「BWC」、「Movie English」は「ME」と表記する。				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	金子 山崎	オリエンテーション 医療英語学習法：効率的な学び方 [ME] Unit 10: Big Hero 6 『ベイマックス』	演習 GW ディスカッション	[予習] [ME] Unit 10の語彙を調べ、教員が指示した範囲の予習を行う。(学習時間：30分) [復習] 授業で学んだ英語論文の読み方と[ME]Unit 10の語彙や英語表現を見直し、復習課題に取り組む。採点後に返却された解答を見て、再度復習する。(学習時間：30分)
2	金子 山崎	[BWC] Unit 7: Urinary System 泌尿器に関する英語を学ぶ	演習 GW ディスカッション	[予習] [BWC] Unit 7の語彙を調べ、教員が指示した範囲の予習を行う。(学習時間：30分) [復習] 授業で学んだ語彙や英語表現を見直し、復習課題に取り組む。採点後に返却された解答を見て、再度復習する。(学習時間：30分)
3	金子 山崎	医療系の記事・論文・ニュースレターの読み方 [ME] Unit 11: Third Person 『サード・パーソン』	演習 GW ディスカッション	[予習] [ME] Unit 11の語彙を調べ、教員が指示した範囲の予習を行う。(学習時間：30分) [復習] 授業で学んだ英語論文の読み方と[ME]Unit 11の語彙や英語表現を見直し、復習課題に取り組む。採点後に返却された解答を見て、再度復習する。(学習時間：30分)
4	金子 山崎	[BWC] Unit 8: Reproductive System 生殖器に関する英語を学ぶ	演習 GW ディスカッション	[予習] [BWC] Unit 8の語彙を調べ、教員が指示した範囲の予習を行う。(学習時間：30分) [復習] 授業で学んだ語彙や英語表現を見直し、復習課題に取り組む。採点後に返却された解答を見て、再度復習する。(学習時間：30分)
5	金子 山崎	医療系の記事・論文・ニュースレターの読み方 & 検索の仕方 [ME] Unit 12: 12 Years a Slave 『それでも夜は明ける』	演習 GW ディスカッション	[予習] [ME] Unit 12の語彙を調べ、教員が指示した範囲の予習を行う。(学習時間：30分) [復習] 授業で学んだ英語論文の読み方・検索方法と[ME]Unit 12の語彙や英語表現を見直し、復習課題に取り組む。採点後に返却された解答を見て、再度復習する。(学習時間：30分)
6	金子 山崎	[BWC] Unit 9: Endocrine System 内分泌に関する英語を学ぶ	演習 GW ディスカッション	[予習] [BWC] Unit 9の語彙を調べ、教員が指示した範囲の予習を行う。(学習時間：30分) [復習] 授業で学んだ語彙や英語表現を見直し、復習課題に取り組む。採点後に返却された解答を見て、再度復習する。(学習時間：30分)
7	金子 山崎	医療系の記事・論文・ニュースレターの検索の仕方 [ME] Unit 13: The Butler 『大統領の執事の涙』	演習 GW ディスカッション	[予習] [ME] Unit 13の語彙を調べ、教員が指示した範囲の予習を行う。(学習時間：30分) [復習] 授業で学んだ英語論文の検索方法でプレゼンで取り上げる論文を決める。[ME]Unit 13の語彙や英語表現を見直し、復習課題に取り組む。採点後に返却された解答を見て、再度復習する。(学習時間：30分)
8	金子 山崎	[BWC] Unit 10: Mental Disorder 精神疾患に関する英語を学ぶ	演習 GW ディスカッション	[予習] [BWC] Unit 10の語彙を調べ、教員が指示した範囲の予習を行う。(学習時間：30分) [復習] 授業で学んだ語彙や英語表現を見直し、復習課題に取り組む。採点後に返却された解答を見て、再度復習する。(学習時間：30分)
9	金子 山崎	プレゼンテーションの説明 & 準備について [ME] Unit 14: Foxcatcher 『フォックスキャッチャー』	演習 GW ディスカッション	[予習] [ME] Unit 14の語彙を調べ、教員が指示した範囲の予習を行う。(学習時間：30分) [復習] 授業で学んだプレゼンテーションの仕方にならって、プレゼンテーションの原稿を作成する。[ME]Unit 14の語彙や英語表現を見直し、復習課題に取り組む。採点後に返却された解答を見て、再度復習する。(学習時間：30分)

10	金子山崎	[BWC] Unit 11: Cancer がんに関する英語を学ぶ	演習 GW ディスカッション	[予習] [BWC] Unit 11の語彙を調べ、 教員が指示した範囲の予習を行う。(学習 時間: 30分) [復習] 授業で学んだ語彙や英語表現を見 直し、復習課題に取り組む。採点後に返却 された解答を見て、再度復習する。(学習 時間: 30分)
11	金子山崎	プレゼンテーションの最終アナウンス [ME] Unit 15: Interstellar 『インターステラー』	演習 GW ディスカッション	[予習] [ME] Unit 15の語彙を調べ、教 員が指示した範囲の予習を行う。(学習時 間: 30分) [復習] 授業で学んだプレゼンテーショ ンの仕方にならって、プレゼンテーショ ンの原稿とスライドを作成する。[ME]Unit 15 の語彙や英語表現を見直し、復習課題に取 り組む。採点後に返却された解答を見て、 再度復習する。(学習時間: 1時間)
12	金子山崎	[BWC] Unit 12: BLS (Basic Life Support) and ALS (Advanced Life Support) 一次救命処置と二次救命処置に関する英語を学ぶ	演習 GW ディスカッション	[予習] [BWC] Unit 12の語彙を調べ、 教員が指示した範囲の予習を行う。(学習 時間: 30分) [復習] 授業で学んだ語彙や英語表現を見 直し、復習課題に取り組む。採点後に返却 された解答を見て、再度復習する。(学習 時間: 30分)
13	金子山崎	試験	試験	[予習] 試験に向けてこれまでで学習し たKey ExpressionsやVocabularyを中心に 復習しておく。(学習時間: 1時間) [復習] 授業で学んだ語彙や英語表現を見 直し、採点後に返却された試験の解答を見 て、再度復習する。(学習時間: 30分)
14	金子山崎	医療系の記事・論文・ニューズレターのプレゼンテーション & ディス カッション	演習 GW ディスカッション	[予習] プレゼンテーションの準備を行 う。(発表原稿とPPTスライドの作成) (学習時間: 2時間) [復習] 他の学生からの意見等を振り返り ながら、もう一度自分が選んだ文献を読み 直す。(学習時間: 2時間)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記 (PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	メディア英語	必修・選択	
英語科目名	English in the Media	対象学年	3年
開講学期	前期	単位数	1単位
代表教員	Grow, Deborah Anne	ナンバリング	PNL14A2
担当教員	Grow	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	<p>The English Media course will help third-year students acquire more in-depth vocabulary as well as become more culturally aware of other countries and customs. Students will practice working in groups to accomplish tasks and share responsibilities. Speaking and listening skills will be honed through a variety of methods including lectures, online activities, Ted Talks, stories, discussion, and movies.</p> <p>Keywords: Media, English, Cross-cultural awareness, Social issues</p>				
授業の位置づけ	<p>This subject is positioned as "human beings and linguistic expressions" and is studied in the first semester of the third year. This course is connected to the previous English Expression 1A and 1B, English Expression II - Writing, and will assist students in Academic Reading in the fourth year.</p>				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	<p>◎DP1-IV ◎DP4-1</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. Students will be able to discuss in English a variety of social and academic topics. 2. Students will gain cross-cultural awareness. 3. Students will broaden their perspectives. 4. Students will increase their ability to collaborate. 				
先修要件	<p>There is no prerequisite for this course. It is open to all third-year students.</p>				
関連科目	<p>This course relates to Academic Reading in the fourth year.</p>				
学修上の注意	<p>Students will be expected to research online in English to prepare presentations and projects regarding international and cultural topics. To practice effective collaboration, students will be expected to work harmoniously in groups to prepare task-based projects. Students will be expected to analyze information and draw conclusions as well as solve problems through a variety of thinking skills.</p>				
成績評価の方法					
評価方法	<p>Evaluation is based on oral presentations 30%, Written Tests/Essay 30%, Homework/Notes 10%, and Class Participation 30%</p>				
評価基準	<p>Students will be evaluated based on their understanding of the course material through discussion, essays, oral presentations, and group work. If students need some feedback on the subjects, teachers will tell them in class.</p>				
試験・課題に対するフィードバック方法					
<p>Students will get direct feedback from the instructor.</p>					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
<p>The Japan Times, NHK, BBC, The Guardian, NPR</p>					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>d-grow@juntendo.ac.jp Office Hours: Fridays 11-4</p>				
備考	<p>No specific text. All materials will be provided by the instructor.</p>				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	Grow	Topic: To give a course overview. "Where to Invade Next" Part I of the documentary To explore social welfare, school lunches, and sex education in other cultures.	Practice, Group Work, Discussion	Review and Discussion (20 minutes) Homework (30 minutes) Begin to prepare a PPT Presentation for today's class (30 minutes).
2	Grow	Topic: Social Issues in Europe "Where to Invade Next" Documentary Part II In today's class, we will explore drug laws, prison systems, health care, war history, and women's rights. Class discussions will follow each chapter of the movie.	Discussion, Group Work	Review: (30 minutes) Discussion about drug laws, prison systems, health care systems, war history, and women's rights in other countries. Homework: (30 minutes) Research work for the group PPT presentation.
3	Grow	Topic: Presentation Preparation on a Social Issue Students will be put in teams of two to compare one of the social issues discussed in the film with that same social issue in Japan. For example, students might compare the prison system in Japan with that of Norway. Online research will be conducted and students should gather statistics, etc.	Group Work, Discussion	Review: (30 minutes) To compare a social issue discussed in the film with the same social issue in Japan Homework: (30 minutes) In teams, prepare a PPT presentation with team members comparing one social issue discussed in the documentary and comparing that to the same issue in Japan. Practice speaking it aloud and try to have good eye contact when presenting.
4	Grow	Topic: PPT Presentation	Presentation, Group Work	Review: Discussion and Q/A of PPT presentations (20 minutes) Homework: Research your family history. Ask parents and grandparents about where your family is from. For example, if your grandparents live in Chiba, did their parents live in Chiba? Has your family always been from Chiba? (mother's side etc) (30 minutes)
5	Grow	Topic: Discrimination DNA Journey – We will study a short video regarding views about race and ethnic groups. Discussion of our ancestral background. Green Book – Discrimination in the US	Discussion, Video	Review: Watch the DNA journey of other subjects and then give a short talk about what you learned. Homework: Begin research on an example of discrimination in Japan (30 minutes)
6	Grow	Topic: Complete the film "Green Book" Discuss the topic of discrimination	Discussion, Group Work	Review: (30) To review the major themes and vocabulary for the test next class. Homework: (30 minutes) Research news articles concerning racial or gender discrimination in Japan.
7	Grow	Topic: Review Test #1	Test	Review: Open book test to review the concepts and vocabulary from class. Homework: Continue research on racial or gender discrimination in Japan.
8	Grow	Topic: Racial Discrimination Write a researched-based essay on racial or gender discrimination in Japan. Your essay should be 250-300 words.	Researched essay	Review: (100 minutes) Students will be able to write a researched essay on the topic of discrimination based on their research. Homework: Research the latest guidance for a healthy diet in Japan. How much salt, sugar, carbs, etc.?
9	Grow	Topic: Healthy Diet America's Health Crisis of Obesity "Gari-Gari" Syndrome Documentary "Supersize Me"	Discussion, Documentary, Video	Review: (30 minutes) Students will discuss their homework about finding the latest nutritional guidance for a healthy diet in Japan.

10	Grow	Topic: Dementia "Lost Property"	Group Discussion, Video	Review: (15 minutes) Discussion about our daily diets Research and Discussion of therapies for people with dementia in Japan.
11	Grow	Topic: Disabilities Students will watch the film "Intouchables" about a disabled man and his caregiver.	Discussion, Video	Review: (20 minutes) Discuss what you learned about the topic of disabilities in Japan from your research Homework: (30 minutes) Choose a country and research if it has different policies for people with disabilities.
12	Grow	Topic: Disabilities Complete the film "Intouchables"	Discussion, Video	Review: (20 minutes) Group discussion of homework and what is the current situation for disabled persons in Japan. Homework: (10 minutes) Research how many cases of dementia there are in Japan at present.
13	Grow	Topic: Empathy "The Doctor" We will watch a movie based on the true story of a surgeon who becomes a patient and in the process learns the importance of empathy in medicine.	Discussion, Video	Review: Discuss some ways that empathy can be achieved in nursing Homework: (15 minutes) Write down in a sentence or two what you think empathy is and how is it different from sympathy.
14	Grow	Topic: Empathy Finish the movie "The Doctor" Review Test 2	Discussion, Video, Short test	Homework: Write an essay based on your impressions of this movie and the importance of empathy in medicine. Review: The test topics of this class.

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	夏季野外スポーツ実習	必修・選択	選択
英語科目名	Outdoor Sports Practice (Summer)	対象学年	1～3年
開講学期	前期	単位数	1単位
代表教員	櫻井 しのぶ	ナンバリング	FNL15A3
担当教員	菅波盛雄	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	日常とは異なる自然環境の中で、自然の持つ偉大さ、素晴らしさ、恐怖心などを感じながら、さまざまな野外スポーツを体験することにより、その面白さ、楽しさに触れ、生涯スポーツを実践していくための資質の向上を図る。また、自然環境におけるマナーを理解し実践していくとともに、集団活動を通じた協調性や社会性を養うことも目標とする。				
授業の位置づけ	本科目は、養護教諭二種免許を取得するために必要な体育関連科目の1つに位置する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP1-II				
到達目標	(1) スクーバダイビング(夏季)の技術やマナーを理解し習得できる。 (2) 自然界の中でその偉大さと素晴らしさだけでなく、自然がもたらす脅威を体感し、自然への敬意を忘れないこころを培う。 (3) 自然の中で仲間やインストラクターと協力し合うこと、協調性の重要性を学習し、実行する。 (4) 自然環境のなかで生涯にわたり、スポーツを行う意義を理解し、楽しさを実感する。				
先修要件	なし				
関連科目	なし				
学修上の注意	本実習は集中授業であり、かつ日常と異なる野外での活動となるため、急激な運動量の増加やそれに伴う体力的な消耗が予想される。実習参加に際しては、実習期間中の体調管理に十分配慮すること。 経験の有無は問わないが、病気やケガの場合は医師の診断を必要とする。 医学部と一部合同で実施する。両学部合わせて参加希望者が60名を超えた場合は抽選となる。				
成績評価の方法					
評価方法	授業態度・取り組み姿勢(40%)、課題の習得度(40%)、知識の獲得度(20%)				
評価基準	(1) 各種活動を積極的に体験し、必要な知識・スキルおよびマナーを習得できること。 (2) 実習を通して対人関係や自然と人との相互関係について理解し実践できること。 単位認定については、事前オリエンテーションおよび実習期間全日程への出席を必要とする。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題等に対するフィードバックは希望に応じて授業内で行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
必要に応じて授業中に紹介する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	浦安キャンパス事務に連絡して、指示にしたがってください。				
備考	実習のしおりを配布する。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法*	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
夏季	菅波盛雄	スクーバダイビング 実習場所：さくら・浦安キャンパス、西伊豆土肥 実習時期：8月上旬～中旬を予定 (講義1日、プール講習1日、海洋実習2泊3日 計5日) ・事前オリエンテーション(2回) ・実習内容 講義(水中環境、深度下の障害、減圧、水中での安全管理 他) プールワーク(スキューバの基礎、緊急対応、スクーバコンビネーション他) 海洋実習(水中の安定、緊急対応、計画潜水他)	実習	予習： 安全に潜るための知識・スキルやマナー、環境を配慮した行動について調べておく。 (学習時間 合計10時間程度) 復習： 実習で身に付けた知識・スキルを確認し、理解を深める。(学習時間 合計5時間程度)	

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記(PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	助産学概論	必修・選択	選択
英語科目名	Introduction to Midwifery	対象学年	3年
開講学期	前期前半	単位数	1単位
代表教員	大月 恵理子	ナンバリング	PNL21B1
担当教員	大月恵理子※, 青柳優子※, 森田亜希子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	助産学の基盤となる概念および理論を理解するとともに、助産の専門性、助産師に求められる姿勢や態度を学ぶ。助産の意義、助産師の身分と法的責任、国内外の母子保健行政の変遷と現状、母子保健関連法規、助産の変遷、助産師教育、助産と文化について学習し、助産師の役割と活動、助産師の責務と機能、助産における倫理的課題の理解を深める。			
授業の位置づけ	人間の健康の健康と社会の枠組みに位置する科目である。助産師国家試験受験資格に関わる科目であり、助産学の基盤となる科目である。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP1-Ⅲ, ○DP2-II			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産の概念、助産師の定義、助産業務範囲について説明できる。 2. 助産師の専門職性と法的責任を説明できる。 3. 母子保健行政の変遷と現状を理解し、課題を考察できる。 4. 助産および助産師教育の変遷と現状を理解し、課題を考察できる。 5. 助産における日本および諸外国の文化的影響を説明できる。 6. 助産に関わる倫理的課題を理解し、その対応を考察できる。 7. 助産学研究の特徴を理解し、研究のあり方について考察できる。 			
先修要件	なし			
関連科目	母性看護学概論、助産診断技術学総論、母子の心理社会学と深く関連し、助産診断技術学Ⅰ～Ⅴおよび助産管理、周産期の医療安全、助産学実習につながる科目である。			
学修上の注意	助産師国家試験受験資格取得希望者には必須科目である。授業は主体的に臨むこと。グループワークや発表等を通して、自分の考えを表現できるように心がけて欲しい。			
成績評価の方法				
評価方法	レポート課題（20%）、試験（80%）にて評価する。			
評価基準	<p>到達目標1～7の到達状況によって評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 助産の概念、助産師の定義、助産業務範囲について説明できる。 2. 助産師の専門職性と法的責任を説明できる。 3. 母子保健行政の変遷と現状を理解し、課題を考察できる。 4. 助産および助産師教育の変遷と現状を理解し、課題を考察できる。 5. 助産における日本および諸外国の文化的影響を説明できる。 6. 助産に関わる倫理的課題を理解し、その対応を考察できる。 7. 助産学研究の特徴を理解し、研究のあり方について考察できる。 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
希望者には、随時メール等で応じる				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
助産学講座Ⅰ 基礎助産学 [1] 助産学概論	我部山キヨ子他	医学書院	978-4-260-01997-2	
参考文献				
<p>工藤美子他：「助産師基礎教育テキスト1 助産概論」日本看護協会出版会、2022 母子衛生研究会：「我が国の母子保健」令和5年、2023 厚生労働統計協会：「国民衛生の動向」（最新版）</p>				
その他				
連絡先・オフィスアワー	随時メールにて質問を受け付ける。面会の希望の場合は事前にメールにて連絡する。 科目責任者：大月恵理子 e.otsuki.up@			
備考				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	大月恵理子	助産師の概念と定義 1) 助産とは 2) 助産師の定義 3) 助産業務範囲 4) 助産師の教育課程	講義	予習：保健師助産師看護師法の助産師の定義について復習し、助産とはについてテキスト1章を参考に、自身のイメージを持って臨むこと。(学習時間70分) 復習：授業計画を再度読み、授業全体のイメージをつかむ。助産師の業務範囲をイメージすると共に、授業で触れた助産師の定義について確認する。(学習時間70分)
2	青柳優子	助産師の役割・責務および助産師業務 1) 日本助産師会が示す助産師の役割・責務 2) WHOによる助産師の業務 3) ICMによる助産業務の範囲 4) 保健師助産師看護師法による助産師の業務範囲 5) 助産師業務の法的義務 6) これからの助産師に求められる役割と機能	講義	予習：テキスト第2章、助産師の役割について読んでおくこと。(学習時間70分) 復習：講義で取り上げた保健師助産師看護師法による助産業務の範囲、助産業務上の法的義務を確認しておくこと。(学習時間70分)
3	青柳優子	助産師と法律・人権・倫理 1) 助産行為と法・人権・倫理 2) 助産業務を取り巻く法律 3) 助産と倫理理論・主要概念・倫理綱領・ガイドライン	講義	予習：テキスト第4章を読んでおくこと。(学習時間70分) 復習：講義で取り上げた助産に関する法律、リプロダクティブヘルス・ライツ、倫理理論を自分なりに整理し、理解を深めておくこと。(学習時間70分)
4	森田亜希子	母子保健行政の変遷と現状 1) 母子保健の動向・母子保健の水準 2) 現在の母子保健施策と課題	講義	予習：テキスト第5章を読んでおくこと。提示された事前課題に取り組み、母子保健統計について復習しておく。(学習時間70分) 復習：授業資料、授業内容、テキストを確認しておく。(学習時間70分)
5	大月恵理子	助産と文化 1) 我が国の出産風俗 2) 多様な文化における妊娠・出産・育児 3) 多様な文化における女性の健康支援	講義	予習：テキスト第6章を読んでおくこと。(学習時間70分) 復習：授業内容、授業資料、テキストを確認しておく。(学習時間70分)
6	大月恵理子	助産学研究 1) 助産学研究とは 2) 助産学研究の利用方法 3) EBMと助産研究	講義	予習：テキスト第3章を読んでおくこと(学習時間70分) 復習：授業内容、授業資料、テキストを確認しておくこと。(学習時間70分)
7	大月恵理子	助産学研究 4) 助産学研究の実際	演習、グループワーク	予習：テーマにそって研究論文を1つ選び、その概要と論文のクリティックをA4用紙2枚にまとめてグループメンバー分をコピーして持参すること(学習時間250分) 復習：グループワークで得られた意見を参考に、自己の作成した内容を確認する。(学習時間30分)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	保健統計	必修・選択	必修
英語科目名	Health Statistics	対象学年	3年
開講学期	前期後半	単位数	2単位
代表教員	牧野 国義	ナンバリング	PNL21C1
担当教員	牧野 国義	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	疫学の解析ツールとなる保健統計の学習は保健・医療・看護の分野でいろいろな問題を考えていく上で必要な統計学の基礎を理解し、保健情報や看護研究、疫学を学ぶために応用出来ることを目的とする。さらに、保健情報の収集・分析及び統計的解析能力を養う。これはデータリテラシーを涵養し、データ・A I 利活用の向上につながるものである。				
授業の位置づけ	健康事象の発生から消滅に至るまで、原因の解明、対策の効果判定などを正しく評価するためには量的な解析が不可欠で、その解析の基礎と位置づける。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	本科目を学習することで、以下の能力の基礎が身につきます。 ◎DP2-I : 医学および関連領域の知識を看護に活用できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 各種統計手法の解析目的や結果の解釈について説明できる。 2) いろいろなグラフの特徴を説明できる。 3) 母集団と標本集団の性質と違いを説明できる。 4) 集団の代表値やばらつきについて説明できる。 5) 推定と検定について説明できる。 6) 文献情報の収集方法を説明できる。 7) データ・A I 利活用の進め方を説明できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	統計学、統計演習、健康と疫学				
学修上の注意	疫学ではさまざまな用語が使用される。まず用語の内容（意味や目的など）を正しく理解すること。また、保健統計では多くの数式による手法が利用される。その手法を利用する目的、利用するための条件や制限、解析結果の解釈の仕方を理解すること。				
成績評価の方法					
評価方法	試験成績（80%）、小レポートと参加意欲（併せて20%）を統合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> (1) 各種統計手法の解析目的や結果の解釈について説明できる。 (2) いろいろなグラフの特徴を説明できる。 (3) 母集団と標本集団の性質と違いを説明できる。 (4) 集団の代表値やばらつきについて説明できる。 (5) 推定と検定について説明できる。 (6) 文献情報の収集方法を説明できる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
フィードバックは希望に応じて個別に行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	標準保健師講座別巻2「疫学・保健統計」		医学書院		
参考文献					
『国民衛生の動向』厚生統計協会					
その他					
連絡先・オフィスアワー	適時、Juntendoメールアドレス（kmakino@）迄連絡すること。 オフィスアワーとして、kmakino@juntendo.ac.jp を利用することができます。				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	牧野	情報管理	講義	[予習] テキストの該当するページを読むこと。(学習時間1時間) [復習] 情報の取り扱い、個人情報保護、倫理の問題とともに情報検索の手法を理解すること。(学習時間2時間)
2	牧野	データの性質	講義	[予習] テキストの該当するページを読むこと。(学習時間1時間) [復習] 集団の代表値である平均値、メディアン、モードなどの性質、特徴を理解すること。(学習時間2時間)
3	牧野	グラフ	講義	[予習] テキストの該当するページを読むこと。(学習時間1時間) [復習] グラフの種類その特徴、使い方を理解すること。(学習時間2時間)
4	牧野	正規分布	講義	[予習] テキストの該当するページを読むこと。(学習時間1時間) [復習] 正規分布の性質や他の統計分布の特徴を理解すること。(学習時間2時間)
5	牧野	ばらつき	講義	[予習] テキストの該当するページを読むこと。(学習時間1時間) [復習] 集団のばらつきの意味、性質、特徴を理解すること。(学習時間2時間)
6	牧野	標本抽出、推定と検定	講義	[予習] テキストの該当するページを読むこと。(学習時間1時間) [復習] 標本抽出法と統計学的な推定、検定について理解すること。(学習時間2時間)
7	牧野	独立性の検定	講義	[予習] テキストの該当するページを読むこと。(学習時間1時間) [復習] 分割表の検定、適合度検定について理解すること。(学習時間2時間)
8	牧野	比率、平均値の検定	講義	[予習] テキストの該当するページを読むこと。(学習時間1時間) [復習] 正規検定、t検定の手法を理解すること。(学習時間2時間)
9	牧野	相関と回帰	講義	[予習] テキストの該当するページを読むこと。(学習時間1時間) [復習] 相関、回帰分析の意味と手法について理解すること。(学習時間2時間)
10	牧野	分散分析、ノンパラメトリック法	講義	[予習] テキストの該当するページを読むこと。(学習時間1時間) [復習] 分散分析やノンパラメトリック法について理解すること。(学習時間2時間)
11	牧野	多変量解析、統計利用上の注意	講義	[予習] テキストの該当するページを読むこと。(学習時間1時間) [復習] 多変量解析の概略を理解し、統計利用上注意すべきことを理解すること。(学習時間2時間)
12	牧野	保健統計演習1	講義または演習	データを入力し、計算方法、グラフの描き方の操作法を習得すること。(学習時間2時間)
13	牧野	保健統計演習2	講義または演習	t統計手法を利用するためのパッケージ(分析ツール)の操作法を習得すること。(学習時間2時間)
14	牧野	保健統計演習3	講義または演習	いくつかの問題について Excel で統計解析を行うこと。(学習時間2時間)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記 (PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	保健医療福祉行政論	必修・選択	必修
英語科目名	HealthCare&Social Welfare Administration	対象学年	3年
開講学期	前期前半	単位数	2単位
代表教員	櫻井 しのぶ	ナンバリング	PNL21C2
担当教員	櫻井しのぶ、寺島彰※、藤森誠※、原田静香	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	日本の現在の社会状況を踏まえ、保健・医療・福祉・その他関連する施策・法律・組織・行政活動の概要について学び、看護職者として地域における保健活動を行う際に必要な視点を養う。また、地域における健康問題を解決するために必要な施策を実践する際のシステム作りの考え方やシステムを支える経済的基盤についても学ぶ。				
授業の位置づけ	本科目は人間の健康「健康と社会」に位置づけられており、保健・医療・福祉・その他関連する施策・法律・組織・行政活動の概要について学び、看護職者として地域における保健活動を行う際に必要な視点を養う。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	△DP2-I、◎DP3-I				
到達目標	(1) 国民の生活背景の変化と保健行政の関係について理解する。 (2) 保健行政の組織について理解する。 (3) 保健行政の展開と基本となる制度を理解する。 (4) 保健行政の課題と展望を考える。 (5) 保健行政と福祉行政の連携の重要性を知る。				
先修要件	なし				
関連科目	社会福祉論、社会保障論				
学修上の注意	教科書、講義資料を熟読すること。 保健・医療・福祉等に関する新聞記事に目を通すこと。				
成績評価の方法					
評価方法	各授業内容ごとの課題（10%）期末試験成績（90%）にて評価する。				
評価基準	(1) 国民の生活背景の変化と保健行政の関係について説明できる。 (2) 保健行政の組織と展開、基本制度と課題について説明できる。 (3) 保健行政と福祉行政の連携の重要性を説明できる。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題や質問に関するフィードバックは、次回講義時、またはJuntendo-Passport 等を利用し、担当教員からの講評					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	公衆衛生看護学.jp		インターメディカル		最新版
	国民衛生の動向		厚生労働統計協会		最新号
参考文献					
『衛生行政大要』 日本公衆衛生協会 最新版 『厚生指標 国民の福祉と介護の動向』 厚生労働統計協会 最新号 『厚生指標 保険と年金の動向』 厚生労働統計協会 最新号					
その他					
連絡先・オフィスアワー	担当の教員への連絡は、事務メールアドレス（urayasu@juntendo.ac.jp）で随時受け付けます。				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	藤森誠	(1) 公衆衛生と衛生行政 サブタイトル：保健所等の組織と活動	講義	[予習] 「国民衛生の動向」衛生行政活動の概況を読んでおくこと。(学習時間60分) [復習] 授業で学んだことを復習し、保健行政の概要の理解を深め、課題レポートを作成する。(学習時間60分) [キーワード] 地域保健法、保健所、市町村保健センター
2	藤森誠	(2) 医療提供体制の現状	講義	[予習] 「国民衛生の動向」医療対策を読んでおくこと。(学習時間60分) [復習] 授業で学んだことを復習し、医療対策についての理解を深め、課題レポートを作成する。(学習時間60分) [キーワード] 医療法、保健医療計画
3	藤森誠	(3) 保健と医療の動向 サブタイトル：感染症の最近の動向	講義	[予習] 「国民衛生の動向」感染症対策を読んでおくこと。(学習時間60分) [復習] 授業で学んだことを復習し、感染症対策についての理解を深め、課題レポートを作成する。(学習時間60分) [キーワード] 感染症法、結核、HIV、腸管出血性大腸菌
4	藤森誠	(4) 保健と医療の動向 サブタイトル：新型インフルエンザ対策	講義	[予習] 「国民衛生の動向」教科書の感染症対策を読んでおくこと。(学習時間60分) [復習] 授業で学んだことを復習し、感染症対策について理解を深め、課題レポートを作成する。(学習時間60分) [キーワード] 新型インフルエンザ、新興・再興、感染症
5	藤森誠	(5) 国民健康づくり対策 サブタイトル：健康日本21計画等健康づくり対策	講義	[予習] 「国民衛生の動向」の健康増進対策を読んでおくこと。(学習時間60分) [復習] 授業で学んだことを復習し、健康増進対策についての理解を深め、課題レポートを作成する。(学習時間60分) [キーワード] 健康日本21(第2次計画)、健康増進法
6	藤森誠	(6) 母子保健対策	講義	[予習] 「国民衛生の動向」母子保健、母子保健対策を読んでおくこと。(学習時間60分) [復習] 授業で学んだことを復習し、母子保健対策についての理解を深め、課題レポートを作成する。(学習時間60分) [キーワード] 健やか親子21、児童虐待児童と母子のための社会福祉制度
7	藤森誠	(7) 演習とまとめ	講義	[予習] 「国民衛生の動向」生命表を読んでおくこと。(学習時間60分) [復習] これまでの授業で学んだことを総合的にまとめる。(学習時間60分) [キーワード] 生命表、平均寿命、地区診断
8	寺島彰	(8) 社会保障・社会福祉制度の体系・財政	講義	[予習] 教科書及び国民衛生の動向の「社会保障制度」を予め読んでおくこと。(学習時間60分) [復習] 授業で学んだことを復習し、社会保障・社会福祉関係法令の確認をする。(学習時間60分)

9	寺島彰	(9) 社会保障の仕組みと機能1 年金制度	講義	[予習] 教科書の「年金制度」を予め読んでおくこと。(学習時間60分) [復習] 授業で学んだことを復習し、年金制度の概要と今後の動向についての理解を深める。(学習時間60分)
10	寺島彰	(10) 社会保障の仕組みと機能2 医療保険制度	講義	[予習] 医療保険制度の最近の動向を確認しておく。(学習時間60分) [復習] 授業で学んだことを復習し、医療保険制度と行政の仕組みについての理解を深める。(学習時間60分)
11	寺島彰	(11) 社会保障の仕組みと機能3 生活保護制度の仕組みと生活福祉資金貸付制度	講義	[予習] 生活保護の原理・原則を再確認しておく。(学習時間60分) [復習] 授業で学んだことを復習し、生活保護の原理・原則の理解を深める。(学習時間60分)
12	寺島彰	(12) 介護保険制度の概要と機能 高齢者のための社会福祉制度・介護保険制度	講義	[予習] 介護保険の利用手続きの再確認しておく。(学習時間60分) [復習] 授業で学んだことを復習し、高齢者のための社会福祉制度・介護保険制度と行政の仕組みについての理解を深める。(学習時間60分)
13	寺島彰	(13) 社会福祉制度の概要と機能1 児童と母子のための社会福祉制度	講義	[予習] 少子化対策をまとめる(学習時間60分) [復習] 授業で学んだことを復習し、児童と母子のための社会福祉制度と行政の仕組みについての理解を深める。(学習時間60分)
14	寺島彰	(14) 社会福祉制度の概要と機能2 障害者(児)の社会福祉制度	講義	[予習] 支援費制度を整理する(学習時間60分) [復習] 授業で学んだことを復習し、障害者(児)のための社会福祉制度と行政の仕組みについての理解を深める。(学習時間60分)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記(PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	臨床心理学	必修・選択	選択
英語科目名	Clinical Psychology	対象学年	3年
開講学期	後期後半	単位数	1単位
代表教員	塚瀬 将之	ナンバリング	PNL23A1
担当教員	塚瀬 将之※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	臨床心理学の基本的な理論と視点を学ぶことを通して臨床心理学的な問題の捉え方と援助観について理解を深める。そして、その学びをチーム医療における相互理解の礎とし、看護実践への応用的展開についても考察する。				
授業の位置づけ	医療従事者として患者の「こころ」を理解することは重要である。しかし、ひとくちに「こころ」といっても幅広く、一般常識的な人の「こころ」の理解もあれば、医学的・精神医学的な意味での「こころ」や「精神」あるいは「精神機能」の理解など、「こころ」に関する見方や理解のあり方はさまざまである。医療看護学部ではさまざまな物事を医療の視点から学ぶが、その中で本講義は、医療のみに留まらない、患者のこころを理解していくための臨床心理学的な視点あるいは心理社会的な視点について学ぶ。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	【該当するコンピテンシー】 本科目を学習することで、以下の能力の基礎が身につきます。 △DP1-CA：他者を思いやり慈しむことのできる能力（一部関連） ◎DP2-CA：医学および関連領域の知識を看護に活用できる能力				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理学的な視点からの患者理解について説明できる。 臨床心理学的な援助観について学び、チーム医療における相互の役割について説明できる。 臨床心理学的な立場における臨床実践の基本的態度を学び看護実践に活用できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	なし				
学修上の注意	知的な理解にとどまらぬよう演習も取り入れた授業を展開する予定のため、積極的な姿勢で授業に臨むことを期待する。また、講義や演習のみならず、リフレクションシートに記入された質問やコメントにも返答する形で授業の一部を展開していくことから、リフレクションシートには積極的にコメントを記入すること。				
成績評価の方法					
評価方法	課題レポート（70%）、授業参画度〔授業時の積極的な発言、リフレクションシートへの積極的な記入〕（30%）				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 心理社会的な観点からの患者理解について説明することができる。 チーム医療において臨床心理士が果たす役割と看護師の果たす役割について具体的に説明することができる。 臨床心理学的な基本的態度の学びが看護実践にどのように応用することができるのか、自分なりの考えを考察し述べるることができる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
希望に応じて個別に対応する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし					
参考文献					
テキストは使用せず、毎回資料を配布する形で授業をすすめる。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	E-mail: m-tsukase@juntendo.ac.jp				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	塚瀬	臨床心理学概論：歴史と基本的発想	講義	予習：特になし。 復習：配布資料を読み、授業内容を復習する。必要に応じて予習で示した参考文献を読み理解を深める（学習時間90分）
2	塚瀬	臨床心理アセスメントと心理検査①	講義	予習：前回講義の配布資料に目を通す（学習時間30分） 復習：配布資料を読み、授業内容を復習する。必要に応じて予習で示した参考文献を読み理解を深める（学習時間90分）
3	塚瀬	臨床心理アセスメントと心理検査②	講義	予習：前回講義の配布資料に目を通す（学習時間30分） 復習：配布資料を読み、授業内容を復習する。必要に応じて予習で示した参考文献を読み理解を深める（学習時間90分）
4	塚瀬	心理療法①	講義	予習：前回講義の配布資料に目を通す（学習時間30分） 復習：配布資料を読み、授業内容を復習する。必要に応じて予習で示した参考文献を読み理解を深める（学習時間90分）
5	塚瀬	心理療法②	講義	予習：前回講義の配布資料に目を通す（学習時間30分） 復習：配布資料を読み、授業内容を復習する。必要に応じて予習で示した参考文献を読み理解を深める（学習時間90分）
6	塚瀬	臨床心理的援助の実際②	講義	予習：前回講義の配布資料に目を通す（学習時間30分） 復習：配布資料を読み、授業内容を復習する。必要に応じて予習で示した参考文献を読み理解を深める（学習時間90分）
7	塚瀬	公認心理師・臨床心理士の基本的態度と看護実践への応用について考える	講義	予習：前回講義の配布資料に目を通す（学習時間30分） 復習：配布資料を読み、授業内容を復習する。必要に応じて予習で示した参考文献を読み理解を深める（学習時間90分）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	母性の心理・社会学	必修・選択	選択
英語科目名	Psychology&Sociology for Women's Health	対象学年	3年
開講学期	前期後半	単位数	1単位
代表教員	植竹 貴子	ナンバリング	PNL23A2
担当教員	植竹貴子※, 大月恵理子※, 森田亜希子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	周産期における心理・社会的な特徴について理解する。女性に特徴的な心理・社会的な健康課題である妊娠・出産の心理、周産期のメンタルヘルス、母子の愛着形成、周産期の喪失と看護支援について理解する。新しい児の誕生における家族の機能と発達、およびその支援について理解する。また周産期におけるヘルスリテラシーについて学習し、意思決定支援について理解する。				
授業の位置づけ	大項目「人間の健康」の「心の健康」に位置し、周産期における女性の心理社会的な特徴について理解し、母性看護学実習や助産診断技術学の基礎となる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP2-I, △DP2-II				
到達目標	1) 周産期における心理・社会的な特徴について説明できる。 2) 現代女性の妊娠・出産・産褥・育児に関する心理・社会的な問題を説明できる。 3) 周産期における代表的な心理・社会的問題に関する看護支援について説明できる。				
先修要件	なし				
関連科目	母性看護学概論, ウィメンズヘルスナーシング, 周産期の看護, 助産学概論, 性と生殖と深く関連し, 助産診断技術学 I ~ V, 助産学実習につながる。				
学修上の注意	助産師国家試験受験資格取得希望者には必須科目である。				
成績評価の方法					
評価方法	定期試験(80%)、課題レポートと授業参加状況およびリアクションペーパー(20%)を統合して評価する。				
評価基準	到達目標1-3の到達状況で評価する。 1) 周産期における心理・社会的な特徴について説明できる。 2) 現代女性の妊娠・出産・産褥・育児に関する心理・社会的な問題を説明できる。 3) 周産期における代表的な心理・社会的問題に関する看護支援について説明できる。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
事前学習課題は、各授業内でコメントをする。 課題レポートは、提出後2週間以内にフィードバックする。 試験結果については、結果公表後、メールにて質問を受け付ける、もしくは時間調整の上面談する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
高橋真理、村本淳子編「女性のライフサイクルとナーシングー女性の生涯の発達と健康」ヌーベルヒロカワ、2017 村瀬聡美・我部山キヨ子編『助産学講座 4基礎助産学[4]母子の心理・社会学』第5版 医学書院 2022 堀内茂子・片岡弥恵子編「助産学講座5助産診断・技術学I」医学書院 2022					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時メールにて受け付ける。面会を希望する場合は事前にメールにて連絡する。 植竹貴子 tuetake@				
備考	なし				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	森田亜希子	1. 母性の心理・社会的な特徴 1) 妊娠・出産をめぐる問題 【キーワード】 晩婚化・非婚化・未婚化・離婚・シングルマザー、母親への心理適応過程、不妊治療、出生前診断、人工妊娠中絶、若年妊娠・出産、父性	講義	予習：Juntendo-passportに提示された妊娠・出産をめぐる事前課題学習する。(学習時間70分) 復習：授業内容を再確認し、現代社会の妊娠・出産をめぐる問題の概要を理解する。(学習時間70分)
2	植竹貴子	2. 母性の心理・社会的な問題 1) 周産期におけるメンタルヘルス 【キーワード】 マタニティーブルー、産後うつ、産後の不安症、産後の脅迫症、育児期の疲労	講義、グループワーク	予習：Juntendo-passportに提示された周産期におけるメンタルヘルスに関する事前課題を学習する。(学習時間70分) 復習：授業内容を再確認し、周産期におけるメンタルヘルスとその支援について理解する。(学習時間70分)
3	森田亜希子	2. 母性の心理・社会的な問題 2) 母子関係 - 愛着形成の障害 【キーワード】 愛着理論、アタッチメント理論、児に対する感情、胎児虐待、児童虐待	講義	予習：Juntendo-passportに提示された愛着形成に関する課題を読み、考えてくること。(学習時間90分) 復習：授業内容を再確認し、愛着形成および愛着形成障害の要因とその支援について理解する(学習時間70分)
4	植竹貴子	2. 母性の心理・社会的な問題 3) 周産期の喪失 【キーワード】 流産、死産、新生児死亡、周産期死亡、悲嘆、グリーフワーク、悲嘆のプロセス、児を亡くした家族への看護	講義、グループワーク	予習：Juntendo-passportに提示された死産に関する課題を学習してくること。(学習時間90分) 復習：授業内容を再確認し、死産、流産女性とその家族への支援について理解する。(学習時間70分)
5	大月恵理子	3. 母性にまつわる家族機能と家族の発達 【キーワード】 家族の機能、家族システム、家族の発達段階、家族の役割(父親、兄弟姉、祖父母)、DV	講義	予習：Juntendo-passportに提示された家族機能に関する課題を学習してくること。(学習時間90分) 復習：授業内容を再確認し、新しい児の誕生をむかえる家族の家族機能、家族の発達と発達上の問題について理解する。(学習時間70分)
6	植竹貴子	4. 母子・女性の健康支援と統合医療 【キーワード】 補完代替医療、統合医療、不定愁訴、快適性・癒しのケア	講義、グループワーク	予習：Juntendo-passportに提示された統合医療に関する課題を学習してくること。(学習時間90分) 復習：授業内容を再確認し、母子・女性の健康支援と統合医療について理解する。(学習時間70分)
7	大月恵理子	5. 周産期におけるヘルスリテラシー、意思決定支援 【キーワード】 ヘルスリテラシー、意思決定支援、メンタルヘルスリテラシー	講義	予習：Juntendo-passportに提示された周産期におけるメンタルヘルスリテラシー・意思決定支援についての課題を学習してくること。(学習時間70分) 復習：授業内容を再確認し、周産期におけるメンタルヘルスリテラシー・意思決定支援について理解する。(学習時間70分)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記(PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	形態機能学II	必修・選択	選択
英語科目名	Structure and Function of Human Body II	対象学年	3年
開講学期	後期後半	単位数	1単位
代表教員	中山 仁志	ナンバリング	PNL22A1
担当教員	中山仁志※、加茂敦子※、岩瀬和久※、平井周※、渡邊マキノ※、辻川比呂斗※、高梨あさき※、花房慶※	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	形態機能学 I（基礎）および生化学で学んだ知識を看護実践との関連の中で、実習形式で学ぶことにより、有機的に理解することを目標とします。具体的には、心電図を測定したり、運動負荷による血圧や脈の変化を調べるなど、ヒトの生理機能を実際に測定し・観察することで、循環や呼吸・反射などの生体機能に関する生理学的知識を確かなものにしていきます。ご献体の観察を通して、解剖学的知識を看護技術の根拠となる確かなものにしていきます。また、遺伝子改変動物のDNA解析やヒト免疫細胞の細胞膜表面抗原の同定あるいはタンパク質の発現解析を行うことで、臨床に活かされている生化学・分子生物学の技術を体験し、理論を学びます。				
授業の位置づけ	解剖・生理・生化学・免疫学の基礎知識に裏付けられたより高度な専門知識の習得と理解及び看護実践への応用力を高めることを目指す。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	本科目を学習することで、以下の能力の基礎が身につきます。 ◎DP2-CA：医学および関連領域の知識を看護に活用できる能力				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生体反応の観察、実験計画の立て方、測定機器の操作、データの収集・処理及び結果の評価・解釈方法が理解できる ・科学的な実験結果についてグループワークと討論を通して結果を解釈し結論を導き出すことができる ・実験結果の問題点を明らかにすることができる 				
先修要件	なし				
関連科目	形態機能学 I、生化学、生物、生命現象と免疫の科学、臨床医学、成人看護学（演習）、生命現象の理解				
学修上の注意	実習形式のため、参加者を把握するために、希望調査を行う場合があります。 実習は7回行い、8回目に全体の討議を行います。 事前に実習書を読んで各実習の内容を理解しておくこと。 また、これまでに学んだ関連知識を整理しておくこと。				
成績評価の方法					
評価方法	実習への参加態度40%、レポート40%、発表内容20%によって総合的に評価する。				
評価基準	各実習項目を理解し、方法と結果と考察について述べるができるか				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題等に対するフィードバックの希望者には随時メールで受け付ける。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
必要に応じて提示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー					
備考	実習書を事前に配布する。 形態機能学 I（基礎）及び生化学で用いた講義プリントおよび教科書				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	加茂敦子、平井周	看護技術につなげる解剖見学実習 [キーワード] 肉眼解剖、フィジカルアセスメント、看護技術、病理学的変化	実習	[予習] 実習書・レポートの予習に取り組む。(学習時間2時間) [復習] 実習書・レポートを完成させる。(学習時間2時間)
2, 3	加茂敦子、渡邊マキノ	心電図に関する実習 [キーワード] 標準肢導出、単極肢導出、胸部導出、心音	実習	[予習] 実習書・レポートの予習に取り組む。(学習時間2時間) [復習] 実習書・レポートを完成させる。(学習時間2時間)
4, 5	加茂敦子、高梨あさき	呼吸機能に関する実習、皮膚感覚に関する実習 [キーワード] スパイロメータ、換気障害、体位、体性感覚と皮膚温	実習	[予習] 実習書・レポートの予習に取り組む。(学習時間2時間) [復習] 実習書・レポートを完成させる。(学習時間2時間)
6, 7	加茂敦子、辻川比呂斗	血圧に関する実習 [キーワード] 最高血圧、最低血圧、脈圧、心拍数、寒冷昇圧試験、運動負荷	実習	[予習] 実習書・レポートの予習に取り組む。(学習時間2時間) [復習] 実習書・レポートを完成させる。(学習時間2時間)
8~10	中山仁志、岩淵和久、花房慶	免疫細胞の分析に関する実験 [キーワード] SDSポリアクリルアミドゲル電気泳動 (SDS-PAGE)、ウェスタンブロッティング、フローサイトメーター	実習	[予習] 自然免疫や獲得免疫機構の仕組み及び免疫細胞の分析方法について、生化学の教科書と免疫の科学のプリント(履修者のみ)、免疫学の参考書で関連する部分を読んでおく。(学習時間2時間) [復習] 提示された課題を行い、実習の内容を理解すること。(学習時間2時間)
11~13	中山仁志、岩淵和久、花房慶	遺伝子治療・診断に関する実験 [キーワード] PCR、DNA、アガロースゲル電気泳動	実習	[予習] 遺伝子発現の仕組みやPCR法について、生化学の教科書と生命現象の科学のプリント(履修者のみ)で、関連する部分を読んでおく。実習プリントに目を通しておく。(学習時間2時間) [復習] 提示された課題を行い、実習の内容を理解すること。(学習時間2時間)
14	中山仁志、加茂敦子、岩淵和久	全体発表 [キーワード] 発表、質疑応答	演習	[予習] 自分が発表を担当する実習について、自分のデータのみならず、他の学生のデータも利用して発表用スライドをパワーポイントで作成する。(学習時間2時間) [復習] 他の学生が発表したデータと自分自身のデータを比較し、個人やサンプル間の差異や特徴について考察する。(学習時間2時間)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記 (PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	臨床薬理学	必修・選択	選択
英語科目名	Clinical Pharmacology	対象学年	3年
開講学期	後期後半	単位数	1単位
代表教員	岸野 史志	ナンバリング	PNL22B1
担当教員	岸野史志	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	<p>【該当するコンピテンシー】 本科目を学習することで、以下の能力の基礎が身につきます。 ◎DP2-I：医学および関連領域の知識を看護に応用できる能力</p> <p>【学修目標】 薬理学で学んだ基礎知識をもとに、代表的な疾病とその基本となる薬物について学習し、薬物が人体に作用する仕組みと薬物を安全に使用するための基本的知識、看護における注意点を理解する。また、根拠に基づく医療を学び、個々の患者に合った薬物療法を考察する。</p>				
授業の位置づけ	代表的な疾病とその治療薬について学習し、臨床で繁用される医薬品を安全に使用するための基本的事項（作用機序、有効性、副作用、相互作用、等）、及び使用上の注意点について学び理解すると同時に、患者個々の病態に適した薬物療法を学び、看護師国家試験出題基準 1. 必須問題の目標Ⅲ、(12)「薬物の作用とその管理の基礎」と位置づける。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP2-I：医学および関連領域の知識を看護に応用できる能力				
到達目標	<p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療において、薬の果たす役割と適正使用法を説明できる。 2. 薬物の体の中での動き（吸収、分布、代謝、排泄）を説明できる。 3. 薬物の基本的な作用、副作用、及び作用機序を説明できる。 4. 副作用の概要、薬害の実態について学び、その原因と社会的背景、及び被害者救済制度の内容を概説できる。 5. 代表的な疾病とその治療薬について説明することができる。 6. 病態時（肝疾患、腎疾患、等）の薬物の適正な使用法を説明できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	薬理学				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学んだ薬理学の基本的な知識の復習と確認を行うこと。 ・代表的な疾病に対する治療薬について、基本的な知識を理解・再確認し、習得しておくこと。 ・予習と復習の学習時間は各80分。 				
成績評価の方法					
評価方法	成績評価方法 ・課題レポート 80%、授業態度（講義内容に沿った問題への理解度・学習態度など、総合的に評価） 20%				
評価基準	成績評価基準 ・授業態度と講義内容に基づく基礎知識の理解度を問う課題レポートにより評価する。 ・代表的な疾病とその治療薬について説明することができるか。 ・根拠に基づく医療を実践し、個々の患者に合った薬物療法を提案できるか。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
授業の理解度を確認するために、毎回、講義内容に沿った国家試験、等、の問題を配布し、当該時間内で解説を加えながら解答する。また、課題レポートのフィードバックは、希望に応じて個別に対応する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
適宜、紹介する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時、電子メール（skishino@juntendo.ac.jp）で質問を受け付ける。				
備考	毎回、プリントを配布する。 また、授業の理解度を確認するために、講義内容に沿った国家試験、等、の問題を配布する。 尚、テキストは適宜紹介する。				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	岸野吏志	臨床薬理学 概論 [キーワード] 医薬品、薬物治療、個体差、有効性、安全性、副作用、薬害、被害者救済制度	講義	[予習] (70分) 教科書、検索サイトを利用して、医療現場において薬の果たす役割等を調べておくこと。 [復習] (70分) 配布資料を再度確認し、薬の基本的事項について理解を深める。
2	岸野吏志	体の中での薬の動き 薬物動態、薬物相互作用、医薬品の管理 [キーワード] 主作用、副作用、薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）、血中薬物濃度、個体差、薬の飲み合わせ、薬物代謝酵素、血漿蛋白結合率、麻薬、特定生物由来製品、医薬品の管理	講義	[予習] (70分) 検索サイト等を利用し、体の中での薬の動態、及び問題となる薬の飲み合わせを調べておく。 [復習] (70分) 配布資料の内容を再度確認し、体の中での薬の動き、及び相互作用の機序（理由）を理解する。
3	岸野吏志	悪性腫瘍と治療薬 [キーワード] 悪性腫瘍、大腸がん、抗悪性腫瘍薬、適正使用、レジメ	講義	[予習] (70分) 教科書を読み、一般的な癌の病態、治療法（抗がん剤）を調べておく。 [復習] (70分) 配布資料を再度確認し、抗がん剤の種類、特徴、レジメ等を理解する。
4	岸野吏志	循環器系疾患と治療薬 [キーワード] 高血圧、心不全、狭心症、不整脈、治療薬	講義	[予習] (70分) 教科書を読み、循環器系疾患（高血圧、心不全、等）の病態、病因、治療法を調べておく。 [復習] (70分) 配布資料を再度確認し、循環器系疾患の概要、主な治療薬の作用機序、特徴、副作用等を理解する。
5	岸野吏志	内分泌・代謝系疾患と治療薬 [キーワード] 糖尿病、I型、II型、治療薬	講義	[予習] (70分) 内分泌・代謝性疾患（主に、糖尿病）の病因、病態、主な治療薬を調べておく。 [復習] (70分) 配布資料を再度確認し、糖尿病の病因、病態、及び治療薬の特徴、副作用を理解する。
6	岸野吏志	消化器系疾患と治療薬 [キーワード] 胃潰瘍、十二指腸潰瘍、ピロリ菌、治療薬	講義	[予習] (70分) 教科書を読み、消化器系疾患（主に、胃潰瘍、十二指腸潰瘍）の病因、病態、治療法を理解しておく。 [復習] (70分) 配布資料を再度確認し、胃潰瘍、十二指腸潰瘍の病因、病態、及び治療薬の特徴、副作用等を理解する。
7	岸野吏志	脂質異常症と治療薬 [キーワード] 脂質異常症、高脂血症、動脈硬化、メタボリックシンドローム、治療薬	講義	[予習] (70分) 教科書、検索サイト等を利用して、脂質異常症の概要、治療薬の種類、特徴等を予め調べておく。 [復習] (70分) 講義内容、配布資料を再度確認し、脂質異常症治療の必要性、及び問題点等を理解する。

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	看護倫理	必修・選択	必修
英語科目名	Ethics in Nursing	対象学年	3年
開講学期	前期前半	単位数	1単位
代表教員	永野 光子	ナンバリング	PNL31A1
担当教員	永野光子※ ※実務家担当教員	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	看護専門職者に必要な看護倫理に関する基礎的知識や態度の理解を通し、看護職者として倫理的に行動するための基盤を形成する。				
授業の位置づけ	看護倫理は、看護専門職者として看護を必要とする人々に安全で良質な医療を提供するために必要不可欠な知識であり、看護の基本に位置づけられている。本科目は、看護職者として倫理的に行動し、倫理的ジレンマに適切に対応するための基盤となる知識・態度の修得をめざし授業を行う。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP1-Ⅲ、ODP4-I、△DP1-I、△DP5-I、				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護倫理の定義および意義、看護倫理に関係する概念を説明することができる。 2) 倫理原則、看護職の倫理綱領の内容を説明することができる。 3) 「看護師としての倫理的行動」を看護実践と関連づけながら説明することができる。 4) インフォームド・コンセントに必要な看護職者の役割を説明することができる。 5) 看護実践に生じやすい倫理的ジレンマと倫理的問題解決のための方法を説明することができる。 6) 看護研究における倫理的配慮について説明することができる。 7) 看護実践、教育、研究における看護倫理の重要性を説明することができる。 				
先修要件	なし				
関連科目	「人間の生き方」「現代社会と倫理」「法と生活」「看護学概論」「基礎看護学実習Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅱ」「高齢者ケアシステム実習」「看護研究の原理と方法」				
学修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2年次までに学習した内容や実習などの経験を想起し、授業と関連づけながら理解を深めてほしい。 2. 授業では、学習カードの内容を紹介しつつ解説を行う。授業内で行うディスカッションとともに他者の意見を聞き、自己の考えを深める機会としてほしい。 3. 倫理に関する質問や意見は人前では回答しづらい内容もあるため、Googleフォームや学習カードを活用し、それらを授業に反映する。 				
成績評価の方法					
評価方法	筆記試験(60%)、課題(20%)、学習の記録(20%)				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護専門職者として倫理的に行動するために必要な基礎的知識を理解し、獲得できているか、授業ごとに提出する学習カードの記述と提出する課題により確認する。 2. 倫理的な看護実践について自分の意見や考えを授業ごとに提出する学習カードに記述しているか確認する。 3. 看護倫理に必要な基礎的知識を理解しているか、筆記試験により確認する。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題は、該当する授業においてフィードバックする。 学習カードに記載された質問・疑問、意見は次回授業にてフィードバックする。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
『看護倫理 よい看護・よい看護実践への道しるべ 改訂第3版』南江堂 『ナースング・グラフィカ16 看護学概論』メディカ出版 『看護実践の倫理 第3版 倫理的意思決定のためのガイド』日本看護協会出版会					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時(事前にメールにて連絡下さい。mnagano@)				
備考	授業開始時に適宜資料を配付する。				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	永野	1. 倫理とは 2. 看護倫理とは 3. 専門職と倫理 [キーワード] 倫理、道徳、看護倫理、専門職の条件	講義	[予習] 高校までに学んだ倫理や道徳の内容を思い出しておく(学習時間:1時間) [復習] 授業資料と参考書を見直し、看護倫理の定義について理解を深める(学習時間:1時間)
2	永野	1. 看護倫理に関わる歴史 2. 倫理原則 3. 倫理綱領 [キーワード] 看護倫理に関わる歴史、倫理原則、原則の倫理	講義	[予習] 参考書の該当する箇所を読み、看護倫理の歴史について概要を理解しておく(学習時間:1時間) [復習] 授業資料、参考書の該当する箇所を読み、倫理原則について理解を深める(学習時間:1時間)
3	永野	1. 看護職の倫理綱領 日本看護協会ホームページ「看護倫理」より < https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/rinri/rinri.html > 2. 看護倫理と法 [キーワード] 看護職の倫理綱領、日本国憲法、保健師助産師看護師法	講義	[予習] 日本看護協会のホームページを開き、「看護職の倫理綱領」のページを見ておく(学習時間:1時間) [復習] 授業資料、および参考書の該当箇所を読み、「看護職の倫理綱領」と看護倫理に関係する法律について理解を深める(学習時間:1時間) [課題①] インフォームド・コンセントの定義を3種類の参考書を用いて調べる。(30分)
4	永野	1. 看護実践に関連する倫理的概念-ケアリング 2. インフォームド・コンセントと看護 3. インフォームド・コンセントにおける看護師の役割 [キーワード] インフォームド・コンセント、倫理的意思決定、アドボカシー	講義	[予習] インフォームド・コンセントについて参考書の該当箇所を読んでおく(学習時間:1時間) [復習] 授業内容と参考書を見直し、インフォームド・コンセントにおける看護師の役割について理解を深める(学習時間:1時間)
5	永野	1. 看護師の倫理的行動 2. 看護師の倫理的行動の特徴 3. 良いと感じる看護、良くないと感じる看護 4. 価値の明確化 ・学生同士のディスカッションにより経験した良いと感じる看護、良くないと感じる看護について共有する [キーワード] 看護師の倫理的行動に関する研究	講義	[予習] 実習や受診経験を想起し、「良い」と感じた看護、「良くない」と感じた看護の場面を記述してくる(学習時間:1時間) [復習] 授業資料を読み、看護師の倫理的行動の理解を深める。看護師の倫理的行動に関する研究論文を探索する(学習時間:1時間) [課題②] 提示した事例に対し、自己の考えを記述する(1時間)
6	永野	1. 看護職者の倫理的ジレンマ 2. 倫理的ジレンマの解決に活用可能な知識 [キーワード] 価値の対立、倫理的ジレンマ、倫理的意思決定モデル	講義	[予習] 参考書の該当箇所を読み理解を深めておく(学習時間:1時間) [復習] 授業資料、および参考書の該当箇所を読み、倫理的ジレンマについて理解を深める(学習時間:1時間)
7	永野	1. 看護研究と倫理 2. 研究に必要な倫理的配慮 [キーワード] 看護研究、倫理的配慮、研究者の倫理	講義	[予習] 看護研究の原理と方法の授業内容を思い出しておく(学習時間:1時間) [復習] 授業資料、および参考書の該当箇所を読み、看護研究に必要な倫理的配慮について理解を深める(学習時間:1時間)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記(PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	フィジカルアセスメント	必修・選択	必修
英語科目名	Physical Assessment	対象学年	3年
開講学期	前期	単位数	1単位
代表教員	寺岡 三左子	ナンバリング	PNL31A2
担当教員	寺岡三左子※、齋藤雪絵※、佐野裕子※、永野光子※、鈴木小百合※、高梨あさき※、野村菜摘※、村越春那※、菊地浩樹※、野崎真奈美※、原光寛※、長尾彩香※、檀谷ひとみ※、厚美彰子※、小林美紀※、都築梨沙※ ※…実務家担当教員	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	適切な看護実践を導く根拠となるフィジカルアセスメントの基本的技術を学修する。学修した知識・技術を統合して対象者の健康状態を適切に評価する方法を学び、対象者に必要な看護について考察する。				
授業の位置づけ	2年次までに修得した人体の構造・機能、病態に関する知識を基に対象者の健康状態を適切に評価する能力を高め、既習の看護の知識・技術をもって対象者への適切な看護について学ぶ分野別実習の基礎となる科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP2-I、○DP2-II、△DP2-III、△DP1-IV				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. フィジカルアセスメントに必要な人体の構造と機能を理解し、記述できる。 2. フィジカルアセスメントに必要な基本手順を実施できる。 3. フィジカルアセスメントにより、正常と正常から逸脱した状態を判断できる。 4. 模擬事例によるフィジカルアセスメントから、対象者に必要な看護を明確にできる。 				
先修要件	なし				
関連科目	看護学概論、看護理論・看護過程、基礎看護方法論Ⅰ、基礎看護方法論Ⅱ、基礎看護方法論Ⅲ、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、成人看護方法論Ⅰ、形態機能学Ⅰ、症状別臨床病態学、臨床医学ⅠA・ⅠB				
学修上の注意	<p>【学習上の留意点】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本科目のテキストや授業資料のほか、復習として形態機能学、臨床医学の授業資料も活用する。 2. 参考文献、eラーニング教材も活用して主体的に学習を進める。 <p>【使用教材】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ナーシングスキル日本版：手技の動画視聴による事前学習、復習、手順の確認 2. ザイゴット（iPad内アプリケーション）：演習時の人体の構造の確認 3. JUNTENDO PASSPORT：授業資料資料の提示、授業に関する情報提示、個別質問への対応（Q&A） 4. テキスト内に掲載のQRコード：フィジカルイグザミネーションに関する観察・手技の確認 				
成績評価の方法					
評価方法	筆記試験(60%)、実技チェック(20%)、課題の実施・提出状況(20%)				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. フィジカルアセスメントに必要な人体の構造と機能を理解し、記述できる。（筆記試験・課題で評価） 2. フィジカルアセスメントに必要な基本手順を実施できる。（実技チェックで評価） 3. フィジカルアセスメントにより、正常と正常から逸脱した状態を判断できる。（筆記試験で評価） 4. 模擬事例によるフィジカルアセスメントから、対象者に必要な看護を明確にできる。（筆記試験で評価） 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実技チェックは実施後にその場もしくは後日フィードバックする。 2. 授業に関する質問等は常にメールで受け付ける。 					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	看護がみえるvol.3 フィジカルアセスメントがみえる		メディックメディア		
参考文献					
必要に応じて授業時に資料を配布する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時（事前にメールで連絡のこと mteraoka@）				
備考	・学習内容に応じてシミュレーション教育研究センターを活用する。				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1 2	寺岡	1. 学習ガイド ・授業の進め方 ・演習の方法・留意点 ・教材の活用 2. フィジカルアセスメント総論 ・フィジカルアセスメントとは ・看護におけるフィジカルアセスメント 3. 基本的手技の知識 ・問診、視診、聴診、打診、触診 4. 臨床推論/臨床判断 ・臨床判断/臨床推論とは ・バイタルサインのアセスメントほか	講義・演習・グループワーク	予習： ・テキストの「フィジカルアセスメント総論」「バイタルサイン」を読む。 ・ナーシングスキルの「基本的手技」の動画を視聴し、手技をイメージする。 (学習時間60分) 復習： ・ナーシングスキルで設定した知識確認テストを満点になるまで実施する(自己採点可能)。 (学習時間30分)
3	寺岡 齋藤 佐野 永野 鈴木 高梨 野村 村越 菊地 非常勤教員	5. 基本手技の実際と観察 ・打診 ・腸蠕動音聴取 ・深い触診、圧痛点 (Lanz, McBurney) ・正常呼吸音の聴取 ・正常心音の聴取 ・浮腫の観察 ・脱水症状の観察	講義・演習・グループワーク	予習： ・ナーシングスキルの「基本的手技」の動画を視聴し、手技をイメージする。 (学習時間60分) 復習： ・演習を振り返り手技のポイントをまとめる。 (学習時間30分)
4 5	佐野 寺岡	6. 呼吸・循環器系のアセスメント 1) 呼吸器系 ・呼吸器系の解剖生理 ・呼吸器系のフィジカルイグザミネーション ・異常呼吸音の種類 2) 循環器系 ・循環器系の解剖生理 ・循環器系のフィジカルイグザミネーション ・心音聴取部位	講義・演習・グループワーク	予習： ・テキストの「呼吸器系・循環器系のアセスメント」を読む。 ・形態機能学の資料を確認して呼吸器の解剖図を描く。また、心臓・循環のしくみを図示する。 (学習時間60分) 復習： ・ナーシングスキルで設定した知識確認テストを満点になるまで実施する(自己採点可能)。 (学習時間30分)
6 7	佐野 寺岡 齋藤 永野 鈴木 高梨 野村 村越 菊地 非常勤教員	7. 呼吸・循環器系のアセスメントの実際 ・呼吸パターンの観察 ・異常呼吸音、心雑音 ・頸動脈の触知 ・プランチテスト、ホーマンズ徴候	講義・演習・グループワーク	予習： ・ナーシングスキルの「胸部(肺)」「循環」の動画を視聴し、手技をイメージする。 (学習時間60分) 復習： ・演習を振り返り手技のポイントをまとめる。 (学習時間30分)
8	佐野 寺岡 齋藤 永野 鈴木 高梨 野村 村越 菊地 非常勤教員	8. 筋・骨格系のアセスメント ・筋・骨格系の解剖生理 ・筋・骨格系のフィジカルイグザミネーション ・ROM-test, MMT の測定	講義・演習・グループワーク	予習： ・テキストの「筋・骨格系のアセスメント」を読む。 ・形態機能学の資料を確認して筋骨格系の解剖図を描く。 (学習時間60分) 復習： ・演習を振り返り手技のポイントをまとめる。 (学習時間30分)
9	齋藤	9. 脳神経・感覚器系のアセスメント 1) 脳神経系 ・脳神経系の解剖生理 ・脳神経系のフィジカルイグザミネーション 2) 感覚器系 ・感覚器系の解剖生理 ・感覚器系のフィジカルイグザミネーション	講義・演習・グループワーク	予習： ・テキストの「脳神経・感覚器系のアセスメント」「運動機能のアセスメント」を読む。 ・形態機能学の資料を確認して神経系・感覚器系(眼・耳)の機能を図示する。 (学習時間60分) 復習： ・ナーシングスキルで設定した知識確認テストを満点になるまで実施する(自己採点可能)。 (学習時間30分)
10	齋藤 寺岡 佐野 永野 鈴木 高梨 野村 村越 菊地 非常勤教員	10. 脳神経・感覚器系のアセスメントの実際 ・対光反射(直接・間接)、瞳孔の観察 ・上肢バレー徴候、ミンガッツーニ ・鼻指鼻試験 ・リンネ・ウェーバー試験	講義・演習・グループワーク	予習： ・ナーシングスキルの「神経、眼、耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭」の動画を視聴し、手技をイメージする。 (学習時間60分) 復習： ・演習を振り返り手技のポイントをまとめる。 (学習時間30分)

11 12	寺岡 齋藤 佐野 永野 鈴木 高梨 野村 村越 菊地 非常勤教員	11. フィジカルアセスメント総合学習① ・事例を活用したシミュレーション学習	演習・グループ ワーク	予習： ・課題の疾患・病態について調べておく。 ・事前課題について指定の用紙に記述する。 (学習時間60分) 復習： シミュレーション学習で見いだした自己の 課題およびディスカッション内容をまとめ る。 (学習時間30分)
13 14	寺岡 齋藤 佐野 永野 鈴木 高梨 野村 村越 菊地 非常勤教員	12. フィジカルアセスメント総合学習② ・事例を活用したシミュレーション学習 ・実技チェック	演習・グループ ワーク	予習： ・課題の疾患・病態について調べておく。 ・事前課題について指定の用紙に記述する。 (学習時間60分) 復習： シミュレーション学習で見いだした自己の 課題およびディスカッション内容をまとめ る。 (学習時間30分)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	小児看護方法論I（病期別援助論）	必修・選択	必修
英語科目名	Child Health Nursing Skills I	対象学年	3年
開講学期	前期前半	単位数	1単位
代表教員	倉田 慶子	ナンバリング	PNL32C1
担当教員	伊藤龍子※、倉田慶子※、森多毅※、本間誠淳※、込山洋美※ ※実務家担当教員	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	子どもと家族が抱える様々な問題と病態を正確に理解し、子どもの成長・発達の特徴と発達評価から子どもの権利まで、小児看護学に求められる理論を幅広く学び、子どもの健康問題をライフサイクルの観点から捉えることを通して、子どもと家族中心のケアの基盤を構築し、あらゆる病期に応じた看護援助方法や技術、現代の医療における看護師の役割を習得する。				
授業の位置づけ	小児看護学概論、小児の健康障害と看護で学んだ知識を基に、様々な健康状態にある子どもとその家族への看護ケアを学ぶために、成長・発達発達段階や症状・病期別に、子どもと家族との通した対象理解と、それに基づいたアセスメントと看護過程を展開する。また、子どもと家族の看護に必要な看護技術や意志決定支援、教育的支援、発達評価について、病態理解に基づく看護実践を念頭に、小児期によくみられる疾患の定義・特徴、処置・治療の方法について学修する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	△DP1-IV、○DP2-I、○DP2-II、◎DP2-III、△DP3-I				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児期の健康障害と成長発達に応じた看護と発達評価の方法について説明できる。 2. 小児期によく見られる健康障害を理解し、看護援助に必要な方法について説明できる。 3. 小児期によく見られる健康障害に伴う病態と治療を理解し、病期に応じた看護について説明できる。 4. さまざまな健康状態にある子どもと家族への看護援助方法や看護技術について説明できる。 				
先修要件	なし。				
関連科目	生涯発達論、子どもの発達と教育、小児看護学概論、小児の健康障害と看護				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時に使用テキストを持参し、関連ページを開き、重要な箇所はマーカーを引いて聴講する。 ・初回授業時に配布する事前および事後課題、参考文献を読み、計画的に予習を進める。 ・提示した課題は必ず提出期限を守り提出する。 ・提示されたテキストの予習範囲は必ず熟読して授業に臨む。 				
成績評価の方法					
評価方法	定期試験（80%）、課題レポート・学習参画度（20%）を総合的に評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児期の健康障害と成長発達に応じた看護と発達評価の方法について説明できるかどうか。 2. 小児期によく見られる健康障害を理解し、看護援助に必要な方法を説明できるかどうか。 3. 小児期によく見られる健康問題に伴う病態と治療を理解し、病期に応じた看護について説明できるかどうか。 4. さまざまな健康状態にある子どもと家族への看護援助方法や看護技術について説明できるかどうか。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
<p>課題は初回授業のオリエンテーションで課題内容と提出日時の一覧を提示し、事務室の前の課題提出用メールボックスを用意する。</p> <p>試験・課題については、終了後に授業において解説しながら解答を示す。</p>					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	小児看護学① 小児看護学概論 小児保健	小林京子、高橋孝雄編集	メヂカルフレンド社	978-4-8392-3359-4	第6版 テキスト1
	小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護	小林京子、高橋孝雄編集	メヂカルフレンド社	978-4-8392-3360-0	第6版 テキスト2
参考文献					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 及川郁子監修、伊藤龍子、及川郁子編集、小児慢性疾患療養育成指導マニュアル、診断と治療社、2006. 2) 及川郁子監修、西海真理、伊藤龍子責任編集、フィジカルアセスメントと救急対応、中山書店、2014. 3) 伊藤龍子編著、子どもの看護技術、医歯薬出版株式会社、2012. 4) 伊藤龍子編著、子ども急性期看護、医歯薬出版株式会社、2015. 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	・随時（事前にメールで連絡のこと k.kurata.xu@）				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	倉田慶子	1. 小児期の健康障害と成長発達に応じた看護 2. 子どもの病気の理解と看護 <キーワード> コミュニケーション方法, 遊び, 学習, 認知の発達, 病気の理解, 病児, デンバーⅡ発達スクリーニング検査, 遠城寺式乳幼児分析的発達検査法, 小児基本動作スケール, 小児基本動作スケール・タイプ1	講義	予習: 既存の関連授業の資料を読む。テキスト2 p2-20, 78-95を読み、子どもの発達段階別の健康障害をイメージする。 (学習時間2時間) 復習: 小児看護方法論Ⅰ(病児別援助論)の学習目標を理解し、テキストの関連ページを読む。キーワードを復習し、テキストの内容を確認する。 (学習時間2時間) 参考文献: 1) 2)
2	倉田慶子	3. 急性期にある子どもと家族の看護 <キーワード> 急性症状, 先天性疾患, 観察, アセスメント, 救急看護	講義	予習: テキスト2 p126-142, 205-210, 急性期および先天性疾患の子どもの特徴について理解する。 (学習時間2時間) 復習: 急性期および先天性疾患の子どもと家族の特徴を踏まえたアセスメントについて理解する。 (学習時間2時間) 参考文献: 2) 4)
3	倉田慶子	4. 障害のある子どもと家族の看護 <キーワード> 国際生活機能分類, 身体障害, 知的障害, 発達障害, 日常生活援助	講義	予習: テキスト2 p210-217 ・小児の健康障害と看護の授業資料を復習し、心身障害, 重症心身障害, 医療的ケアの必要な超重症児とその家族の特徴について理解する。 ・障害の定義, 障害児とその家族の特徴, 子どもと家族の障害受容, アセスメントについて理解する。 (学習時間2時間) 復習: ・配付資料とテキストを再度読み、障害の種類, 子どもと家族の障害受容モデルを理解する。 ・障害児と家族のための看護の実際についてノートにまとめる。(学習時間2時間) 参考文献: 1)
4	倉田慶子	5. 検査や処置を受ける子どもと家族の看護 <キーワード> プレパレーション, 骨髄穿刺, 腰椎穿刺, 吸引, 吸入, コミュニケーション方法, 発達段階	講義	予習: テキスト2 p166-169, 277-285, 320-348 ・子どもの病気の理解, 検査や処置を受ける子どもと家族の看護について復習する。 テキスト2 p26-75 ・発達段階別の身体構造機能の特徴を復習し、テキストを読む。 (学習時間3時間) 復習: ・子どもの検査や処置の留意点を理解する。 ・子どもの検査や処置の目的, 方法, プレパレーション, 検査や処置前中後の看護について理解する。 (学習時間3時間)
5	森多毅	6. 手術を受ける子どもと家族の看護 <キーワード> 手術, プレパレーション, 全身麻酔, 侵襲, 痛み, ショック, 合併症, 日帰り手術	講義	予習: テキスト2 p.102-112, 132-142 ・成人看護学の周手術期の看護を復習する。 ・テキストを読み、周手術期の子どもと家族の特徴を理解する。 (学習時間2時間) 復習: ・手術を受ける子どもと家族の周手術期の一連の看護, 検査や処置の意味や留意点, 麻酔による影響, 合併症を理解する。 (学習時間2時間) 参考文献: 4)
6	倉田慶子	7. 慢性期にある子どもと家族の看護 <キーワード> 小児慢性特定疾病対策, 糖尿病, 気管支喘息, ネフローゼ症候群	講義	予習: 代表的な小児の慢性疾患(糖尿病, 気管支喘息, ネフローゼ症候群など)の病態生理, 治療, 経過を理解する。 (学習時間2時間) 復習: 慢性期にある子どもと家族の生活, 成長発達に応じた看護を理解する。 (学習時間2時間)
7	込山洋美	8. 終末期にある子どもと家族の看護 <キーワード> 小児緩和ケア, 子どもの死の捉え方, 看取りのケア, グリーフワーク, グリーフケア	講義	予習: テキスト2 のp155-161を読み、学生自身が子どもの頃に「死」という事象をどのように捉えていたのか振り返る。 (学習時間2時間) 復習: 配付資料を熟読し、看護のあり方について検討する。 (学習時間2時間)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記 (PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	小児看護方法論II（状況別援助論）	必修・選択	必修
英語科目名	Child Health Nursing Skills II	対象学年	3年
開講学期	前期後半	単位数	1単位
代表教員	倉田 慶子	ナンバリング	PNL32C2
担当教員	伊藤龍子※、倉田慶子※、森多毅※、本間誠淳※、込山洋美※、厚美彰子※、白幡峰子※、菅原淳※、磯邊聡子※ ※実務家担当教員	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	様々な健康状態にある子どもとその家族への看護ケアを学ぶために、成長・発達段階や症状・経過・状況・場ごとに、子どもと家族との体験を通じた対象理解と、それに基づくアセスメント・看護ケアを展開するための看護者の役割について学修する。また、子どもの看護に必要な看護技術や意志決定支援・教育的支援について、実践に裏付けられたあり方を学び、病態理解に基づく看護ケアを念頭に、小児期によくみられる疾患の定義・特徴・検査・処置の方法などを学修する。			
授業の位置づけ	生涯発達論、子どもの発達と教育、小児看護学概論、小児の健康障害と看護の既習の知識を基に、小児看護方法論Ⅰの病期別援助論を学んだ後に、小児看護方法論Ⅱを習得し、小児看護学実習の基礎と位置づける。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	△DP1-IV、○DP2-I、○DP2-II、◎DP2-III、△DP3-I			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児期の健康障害と成長発達に応じた看護について説明できる。 2. 小児期によく見られる健康障害を理解し、看護援助に必要な方法について説明できる。 3. 小児期によく見られる健康障害に伴う病態と治療を理解し、状況に応じた看護について説明できる。 4. さまざまな健康状態にある子どもと家族への看護援助方法や看護技術について実践できる。 5. 事例演習を通して子どもと家族に必要な看護計画を立案し、看護を展開できる。 			
先修要件	なし。			
関連科目	生涯発達論、子どもの発達と教育、小児看護学概論、小児の健康障害と看護			
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時に使用するテキストを持参し、関連ページを開き、重要な箇所はマーカーを引いて聴講する。 ・初回授業時に配布する事前および事後課題、参考文献を読み、計画的に予習を進める。 ・看護過程の課題に関する資料は授業開始後に配付する。 ・提示した課題は必ず提出期限を守り提出する。 ・提示されたテキストの予習範囲は必ず熟読して授業に望む。 			
成績評価の方法				
評価方法	定期試験（70%）、課題レポート・学習参画度（30%）を総合的に評価する。			
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児期の健康障害と成長発達に応じた看護について説明できるかどうか。 2. 小児期によく見られる健康障害を理解し、看護援助に必要な方法について説明できるかどうか。 3. 小児期によく見られる健康障害に伴う病態と治療を理解し、状況に応じた看護について説明できるかどうか。 4. さまざまな健康状態にある子どもと家族への看護援助方法や看護技術を実践できるかどうか。 5. 事例演習を通して子どもと家族に必要な看護計画を立案し、一連の看護を展開できるかどうか。 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
課題等に対するフィードバックを希望する学生には随時メールで受け付ける。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
新体系 看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論 小児保健	小林京子、高橋孝雄編集	メヂカルフレンド社	978-4-8392-3359-4	第6版 テキスト1
新体系 看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護	小林京子、高橋孝雄編集	メヂカルフレンド社	978-4-8392-3360-0	第6版 テキスト2
参考文献				
伊藤龍子編著、子どもの看護技術、医歯薬出版株式会社、2012。 及川郁子監修、西海真理、伊藤龍子責任編集、フィジカルアセスメントと救急対応、中山書店、2014。 伊藤龍子編著、子ども急性期看護、医歯薬出版株式会社、2015。 及川郁子監修、伊藤龍子、及川郁子編集、小児慢性疾患療養育成指導マニュアル、診断と治療社、2006。				
その他				
連絡先・オフィスアワー	随時（事前にメールで連絡のこと k.kurata.xu@）			
備考				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	倉田慶子	1. 小児感染症・隔離・行動制限がある子どもと家族の看護 <キーワード> 小児感染症、潜伏期間、安静、隔離、行動制限、感染予防、子どもの権利、発達段階、認知とコミュニケーション、遊び、学習	講義	予習：テキスト2 p546-557 ・小児の健康障害と看護の授業資料を復習し、テキストの指摘ページを読む。 (学習時間1時間) 復習： ・小児感染症の特徴と予防、感染時の対策を理解する。 ・隔離や行動制限が必要な子どもと家族の置かれている状況を理解し、必要な看護について記述する。 (学習時間2時間)
2	白幡 峰子	2. 特別な支援を受ける新生児・乳児と家族の看護 <キーワード> 低出生体重児、NICU、デベロップメンタルケア、ミニマルハンドリング、長期フォローアップ	講義	予習：テキスト2 p26-47, 200-205, 374-402を読む。 ・NICUに関するメディアの情報を調べる。 (学習時間1時間) 復習： ・低出生体重児の解剖・生理・機能の特徴を理解し、看護のポイントを整理する。 ・低出生体重児の社会的背景について調べ、看護のあり方について理解する。 (学習時間2時間)
3, 4, 5	森 多毅 本間誠淳 倉田 慶子 込山 洋美 磯邊 聡子 伊藤龍子	3-1) 2) 3) 子どもによく見られる症状の観察：フィジカルアセスメント <キーワード> フィジカルアセスメント、バイタルサイン測定、身体計測、コミュニケーション方法、各発達段階、発熱、脱水、嘔吐、下痢、呼吸困難、疼痛	講義・演習	予習：テキスト2 p288-318を読む。 ・発達段階別の身体の構造と機能の特徴を復習する。 ・症状の定義、メカニズム、特徴、原因、観察項目、フィジカルアセスメントの方法を学習し、グループワークのプレゼンテーションの準備をする。 ・課題レポート：グループワークのための事前課題あり。詳細は授業内で説明する。 (学習時間4時間) 復習：配付資料を熟読し、子どもの発達に合わせたフィジカルアセスメントを理解する。 (学習時間2時間)
6, 7, 8	森多毅 本間誠淳 倉田慶子	4-1) 2) 3) 健康障害のある子どもと家族に必要な看護過程の展開 <キーワード> 看護過程、情報収集、充足・未充足、アセスメント、関連図、看護問題、看護目標、看護計画、評価	講義・演習	予習：テキスト2 p78-123を読む。 ・基礎看護学で学んだ漢語過程の目的と方法について復習する。 ・小児各期の成長発達、子どもによく見られる疾患と治療について復習する。 ・課題レポート：授業内に提示する。 (学習時間2時間) 復習：子どもと家族の看護過程の特徴を理解し、看護に必要な情報を整理、アセスメント、関連図、看護問題の抽出、目標設定、具体策の立案を実施する。 (学習時間2時間)
9	倉田慶子	5. 内分泌疾患をもつ子どもと家族の看護 <キーワード> 下垂体疾患・甲状腺疾患・骨・副工場制疾患・性腺疾患・性分化疾患・成長ホルモン・低身長・ボディイメージ・抗利尿ホルモン・新生児マススクリーニング・自己免疫機序・長期フォローアップ・移行期支援	講義	予習：・テキストp558~565を読み、内分泌疾患を持つ子どもと家族について理解する ・内分泌疾患をもつ子どもと家族がどのような生活をしているのかを手記やSNSなどを調べ、子どもと家族の体験を理解する。(学習時間1時間) 復習：配布資料を熟読し、内分泌疾患をもつ子どもと家族の看護について理解する (学習時間2時間)
10	倉田慶子	6. 虐待が疑われる子どもと家族の看護 7. 子どもの事故と事故防止 <キーワード> 児童虐待防止法、児童福祉法、成育基本法、児童虐待の分類と特徴、児童虐待のリスク因子、マルトリートメント、虐待防止策、児童相談所、福祉事務所、警察署、通告、通報、貧困、子どもの事故の特徴、窒息、誤嚥・誤飲、転落、溺水、熱傷、入院で起こる事故と特徴、安全教育	講義	予習： テキスト1 p42-43, 62-65, 261-262 テキスト2 p254-261, 602-603, 611-619 ・テキストの指摘ページを読む。 ・児童虐待に関するメディアの情報を調べる。 ・提示された事前課題を遂行する。 (学習時間1時間) 復習： ・配付資料を熟読し、被虐待児と家族の特徴と看護について理解する。 ・児童虐待の現状を把握し、看護職者としての対策を理解する。 (学習時間1時間)

11	森 多毅 倉田 慶子 本間誠淳 伊藤 龍子 菅原 淳 込山 洋美 厚美彰子 磯邊 聡子	8. 健康障害のある子どもと家族に必要な看護：技術演習 <キーワード> 輸液管理、経口与薬、小児各期の発達、インフォームド・アセント、インフォームド・コンセント、プリパレーション、ディストラクション、安静、安楽、最善の利益、子どもの権利	演習	予習： テキスト2 p78-123, 329-332, 334-338 ・子どもへの与薬・輸液管理について、テキストの指摘ページ・参考文献を活用して事前課題を完成させる。 ・子どもへの与薬・輸液管理について、Nursing Skills にて動画視聴を行い、手順と技術を理解する。 (学習時間：2時間) 復習： ・演習で展開した子どもへの与薬と輸液管理について、看護のポイントを理解する。 ・子どもの健康問題と発達段階に応じた安全な与薬・輸液管理の技術を理解する。 (学習時間：2時間) 事前課題： ・技術演習のための事前課題あり。詳細は授業内で説明する。
12	倉田 慶子	9. 重症心身障害児と家族の看護 10. 在宅療養を要する子どもと家族の看護 <キーワード> 国際生活機能分類、身体障害、知的障害、重症心身障害、超重症児、医療的ケア、日常生活援助、障害受容、セルフケア促進、身体障害者手帳、療育手帳、在宅療養移行支援、多職種連携	講義	予習：テキスト2 p205-223, 235-245 ・テキストの指摘ページを読む。 ・重症心身障害児、超重症児、在宅療養を要する子どもと家族に関するメディアの情報を調べる。 (学習時間2時間) 復習： ・重症心身障害児とその家族の特徴と看護のポイントについて記述する。 ・入院生活から在宅療養への移行に向けた意思決定支援とセルフケア行動の促進を含む看護の役割について記述する。 ・多職種の連携と社会資源の活用における看護のポイントについて記述する。 (学習時間2時間)
13	森 多毅	11. 災害を受けた子どもと家族の看護 <キーワード> 自然災害、事故災害、要配慮者、ストレス障害、トラウマ反応、災害トリアージ、心のケア、災害時小児周産期リエン	講義	予習： テキスト2 p261-266 ・テキストの指摘ページを読む。 ・災害に関するメディアの情報を調べる。 (学習時間1時間) 復習： ・災害による子どもへの影響とストレスについて理解する。 ・災害に遭遇した子どもと家族への看護について記述する。 (学習時間1時間)
14	本間誠淳	12. 救命救急を要する子どもと家族の看護 <キーワード> 不慮の事故、外傷、熱傷、誤飲・誤嚥、溺水、熱中症、薬物中毒、食中毒、アレルギー、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アナフィラキシー、エピベン	講義	予習： テキスト2 p105-113, 126-132, 188-200, 570-578, 611-619 ・テキストの指摘ページを読む。 ・救命救急に関するメディアの情報を調べる。 (学習時間1時間) 復習： ・救命救急処置を要する子どもと家族の特徴とその看護について記述する。 ・救急医療において著名な病態に対する処置法について理解する。 (学習時間1時間)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	小児看護学実習	必修・選択	必修
英語科目名	Practicum in Child Health Nursing	対象学年	3, 4年
開講学期	複期	単位数	2単位
代表教員	伊藤 龍子	ナンバリング	PNL32C3
担当教員	伊藤龍子※、倉田慶子※、森多毅※、本間誠淳※、厚美彰子※、磯邊聡子※ ※実務家担当教員	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	既習の知識と技術を統合して、あらゆる健康レベルにある子どもと家族に対し、子どもの権利を尊重した適切な看護を実践するための基礎的な能力を修得する。				
授業の位置づけ	小児看護学概論、小児の健康障害と看護、小児看護方法論Ⅰ・Ⅱを通して、様々な健康状態にある子どもと家族に対する看護援助方法と看護技術を習得した。この既習の知識と技術を駆使して、保育所・幼稚園・認定こども園において、地域で生活する子どもへの対応の仕方を学び、実際に病棟に入院している子どもと家族を受け持ち、子どもの健康状態に応じた看護援助方法と看護技術を実践するための看護過程を展開する。子どもと家族への看護を提供するために、カルテやコミュニケーションを通して必要な情報を収集してアセスメントし、看護問題を見極め、問題の解決や改善のための看護計画を立案する。その看護計画に基づいて、受け持ちの子どもと家族に対して、教員と実習指導者からの指導の下に、実際に看護の実践する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP2-CB、○DP2-III				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもに関心を持ち、子どもおよび家族との関係を築く。 2. 子どもの成長発達を理解する。 3. 子どもの生活を理解し、成長発達を促進する援助について学ぶ。 4. 健康障害や入院が子ども家族に及ぼす影響を理解する。 5. 入院している子どもと家族のアセスメントを行い、看護を実践する。 6. 子どもの安全について理解し、事故を防止する。 7. チーム医療を学び、他職種における看護職者の役割を理解する。 8. 主体的に学習し、責任ある態度を培う。 				
先修要件	小児看護方法論Ⅰ・Ⅱ				
関連科目	看護学概論、生涯発達論、小児看護学概論、小児の健康障害と看護、微生物学、薬理学、病理学、臨床医学Ⅰ・Ⅱ、形態機能学Ⅰ、臨床検査学、臨床栄養学				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の科目を統合して事前課題を遂行し、オリエンテーション時の技術演習を通して知識と技術を統合するための能力を養い、実習に臨む。 ・提示された注意事項を順守し、日々の健康管理を行い、あらゆる健康レベルにある子どもと家族を尊重し、実習施設の医療職者と職員の指導に対する感謝の念を忘れない。 <p>【事前準備】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児期に多い感染症の抗体価を自分自身で確認し、保育所等の実習施設より指示されている検体検査を確実にし、万全な体調で実習に臨む。 2. 指定された事前課題は、実習で活用できる有効な資料となるよう効率的に学習する。 3. 効果的に実習に臨むために、オリエンテーションの内容は十分に理解する。 4. オリエンテーションで実践する技術演習は、事前学習を行い、オリエンテーション終了後に個別に練習する。 5. 実習記録は、大学の教員と臨地実習指導者の双方から指導を受ける。 6. 受け持ちの子どもについて発育評価と発達評価を確実にし、成長発達レベルに応じた看護実践をする。 				
成績評価の方法					
評価方法	実習内容と実習記録・レポートを基に到達目標の達成度85%、カンファレンスを含む実習態度15%を目安として総合的に評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもに関心を持ち、子どもおよび家族との関係を築くことができる。 2. 子どもの成長発達についてその概要を説明できる。 3. 子どもの生活を理解し、成長発達を促進する援助について説明できる。 4. 健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響について説明できる。 5. 入院している子どもと家族のアセスメントを行い、看護を実践できる。 6. 子どもの安全について理解し、事故を防止できる。 7. チーム医療を学び、他職種における看護職者の役割について説明できる。 8. 主体的に学習し、責任ある態度を培うことができる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
カンファレンスと個人面接でフィードバックする。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
新体系 看護学全書	小児看護学①小児看護学概論 小児保健	小林京子、高橋孝雄編集	メヂカルフレンド社	978-4-8392-3359-4	第6版
新体系 看護学全書	小児看護学②健康障害をもつ小児の看護	小林京子、高橋孝雄編集	メヂカルフレンド社	987-4-8392-3460-0	第6版

参考文献				
伊藤龍子編著、子ども急性期看護、医歯薬出版株式会社、2015。 伊藤龍子編著、子どもの看護技術、医歯薬出版株式会社、2012。 及川郁子監修、西海真理、伊藤龍子責任編集、フィジカルアセスメントと救急対応、中山書店、2014。 及川郁子監修、伊藤龍子、及川郁子編集、小児慢性疾患療養育成指導マニュアル、診断と治療社、2006。				
その他				
連絡先・オフィスアワー		・随時（事前にメールで連絡のこと r-ito@）		
備考				
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1日目	実習配置表参照	保育所・幼稚園・認定こども園実習 〔キーワード〕 ・成長発達 ・乳幼児の食事と排泄 ・発達段階に応じた遊び ・基本的生活習慣の自立 ・実習施設の健康管理と安全管理	実習	〔予習〕 ・実習要項、小児看護学概論、小児看護方法論Ⅰ・Ⅱの乳幼児に関するページを読む。（学習時間60分） 〔復習〕 ・1日関与した乳幼児の発達段階に応じたコミュニケーション、生活と遊びについての実践、保育士と幼稚園教員の援助方法を振り返り、学びを深めたことなどを記載して実習記録を完成させる。（学習時間80分）
1日目	実習配置表参照	小児病棟の特徴の理解 小児病棟で起こりやすい事故の特徴と事故防止対策 受け持ち患児とのコミュニケーション 〔キーワード〕 ・乳幼児期、学童思春期の特徴 ・小児期の病態と治療の特徴 ・小児病棟の構造 ・発達段階別に起こりやすい事故の特徴 ・入院中に起こりやすい事故の特徴 ・事故防止対策	実習	〔予習〕 ・実習要項、小児看護学概論、小児看護方法論Ⅰ・Ⅱ、小児の健康障害と看護のテキストと配付資料を読む。（学習時間80分） 〔復習〕 ・小児病棟の特徴を理解し、受け持ち患児の情報を把握して疾患や症状に対する看護を調べて実習記録を記述する。（学習時間80分）
2日目	実習配置表参照	受け持ち患児と家族のための情報収集 収集した情報の整理とアセスメント 受け持ち患児の生活援助の見学実習 〔キーワード〕 ・子どもと家族とのコミュニケーション ・必要と判断した情報の収集 ・アセスメントと関連図 ・生活援助 ・事故防止対策	実習	〔予習〕 ・受け持ち患児の病態を理解し、病態生理、症状、検査・診断と治療、予後、看護のポイントをまとめ、看護の方向性を明確にし、関連図を用いた発表の準備をする。（学習時間80分） 〔復習〕 ・受け持ち患児の病態を踏まえ、必要な情報を収集してアセスメントし、関連図を完成させる。（学習時間80分）
3日目	実習配置表参照	受け持ち患児と家族の看護問題の見極めと看護実践 小児外来実習 〔キーワード〕 ・アセスメント：情報の分析、解釈、統合 ・看護計画立案 ・看護実践の評価 ・外来実習（4-9日目）	実習	〔予習〕 ・日々の実習記録を完成させ、受け持ち患児に必要な看護技術を学習し、実践できるように準備する。 ・情報をアセスメントし、受け持ち患児と家族の看護問題を見極めて看護計画を立案する。（学習時間90分） 〔復習〕 ・1日を振り返り、提供した看護実践を評価し、看護問題リストと看護計画を完成させる。（学習時間90分）
4日目	実習配置表参照	看護計画立案と看護実践 1週目の到達目標の到達度と2週目の課題の明確化 〔キーワード〕 ・看護計画立案 ・看護計画に基づいた看護実践 ・計画の評価と加筆修正 ・新たな情報収集	実習	〔予習〕 ・日々の実習記録を完成させ、受け持ち患児に必要な看護技術を学習し、実践できるように準備する。 ・看護実践のための看護計画を完成させる。（学習時間80分） 〔復習〕 ・看護計画を実践して評価し、計画の加筆修正により看護計画を完成させる。 ・受け持ち患児の変更がある場合は、情報収集してアセスメント、看護問題リスト、看護計画を立案する。（学習時間100分）

5日目	実習配置表参照	2週目の課題に応じた情報収集、アセスメント、看護計画立案、計画の実践と評価、加筆修正 〔キーワード〕 ・看護計画に基づいた看護実践 ・新たな情報収集、アセスメント、計画立案 ・看護計画と看護実践の評価	実習	〔予習〕 ・1週目で実践した看護過程を見直し、看護計画の発表の準備をする。 ・2週目の課題に応じた学習をする。 ・見学実習に関する実習目標と実習内容、事前学習課題を熟読する。(学習時間90分) 〔復習〕 ・自己の課題に応じた実習記録を作成する。 ・受け持ち患児に必要な看護技術の中で未習得の技術について調べて実践できるように計画する。(学習時間90分)
6-7日目	実習配置表参照	2週目の到達目標と実習記録の完成、今後の課題の明確化 NICU・新生児治療室見学実習、手術見学など 〔キーワード〕 ・看護計画に基づいた看護実践 ・見学実習 ・NICU・新生児治療室看護 ・到達目標の到達度評価	実習	〔予習〕 ・2週目の課題に応じた学習をする。 ・見学実習に関する実習目標と実習内容、事前学習課題を熟読する。(学習時間80分) 〔復習〕 ・自己の課題に応じた実習記録を完成させる。 ・受け持ち患児に関する申し送り事項を明確にして記録する。(学習時間80分)
8-9日目	実習配置表参照	2週目の到達目標と実習記録の完成、今後の課題の明確化 NICU・新生児治療室見学実習、手術見学など 〔キーワード〕 ・看護計画に基づいた看護実践 ・見学実習 ・NICU・新生児治療室看護 ・到達目標の到達度評価	実習	〔予習〕 ・2週目の課題に応じた学習をする。 ・見学実習に関する実習目標と実習内容、事前学習課題を熟読する。(学習時間80分) 〔復習〕 ・自己の課題に応じた実習記録を完成させる。 ・受け持ち患児に関する申し送り事項を明確にして記録する。(学習時間80分)
10日目	実習配置表参照	2週間の実習のまとめ 実習記録の完成と提出	実習	

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	成人看護方法論Ⅳ（がん看護論）	必修・選択	必修
英語科目名	Adult Nursing Skills IV	対象学年	3年
開講学期	前期後半	単位数	1単位
代表教員	高山 京子	ナンバリング	PNL32B1
担当教員	高山京子※、宮津珠恵※、佐藤まゆみ※、高谷真由美※、長瀬雅子※、池田恵※、樋野恵子※、田中朋子※、北村幸恵※、坂本亜弓※、瀬尾昌枝※、阿久澤優佳※ ※・・・実務家担当教員	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	がんとともに生きる人とその家族について臨床経過の特徴をふまえて理解する。また、がん治療や緩和ケアを受ける患者とその家族を支えるために必要な知識を習得し、その人らしい生活を送るための援助方法を理解する。				
授業の位置づけ	がんとともに生きる人とその家族がその人らしい生活が送れるように、がんの臨床経過に沿って援助方法を学修する。成人看護学概論を基礎とし、成人看護学方法論Ⅰ～Ⅲと共に成人看護学実習の基盤と位置づける。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	△DP1-Ⅳ、◎DP2-Ⅱ、○DP2-Ⅲ、△DP3-Ⅰ				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. がんの動向や我が国のがん対策について説明できる。 2. がんとともに生きる人とその家族の特徴をふまえた看護について説明できる。 3. がんの病態、診断、治療のプロセスと患者の意思決定支援について説明できる。 4. がん治療（放射線療法、薬物療法）を受ける患者の看護について説明できる。 5. ボディーイメージの変容を伴う患者の看護について説明できる。 6. 症状マネジメントについて説明できる。 7. 終末期にあるがん患者とその家族に対する看護について説明できる。 8. がんとともに生きる人とその家族の事例について、情報の収集、アセスメント、看護問題の抽出、看護計画の立案を行い、そのプロセスについて自分の考えを説明できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ～Ⅲ、臨床医学ⅠA・ⅠB、臨床医学ⅡA・ⅡB、薬理学				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された予習内容に取り組んだ上で、授業に参加すること。 ・授業後は復習内容に取り組むこと。 ・指定された期日までに個別で事例の課題に取り組み、第11回と第12回のグループワークに臨むこと。 ・第13回と第14回では、グループで話し合った課題についてプレゼンテーションを行う。 				
成績評価の方法					
評価方法	定期試験80%、課題レポート20%を統合して評価する。				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・がんの動向や我が国のがん対策について説明できるか。 ・がんとともに生きる人とその家族の特徴をふまえた看護について説明できるか。 ・がんの病態、診断、治療のプロセスと患者の意思決定支援について説明できるか。 ・がん治療（放射線療法、薬物療法）を受ける患者の看護について説明できるか。 ・ボディーイメージの変容を伴う患者の看護について説明できるか。 ・症状マネジメントについて説明できるか。 ・終末期にあるがん患者とその家族に対する看護について説明できるか。 ・がんとともに生きる人とその家族の事例について、情報の収集、アセスメント、看護問題の抽出、看護計画の立案までを記述することができるか。また、そのプロセスについて自分の考えをグループワークの場で述べることができるか。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
看護過程の課題レポートは、後日コメントをつけて返却する。また、グループワークの発表時に全体に対してフィードバックをする。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	看護学テキストNiCE がん看護	鈴木久美・林直子・佐藤まゆみ（編者）	南江堂	978-4-524-24812-4	
参考文献					
『緩和ケア 第3版』、恒藤 暁・田村 恵子（編集）、医学書院、2020。 『がん薬物療法看護ベスト・プラクティス』、佐々木常雄（監修）、照林社、2020。 『がん放射線治療パーフェクトブック』、唐澤久美子・藤本美生（編集）、学研メディカル秀潤社、2016。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時（事前にメールで連絡のこと、k.takayama.sv@）				
備考	なし				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	高山	<p>がんの総論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) がんの病態 2) がんの疫学 3) がん対策と予防、がん教育 4) 緩和ケア、トータルペイン <p>[キーワード] 転移、罹患率、死亡率、がん対策基本法、がんの予防、がん検診、緩和ケア、トータルペイン</p>	講義	<p>[予習] がんの病態について、既習の授業資料やテキストを用いて理解しておく。(学修時間1時間)</p> <p>[復習] キーワードについて、テキストや授業資料を見直して理解を深める。(学修時間1時間)</p>
2	高山	<p>がんとともに生きる人と家族の理解と看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床経過における特徴と看護 2) 発達段階における特徴と看護 3) がんサバイバーの特徴と支援 <p>[キーワード] がんの臨床経過、AYA世代の特徴、就労問題、妊孕性保持、高齢がん患者の特徴、がんサバイバーシップ、ソーシャルサポート</p>	講義	<p>[予習] 臨床経過と発達段階の特徴について、既習の授業資料やテキストを用いて理解しておく。(学修時間1時間)</p> <p>[復習] キーワードについて、テキストや授業資料を見直して理解を深める。(学修時間1時間)</p>
3	佐藤	<p>がんの診断・治療と患者の意思決定支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) がんの診断、治療の決定プロセス 2) インフォームド・コンセント 3) 患者の意思決定における支援 <p>[キーワード] 病理診断、画像診断、病期、集学的治療、全身状態の評価、治療効果の評価、インフォームド・コンセント、意思決定、セカンドオピニオン</p>	講義	<p>[予習] がんの診断・治療の決定プロセスについて、既習の授業資料やテキストを用いて理解しておく。使用テキスト p281-p287 (事例Cさん) を読んでおく。(学修時間1時間)</p> <p>[復習] キーワードについて、テキストや授業資料を見直して理解を深める。(学修時間1時間)</p>
4	高山	<p>がん薬物療法を受ける患者の看護 1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 薬物療法の目的、種類 2) レジメンと起こりうる有害事象 3) 薬物療法治療前の看護 <p>[キーワード] 抗がん薬の種類と作用機序、レジメン、CTCAE、RECIST、有害事象、治療前のアセスメント</p>	講義	<p>[予習] がん薬物療法の目的、種類、レジメンについて、既習の授業資料やテキストを用いて理解しておく。(学修時間1時間)</p> <p>[復習] キーワードについて、テキストや授業資料を見直して理解を深める。(学修時間1時間)</p>
5	高山	<p>がん薬物療法を受ける患者の看護 2</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 薬物療法の治療中、治療後の看護 2) 造血幹細胞移植を受ける患者の看護 3) 抗がん薬の曝露対策 <p>[キーワード] セルフケア支援、造血幹細胞移植、GVHD、感染予防、抗がん薬の曝露対策</p>	講義	<p>[予習] 造血幹細胞移植について、既習の授業資料やテキストを用いて理解しておく。(学修時間1時間)</p> <p>[復習] キーワードについて、テキストや授業資料を見直して理解を深める。(学修時間1時間)</p>
6	高山	<p>症状マネジメント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 症状のアセスメント 2) 症状緩和に向けた支援 <p>[キーワード] 症状マネジメント、がん疼痛、痛みの評価、オピオイド、WHO 3段階除痛ラダー、倦怠感の緩和の方法、悪液質への援助</p>	講義	<p>[予習] がん疼痛の治療法と悪液質の病態について、既習の授業資料やテキストを用いて理解しておく。(学修時間1時間)</p> <p>[復習] キーワードについて、テキストや授業資料を見直して理解を深める。(学修時間1時間)</p>
7	宮津	<p>がん放射線療法を受ける患者の看護 1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 放射線療法の目的、種類 2) 急性有害事象と晩期有害事象 3) 放射線療法開始前の看護 <p>[キーワード] 根治照射、緩和照射、外部照射、内部照射、治療計画、急性期有害事象、晩期有害事象、治療前のアセスメント</p>	講義	<p>[予習] 放射線療法の目的、種類、方法について、既習の授業資料やテキストを用いて理解しておく。(学修時間1時間)</p> <p>[復習] キーワードについて、テキストや授業資料を見直して理解を深める。(学修時間1時間)</p>
8	宮津	<p>がん放射線療法を受ける患者の看護 2</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 放射線療法治療中、治療後の看護 2) 放射線防護対策 <p>[キーワード] 放射線宿酔、放射線皮膚炎、放射線粘膜炎症、セルフケア支援、放射線防護の三原則</p>	講義	<p>[予習] 放射線宿酔、放射線皮膚炎、放射線粘膜炎症の発生機序について、既習の授業資料やテキストを用いて理解しておく。(学修時間1時間)</p> <p>[復習] キーワードについて、テキストや授業資料を見直して理解を深める。(学修時間1時間)</p>

9	宮津	ボディイメージの変容を伴う患者の看護 [キーワード] ボディイメージ、アピアランスケア	講義	[予習] ボディイメージの変容に関わる有害事象と生活への影響について、既習の授業資料やテキストを用いて考えておく。(学修時間1時間) [復習] キーワードについて、テキストや授業資料を見直して理解を深める。(学修時間1時間)
10	高山	終末期(エンド・オブ・ライフ期)にあるがん患者と家族に対する看護 1) 終末期患者の抱える全人的苦痛と看護 2) 緩和ケアチーム、緩和ケア病棟の役割 3) 鎮静における患者と家族への支援、倫理的課題 4) 看取りのケア [キーワード] 全人的苦痛、緩和ケア、緩和ケアチーム、鎮静、ACP、倫理的課題、看取りのケア	講義	[予習] 終末期患者の全人的苦痛、ACP、鎮静について、既習の授業資料やテキストを用いて理解しておく。(学修時間1時間) [復習] キーワードについて、テキストや授業資料を見直して理解を深める。(学修時間1時間)
11 12	高山 宮津 佐藤 高谷 長瀬 池田 樋野 田中 北村 坂本 瀬尾 阿久澤	事例を用いた看護過程の展開	グループワーク	[予習] 事前に配布された事例に対して、個別で情報の整理とアセスメント、看護問題の抽出と看護計画の立案を行う。(学修時間3時間) [復習] グループワークを通して、他の学生のアセスメント、看護計画から自分の課題で不足しているところを明らかにし、理解を深める。(学修時間1時間)
13 14	高山 宮津 佐藤 高谷 長瀬 池田 樋野 田中 北村 坂本 瀬尾 阿久澤	看護過程の発表	プレゼンテーション、全体討議	[予習] グループワークの成果発表に向けて発表準備を行う。(学修時間1時間) [復習] 他のグループが担当した事例について、自己の理解が不足しているところを明らかにし、理解を深める。(学修時間1時間)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記(PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	成人看護学実習Ⅰ	必修・選択	必修
英語科目名	Practicum in Adult Nursing I	対象学年	3, 4年
開講学期	複期	単位数	3単位
代表教員	池田 恵	ナンバリング	PNL32B2
担当教員	池田 恵※、佐藤まゆみ※、高山京子※、田中朋子※、宮津珠恵※、阿久澤優佳※、坂本亜弓※、瀬尾昌枝※、北村幸恵※、酒井悠里子※ ※・・・実務家担当教員	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	手術に伴いセルフケアが制限される成人患者およびその家族への看護実践に必要な知識・技術・態度を習得する。				
授業の位置づけ	成人看護学概論、成人看護方法論Ⅰ～Ⅳの学修内容を基盤とし、病院実習を通して手術を受ける成人患者およびその家族への看護実践に必要な知識・技術・態度について習得する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP2-Ⅱエビデンスに基づいた看護を適切に実践できる能力 ○DP2-Ⅲ健康レベルに応じた看護を展開する能力 ○DP3-Ⅰ保健医療福祉における多職種と協働・連携する能力				
到達目標	1) 周手術期にある患者と家族の身体的・心理的・社会的状態及びセルフケア能力を説明できる。 2) 周手術期にある患者と家族の問題解決に向けた援助を、対象者の個性やセルフケア能力を踏まえながら計画し、実施・評価することができる。 3) 周手術期にある患者と家族に対し専門職者としての態度・姿勢で看護実践を行うことができる。 4) 周手術期医療チームにおける看護師の役割を説明できる。				
先修要件	成人看護方法論Ⅳ（がん看護論）				
関連科目	生涯発達論、成人看護学概論、成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、形態機能学ⅠA・ⅠB、生化学、微生物学、臨床栄養学、薬理学、病理学、臨床検査学、臨床医学ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB				
学修上の注意	【準備学習】 ・実習開始までに予習欄にある課題に必ず取り組むこと。 ・課題はメモやノート等にまとめ、実習場で使用できるようにしておくこと。 【実習中の注意事項】 ・対象者は自立した成人であることを念頭に誠実な態度で実習すること。 ・実習場は患者の療養の場であるため、医療チームメンバーとしてふさわしい態度で実習すること。 ・チームメンバーの一員として報告、連絡、相談を実施すること。 ・実習期間が長いために体調管理に留意すること。 ・体調が悪く、特に感染が疑われる症状がある場合は、病棟に行く前に必ず教員に連絡すること。				
成績評価の方法					
評価方法	日々の学習状況10%、実習目標への到達度90%。評価は担当教員と臨床指導者の合議により決定する。				
評価基準	1) 周手術期にある患者と家族の身体的・心理的・社会的状態及びセルフケア能力を説明できたか。 2) 周手術期にある患者と家族の問題解決に向けた援助を、対象者の個性やセルフケア能力を踏まえながら計画し、実施・評価することができたか。 3) 周手術期にある患者と家族に対し専門職者としての態度・姿勢で看護実践を行うことができたか。 4) 周手術期医療チームにおける看護師の役割を説明できたか。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題等に対するフィードバックの希望者には随時メールで受け付ける。 実習記録は、提出されたものを指導教員がコメントして返却する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
関連授業科目の授業資料や文献、その他は実習中に適宜紹介する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	実習全体については、科目責任者の池田（meg-i@）にメールで連絡する。 実習期間中は各実習担当教員に連絡すること。連絡先は実習開始前のオリエンテーションで提示する。				
備考	実習中に適宜提示・配布する。				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1-15	池田 佐藤 高山 田中 宮津 坂本 阿久澤 瀬尾 北村 酒井	<p>1. 実習施設 ①順天堂医院 ②順天堂大学浦安病院</p> <p>2. 実習内容 1) 実習1日目 実習施設でオリエンテーション等</p> <p>2) 実習2日目 病棟指導者の協力を得て、大学内で技術演習を行う。</p> <p>3) 実習3～13日目 ・実習施設の外科系病棟で手術をうける患者を1～3名受け持ち、看護を実践する。 ・患者の受け持ちは、術後から退院まで、術前のみなど、周手術期のある期間を担当することもあり、統合して周手術期看護を実践する。 ・手術室で同行実習を行い、患者がうける手術侵襲について理解するとともに、危機的状況にある患者を支える手術室看護の実際を理解する。 ・集中治療室（ICU・救命センターICU）で同行実習を行い、集中治療をうける術後患者の看護の実際を理解する。</p> <p>4) 実習14～15日目 大学内でカンファレンス、個別面接（実習評価）を行う。</p> <p><受け持つ患者が受ける主な手術> 開腹術、開胸開腹術、開胸術、開心術、開頭術、人工関節置換術、関節鏡手術、乳腺手術、脊椎手術、腹腔鏡手術、胸腔鏡手術、膀胱鏡手術</p>	臨地実習・学内演習	<p>[予習] 実習オリエンテーション前 1) テキストや資料を見直し復習する 2) 3年生7月のオリエンテーション時に提示した「事前課題」について取り組む 3) 周手術期看護に必要な援助技術について、e-learning「ナーシングスキル」で確認する (学習時間:120分)</p> <p>実習開始後 1) 受け持ち患者の看護実践を行う上で必要な学習を行い実習に臨む 2) 同行実習を行う上で必要な学習を行い実習に臨む。 3) カンファレンスや個人面接に必要な準備を行い実習に臨む。 (学習時間:90分)</p> <p>[復習] 1) 実習記録を作成し自己の実習内容を振り返る 2) 不足していた知識・技術について関連するテキストや資料で学習する。 3) 看護実践を評価し、翌日の看護援助計画を立案する (学習時間:90分)</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	成人看護学実習II	必修・選択	必修
英語科目名	Practicum in Adult Nursing II	対象学年	3, 4年
開講学期	複期	単位数	3単位
代表教員	高谷 真由美	ナンバリング	PNL32B3
担当教員	佐藤まゆみ※, 高谷真由美※, 長瀬雅子※, 樋野恵子※, 坂本亜弓※, 瀬尾昌枝※, 北村幸恵※, 宮津珠恵※, 阿久澤優佳※, 酒井悠里子※ ※・・・実務家担当教員	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	慢性疾患をもち、生涯にわたりセルフケアが重要となる成人患者および家族への看護実践に必要な知識・技術・態度を修得する。				
授業の位置づけ	成人看護学概論、成人看護方法論Ⅰ～Ⅳで学修したことを中心に、患者・家族への看護実践を通して知識・技術を再確認しながら学修を深め、実践力を身に付ける。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP2-Ⅲ ○DP2-Ⅰ ○DP2-Ⅱ ○DP3-Ⅰ				
到達目標	1) 患者の発達段階や身体的・心理的・社会的状態及びセルフケア能力を説明できる。 2) 患者が患者自身の持てる力を発揮できるように援助できる。 3) 症状コントロールに必要な援助を実施できる。 4) 生活習慣の改善・変更に伴う生活行動の維持・再構築への援助を実施できる。 5) 疾病をもつ患者・家族の心理的安寧がはかれるような援助を実施できる。 6) 医療チームにおける看護師の役割を説明できる。				
先修要件	成人看護方法論Ⅳ（がん看護論）				
関連科目	生涯発達論、成人看護学概論、成人看護方法論Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ、形態機能学ⅠA・ⅠB、生化学、微生物学、臨床栄養学、薬理学、病理学、臨床検査学、臨床医学ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB				
学修上の注意	<p>【準備学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習に必要な既習科目の復習をしておくこと。特に、対象者の疾患から起こり得る機能障害、対象者の疾患に対して行われる治療、予測される看護問題、原則的な看護ケア方法などを学習しておくこと。 <p>【実習中の注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者は自立した成人であることを念頭に誠実な態度で実習すること。 ・実習場は患者の療養の場であるため、医療チームメンバーとしてふさわしい態度で実習すること。 ・チームメンバーの一員として報告、連絡、相談を実施すること。 ・実習期間が長い場合、体調管理に留意すること。 ・体調が悪く、特に感染が疑われる症状がある場合は、病棟に行く前に必ず教員に連絡すること。 				
成績評価の方法					
評価方法	日々の学習状況10%、実習目標への到達度90%。評価は担当教員と臨床指導者の合議により決定する。				
評価基準	1) 患者の発達段階や身体的・心理的・社会的状態及びセルフケア能力を説明できたか。 2) 患者が患者自身の持てる力を発揮できるように援助できたか。 3) 症状コントロールに必要な援助を実施できたか。 4) 生活習慣の改善・変更に伴う生活行動の維持・再構築への援助を実施できたか。 5) 疾病をもつ患者・家族の心理的安寧がはかれるような援助を実施できたか。 6) 医療チームにおける看護師の役割を説明できたか。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
事前課題は、実習1週目に担当教員がコメントし返却する。 実習中に作成する記録類は、原則として提出日の翌日にコメントして返却する。 最終提出されたレポート類は、担当教員・実習指導者がコメントし、適宜返却する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
関連授業科目の授業資料や文献、その他は実習中に適宜紹介する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	実習全体に関することは科目責任者（高谷 mtakaya@）にメールで連絡する。 実習期間中は各担当教員に直接連絡する。				
備考	実習中に適宜提示・配布する。				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～1 5回	高谷 長瀬 樋野 坂本 北村 瀬尾 宮津 阿久澤 酒井 佐藤	<p>【3週間の実習の流れ】</p> <p>1. 病棟実習</p> <p>1) 初日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習病棟等病院内実習関連部署のオリエンテーション ・担当患者の決定と情報収集 <p>2) 2日目を降</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として内科病棟で患者を受け持ち、看護援助を実践する。 ・第1週後半から病棟実習終了までの期間に、看護師同行実習1日、外来実習（透析室・外来化学療法室・検査室）半日を行う。スケジュールは学生によって個別に決定する。 <p>2. 学内実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3週後半に学内で実習のまとめを行う。 <p>【実習施設】</p> <p>①順天堂医院 ②順天堂大学浦安病院</p> <p><受け持つ患者の主な疾患></p> <p>慢性腎臓病、慢性呼吸不全、肺がん、肝炎、肝細胞がん、慢性心不全、虚血性心疾患、自己免疫性疾患、血液疾患、胃がん、大腸がん、膵臓がん、胆管がん、脳梗塞、脳血管疾患、脳神経系疾患、糖尿病、白内障など。</p>	臨地実習・学内演習	<p>[予習]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者の援助に必要な、病態・検査・治療・看護援助技術・理論について、教科書や参考書、授業での配布資料などで学習しておく。必要な援助技術は、e-learningの「ナーシング・スキル」で確認しておく。 ・事前課題は実習直前のオリエンテーション時に提示する。 (学習時間：2時間) <p>[復習]</p> <p>その日の実習で不十分だった知識や新たに経験したことなどを中心に資料などを確認する。 (学習時間：2時間)</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	高齢者看護学実習	必修・選択	必修
英語科目名	Practicum in Gerontological Nursing	対象学年	3, 4年
開講学期	複期	単位数	3単位
代表教員	湯浅 美千代	ナンバリング	PNL32A1
担当教員	湯浅 美千代※、島田 広美※、杉山 智子※、川上 和美※、横山 久美※、河西 恵美※、王 迪※、八木 範子※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	治療を必要とする高齢患者への看護過程の展開を通して、高齢患者への看護実践に必要な知識、技術、態度を修得する。				
授業の位置づけ	「高齢者看護学概論」「高齢者看護方法論Ⅰ・Ⅱ」および「高齢者ケアシステム実習」の学習内容、ならび既習知識を活用して、教員ならびに病棟の実習指導者の支援を受けながら治療を必要とする高齢患者への看護過程を展開する。その過程を記録し、振り返ることで看護実践能力の修得を目指す。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP2-Ⅲ、○DP2-Ⅰ、○DP2-Ⅱ、○DP3-Ⅰ				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢患者の特徴と健康上の問題を説明できる。 2. 高齢患者と家族に対する看護援助を計画、実践、評価できる。 3. 高齢患者・家族との信頼関係のもとに看護を実践することができる。 4. 高齢患者の生命と人格を尊重できる倫理的態度のもとに実践できる。 5. 保健・医療・福祉の専門職との連携について考えることができる。 6. 高齢者看護を実践し、看護職者の役割と機能を考えることができる。 				
先修要件	なし				
関連科目	生涯発達論 高齢者看護学概論 高齢者看護方法論Ⅰ・Ⅱ 看護学概論 基礎看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ フィジカルアセスメント 看護理論・看護過程 成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 形態機能学ⅠAB 病理学 症状別臨床病態学 臨床医学ⅠAB・ⅡAB 薬理学 微生物学 臨床栄養学 臨床検査学				
学修上の注意	<p>実習前に関連授業科目を復習し、積極的に実習を行ってほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習に必要な知識を整理し、活用するために、事前課題を課すので十分学習を深めて実習に臨むこと。 ・実習のスケジュール、経験すべき看護技術、記録の書き方、成績評価基準・配分等を高齢者看護学実習要項に示している。参照して実習準備を行うこと。 ・予習、復習に要する時間は各自の技術・知識の修得状況ならびに受け持ち患者の疾患や状況によって異なる。実習前には自身の修得状況を自覚して事前学習を行っておくこと。実習後は不足を感じた知識・技術を復習すること。 ・実習では、オリエンテーション等で示される注意事項を守る。特に、学生自身の健康を管理し、毎朝健康チェックを行うこと。 ・実習後の記録により1日の振り返りと翌日の実習に対する準備を行う。 <p>*感染症流行の状況等によっては、方法等を変更する可能性があります。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・出席日数、実習内容、実習態度、実習記録を総合し、目標到達度を高齢者看護学実習要項に示す評価表の評価配分（下記）にそって評価する。 1. 老化や疾病に伴う健康上の問題をもつ高齢者の個性を身体的、精神的、社会的側面から理解する。（20%） 2-1. 高齢者の心身の苦痛を理解し、事故や二次障害を予測し、安全で安楽な療養生活を支援する。（30%） 2-2. 高齢者の自立と依存の欲求を理解し、その人に適した自立への支援ができる（退院後の療養生活も含む）。（15%） 3. 看護師として高齢者との関係性を発展させる基本的能力を身につける。（15%） 4. 高齢者への倫理的配慮ができる。（10%） 5. 保健・医療・福祉の関連職者間の連携と看護師の役割を理解する。（10%） <p>評価は担当教員ならびに臨床の実習指導者により行う。</p>				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老化や疾病に伴う健康上の問題をもつ高齢者の個性を身体的、精神的、社会的側面から理解し、実習できたか。 2-1. 高齢者の心身の苦痛を理解し、事故や二次障害を予測し、安全で安楽な療養生活を目標して支援できたか。 2-2. 高齢者の自立と依存の欲求を理解し、その人に適した自立への支援ができたか。 3. 看護師として高齢者との関係性を発展させることができたか。 4. 高齢者への倫理的配慮ができたか。 5. 保健・医療・福祉の関連職者間の連携の実際を把握できたか。 6. 高齢患者に対する看護の役割を理解し、実習生として適切な態度で実習できたか。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
<ul style="list-style-type: none"> ・最終日の面接において、学生による自己評価をもとに実習全体を振り返る。 ・実習記録は、臨床実習指導者および担当教員が確認の上、コメントを入れて返却する。 ・課題等に対するフィードバックの希望者には随時メールで受け付ける。 					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
実習に関連する授業科目のテキスト、参考文献を活用すること。資料は実習中に適宜紹介する。					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
その他				
連絡先・オフィスアワー		・質問等があれば、科目責任者または担当教員に連絡してください。 科目責任者（湯浅）：myuasa@		
備考				
	湯浅 美千代 島田 広美 杉山 智子 川上 和美 横山 久美 河西 恵美 王 迪 八木 範子	実習オリエンテーションと事前課題提示	説明	予習：（学習時間概ね2時間） 事前課題：実習で行う技術ならびに必要な知識の復習 1. 高齢者看護において多く活用する技術について配付資料にまとめる。 2. 高齢者看護学概論、高齢者看護方法論Ⅰ・Ⅱにおいて学んだ内容について、テキストや配付資料を見直す。 3. 看護技術について自己学習、技術練習を行う。 復習：（学習時間90分） オリエンテーション内容を整理し、高齢者観を再考する。
	湯浅 美千代 島田 広美 杉山 智子 川上 和美 横山 久美 河西 恵美 王 迪 八木 範子	学内での実習（病棟での実習前） 病棟での実習に必要な知識・技術について演習する。 病棟での実習 1) 学生を各実習施設1病棟あたり2～6名配置する。 2) 病棟の指導担当者からオリエンテーションを受ける。 3) 患者を受け持ち、看護に必用な患者情報を収集して患者の状態を把握し、看護過程を展開する。 4) 日々の実習記録により自己の看護を振り返る。 5) 前日の実習での学びや気づきに基づき、翌日の看護援助計画を立案する。 6) 必要時、実習グループでのカンファレンスを行う。 7) 病棟での実習最終日に、病棟ごとで実習を総括する報告会を行う。 中間カンファレンス 病棟内でカンファレンスをもち、実習指導者ならびにスタッフから看護計画に対する助言を受ける。 実習グループで看護過程の検討や技術の復習を行う。 学内での実習*時期、期間、学生の状況等により、以下から選択して実施する。 病棟実習に向けて、配置病棟に特徴的な疾患、治療、看護について学習する。 看護過程の基礎知識の復習、高齢患者に対する看護技術の実技演習を行う。 受け持ち患者の看護（看護過程）について振り返りを行う。 高齢患者の看護に関する演習（ロールプレイ）を行う。 高齢者のもつ可能性、エンパワメントについてグループディスカッションを行う。 急性期治療の場における倫理的課題についてグループディスカッションを行う。 認知症や障害をもつ高齢者に関するアセスメントについて学習する。 総括 1) 評価表をもとに、実習の自己評価を行い、教員と確認する。 2) 基本看護技術リストを記入し、担当教員が確認する。 3) 教員と面接をもち、看護過程の評価、実習全体の振り返りを行う。	実習	予習：（学習時間：概ね2時間） 1. 高齢者看護方法論Ⅱで学習した看護過程を見直す。 2. 受け持ち患者の疾患と主な治療法、看護（または実習する病棟で多い疾患と主な治療法、その看護）について調べる。 準備： 学生自身の体調管理を行う。 ユニフォームや新しいメモ帳等の必要物品を準備する。 参考資料を集める。 復習：（学習時間：毎日30分～2時間） 1. 不足していた看護技術、実施しなかった看護技術について自己学習、技術練習を行う。 2. 不足していた知識（特に解剖生理、病態、治療）について関連するテキストを読み、まとめる。 3. 提出する記録物を整理する。

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	母性看護学実習	必修・選択	必修
英語科目名	Practicum in Maternal-Newborn Nursing	対象学年	3, 4年
開講学期	複期	単位数	2単位
代表教員	増田 美恵子	ナンバリング	PNL33A1
担当教員	大月 恵理子※、増田 美恵子※、青柳 優子※、森田 亜希子※、鈴木 紀子※、高島 えり子※、植竹 貴子※、梶川 未菜※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	周産期を中心とした母性看護の対象を理解し、母性看護実習における知識・技術を学ぶ。				
授業の位置づけ	「母性看護学概論」および「周産期の看護」で学修した内容に基づいて、周産期を中心とした母性看護の対象への看護を学ぶ実習と位置づける。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	○DP2-I、○DP2-II、◎DP2-III、○DP3-I				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期にある対象を身体的、心理的、社会的側面から総合的に理解することができる。 2. 褥婦、新生児及びその家族の健康課題を抽出し、看護計画を立案することができる。 3. 妊婦、産婦、褥婦、新生児に必要な看護を実施し、評価することができる。 4. 妊婦、褥婦に対する保健指導の意義・方法を説明することができる。 5. 母性看護における継続看護の必要性を説明することができる。 6. 周産期を通して家族の発達を考察することができる。 7. 女性のライフサイクルにおける母性看護の役割を説明することができる。 				
先修要件	なし				
関連科目	母性看護学概論、周産期の看護				
学修上の注意	<p>準備</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「母性看護学概論」「周産期の看護」の授業内容を復習しておくこと。 2. 実習オリエンテーション時に提示した課題を学習しておくこと。 <p>実習中</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本実習目的・目標を理解して主体的に実習に臨むこと。 2. 学内での所定の演習課題を達成してから実習施設での実習に臨むこと。 3. 所定の実習記録用紙を用いて、看護診断、看護計画を立案し、実施した内容を評価すること。 4. 日々の実習目標と行動計画を立案して、実習内容を評価し、翌日の学習課題を明確にすること。 5. 実習で経験したことをグループカンファレンスで共有し、学習を深めること。 				
成績評価の方法					
評価方法	実習態度（10%）、実習内容および実習記録をもとに実習目標の達成度（90%）を総合して評価				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母子（褥婦と新生児）を受け持ち、看護過程を展開できる。 2. 周産期にある対象を理解し、必要な看護を実施できる。 3. 妊婦、褥婦に対する保健指導の意義・方法を説明することができる。 4. 母性看護について考察することができる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題等に対するフィードバックの希望者には随時対応する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
必要時紹介する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時（事前にメールで連絡のこと m-masuda@）				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
実習1 日目	大月 増田 青柳 森田 鈴木 高島 植竹 梶川	実習オリエンテーション 実習に必要な知識の確認、演習、実技評価 [キーワード] 看護過程、ウェルネス型看護診断、母性看護技術、保健指導	学内実習	予習：「周産期の看護」の授業資料およびテキストを復習しておくこと。 「周産期の看護」で学習した看護過程を確認しておくこと。 「周産期の看護」で学習した技術演習の授業内容を確認し、自己学習・技術練習をしておくこと。 (学習時間：90分) 復習：実習で学習した看護過程、看護技術を整理すること。 (学習時間：60分)
実習2 ～9日 目	大月 増田 青柳 森田 鈴木 高島 植竹 梶川	1. 1組の母子を受け持ち、看護診断及び看護計画立案・実践・評価を行う。 2. 周産期の看護を実施又は見学する。 3. 妊婦・褥婦及び育児期の母子への個別指導・集団指導を見学又は実施する。 4. グループカンファレンス（ケースカンファレンスを含む）を行う。	臨地実習	
実習10 日目	大月 増田 青柳 森田 鈴木 高島 植竹 梶川	グループごとのまとめ	学内実習	

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	助産診断技術学総論	必修・選択	選択
英語科目名	Scientific Basis for Midwifery Practice	対象学年	3年
開講学期	後期後半	単位数	1単位
代表教員	増田 美恵子	ナンバリング	PNL33B1
担当教員	増田 美恵子※、牧野 真太郎※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	助産診断学および助産技術学の基本的な概念を理解するとともに、妊娠・分娩・産褥にある女性の健康に関する基礎的知識を修得し、妊娠期、分娩期、産褥期における異常の診断と治療および合併症の管理について理解する。			
授業の位置づけ	「周産期の看護」で学修した妊娠・分娩・産褥の生理を基礎として、妊娠期、分娩期、産褥期における異常の診断と治療および合併症の管理について理解するとともに、助産診断学および助産技術学の基本的な概念を学修し、「助産診断技術学Ⅰ」～「助産診断技術学Ⅴ」の基礎と位置づける。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP2-Ⅰ、○DP2-Ⅱ、○DP2-ⅢCC			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産診断学および助産技術学の基本的な概念を理解する。 2. 妊娠・分娩・産褥期における異常を説明することができる。 3. 合併症妊娠を説明することができる。 			
先修要件	なし			
関連科目	母性看護学概論、周産期の看護、助産学概論、母性の心理・社会学、性と生殖、ウィメンズヘルスナーシング、助産診断技術学Ⅰ～Ⅴ			
学修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産師国家試験受験資格取得希望者には必須科目である。 2. 「母性看護学概論」「周産期の看護」の授業内容を復習しておくこと。 3. 使用テキストを予め読んでおくこと。 4. 予め提示された予習を行ってこること。 			
成績評価の方法				
評価方法	定期試験（100%）			
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産診断学および助産技術学の基本的な概念を理解する。 2. 妊娠・分娩・産褥期における異常を説明することができる。 3. 合併症妊娠を説明することができる。 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
課題等に対するフィードバックの希望者には随時メールで受け付ける。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
助産学講座6助産診断・技術学Ⅱ妊娠(第6版)	我部山キヨ子・武谷雄二編	医学書院	978-4-260-04208-6	
助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ分娩・産褥期(第6版)	我部山キヨ子・武谷雄二編	医学書院	978-4-260-04210-9	
参考文献				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 我部山キヨ子・武谷雄二編：助産学講座3基礎助産学3母子の健康科学(第6版) 医学書院 2023 2. 我部山キヨ子・武谷雄二編：助産学講座2基礎助産学2母子の基礎科学(第6版) 医学書院 2021 3. 我部山キヨ子・武谷雄二編：助産学講座5助産診断・技術学Ⅰ(第6版) 医学書院 2021 4. 産婦人科診療ガイドライン 産科編2020 				
その他				
連絡先・オフィスアワー	随時（事前にメールで連絡のこと m-masuda@）			
備考	なし			

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	増田 美恵子	1. 助産診断技術学の概要 1-1 助産診断と助産技術 1-2 援助技術 [キーワード] 助産過程、助産診断、援助技術、根拠に基づく助産活動	講義 GW	予習：テキスト（助産学講座6）第1章を読み、助産過程および助産診断の概要について調べて授業に臨む。参考文献3の第3章を参考に、個人および集団へのアプローチの方法を調べて授業に臨む。（学習時間：2時間） 復習：授業内容、テキスト内容を確認しておく。（学習時間：2時間）
2 3	牧野 真太郎	2. 妊産褥婦の異常 2-1 妊娠の生理と妊娠期の異常 [キーワード] 妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、流産、早産、頸管無力症、過期妊娠、異所性妊娠、前置胎盤、癒着胎盤、子宮内胎児死亡、胎児発育不全、血液型不適合妊娠、多胎妊娠、前期破水、絨毛膜羊膜炎、羊水量の異常、常位胎盤早期剥離、絨毛性疾患、母子感染	講義	予習：テキスト（助産学講座6）第4章Aを予め読んでおくこと。（学習時間：各回2時間） 復習：授業資料を確認して整理しておくこと。（学習時間：各回2時間）
4 5	牧野 真太郎	2-2 分娩の生理と分娩期の異常 [キーワード] 娩出力の異常、産道の異常、胎児の異常、胎児付属物の異常、分娩経過の異常、軟産道損傷、出血量の異常、産科ショック	講義	予習：テキスト（助産学講座7）第6章を予め読んでおくこと。（学習時間：各回2時間） 復習：授業資料の該当箇所を確認して整理しておくこと。（学習時間：各回2時間）
6	牧野 真太郎	2-3 産褥の生理と産褥期の異常 [キーワード] 性器の異常、産褥感染症、血栓・塞栓症、乳頭・乳房・乳腺異常、産褥後遺症	講義	予習：テキスト（助産学講座7）第13章を予め読んでおくこと。（学習時間：2時間） 復習：授業資料を確認して整理しておくこと。（学習時間：2時間）
7	牧野 真太郎	3. 合併症妊娠の管理 [キーワード] 心疾患、呼吸器疾患、腎疾患、甲状腺疾患、糖尿病、子宮奇形、子宮筋腫、アレルギー性疾患	講義	予習：テキスト（助産学講座6）第4章Bを予め読んでおくこと。（学習時間：2時間） 復習：授業資料を確認して整理しておくこと。（学習時間：2時間）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	助産診断技術学I (妊娠・分娩期の助産診断)	必修・選択	選択
英語科目名	Midwifery practice I	対象学年	3年
開講学期	後期後半	単位数	2単位
代表教員	鈴木 紀子	ナンバリング	PNL33B2
担当教員	大月恵理子※、増田美恵子※、青柳優子※、鈴木紀子※、森田亜希子※、植竹貴子※、梶川末菜※、吉田幸洋※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	妊娠期および分娩期の助産診断とケアについて理解し、助産過程展開の基礎的能力を養う。さらに、正常および正常から逸脱した事例を用いて、妊娠期および分娩期の助産診断・助産過程を展開する。妊娠・分娩の生理、妊娠期および分娩期に行う検査、フィジカルアセスメント、心理社会的アセスメント、支援方法を理解する。			
授業の位置づけ	正常に経過する妊婦および産婦の助産診断とケアを理解するための基礎となる授業と位置づける。また、正常から逸脱した場合の助産診断とケアについて、助産師としての対応を理解するための基礎となる授業である。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP2-II、○DP2-I、○DP2-III			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠の生理や妊娠期に行う検査について説明できる。 2. 妊婦のフィジカルアセスメントの方法を説明できる。 3. 妊婦に対する日常生活適応へのケア、親になる準備へのケア方法を説明できる。 4. 妊娠期の異常、ハイリスク・異常妊婦へのアセスメントと支援方法が説明できる。 5. 分娩三要素および関連因子を用いて、分娩進行状況を判断する方法が説明できる。 6. 事例に基づき、妊娠期および分娩期の助産診断・助産過程を展開することができる。 			
先修要件	なし			
関連科目	周産期の看護、ウィメンズヘルスナーシング、助産診断技術学総論、助産診断技術学Ⅱ、助産診断技術学Ⅲ、助産診断技術学Ⅳ、助産診断技術学Ⅴ			
学修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産師国家試験受験資格取得希望者には必須科目である。 2. これまで習得してきた妊娠・分娩に関する基礎的知識を用いて、主体的に臨んで欲しい。 3. 授業は事前課題および自己学習による予習のもとに展開される。 			
成績評価の方法				
評価方法	レポート課題 (40%)、定期試験 (60%)			
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期の助産診断と妊婦への支援方法を説明できる。 2. 妊娠期の事例の助産診断を行い、助産計画を立案することができる。 3. 分娩期の助産診断と産婦への支援方法を説明できる。 4. 分娩期の事例の助産診断を行い、助産計画を立案することができる。 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
事例を用いた助産過程は、事例ごとに授業内外でのフィードバックを行う。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
助産学講座 6 [1] 妊娠期 第6版 助産診断・技術学Ⅱ	我部山キヨ子、武谷雄二	医学書院	978-4-260-04208-6	
助産学講座 7 [2] 分娩期・産褥期 第6版 助産診断・技術学Ⅱ	我部山キヨ子、藤井知行	医学書院	978-4-260-04210-9	
参考文献				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 今日の助産 改訂第4版北山真理子編、南山堂、2019. 2. 臨床助産テキスト 第1巻 妊娠、竹田 省 (監修)、福井 トシ子 (編集)、メディカ出版、2016. 3. Birth ベリネイタルナーシング、1 (8)、2012. 4. 産婦人科診療ガイドライン産科編2020・日本産科婦人科学会、日本産婦人科医学編集/監修・2020 5. 助産師のためのフィジカルイグザミネーション、第2版、我部山キヨ子・大石時子編、医学書院、2018. 6. 助産師基礎教育テキスト 第4巻 (2022年版) 妊娠期の診断とケア、日本看護協会出版会、2022. 7. 助産師基礎教育テキスト 第7巻 (2022年版) ハイリスク妊産婦・新生児へのケア、日本看護協会出版会、2022. 8. 第3版 プリンシプル産科婦人科学 1 (婦人科編)・武谷雄二監・メディカルビュー・2014 9. 第3版 プリンシプル産科婦人科学 2 (産科編)・武谷雄二監・メディカルビュー・2014 				
その他				
連絡先・オフィスアワー	随時 (事前にメールで連絡のこと no-suzuki@juntendo.ac.jp)			
備考				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1 2	増田 美恵子	1. 妊娠の診断 1-1 妊娠の成立 1-2 妊娠期の早期診断 1-3 妊娠に伴う全身の変化 1-2 妊娠に伴う心理社会的変化	講義 GW	予習：テキスト助産学講座6 [1] 妊娠期第1章「助産診断・技術学の概要と助産診断」第2章「妊娠の生理」を読み授業に臨む。妊娠の診断方法、分娩予定日の算出・修正方法をまとめてくる。(学習時間：90分) 復習：授業で触れた箇所をテキストで確認し、整理しておく。(学習時間：90分)
3 4	吉田 幸洋	2. 胎児の発育と診断 2-1 超音波検査の基本と判読 2-2 妊娠経過と産科学的診断 2-3 超音波検査	講義 GW	予習：事前に配布する参考文献「Birth」、テキスト助産学講座6 [1] 妊娠期 付章1「周産期に用いられる検査法」を読み授業に臨む。(学習時間：90分) 復習：講義内容をふまえ、超音波検査について参考文献を見て確認しておく。(学習時間：90分)
5 6 7 8 9 10	鈴木 紀子	3. 妊娠期の助産診断・助産過程(正常編) 3-1 妊娠初期 3-2 妊娠中期 3-3 妊娠後期 3-4 心理的・社会的アセスメント	講義 GW	予習：テキスト助産学講座6 [1] 妊娠期第2章「妊娠の生理」第4章「妊娠期の助産診断」第5章「妊婦への支援」を読み重要な点をまとめておく。事前課題として提示された妊娠各期の事例のアセスメント、診断、計画立案を行ってこよう。(学習時間：120分) 復習：各自のアセスメント、診断、ケアプラン等で不足している点を確認しておく。(学習時間：90分)
11 12	植竹 貴子	3. 妊娠期の助産診断・助産過程(正常編) 3-5 日常生活への支援 3-6 マイナートラブルへの支援 3-7 親になる準備への支援	講義 GW	予習：テキスト助産学講座6 [1] 妊娠期第5章「妊婦への支援」を読み授業に臨む。医学的知識を関連させながら理解する。(学習時間：90分) 復習：授業内容、授業資料、テキストを確認し、日常生活適応、マイナートラブルへのケアのポイントを整理しておく。(学習時間：90分)
13 14	鈴木 紀子	4. 胎児モニタリング 4-1 胎児の健康状態の評価 4-2 NST (non-stress test) 4-3 CTG (cardiotocograph) 4-4 CST (contraction stress test) 4-5 胎児機能不全の対応	講義 GW	予習：テキスト助産学講座6 [1] 妊娠期付章1「周産期に用いられる検査法」を読んで重要な点をまとめておく。(学習時間：90分) 復習：授業内容、テキストを確認しておく。参考書「産婦人科診療ガイドライン」の該当部分を読んでおく。(学習時間：90分)
15 16	植竹 貴子 梶川 未菜	5. 妊娠期のフィジカルアセスメント 5-1 腹部診察 5-2 子宮底測定 5-3 胎児心音聴取 5-4 浮腫の観察 5-5 内診 5-6 モニターの装着	講義 GW	予習：周産期の看護、母性看護学実習等で学んだ診察技術(レオポルド触診、胎児心拍聴取、子宮底、腹囲、浮腫)についてナーシングスキルを用いて知識と技術の確認を行って臨む。(学習時間：90分) 復習：各自、診察技術に関する課題を整理し、自己学習を行う。(学習時間：90分)
17	高島 えり子	7. 妊娠期の助産過程(異常編)	講義 GW	予習：これまで学習した妊娠期に関わる知識、アセスメントとケアのポイント、分娩に向けての診断を整理しておく。(学習時間：90分) 復習：各自で行った助産過程のポイントを整理しておく。(学習時間：90分)
18 19 20	青柳 優子	8. 分娩期の助産診断 8-1 分娩の三要素	講義 GW	予習：分娩の三要素とは何かについて、それぞれまとめる。三要素と分娩経過との関連を考えてくる。(学習時間：90分) 復習：授業内容、授業資料、テキストを確認する。(学習時間：90分)
21 22	青柳 優子	8-2 分娩期の助産診断の特徴 8-3 分娩経過の初期診断と助産計画	講義 GW	予習：助産学講座7 [2] 分娩期 第2章「分娩期の助産診断」を読み授業に臨むこと。分娩経過に関連する基礎知識、アセスメントのポイントを整理しておく。提示された事例の課題に取り組む。(学習時間：120分) 復習：テキスト、参考書を用いて各自の助産過程を振り返り、診断の方法を整理しておく。(学習時間：90分)

23 24	青柳 優子	9. 分娩期の助産過程 9-1 初産婦の分娩事例	講義 GW	予習：提示された事例の全体像、初期診断、ケアの方向性をまとめて授業に臨む。分娩経過の助産診断に必要な指標を整理して持参する。(学習時間：90分) 復習：事例の助産過程展開内容を振り返り、テキスト・参考書を用いて追加修正する。助産計画を立案する。(学習時間120分)
25	青柳 優子	9-2 経産婦の分娩事例	講義 GW	予習：経産婦の分娩経過の助産診断に必要な指標を整理して持参する。(学習時間：90分) 復習：経産婦の助産診断過程を確認し、実習に向けて整理しておく。(学習時間：90分)
26	高島 えり子	9-3 正常からの逸脱	講義 GW	予習：破水の種類と診断方法、分娩への影響、対応について調べる。分娩誘発・促進の種類、適応、方法、留意点などについて調べる。鉗子分娩、吸引分娩について方法と留意点について調べる。(学習時間：90分) 復習：臨地実習までに典型的な助産計画(前期破水、分娩誘発等)を立案しておく。(学習時間：90分)
27 28	大月 恵理子	10. ハイリスク妊産婦への支援 10-1 ハイリスク妊産婦の事例	講義 GW	予習：テキスト助産学講座6 [1] 妊娠期第3章「妊娠期の異常・ハイリスク妊娠」を読んで授業に臨む。助産学講座7 [2] 分娩期・産褥期 第6章「ハイリスク・異常分娩時のアセスメントと支援」を読んで授業に臨む。医学的知識を関連させながら理解する。(学習時間：90分) 復習：授業内容、授業資料、テキストを確認し、ハイリスク妊産婦に対するケアの理解を深める。(学習時間：90分)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記 (PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	助産診断技術学II（妊娠・分娩期の助産技術）	必修・選択	選択
英語科目名	Midwifery practice II	対象学年	4
開講学期	前期前半	単位数	1単位
代表教員	鈴木 紀子	ナンバリング	ANL33B1
担当教員	青柳優子※、鈴木紀子※、森田亜希子※、植竹貴子※、梶川未菜※	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	妊娠期の助産ケアの実践能力を養うために、妊婦健康診査、妊婦に対する個別の保健指導、妊婦とその家族に対する集団指導の実践について学修する。さらに分娩期の助産ケアの基本となる技術について学修する。			
授業の位置づけ	妊娠期・分娩期の助産ケアについて理解し、助産過程実践の基礎的能力を養うための基礎となる授業と位置づける。また、助産診断技術学Ⅲ、助産診断技術学Ⅳ、助産診断技術学Ⅴに繋がるための基盤となる授業と位置づける。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP2-Ⅱ、○DP2-Ⅰ、○DP2-Ⅲ、○DP3-Ⅰ			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例を通して妊婦への個別の保健指導ができる。 2. 妊婦とその家族の集団を対象とした模擬健康教育を実施し評価できる。 3. 妊婦の状況に応じた健康診査が、シミュレーターを用いて実施できる。 4. 分娩期の母子のフィジカルアセスメントの方法を説明できる。 5. 分娩助産技術の基本を説明できる。 			
先修要件	なし			
関連科目	周産期の看護、ウィメンズヘルスナーシング、助産診断技術学総論、助産診断技術学Ⅰ、助産診断技術学Ⅲ、助産診断技術学Ⅳ、助産診断技術学Ⅴ			
学修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産師国家試験受験資格取得希望者には必須科目である。 2. 助産実践能力の修得のために、自主的な課題への取り組みを求める。 3. 妊婦健康診査場面を想定したOSCE（客観的臨床能力試験）を授業内に行う。 			
成績評価の方法				
評価方法	定期試験（30%）、妊婦OSCE（客観的臨床能力試験）（20%）、学修課題（個別指導・集団指導を含む）への取り組み（50%）			
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦とその家族への健康教育を実施できる。 2. 妊婦の健康診査が事例に応じて実施できる。 3. 分娩期のフィジカルアセスメントを実施できる。 4. 分娩助産技術の基本を説明することができる。 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
個別保健指導、集団保健指導、妊婦健康診査場面を想定したOSCE実施後は、授業内外でのフィードバックを行う。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
助産学講座 6 [1] 妊娠期 第6版 助産診断・技術学Ⅱ	我部山キヨ子、武谷雄二	医学書院	978-4-260-04208-6	
助産学講座 7 [2] 分娩期・産褥期 第6版 助産診断・技術学Ⅱ	我部山キヨ子、藤井知行	医学書院	978-4-260-04210-9	
参考文献				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 今日の助産 改訂第4版北山眞理子編、南山堂、2019. 2. 臨床助産テキスト 第1巻 妊娠、竹田 省（監修）、福井 トシ子（編集）、メディカ出版、2016. 3. 産婦人科診療ガイドライン産科編2020・日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会編集/監修・2020 4. 助産師のためのフィジカルイグザミネーション、第2版、我部山キヨ子・大石時子編、医学書院、2018. 5. 助産師基礎教育テキスト 第4巻（2022年版）妊娠期の診断とケア、日本看護協会出版会、2022. 6. 助産師基礎教育テキスト 第5巻（2022年版）分娩期の診断とケア、日本看護協会出版会、2022. 7. 第3版 プリンシプル産科婦人科学 1（婦人科編）・武谷雄二監・メディカルビュー・2014 8. 第3版 プリンシプル産科婦人科学 2（産科編）・武谷雄二監・メディカルビュー・2014 9. 竹田省 高橋眞理、CG動画でわかる！分娩の仕組みと助産法、メジカルビュー、2016 				
その他				
連絡先・オフィスアワー	随時（事前にメールで連絡のこと no-suzuki@juntendo.ac.jp)			
備考				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1 2	鈴木 紀子	1. 妊娠期の集団指導 1-1 出産に向けての準備教育 1-2 親になる準備教育	講義 GW	予習：助産診断技術学総論で触れた健康教育の内容を復習して臨む。(学習時間60分) 復習：妊婦とその家族を対象にした健康教育の実際に計画立案できるように基礎知識を整理しておく。(学習時間60分)
3 4	植竹 貴子	2. 妊娠期の保健指導(個別指導)	演習	予習：これまで学習した妊娠期に関わる知識、アセスメントとケアのポイントを整理しておく。事例を使って、ニーズに合う保健指導に向けて準備をする。(学習時間120分) 復習：各自で行った保健指導を自己評価、修正する。(学習時間60分)
5 6 7	青柳 優子 鈴木 紀子 森田 亜希子 植竹 貴子 梶川 未菜	3. 妊婦健康診査OSCE(客観的臨床能力試験)	演習	予習：これまでの授業で学修した助産診断、助産過程、保健指導、フィジカルアセスメントを復習し、試験に臨むこと。(学習時間120分) 復習：妊婦健康診査一連の実施について振り返り、評価すると共に自己の課題を明確にする。(学習時間60分)
8 9	青柳 優子 鈴木 紀子 梶川 未菜	4. 集団指導の実際(模擬両親学級)	演習	予習：グループごとに企画した妊婦とその家族を対象とした健康教育の指導計画の推敲及び教材・環境等の準備を行う。健康教育のリハーサルを実施する。(学習時間180分) 復習：取り組んだ模擬集団指導の評価や学びを整理する。(学習時間60分)
10 11	森田 亜希子 梶川 美奈	5. 産婦のフィジカルアセスメント	講義 演習	予習：妊娠期のフィジカルアセスメントを復習する。助産学講座7 [2] 分娩期・産褥期 第2章「分娩期のフィジカルアセスメント」を読んで授業に臨む。(学習時間60分) 復習：授業内容、テキストを確認しておく。臨地実習での実践に向け、各自モデル教材を用いて練習しておく。(学習時間60分)
12	森田 亜希子	6. 産婦への支援 6-1 産痛緩和 6-2 リラクゼーション 6-3 基本的ニーズ	講義 演習	予習：助産学講座7 [2] 分娩期・産褥期 第4章「産婦への支援」を読んで授業に臨む。(学習時間：60分) 復習：授業内容、テキストを確認しておく。臨地実習での実践に向け、メンバーと協力して練習しておく。(学習時間60分)
13 14	青柳 優子	7. 分娩介助の原理と方法	講義 演習	予習：分娩のメカニズムと関連する因子について復習する。テキスト及び参考書を活用して、基本的な分娩介助法とその根拠をノートに整理する。(学習時間120分) 復習：授業内容、テキストを確認し、分娩介助法を再確認し、ノートの追加修正をする。分娩介助実施に向け流れを理解する。(学習時間60分)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記(PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	助産診断技術学III（分娩介助技術）	必修・選択	選択
英語科目名	Midwifery practice III	対象学年	4年
開講学期	前期後半	単位数	1単位
代表教員	青柳 優子	ナンバリング	ANL33B2
担当教員	青柳優子※、鈴木紀子※、森田亜希子※、植竹貴子※、梶川未菜※、青木まり子※、角倉弘行※ ※・・・実務家担当教員	授業形態	演習

※・・・実務家担当教員

授業概要					
全体内容	分娩介助の意義・原理を理解し、基本的な分娩介助技術を修得する。				
授業の位置づけ	看護の理論と方法「ウイメンズヘルスと看護」の枠組みに含まれる。「助産診断技術学」の一連の科目と同様に、助産実践の基礎を学び助産学実習に繋がる内容である。助産師国家試験受験資格取得希望者は必須科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	【該当するコンピテンシー】 本科目を学習することで、以下の能力の基礎が身につきます。 ◎DP2-II、○DP2-I、○DP2-III、△DP3-I				
到達目標	1) 産婦の状況に応じた基本的分娩介助技術を、シミュレーターを用いて実施できる。 2) フリースタイル分娩の意義、方法を説明することができる。 3) 分娩における緊急時の対応方法について説明することができる。 4) 無痛分娩の方法と特徴、対応方法を説明することができる。				
先修要件	なし				
関連科目	「助産学概論」「母子の心理社会学」「助産診断技術学総論」「助産診断技術学Ⅰ」「助産診断技術学Ⅱ」「助産学実習」「周産期の看護」「母性看護学実習」				
学修上の注意	1. 助産選抜試験合格者のみ履修可能となる。 2. 根拠に基づく実践方法を理解し修得するには、既習知識を活用できるように準備して臨む必要がある。 3. 技術修得には反復練習が必要である。授業時間外の時間も主体的に活用し、有効な演習とすることで学修目標を達成してほしい。				
成績評価の方法					
評価方法	成績評価方法 分娩介助実技試験（80%）、学修への取り組み（20%）を総合して評価する。				
評価基準	到達目標1～4の達成レベルで評価する。 1. 産婦の状況に応じた基本的分娩介助技術を、シミュレーターを用いて実施できる。 2. フリースタイル分娩の意義、方法を説明することができる。 3. 分娩における緊急時の対応方法について説明することができる。 4. 無痛分娩の方法と特徴、対応方法を説明することができる。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
試験のフィードバックは個別面接により実施する。 その他、適宜個別指導を行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期	我部山キヨ子・藤井知行 編	医学書院		第6版
参考文献					
助産師基礎教育テキスト5 分娩期の診断とケア. 町浦美智子編. 日本看護協会出版会. 2021 助産師基礎教育テキスト7 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア. 遠藤俊子編. 日本看護協会出版会. 2021 産婦人科診療ガイドライン産科編2020. 日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会編集/監修. 2020 第3版. プリンシプル産科婦人科学2（産科編）. 武谷雄二監. メジカルビュー. 2014 胎児心拍数モニタリング講座. 藤森敬也. メディカ出版. 2011 今日の助産 第4版. 北川真理子、内山和美編. 南江堂. 2019 CG動画でわかる！分娩のしくみと介助法. 竹田省、高橋真理. メジカルビュー. 2016					
その他					
連絡先・オフィスアワー	・随時（事前にメールで連絡のこと yaoyagi@）				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1~2	鈴木 紀子	分娩介助技術の実際	演習	予習：基本的な分娩介助法の流れ、使用物品、方法について理解する。 (学習時間70分) 復習：授業内容・テキストを確認し、各自の分娩介助手順の一到追加・修正する。 基本的な分娩介助法がスムーズに実施できるよう練習に取り組む。 (学習時間2時間)
3~5	鈴木 紀子 青柳 優子 植竹 貴子 梶川 美奈	状況に応じた分娩介助技術	演習	予習：事例設定を行い、産婦の状況に応じた分娩介助法の要点をまとめる。 初産婦経産婦の違い、分娩室入室の判断と対応、いきみ方を調べる。 (学習時間各70分) 復習：授業内容、テキストを確認し、各自の分娩介助ノートに追加・修正する。 産婦の状況に対応した分娩介助技術が実施できるよう、学生同士でシミュレーション教材を用いて練習を重ねる。 (学習時間3時間以上)
6	森田 亜希子	フリースタイル分娩の介助法	講義 演習	予習：指示された課題に取り組む (学習時間70分) 復習：授業内容について確認し、フリースタイル分娩の特徴、利点・欠点について理解する。 (学習時間70分)
7~8	青木 まり子	産科救急時の対応	講義 シミュレーション 演習	予習：産科異常出血の原因、対処方法について調べる。 (学習時間70分) 復習：授業内容、テキストを読み産科異常出血の病態と判断およびチームでの対応のあり方について確認しておく。 (学習時間70分)
9~10	角倉 弘行 植竹 貴子	麻酔分娩の現状と対応 麻酔分娩における助産師の対応	講義	予習：麻酔分娩の種類と方法、合併症について調べる。 提示された課題に取り組む。 (学習時間各70分) 復習：授業内容を確認し、安全な麻酔分娩の方法と異常時の対応について整理する。 (学習時間各70分)
11~12	鈴木 紀子 青柳 優子 植竹 貴子 梶川 美奈	状況に応じた分娩介助技術Ⅱ	総合的な演習	予習：各自が事例設定を行い、産婦の状況に応じた分娩介助法の要点をまとめる。 人工破膜、臍帯巻絡、胎児徐脈、産婦への声かけを調べる。 (学習時間各70分) 復習：授業内容、テキストを確認し、各自の分娩介助ノートに追加・修正する。 産婦の状況に対応した分娩介助技術が実施できるよう、学生同士でシミュレーション教材を用いて練習を重ねる。 (学習時間3時間以上)
13	鈴木 紀子 青柳 優子 植竹 貴子 梶川 美奈 森田 亜希子	分娩介助技術実技試験	実技試験	予習：事例設定場面に応じた一連の基本的分娩介助技術が安全安楽に実施できるようシミュレーターを用いて練習して臨む。 (学習時間：3時間以上) 復習：実技試験の自己評価、他者評価、教員評価から自己の課題を明確にし、実践に向けて練習する。 (学習時間：3時間以上)
14	青柳 優子 鈴木 紀子 植竹 貴子 梶川 美奈 森田 亜希子	分娩介助シミュレーション (OSCE：客観的臨床能力試験)	シミュレーション 演習	予習：分娩場面を想定して、分娩経過の判断および産婦とのコミュニケーションを含む一連の分娩介助技術を練習して臨む。 (学習時間3時間以上) 復習：分娩介助における自己の課題を明確にし、臨地実習での実践に向けて練習する。 (学習時間3時間以上)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記 (PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	助産診断技術学Ⅳ（産褥期）	必修・選択	選択
英語科目名	Midwifery practice Ⅳ	対象学年	4年
開講学期	前期前半	単位数	1単位
代表教員	高島 えり子	ナンバリング	ANL33B3
担当教員	青柳 優子※、高島 えり子※、植竹 貴子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	産褥期の生理、フィジカルアセスメント、心理・社会的アセスメントを理解しながら、産褥期の健康教育、母乳育児支援の方法の実際を学修する。さらに、産褥期の異常とその支援、ハイリスク異常褥婦のアセスメントとその支援方法を学修する。			
授業の位置づけ	「周産期の看護」「母性看護学実習」の学修内容を基盤とし、褥婦の健康状態及び産褥経過に関わる助産診断、褥婦の援助技術を理解しながら、褥婦に対して適切な助産診断と助産技術を実践できる基礎的能力を学修する。したがって、助産師教育「助産診断技術学」における妊産褥婦のアセスメント、およびそれに基づく支援の理解を深め、助産学実習の基礎と位置づける。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP2-Ⅲ、○DP1-Ⅳ、○DP2-Ⅰ、○DP2-Ⅱ			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産褥の生理に基づき、産褥期の身体的・心理的变化、社会的適応、家族の発達について説明できる。 2. 産褥期のフィジカルアセスメントに必要な診察技術を実施できる。 3. 褥婦の身体的回復と、効果的な母乳育児支援、家族の発達の支援について説明できる。 4. 産褥期に起こり得る異常について説明できる。 5. ハイリスク・異常の褥婦に対する援助について説明できる。 6. 母子を取りまく子育て支援を理解し、継続支援の必要性について考察できる。 			
先修要件	なし			
関連科目	周産期の看護、ウィメンズヘルスナーシング、助産診断技術学総論、助産診断技術学Ⅱ、助産診断技術学Ⅲ			
学修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産師国家試験受験資格取得希望者には必須科目である。 2. これまで習得してきた産褥に関する基本的知識と技術を用いて主体的に臨むこと。 3. 授業は毎回の事前課題による予習のもとに展開される。 4. 健康教育、母乳育児支援については、シミュレーション演習を通して援助を学修する。 			
成績評価の方法				
評価方法	定期試験(70%)、課題レポート(30%)			
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産褥の生理に基づき、産褥期の身体的・心理的变化、社会的適応、家族の発達について説明できる。 2. 産褥期のフィジカルアセスメントに必要な診察技術を実施できる。 3. 褥婦の身体的回復と、効果的な母乳育児支援、家族の発達の支援について説明できる。 4. 産褥期に起こり得る異常について説明できる。 5. ハイリスク・異常の褥婦に対する援助について説明できる。 6. 母子を取りまく子育て支援を理解し、継続支援の必要性について考察できる。 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
事前学習課題は、各授業内でコメントをする。 課題レポートは、提出後2週間以内にフィードバックする。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ【2】 分娩期・産褥期 第6版	我部山キヨ子、藤井知行編集	医学書院		
参考文献				
母乳育児支援スタンダード第2版、NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会編集、医学書院				
その他				
連絡先・オフィスアワー	随時（事前にメールで連絡のこと etakashi@juntendo.ac.jp）			
備考				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	高島 えり子	1. 産褥期の診断過程とフィジカルアセスメント 1-1 退行性変化のアセスメント 1-2 進行性変化のアセスメント 1-3 心理・社会的変化のアセスメント 1-4 家族の発達のアセスメント	GW シミュレーション 演習	予習：テキスト第2部第9、10章を読み、架空事例（妊娠期からの継続事例）のアセスメントを行う。 （学習時間2時間） 復習：産褥期の身体的・心理的变化、社会的適応、家族の発達について復習する。 褥婦のフィジカルアセスメントについて整理する。（学習時間2時間）
2	高島 えり子	2. ハイリスク褥婦の診断過程	GW	予習：テキスト第2部第12、13章を読み、架空事例（妊娠期からの継続ハイリスク事例）のアセスメントを行う。 （学習時間2時間） 復習：ハイリスク褥婦へのアセスメント、支援について整理する。 （学習時間2時間）
3	青柳 優子	3. 産褥期の健康教育 3-1 産褥早期の保健指導	GW シミュレーション 演習	予習：テキスト第2部第11章を読み、架空事例の褥婦の保健指導を計画立案する。 （学習時間3時間） 復習：褥婦への健康教育について整理する。 （学習時間1時間）
4	高島 えり子	3-2 産後の家庭訪問	GW シミュレーション 演習	予習：テキスト第2部第11章を読み、架空事例の産後家庭訪問の計画立案する （学習時間2時間） 復習：退院後の褥婦の支援についてまとめる （学習時間2時間）
5	高島 えり子	4. ハイリスク・異常褥婦への支援	講義 GW	予習：テキスト第2部第12章、第13章を読む （学習時間2時間） 復習：産褥期の異常について整理する。 （学習時間2時間）
6	植竹 貴子	5. 母乳育児支援 5-1 母乳育児継続の支援 5-2 乳房トラブルへの支援	講義 GW	予習：テキスト第2部第14章を読む （学習時間2時間） 復習：母乳育児支援について整理する。 （学習時間2時間）
7	植竹 貴子	6. 子育て支援	講義 GW	予習：子育てを行う対象のニーズについて調べる （学習時間2時間） 復習：子育て支援について整理する （学習時間2時間）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	助産診断技術学V（新生児・乳児期）	必修・選択	選択
英語科目名	Midwifery practice V	対象学年	4年
開講学期	前期後半	単位数	1単位
代表教員	森田 亜希子	ナンバリング	ANL33B4
担当教員	大月恵理子※、植竹貴子※、梶川未菜※、西崎直人※、森田亜希子※	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	出生直後の新生児のフィジカルアセスメントとケア、新生児の異常と管理、NICUとハイリスク新生児のケアについて理解し、乳児の発達発育と精神運動機能発達、健康診査とケアについて学習する。				
授業の位置づけ	大項目「看護の理論と方法」の「ウィメンズヘルスと看護」に位置する。周産期の看護、母性看護学実習の学びに基づき、さらに出生直後の新生児やハイリスク新生児への看護を学ぶことで、統合実習（母性看護）などにつながる科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP2-II、ODP2-I、ODP2-III、ODP3-I				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 新生児の生理変化、子宮外適応過程を促す援助について説明できる。 2) 新生児のフィジカルアセスメントに必要な診察技術を実施できる。 3) 出生直後の母児早期接触の実際とパースレビューについて説明できる。 4) 新生児の蘇生法についてシミュレーターを用いて実施できる。 5) 新生児の異常とその支援について理解できる。 6) ハイリスク新生児とその家族に必要な援助を説明できる。 7) 乳児期のフィジカルアセスメントに必要な診察技術を実施できる。 8) 新生児・乳児期に必要な栄養を説明できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	周産期の看護、助産診断技術学総論、母性看護学実習、統合実習（母性看護）				
学修上の注意					
成績評価の方法					
評価方法	定期試験（50%）、演習参加状況および課題レポート（50%）を統合して評価する。				
評価基準	到達目標1)～8)の達成度で評価する				
試験・課題に対するフィードバック方法					
事前学習については、授業中に確認する。事後課題は、提出後1週間を目安にコメントを返却する。試験結果については、結果公表後、メールにて質問を受け付ける、もしくは時間調整の上面談する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	助産学講座6助産診断・技術論Ⅱ（3）新生児期・乳幼児期	石井邦子、廣間武彦編	医学書院	978-4-260-04219-2	
	日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づく新生児蘇生法テキスト	細野 茂春	メジカルビュー社	978-4758319980	
参考文献					
仁志田博司「新生児学入門 第5版」医学書院、2018					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時メールにて受け付ける。面会を希望する場合は事前にメールにて連絡する。				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1-2	梶川未菜	1. 出生直後の新生児の診断技術	演習	予習：出生直後の新生児のフィジカルアセスメントに必要な診察技術について学習する。(学習時間120分) 復習：新生児の子宮外適応を促す診察技術について反復練習する。(学習時間60分)
3	森田亜希子	2. 出生直後の母児早期接触とパースレビュー	演習	予習：母児早期接触の効果、方法、留意点について学習する。パースレビューの目的、方法について学習する。(学習時間60分) 復習：母児早期接触の管理について理解する。パースレビューの方法について理解する。(学習時間30分)
4-5	西崎直人、大月恵理子、森田亜希子	3. 新生児蘇生法	演習	予習：テキストを読み、新生児蘇生法(NCPR)について学習する。(学習時間90分) 復習：NCPRガイドラインに基づいた蘇生法について理解する。(学習時間30分)
6-8	西崎直人	4. 新生児の異常と管理	講義	予習：テキスト「新生児のおもな疾患とケア」「低出生体重児・早産児のケア」を読み、新生児の異常について学習する。(学習時間60分) 復習：早産児、低出生体重児、異常の管理について理解する。(学習時間60分)
9-10	植竹貴子	5. 乳幼児期のフィジカルアセスメントとケア 6. 新生児・乳児期の栄養	演習	予習：テキスト「乳幼児のおもな疾患とケア」を読み、乳児の健康診査について学習する。新生児・乳児期の栄養について学習する。(学習時間90分) 復習：乳児のフィジカルアセスメントと栄養をまとめる。(学習時間60分)
11-12	大月恵理子	7. ハイリスク新生児の診断過程	講義、演習	予習：ハイリスク新生児における事前学習課題を読み、事例展開を行う。(学習時間120分) 復習：グループワークを通してハイリスク新生児の診断過程について理解を深める。(学習時間60分)
13-14	森田亜希子	8. NICUとハイリスク新生児のケア	演習	予習：テキスト「治療を受ける新生児のアセスメントとケア」を読み、ハイリスク新生児と親・家族への援助について学習する。(学習時間60分) 復習：授業内容を再確認し、NICUにおけるケアと親・家族への支援について理解する。(学習時間30分)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	助産管理	必修・選択	選択
英語科目名	Midwifery Management	対象学年	4年
開講学期	前期前半	単位数	1単位
代表教員	増田 美恵子	ナンバリング	ANL33B5
担当教員	増田美恵子※、武田智子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	助産業務管理の原理と技法を学習する。助産管理の理念と基本概念、母子保健制度と助産業務に関する法律・規則、助産管理に必要な社会保障制度を学び、病産院や助産所における管理と運営について理解する。				
授業の位置づけ	「看護管理学」や「助産学概論」で学んだ内容を基盤として、助産業務管理の原理と技法を学習し、「助産学実習」での助産管理や地域母子保健の実習の基礎と位置づける。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	○DP2-I、○DP2-II、○DP2-III、◎DP3-I				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産管理の基本概念、関連法規と助産師の業務・責任について説明することができる。 2. 病産院における助産管理の特徴を理解し、多職種連携のあり方を説明することができる。 3. 助産院における助産管理の特徴を理解し、助産所の開設と運営について説明することができる。 4. 地域母子保健活動における助産師の役割を考察することができる。 				
先修要件	なし				
関連科目	看護管理学、助産学概論、助産診断技術学Ⅰ～Ⅴ、助産学実習、周産期の医療安全				
学修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産師国家試験受験資格取得希望者には必須科目である。 2. 助産学概論で学習した知識等を復習した上で臨むこと。 				
成績評価の方法					
評価方法	レポート課題（30%）、授業への参画度（10%）、筆記試験（60%）				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産管理の基本概念、関連法規と助産師の業務・責任について説明することができる。 2. 病産院における助産管理の特徴を理解し、多職種連携のあり方を説明することができる。 3. 助産院における助産管理の特徴を理解し、助産所の開設と運営について説明することができる。 4. 地域母子保健活動における助産師の役割を考察することができる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポート課題は、授業内でフィードバックを行う。 課題等に対するフィードバックの希望者には随時対応する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	助産学講座10 助産管理（第6版）		医学書院	978-4-260-04709-8	
参考文献					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 成田伸編：助産師基礎教育テキスト 周産期における医療の質と安全（2022年版） 日本看護協会出版会 2022 ISBN：978-4-8180-2373-4 2. 日本助産師会：助産所開業マニュアル2021ー開設・管理・運営ー（2021年版） 日本助産師会出版会 2021 ISBN：978-4-905023-36-4 3. 我部山キヨ子・武谷雄二編：助産学講座1基礎助産学1助産学概論 第6版 医学書院 2022 ISBN：978-4-260-04708-1 4. 福井トシ子編：新版 助産師業務要覧 第3版【基礎編】2022年版 日本看護協会出版会 2022 ISBN：978-4-8180-2378-9 5. 我部山キヨ子編：助産学講座9地域母子保健・国際母子保健 第6版 医学書院 2023 ISBN：978-4-260-05004-3 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時（事前にメールで連絡のこと m-masuda@）				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	増田 美恵子	1. 助産管理とは 1-1 管理・マネジメントの定義 1-2 助産管理の概念 [キーワード] 助産管理、助産師の業務、助産管理に必要な能力	講義 GW	予習：「助産学概論」で学んだ助産師の業務について復習した上で、テキスト「助産管理」第1章Bを読んで、助産管理とは何かを考えてくること。(学習時間：2時間) 復習：授業資料、テキスト、参考文献で授業内容確認する。(学習時間：2時間)
2	増田 美恵子	2. 関連法規と助産師の義務・責任 2-1 助産に関わる関連法規 2-2 助産師の法的責任と義務 [キーワード] 助産業務と関連法規、助産師の義務と責任	講義 GW	予習：参考文献「助産学概論」付章の関係法規を復習した上で、テキスト「助産管理」第2章を読んで、助産に関する法律にはどのようなものがあるか整理してくること。事前に提示された課題を行ってくること(学習時間：2時間) 復習：授業資料、授業内容、助産業務に関する法律を整理し、理解を深める。(学習時間：2時間)
3 4	増田 美恵子	3. 周産期医療システムとマネジメント 3-1 病院における助産管理 3-2 診療所における助産管理 3-3 周産期医療における多職種連携のあり方 [キーワード] 母体搬送システム、院内助産システム、助産外来、地域連携	講義 GW	予習：テキスト「助産管理」第4章Cを読んで、病院における助産管理のあり方を考えてくること。(学習時間：各回2時間) 復習：授業内容、授業資料、テキスト、参考文献等で確認しておく。(学習時間：各回2時間)
5	増田 美恵子	4. 地域母子保健における助産師の役割 [キーワード] 地域母子保健行政、母子保健関係法規、母子保健制度、母子保健施策	講義 GW	予習：参考文献「地域母子保健・国際母子保健」第4章を読んだ上で、地域における助産師の活動にはどのようなものがあるか考えてくること。(学習時間：2時間) 復習：授業内容、授業資料を確認し、整理しておく。(学習時間：2時間)
6 7	武田 智子	5. 助産所における助産管理 5-1 助産師の法的責任 5-2 助産所開設の実際 5-3 助産所の管理 5-4 助産所における業務の実際 [キーワード] 助産所、助産所開設、助産所の管理、助産所における業務	講義	予習：参考文献「助産所開業マニュアル」I～IVを読んで、事前に提示された課題を行ってくること。(学習時間：各回2時間) 復習：授業内容、授業資料、テキストを確認しておく。(学習時間：各回2時間)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	周産期の医療安全	必修・選択	選択
英語科目名	Safety in Perinatal Care	対象学年	4年
開講学期	前期前半	単位数	1単位
代表教員	増田 美恵子	ナンバリング	ANL33B6
担当教員	増田美恵子※、島守洋子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	母子保健福祉の動向を理解し、母子および家族の健康を高めるためのマネジメントのあり方、周産期医療システムの連携のあり方を学習する。周産期医療における安全管理（医療事故、災害）について理解する。			
授業の位置づけ	「看護の質と安全管理」および「助産学概論」等の助産学の授業で学修した内容を基盤として、周産期医療における安全管理について学修し、「助産学実習」の基礎と位置づける。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	○DP2-I、○DP2-II、○DP2-III、◎DP3-I			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母子保健福祉の動向と周産期医療の現状を説明することができる。 2. 周産期医療システムと周産期医療における連携を説明することができる。 3. 周産期におけるリスクマネジメントを説明することができる。 4. 周産期における医療事故を分析し、助産師の役割を考察することができる。 			
先修要件	なし			
関連科目	看護の質と安全管理、助産学概論、助産診断技術学Ⅰ～Ⅴ、助産管理、助産学実習			
学修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産師国家試験受験資格取得希望者には必須科目である。 2. 助産学概論で学習した知識等を復習した上で臨むこと。 			
成績評価の方法				
評価方法	レポート課題（30%）、授業への参画度（10%）、筆記試験（60%）により評価する。			
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母子保健福祉の動向と周産期医療の現状を説明することができる。 2. 周産期医療システムと周産期医療における連携を説明することができる。 3. 周産期におけるリスクマネジメントを説明することができる。 4. 周産期における医療事故を分析し、助産師の役割を考察することができる。 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
レポート課題は、提出後1か月以内にフィードバックを行う。 課題等に対するフィードバックの希望者には随時対応する。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
助産学講座10 助産管理（第6版）		医学書院	978-4-260-04709-8	
参考文献				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 成田伸編：助産師基礎教育テキスト 周産期における医療の質と安全（2022年版） 日本看護協会出版会 2022 ISBN：978-4-8180-2373-4 2. 日本助産師会：助産所開業マニュアル2021―開設・管理・運営―（2021年版） 日本助産師会出版会 2021 ISBN：978-4-905023-36-4 3. 我部山キヨ子・武谷雄二編：助産学講座1基礎助産学1助産学概論 第6版 医学書院 2022 ISBN：978-4-260-04708-1 4. 福井トシ子編：新版 助産師業務要覧 第3版〔基礎編〕2022年版 日本看護協会出版会 2022 ISBN：978-4-8180-2378-9 5. 我部山キヨ子編：助産学講座9地域母子保健・国際母子保健 第6版 医学書院 2023 ISBN：978-4-260-05004-3 				
その他				
連絡先・オフィスアワー	随時（事前にメールで連絡のこと m-masuda@）			
備考				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	増田 美恵子	1. 周産期における医療安全管理	講義 GW	予習：新聞報道などから、日本の周産期医療の現状を考えてくること。(学習時間：2時間) 復習：授業資料を確認して整理しておくこと。(学習時間：2時間)
2	増田 美恵子	2. 日本の周産期医療システムと周産期医療システムにおける連携 [キーワード] 周産期医療の集約化と連携、周産期医療ネットワーク	講義 GW	予習：使用テキスト第3章Aを予め読んでおくこと。(学習時間：2時間) 復習：授業資料とテキストの該当箇所を確認して整理しておくこと。(学習時間：2時間)
3	島守 洋子	3. 周産期医療における安全管理の実際 [キーワード] 病院における医療安全、感染管理、災害対策	講義	予習：使用テキスト第3章Bを予め読んでおくこと。(学習時間：2時間) 復習：授業資料とテキストの該当箇所を確認して整理しておくこと。(学習時間：2時間)
4	増田 美恵子	3. 周産期医療における安全管理の実際 [キーワード] 周産期医療システム、産科医療補償制度	講義 GW	予習：使用テキスト第3章Bを予め読んでおくこと。(学習時間：2時間) 復習：授業資料とテキストの該当箇所を確認して整理しておくこと。(学習時間：2時間)
5 6	増田 美恵子	4. 事故事例の分析 [キーワード] 事故事例、事故分析	講義 GW	予習：予め提示された事例について考えてくること。(学習時間：2時間) 復習：授業資料と分析結果を確認して整理しておくこと。(学習時間：2時間)
7	増田 美恵子	5. 災害対策 [キーワード] 災害対策、災害時の支援、避難所運営	講義 GW (避難所HUG)	予習：災害対策および災害時の支援について考えてくること。(学習時間：2時間) 復習：授業資料と授業内容を確認して整理しておくこと。(学習時間：2時間)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	助産学実習	必修・選択	選択
英語科目名	Practicum in Midwifery	対象学年	4年
開講学期	後期	単位数	10単位
代表教員	大月 恵理子	ナンバリング	ANL33B7
担当教員	大月恵理子※、青柳優子※、増田美恵子※、鈴木紀子※、森田亜希子※、高島えり子※、植竹貴子※、梶川美菜※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	助産学の理論と技術を実践の場で統合し、妊娠・分娩・産褥・新生児期にある母子とその家族に応じた、エビデンスに基づく助産活動を実践するための基礎的能力を習得する。また、妊娠期から子育て期までの包括的な支援の実践を理解するとともに、その中での助産師の役割を学ぶ。				
授業の位置づけ	大項目「看護の理論と方法」の「ウィメンズヘルスと看護」に位置づく。これまでの助産学関連科目での学びを統合する科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP2-II、ODP2-I、ODP2-III、ODP3-I				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 子育て世代包括支援における助産活動 <ol style="list-style-type: none"> 継続事例における助産活動 <ol style="list-style-type: none"> 妊娠・分娩・産褥・新生児期の各期における健康診査及び助産診断ができる。 助産診断に基づく助産計画を立案し、実施・評価できる。 妊婦・褥婦に対する保健指導を計画、実施、評価できる。 切れ目のない子育て支援の視点を持ち、地域母子保健との関連が考察できる。 地域における助産活動 <ol style="list-style-type: none"> 市町村における母子保健事業の位置づけと役割説明することができる。 母子保健活動における地域での連携のあり方を説明することができる。 助産所における助産管理の実践を説明できる 助産業務の実践を通して助産師の責任と役割を考察できる。 地域で活動する助産師の役割を考察することができる。 分娩期の助産活動 <ol style="list-style-type: none"> 妊娠期の経過をふまえ、分娩期における母子の総合的な診断ができる。 分娩経過に応じた助産診断の修正ができる 基本的分娩助産技術を10例程度実践できる。 正常範囲からの逸脱の可能性を予測するとともに、異常発生時の助産師としての対応が理解できる。 定期的なりフレクシオンを通して、自己評価能力を高める。 周産期の対象に関わるチームとしての活動ができる。 				
先修要件	助産師国家試験受験資格取得に必要な講義演習科目が不合格の場合、原則として助産学実習は履修できない				
関連科目	母性看護学概論、周産期の看護、母性看護学実習、ウィメンズヘルスナーシング、助産診断技術学総論、母性の心理・社会学、助産診断技術学Ⅰ～Ⅴ、助産管理、周産期の医療安全				
学修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 助産師国家試験受験資格取得希望者には必修科目である。 実習目的・目標を理解した上で事前準備を周到に行うことが必要である。 実習中は、実習目標達成状況をその都度評価しながら次の課題を明確にして進める。 関連科目の学びを統合し、積極的に実践に取り組むことを期待する。 実習内容の進行状況によって実習時間の延長や変更の可能性があるため、体調管理に十分に配慮する。 				
成績評価の方法					
評価方法	実習内容・実践（50%）、実習記録・課題レポート（50%）を統合して評価する。				
評価基準	<p>以下の項目について到達目標1、および2、の達成度に基づき評価する</p> <ol style="list-style-type: none"> 継続事例の妊娠期における助産過程が実践できる 分娩期の助産診断および助産診断の修正ができる 分娩助産が実践できる 産褥期の助産過程が実践できる 新生児期の助産過程が実践できる 継続事例の退院後の母子への助産過程が実践できる 地域における助産活動について説明できる 適切な自己評価ができ、自己の課題を明確化できる 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
定期的なりフレクシオンとカンファレンスを行い、目標達成状況を自己評価できるよう支援する					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
履修済みの関連授業科目のテキスト、参考書等を活用すること。その他、必要時紹介する。					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
その他				
連絡先・オフィスアワー		随時メールにて受け付ける。面会が必要な場合は事前にメールにて連絡する。 科目責任者：大月恵理子e.otsuki.up@		
備考				
1～9週	大月恵理子、青柳優子、増田美恵子、鈴木紀子、森田亜希子、高島えり子、植竹貴子、梶川美菜	1. 妊娠期の助産活動（継続事例） (1) 妊婦の助産診断・助産計画 (2) 妊婦の健康診査 (3) 個別保健指導 (4) 母親学級、両親学級の見学 (5) 異常のある妊婦の妊婦健診の見学 2. 分娩期の助産活動（継続事例を含む） (1) 産婦の助産診断・助産計画 (2) 産婦の健康診査 (3) 産婦への基本的ニード・心理面のケア (4) 産痛緩和 (5) 家族へのケア (6) 経陰分娩の介助 (7) 出生直後の早期接触への援助 (8) 出生直後の新生児の健康診査 (9) 出生直後の新生児に必要な処置およびケア (10) 分娩後の産婦の観察およびケア (11) 異常分娩（帝王切開術、急速遂娩術）の見学 3. 産褥期の助産活動（継続事例を含む） (1) 褥婦の助産診断・助産計画 (2) 褥婦の健康診査 (3) 褥婦の健康生活への援助 (4) 母乳養育確立への援助 (5) パースレビュー、心理面のケア (6) 個別保健指導 (7) 母子関係、父子関係確立への援助 4. 新生児期の助産活動（継続事例を含む） □ (1) 新生児の助産診断・助産計画 (2) 新生児の健康診査 (3) 新生児の子宮外生活適応への援助 5. 退院後の母子に対する助産活動（継続事例） (1) 家庭訪問、電話訪問 (2) 1か月健診	実習	予習：妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の助産過程展開方法を復習しておく。妊婦・褥婦・新生児の健康診査の技術を修得しておく。基本的な分娩助産技術を修得する。（学習時間180分） 復習：母子に対するケアの評価、および自己評価を行う。（90分）
10週	大月恵理子、青柳優子、増田美恵子、鈴木紀子、森田亜希子、高島えり子、植竹貴子、梶川美菜	6. 地域における助産活動 1) 保健センターにおける母子保健事業と助産活動 (1) 当該地域の特性と健康課題を理解する。 (2) 市町村での母子保健事業の実際について説明を受ける。 (3) 母子保健事業の実際を学び、実践可能な援助に参加する。 ① 母子の家庭訪問 ② 乳幼児健康診査 ③ 母親学級・両親学級、育児学級など 2) 子育て支援施設の助産活動 (1) 子育て支援施設で行われている母子保健活動の実際を学び、実践可能な援助に参加する。 ① 母乳育児支援 ② 育児相談 ③ 産後ケア 3) 助産所における助産活動 (1) 助産所の施設、設備、管理の実際について説明を受ける。 (2) 助産所で提供される対象の健康問題・ニーズに対する看護の実際を学び、実践可能な援助に参加する。 (3) 助産業務に必要な法的文書の記載と取り扱いについて見学する。	実習	予習：対象地域の特性、健康課題（問題）について調べる。実習施設に関する基礎知識を確認し、実習計画を立案する。（180分） 復習：実習で学修した内容を確認して整理しておく。（90分）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	精神看護方法論I (精神看護援助の基礎)	必修・選択	必修
英語科目名	PsychiatricMentalHealthNursingSkills I	対象学年	3年
開講学期	前期前半	単位数	1単位
代表教員	松浦 彩美	ナンバリング	PNL34A1
担当教員	松浦彩美※、大島泰子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	【学修目標】 精神に障害を持つ人の対象理解と、治療的関係を築く上での援助の諸理論、精神科看護師の役割、精神障害者の理解と支援、家族理解、多職種連携、諸制度等を統合し、具体的な看護アプローチの基礎となる技法や療法を修得する。				
授業の位置づけ	精神保健学、精神看護学概論、精神の健康障害と看護における学修を統合し、精神障害者に対する具体的な看護アプローチの基礎となる技法や療法を修得する。 精神看護学実習の基礎と位置付ける。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	本科目を学習することで、以下の能力の基礎が身につきます。 ○DP1-Ⅲ：倫理的課題に対応できる基礎的能力 ◎DP1-Ⅳ：人間関係を構築できるコミュニケーション能力 △DP2-Ⅰ：医学および関連領域の知識を看護に活用できる能力 ○DP2-Ⅱ：エビデンスに基づいた看護を適切に実践する能力 ○DP2-Ⅲ：健康レベルに応じた看護を展開する能力 ○DP3-Ⅰ：保健医療福祉における他職種と協働・連携する能力				
到達目標	【到達目標】 1. 精神障害による生活のしづらさを生活障害として理解し説明できる。 2. 地域生活を行うための精神科リハビリテーションの基本的な知識とアプローチ法、諸制度について説明できる。 3. 精神障害者の家族が抱える課題や支援方法に関する基本的な知識を理解できる。				
先修要件	なし				
関連科目	精神保健学（1年後期前半） 精神看護学概論（2年生後期前半） 精神の健康障害と看護（2年生後期後半）				
学修上の注意	1. 各自授業ノートを作成し、予習・復習、授業のポイントなどをまとめておく。 2. 2年次で学習した精神保健学精神看護学概論精神の健康障害と看護における講義内容を統合して看護と医療の知識を関連付け看護実践につなげる。 3. 3年次後期から4年次前期に、精神看護学実習にて担当する精神障害者に対する看護過程の展開、適切な看護実践につなげる。				
成績評価の方法					
評価方法	定期試験（90%） 授業内小テスト（10%）				
評価基準	1. 精神障害による生活のしづらさを生活障害として理解できる。 2. 精神症状のアセスメント法と主な精神疾患患者への看護アプローチ法を説明できる。 3. 精神障害者の家族が抱える課題や支援方法に関する基本的な知識について説明できる。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
・課題については、講義終了後にフィードバックを行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①	武井麻子	医学書院		
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学②	武井麻子	医学書院		
参考文献					
なし					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時メール連絡にて対応する。松浦彩美 atatei@juntendo.ac.jp				
備考	なし				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	松浦	精神に障害を持つ人の援助 1 1) 精神障害者の抱える「生きづらさ」と「生きにくさ」を生活障害として理解 2) 当事者が感じている病的世界/体験を理解 [キーワード] 精神症状、主観的体験、生活障害	講義	[予習] 精神障害による「生きにくさ」としての生活障害についてノートにまとめておく。(学習時間2時間30分) [復習] 講義内容と資料の確認、精神障害の生物・心理・社会的側面からの理解、依存から自律に向けた治療的関係についてノートにまとめておく。(学習時間2時間30分)
2	松浦	精神に障害を持つ人の援助 2 1) 精神看護に用いる技法 2) ストレングス・リカバリー [キーワード] 医学モデル、リカバリーモデル、ストレングスモデル、当事者意識	講義	[予習] 医学モデルとストレングスモデルの違いについて調べてノートにまとめておく。(学習時間2時間) [復習] 講義内容と資料の確認、当事者を主体としたリカバリーについてノートにまとめておく。(学習時間2時間)
3	大島	精神看護における援助的関係 ①精神看護の患者-看護師関係における援助技法 ②治療的コミュニケーション技法 ③精神看護実践に共通する働きかけの技法 [キーワード] 患者-看護師の相互作用、治療的関わり、治療的環境	講義	[予習] 教科書の内容(精神看護学2:8章A~C)を確認し、精神看護における対人援助について考えたことをノートにまとめる。(学習時間2時間) [復習] 講義資料と教科書を確認し、要点をノートにまとめる。(学習時間2時間)
4	大島	看護の対人関係論と治療的関わり ①看護の対人関係論(ペプロウ・オーランド・ウィーデンバック・トラベルビー) ②精神科病棟の治療的な環境と、患者-看護師関係の治療的関わり ③精神科看護における看護師と患者の関わり [キーワード] リフレクション、相互作用、自己一致、再構成、転移	講義	[予習] 基礎看護学実習I/IIを振り返り、印象に残っているコミュニケーション場面を選択し、患者と接しているときに自分自身が感じ、考えたことについてノートにまとめておく。(学習時間2時間) [復習] 講義資料と教科書(精神看護学2:第8章D・E)を確認し、要点をまとめる。印象に残っている看護におけるコミュニケーション場面について、プロセスレコードを用いて分析する。そして自分の看護におけるコミュニケーションの特徴と学び(大切にしたいこと・課題)をノートにまとめておく。(学習時間2時間)
5	松浦	精神科薬物療法と看護師の役割 [キーワード] 向精神薬、有害反応、アドヒアランス、コンコーダンス	講義	[予習] コンプライアンスとアドヒアランスの違いについて、ノートにまとめておく。(学習時間2時間) [復習] 向精神薬の薬理作用、有害反応から看護師の観察の視点と患者のアドヒアランスを高める方法についてノートにまとめておく。(学習時間2時間)
6	松浦	精神医療における様々な治療法 [キーワード] 精神分析、電気けいれん療法、集団精神療法、心理教育、SST、認知行動療法、対人関係療法、森田療法、マインドフルネス	講義	[予習] 「精神の健康障害と看護」で学習した疾患と治療法を復習しておく。(学習時間:2時間) [復習] 授業内容を整理し、精神科における様々な治療法についてノートにまとめる。(学習時間2時間)
7	松浦	精神障害者の地域生活支援と諸制度 精神障害者の退院促進と地域生活支援 [キーワード] 障害者総合支援法、社会復帰施設、精神科訪問看護、リカバリー、SST、デイケア、就労支援、WRAP	講義	[予習] 地域で生活する精神障害者のリカバリーとは何か、自分なりに考え、ノートにまとめておく。(学習時間2時間) [復習] 精神障害者の生活を支える制度には、どのようなものがあるか、日本において地域で生活する精神障害者の現状と課題、訪問看護師の役割、リカバリーに役立つ資源についてノートにまとめておく。(学習時間3時間)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記(PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	精神看護方法論II（精神看護援助論）	必修・選択	必修
英語科目名	PsychiatricMentalHealthNursingSkills II	対象学年	3年
開講学期	前期後半	単位数	1単位
代表教員	松浦 彩美	ナンバリング	PNL34A2
担当教員	水野恵理子※ 松浦彩美※ 阿部美香※ 重田ちさと※ 大島泰子※ 須藤りつ※	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	主な精神疾患患者への看護アプローチの基本を学び、諸理論を用いた看護過程の展開方法を修得する。地域で生活している精神障害者に対する精神科リハビリテーションの基本的な知識とアプローチ法を修得する。さらに家族の問題や援助、リエゾン精神看護の基礎的な知識と方法についても修得する。 こころの健康問題を抱えている人や家族の理解を深め、その人らしく生きることを支えるための精神科看護師としての役割と機能を学ぶ。また、こころの健康問題を持つ人々の外来・入院治療や地域生活を支えるための諸理論と諸制度、ならびに具体的な看護アプローチ法を学ぶ。				
授業の位置づけ	こころの健康問題を持つ人々の外来・入院治療や地域生活を支えるための諸理論と諸制度、ならびに具体的な看護アプローチ法を理解し、臨地実習にて実際に患者を担当することができる。精神看護学実習における看護実践の基礎と位置付ける。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	本科目を学習することで、以下の能力の基礎が身につきます。 △DP1-Ⅲ：倫理的課題に対応できる基礎的能力 △DP1-Ⅳ：人間関係を構築できるコミュニケーション能力 △DP2-Ⅰ：医学および関連領域の知識を看護に活用できる能力 △DP2-Ⅱ：エビデンスに基づいた看護を適切に実践する能力 ◎DP2-Ⅲ：健康レベルに応じた看護を展開する能力 △DP3-Ⅰ：保健医療福祉における他職種と協働・連携する能力				
到達目標	【到達目標】 1. 精神症状のアセスメント法と主な精神疾患患者への看護アプローチの基本を説明できる。 2. セルフケア看護理論を用いて看護過程を展開するための知識を習得し活用できる。 3. 精神医療と保健福祉をめぐる現状と課題、看護の展望について理解できる。				
先修要件	なし				
関連科目	精神保健学（1年後期前半） 精神看護学概論（2年後期前半） 精神の健康障害と看護（2年後期後半） 精神看護方法論Ⅰ（精神看護援助の基礎）（3年前期前半）				
学修上の注意	1. 授業ノートを作成し、予習、復習、授業のポイントについてまとめておく。 2. 2年次で学習した精神保健学精神看護学概論精神の健康障害と看護における講義内容を統合して看護と医療の知識を関連付け看護実践につなげる。 3. 3年次後期から4年次前期に、精神看護学実習にて担当する精神障害者に対する看護過程の展開、適切な看護実践につなげる。				
成績評価の方法					
評価方法	定期試験（80％）、看護過程の演習参加状況と課題レポート（20％）				
評価基準	1. 精神症状のアセスメント法と主な精神疾患患者への看護アプローチの基本を説明できる。 2. セルフケア看護理論を用いて看護過程を展開するための知識を習得し活用できる。 3. 精神医療と保健福祉をめぐる現状と課題、看護の展望について理解できる。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題レポートは、講義終了後にフィードバックを行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①	武井麻子	医学書院		
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学②	武井麻子	医学書院		
参考文献					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時メール連絡にて対応する。松浦彩美 atatei@juntendo.ac.jp				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	松浦	精神科医療における患者の処遇と看護 [キーワード]精神保健福祉法、幻覚妄想、抑うつ躁状態、希死念慮、安全管理、隔離拘束、行動制限、人権擁護	講義・演習	[予習] 精神科医療における身体拘束・隔離について調べ自身の考えをノートにまとめておく。(学習時間1時間) [復習] 治療として隔離・拘束を受けている患者の思いを追体験してみる。当事者が疾患を受容し治療を継続していくために、必要な看護を再度検討する。(学習時間1時間)
2	重田	統合失調症の看護 [キーワード] 統合失調症、陽性症状、陰性症状、認知機能障害	講義・演習	[予習]精神の健康障害と看護(統合失調症)を復習し、病態生理と症状、治療についてノートにまとめておく。(学習時間1時間) [復習]統合失調症の症状・病期・治療に応じた看護の方法についてノートにまとめておく。(学習時間1時間)
3	重田	慢性期の統合失調症の看護 神経症性障害・ストレス反応・適応障害の看護 [キーワード]統合失調症、不安障害(パニック障害)、強迫性障害、急性ストレス障害、心的外傷後ストレス障害、適応障害	講義・演習	[予習] ①前回の授業(統合失調症の看護)で学習した統合失調症の方への看護についてノートにまとめた内容を復習しておく。 ②精神の健康障害と看護(神経症)を復習し、神経症性障害の代表的な疾患について、症状の特徴と治療法をノートにまとめておく。(学習時間1時間) [復習]慢性期の統合失調症と神経症性障害の看護のポイントについてノートにまとめておく。(学習時間1時間)
4	大島	セルフケア理論(オレム/アンダーウッドモデル)の活用 [キーワード]セルフケア、自己決定能力、セルフケアニード、セルフケア能力、セルフケア不足、看護システム	講義・演習	[予習]精神看護学概論で学修したセルフケア理論(オレム/アンダーウッドモデル)を復習しておく。 テキスト②を参考に、アセスメントの目的と、どのようなことをアセスメントすべきか、ノートに記述しておく。(学習時間1時間) [復習]セルフケア理論(オレム/アンダーウッドモデル)はどのような理論で、精神科看護にどう役立つか、ノートにまとめておく。(学習時間1時間)
5-8	大島 水野 松浦 阿部 重田 須藤	精神科における看護過程 演習1-4回目(統合失調症) [キーワード] オレム・アンダーウッドセルフケア理論、発達課題、ストレングス、リカバリー、病識、薬物療法、服薬管理、SST、OT、地域生活支援、退院調整、家族支援	講義・演習	[演習方法] 1回目:情報収集・全体像の把握 2回目:アセスメント、アセスメントの発表・ディスカッション 3回目:看護計画立案 4回目:看護計画の発表・ディスカッション 演習は原則4回出席し、レポートを提出すること。 演習4回の参加態度および作成したレポートは成績評価に加える。 [予習] 統合失調症の看護を復習しておく。(各回1時間 計4時間) [復習] 演習時間内に到達できなかった部分は自己学習となる。次回の演習で発表およびディスカッションができるよう準備しておく。(学習時間 各回1時間30分 計6時間) ※提出物の提出方法と期限は授業内で提示する。
9	大島	気分障害の看護 [キーワード] うつ病、双極性障害、傾聴、認知行動療法、自殺予防	講義・演習	[予習] ①精神の健康障害と看護(気分障害)を復習し、病態生理と治療についてノートにまとめておく。(学習時間1時間) ②あなた自身や身の回りの方のうつ状態に関する経験を振り返り、看護で大切にしたいと考えたことをノートにまとめておく。(学習時間15分) [復習] 症状、病相に応じた看護方法についてノートにまとめておく。(学習時間1時間)
10	重田	パーソナリティ障害・摂食障害の看護 [キーワード]パーソナリティ障害、摂食障害	講義・演習	[予習]精神の健康障害と看護の該当疾患の部分復習しておく。(学習時間1時間) [復習]疾患の特徴と対応についてノートに整理しておく。(学習時間1時間)

11	阿部	物質関連障害の看護 [キーワード]アルコール使用障害、アディクション（嗜癖）、依存、ARP、自助グループ、家族支援	講義・演習	[予習]アルコール使用障害に関連する身体合併症と看護についてノートにまとめておく。（学習時間1時間） [復習]依存症の看護、自助グループ、リハビリテーション施設についてノートにまとめておく。（学習時間1時間）
12	阿部	器質性精神障害の看護 [キーワード]器質性精神障害、若年性認知症、てんかん、せん妄	講義・演習	[予習]「精神の健康障害と看護」の認知症・器質性精神障害の部分を復習し、病態生理と治療についてノートにまとめておく。（学習時間1時間） [復習] 代表的な器質性精神障害の看護のポイントについてノートにまとめておく。（学習時間1時間）
13	松浦	児童・思春期精神看護 自閉スペクトラム症（ASD）・注意欠如・多動症（ADHD）・限局性学習障害（LD） [キーワード]自閉症スペクトラム、注意欠如・多動症、限局性学習障害（LD）、発達障害	講義・演習	[予習]自閉症スペクトラム症（ASD）の特徴についてノートにまとめておく。（学習時間1時間） [復習]講義内容と配布資料を整理して、発達障害の特徴と支援についてノートにまとめておく。（学習時間1時間）
14	松浦	リエゾン精神看護 [キーワード]リエゾン精神看護、コンサルテーション、心身相関、危機介入、看護師のメンタルヘルス、専門看護師、役割	講義・演習	[予習]教科書のリエゾン精神看護に関係する部分を読んでおく。（学習時間1時間） [復習]リエゾン精神看護とは何か、リエゾン精神看護の対象（どのような場面で必要とされるか）、リエゾン看護の方法について、ノートにまとめておく。（学習時間1時間）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	精神看護学実習	必修・選択	必修
英語科目名	Psychiatric Nursing Practicum	対象学年	3, 4年
開講学期	複期	単位数	2単位
代表教員	松浦 彩美	ナンバリング	PNL34A3
担当教員	水野恵理子※ 松浦彩美※ 阿部美香※ 重田ちさと※ 大島泰子※ 須藤りつ ※ 櫻沢早人子※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	精神の健康に障害を持つ人々を理解し、その人の人権を擁護しながらセルフケア能力を高め、地域へつなげていくために必要な看護を実践できる基礎的能力を養う。				
授業の位置づけ	精神看護学実習では、エビデンスに基づいた看護を適切に実践する能力を身につけ、臨床看護につなげる基礎と位置付ける。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	<p>本科目を学習することで、以下の能力の基礎が身につきます。</p> <p>ODP1-Ⅲ：倫理的課題に対応できる基礎的能力 ODP1-Ⅳ：人間関係を構築できるコミュニケーション能力 ODP2-I：医学および関連領域の知識を看護に応用できる能力 ODP2-II：エビデンスに基づいた看護を適切に実践する能力 ODP2-Ⅲ：健康レベルに応じた看護を展開する能力 ODP3-I：保健医療福祉における他職種と協働・連携する能力</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係における相互理解と信頼関係を築き、治療的関係の重要性を説明できる。 2. 受け持ち患者の症状や言動を諸理論を用いて分析し、看護過程を展開する事ができる。 3. 精神科医療における治療や治療環境の特殊性、看護師の役割を説明できる。 4. 地域社会復帰施設の概要を理解し、精神障害者の地域生活の現状を理解できる。 5. 精神障害者を「生活者」として理解し、退院促進と地域生活支援の方法を理解できる。 6. 看護学生としての学習態度を身につけることができる。 				
先修要件	精神看護方法論Ⅰ 精神看護方法論Ⅱ				
関連科目	精神保健学（1年後期前期） 精神看護学概論（2年前期後期） 精神の健康障害と看護（2年後期後半） 精神看護方法論Ⅰ（3年前期前半） 精神看護方法論Ⅱ（3年前期後半）				
学修上の注意	<p>・事前学習については、以下の7項目を手書きでノートにまとめ、実習初日に担当教員に提出する。（コピーは不可）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神保健福祉法（処遇/人権擁護の方法、入院形態、身体拘束、安静室使用、通信、精神保健指定医制度等） 2. リスクマネジメント：予測される患者に関わる事故・危険事項およびその予防法 3. 主な精神障害（認知症を含む）と主症状、主な検査方法 4. 精神科における治療法・各種療法（薬物療法、修正型/電気痙攣療法m-ECT/EST、作業療法OT、精神療法等・看護について） 5. 外来・訪問看護・デイケア・生活療法・社会生活技能訓練SST・レクリエーションの目的または意義、多職種連携 6. 精神障害者の社会復帰をサポートする人的資源や社会資源（障害者総合支援法に規定される精神障害者通所施設や各種サービス、自立支援医療等）、障害年金、生活保護制度、精神障害者福祉手帳制度 7. 国際生活機能分類ICF生活機能構造モデルを通して障害の理解、社会参加支援の方法 8. 当事者を主体とした援助方法（リカバリーモデル、ストレングスモデル） <p>・実習のスケジュールは、実習する施設によって異なるので、詳しくは実習オリエンテーションで伝える。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	実習内容と実習記録、課題のレポート、カンファレンス参加状況をもとに到達目標の達成度（80%）、実習態度（20%）を総合して評価し合否判定を行う。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神の健康に障害を持つ患者を受け持ち、信頼関係を築く方法と自己活用の方法を理解できているか 2. 精神の健康に障害を持つ患者を受け持ち、看護過程を展開することができているか 3. 精神の健康に障害を持つ患者の退院の促進と地域定着支援について理解できているか 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
実習記録、課題のレポートは、卒業試験の時期に返却する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学 学生-患者のストーリーで綴る実習展開 第2版 田中美恵子編著 医歯薬出版株式会社 2015. 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院 3. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	実習の担当教員のメールアドレスに、随時連絡してください。				
備考	なし				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1日目 ～ 2日目	水野 松浦 阿部 重田 大島 須藤 櫻沢	病棟オリエンテーションと患者決定 精神科病棟の安全管理と特殊性の理解 カルテ、コミュニケーション、観察を通して情報収集 [キーワード] 精神保健福祉法、入院形態、隔離拘束、安全管理、人権擁護	実習	[予習] 1. 指定された事前学習をノートにまとめ 実習初日に担当教員に提出する。 2. コミュニケーション技術、セルフケア 理論について確認しておくこと。 (学習時間180分) [復習] 1. 精神保健福祉法に基づく精神科病院の 安全管理(入院形態、隔離/拘束、通信/面 会、危険物の持ち込み等)について、実際 の病棟実習を通してどのような注意が必要 か整理しておくこと。 2. 受け持ち患者の全体像をイメージしな がら看護の方向性と必要な情報を整理して おくこと。 (復習時間60分)
3日目	水野 松浦 阿部 重田 大島 須藤 櫻沢	学内 セルフケアの評価と全体像の分析 看護過程の素案作成 (指定された教室に集合、教員から指導を受ける) [キーワード] オレム・アンダーウッドセルフケア理論、発達課題、ストレングス、 リカバリー、病識、服薬管理、SST、OT、地域生活支援、退院調整、家 族支援	実習	[予習] 1. 受け持ち患者の現病歴、既往歴、治療 について確認すること。 2. 症状と生活管理において必要となる観 察項目、退院に向け活用できる社会資源に ついて確認すること。 (学習時間90分) [復習] 課題としてセルフケア理論と発達理論を用 いて看護過程の素案を立てる。 (復習時間60分)
4日目 ～ 7日目	水野 松浦 阿部 重田 大島 須藤 櫻沢	患者-看護者関係の構築 担当患者の看護計画の立案/問題と目標の共有 看護計画の実施 ケースカンファレンスにおける看護計画の検討と修正 病棟別実習まとめのカンファレンス 看護計画の評価 地域実習オリエンテーション [キーワード] 精神科看護師の役割、治療的関係、プロセスレコード、自己活用、社 会的入院、訪問看護、継続看護	実習	[予習] 1. 対人関係論、患者-看護者関係につ いて確認すること。 2. ストレングス/リカバリーモデルにつ いて確認すること。 (学習時間60分) [復習] 1. 受け持ち患者の看護過程を展開する。 その際、ストレングス/リカバリーモデル の視点を用いて計画を立案する。 2. プロセスレコードを通して、受け持ち 患者との治療的関係について振り返る。 3. ケースカンファレンスの内容を統合し て看護計画の評価と修正をする。 (復習時間30分)
7日目 ～ 9日目	水野 松浦 阿部 重田 大島 須藤 櫻沢	指定された社会復帰施設にて2～3日間の実習 (各施設1～4名配置) 各施設で行われているプログラムに参加 [キーワード] 障害者総合支援法、精神保健福祉法、精神保健福祉士、障害者サービ ス事業、障害年金、生活保護、治療継続、リカバリー	実習	[予習] 1. 精神障害者の地域生活支援と諸制度、 就労継続支援A/B型事業所、就労移行支援 事業、地域活動支援センター、クラブハウ ス等についてノートにまとめておくこと。 2. 精神保健福祉士の役割について確認す ること。 (学習時間60分) [復習] 地域で暮らす精神障害者に対する看護師の 役割、他職種連携、精神障害者のケアマネ ジメントについて施設実習を通して学んだ ことをまとめておくこと。 (復習時間30分)
10日目	水野 松浦 阿部 重田 大島 須藤 櫻沢	学内 精神看護学実習まとめ 報告会	実習	課題：病院実習及び地域精神実習を統合 し、看護師の役割についてまとめ、発表す る。 (学習時間60分) 14時までに実習記録を提出

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記(PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	在宅看護方法論II（在宅看護技術論）	必修・選択	必修
英語科目名	Home Care Nursing Skills II	対象学年	3年
開講学期	前期前半	単位数	1単位
代表教員	菱田 一恵	ナンバリング	PNL34B1
担当教員	菱田一恵※ 種市ひろみ※ 松浦志野※ 宮本圭※ 吉田めぐみ※ 森谷千春※	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	さまざまな疾病や障害をもつ在宅療養者とその家族へ提供される具体的な看護技術を修得する。			
授業の位置づけ	看護と理論の方法の中の「ソーシャルライフと看護」の科目の一つである。在宅看護学概論、在宅看護方法論Iをもとに、在宅看護学実習に向けて、療養者宅への初回訪問において必要な態度、知識、技術を修得する。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	△DP1-Ⅲ、△DP1-Ⅳ、○DP2-I、○DP2-II、◎DP2-Ⅲ、○DP3-I			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.呼吸、栄養、排泄、スキンケア、服薬に関する在宅看護方法について説明できる。 2.呼吸、栄養、排泄、スキンケア、服薬に関して、在宅における医療的ケアの具体的方法を考え、看護計画を立案できる。 3.療養者宅への初回訪問に関する看護計画、行動計画を立案できる。 4.療養者宅への初回訪問において必要な態度、知識、技術について、実演と評価ができる。 5.生活の場における援助関係形成に必要な態度、知識、技術について説明できる。 			
先修要件	なし			
関連科目	在宅看護学概論、在宅看護方法論I、在宅看護学実習			
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では個人ワーク・グループワークや発表を中心に行う。取り扱うテーマについて、事前学習を必要とする。 ・授業全体を通して学習内容が積み重なるように構成されているため、毎回、授業中に配布された資料や関連書籍等にて予習・復習を行うこと。 			
成績評価の方法				
評価方法	小テスト（20％）、課題および授業への参加態度（20％）、定期試験（60％）を総合して評価する。小テストは、第1～4回の授業開始時に行う予定である。課題は、授業内で提示する。授業への参加態度は、授業内で提示される課題の提出状況、および発表の準備状況と参加態度等により評価する。			
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1)呼吸、栄養、排泄、スキンケア、服薬に関する在宅看護方法について説明できる。 2)呼吸、栄養、排泄、スキンケア、服薬に関して、在宅における医療的ケアの具体的方法を考え、看護計画を立案できる。 3)療養者宅への初回訪問に関する看護計画および行動計画を立案できる。 4)療養者宅への初回訪問において必要な態度、知識、技術について、実演と評価ができる。 5)生活の場における援助関係形成に必要な態度、知識、技術について説明できる。 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
課題等に対するフィードバックの希望は随時メールで受け付ける。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
NICE 在宅看護論：自分らしい生活の継続をめざして 改定第2版	石垣和子/上野まり編	南江堂	978-4-524-25862-8	
参考文献				
<ul style="list-style-type: none"> ・臺有桂他編集：ナースングラフィカ在宅看護論、地域療養を支えるケア第6版、メディカ出版、2018。 ・河原加代子他：在宅看護論（系統看護学講座統合分野）第5版、医学書院、2017 ・正野逸子、本田彰子：関連図で理解する在宅看護過程 第2版、メヂカルフレンド、2018 ・河野あゆみ：強みと弱みからみた在宅看護過程、医学書院、2018 ・杉本正子他：在宅看護論 実践をこぼに第6版、ヌーヴェルヒロカワ、2016 ・押川 真喜子：新訂版 写真でわかる訪問看護 アドバンス、インターメディカ、2020 ・福井小紀子：病院からはじまる在宅看取りケア、メヂカルフレンド社、2018 ・宇都宮宏子他：看護がつながる在宅療養移行支援、日本看護協会、2014 ・角田直枝：よくわかる在宅看護：知識が身につく！実践できる！ 第3版、Gakken、2020 ・山内 豊明、岡本 茂雄：生命・生活の両面から捉える訪問看護アセスメント・プロトコル 改訂版、中央法規出版、2015 ・川越正平：在宅医療バイブル 家庭医療学、老年医学、緩和医療学も3領域からアプローチする 第2版、日本医事新報社、2018 				
その他				
連絡先・オフィスアワー	随時（事前にメールで連絡のこと k-hishida@）			
備考				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	菱田一恵	講義 1「食べるを助ける」 1) 口腔ケアと嚥下訓練 2) 在宅経管栄養法 3) 在宅輸液療法 ・予習内容について、授業開始時に小テストを行う。 [キーワード] 口腔ケアと嚥下訓練、低栄養予防、在宅経管栄養法、在宅中心静脈栄養法	講義	[予習] 左記 1)～3) の課題について、テキストを参考に、1課題につき1枚の指定された記録用紙(技術学習)に記述し持参する。(学習時間60分) [復習] 授業内容を、技術学習に追加で記述する。(学習時間30分)
2	松浦志野	講義 2「排泄を助ける」 4) 排泄支援 5) 人工肛門管理 6) 在宅膀胱留置カテーテル法 ・予習内容について、授業開始時に小テストを行う。 [キーワード] 排泄支援、移動の援助、在宅膀胱留置カテーテル法、人工肛門管理	講義	[予習] 左記 4)～6) の課題について、テキストを参考に、1課題につき1枚の指定された記録用紙(技術学習)に記述し持参する。(学習時間60分) [復習] 授業内容を、技術学習に追加で記述する。(学習時間30分)
3	菱田一恵、種市ひろみ、松浦志野、宮本圭、吉田めぐみ、森谷千春	在宅看護過程演習 1「食べるを助ける」事例演習 ・各自が予習した在宅看護過程演習 1 個人ワーク①～③の記録用紙を持参する。 ・事例に対する看護過程の展開について発表を聞き、各自担当事例の在宅看護計画を完成させる。 ・指定の期日までに担当事例の在宅看護計画を提出(詳細は授業内で説明)	個人での発表、講義	[予習] 第1回～第2回の授業内で提示された事例を熟読する。そのうち、担当する事例について、在宅看護過程を指定された記録用紙(在宅看護過程演習 1)に記載し、持参する。(学習時間60分) [復習] 発表を聞いて、新たに気づいたことや不足していた内容について、在宅看護計画に追加し記述する。(学習時間30分) [キーワード] 授業1回目～2回目を参照
4	菱田一恵、種市ひろみ、松浦志野、宮本圭、吉田めぐみ、森谷千春	在宅看護過程演習 1「排泄を助ける」事例演習 ・各自が予習した在宅看護過程演習 1 個人ワーク①～③の記録用紙を持参する。 ・事例に対する看護過程の展開について発表を聞き、各自担当事例の在宅看護計画を完成させる。 ・指定の期日までに担当事例の在宅看護計画を提出(詳細は授業内で説明)	個人での発表、講義	[予習] 第1回～第2回の授業内で提示された事例を熟読する。そのうち、担当する事例について、在宅看護過程を指定された記録用紙(在宅看護過程演習 1)に記載し、持参する。(学習時間60分) [復習] 発表を聞いて、新たに気づいたことや不足していた内容について、在宅看護計画に追加し記述する。(学習時間30分) [キーワード] 授業1回目～2回目を参照
5	吉田めぐみ	講義 3「呼吸を助ける」 7) 在宅人工呼吸療法 8) 在宅酸素療法 9) 排痰法と吸引(鼻腔・口腔・気管内) ・予習内容について、授業開始時に小テストを行う。 [キーワード] 肺炎・感染予防、在宅持続陽圧呼吸法、排痰法、在宅酸素療法、吸引・吸入法	講義	[予習] 左記 7)～9) の課題について、テキストを参考に、1課題につき1枚の指定された記録用紙(技術学習)に記述し持参する。(学習時間60分) [復習] 授業内容を、技術学習に追加で記述する。(学習時間30分)
6	種市ひろみ	講義 4「スキンケア・服薬を助ける」 10) 清潔ケアとフットケア 11) 褥瘡管理 12) 服薬管理 ・予習内容について、授業開始時に小テストを行う。 [キーワード] 清潔ケアとフットケア、褥瘡管理、在宅自己注射法、服薬管理	講義	[予習] 左記 10)～12) の課題について、テキストを参考に、1課題につき1枚の指定された記録用紙(技術学習)に記述し持参する。(学習時間60分) [復習] 授業内容を、技術学習に追加で記述する。(学習時間30分)
7	菱田一恵、種市ひろみ、松浦志野、宮本圭、吉田めぐみ、森谷千春	在宅看護過程演習 2「呼吸を助ける」事例演習 ・各自が予習した在宅看護過程演習 2 個人ワーク①～③の記録用紙を持参する。 ・事例に対する看護過程の展開について発表を聞き、各自担当事例の在宅看護計画を完成させる。 ・指定の期日までに「呼吸を助ける」の在宅看護計画を提出(詳細は授業内で説明)	個人での発表、講義	[予習] 第5回の授業内で提示された事例を熟読し、在宅看護過程を指定された記録用紙(在宅看護過程演習 2)に記載し、持参する。(学習時間60分) [復習] 発表を聞いて、新たに気づいたことや不足していた内容について、在宅看護計画に追加し記述する。(学習時間30分) [キーワード] 肺炎・感染予防、在宅持続陽圧呼吸法、排痰法、在宅酸素療法、吸引・吸入法

8	菱田一恵、種市ひろみ、松浦志野、宮本圭、吉田めぐみ、森谷千春	在宅看護過程展開演習 1) 初回訪問事例の在宅看護計画立案 ・看護過程に関する講義をもとに、提示された事例について、各自で在宅看護計画を立案する。 [キーワード] 在宅看護計画	個人ワーク	[予習] 第1～6回の授業資料をよく読み復習する。(学習時間30分)。 [復習] ・在宅看護計画の情報整理、関連図、在宅療養上の長期目標と課題に関する記録用紙を完成させる。(学習時間60分) [キーワード] 食べる、排泄、呼吸、スキンケア
9	宮本圭	講義5「リスクマネジメント」 [キーワード] リスクマネジメント	講義	[予習] リスクマネジメントについて、概論で使ったテキストp363～373を読んでおく。(学習時間60分) [復習] リスクマネジメントについて復習し、実習で訪問する際の注意点をまとめておく。(学習時間30分)
10	菱田一恵、種市ひろみ、松浦志野、宮本圭、吉田めぐみ、森谷千春	在宅看護過程展開演習 2) 初回訪問事例の在宅看護計画立案 (GW) ・優先順位の高い課題への具体的な看護計画、教員に確認したいことについてグループごとにディスカッションし、在宅看護計画を完成に近づける。 3) グループごとの役割決定 [キーワード] 在宅看護計画	グループワーク	[予習] 在宅看護計画を立案し授業時に持参する(学習時間60分)。 [復習] 在宅看護計画立案の考え方についてまとめる。(学習時間30分)。
11	菱田一恵、種市ひろみ、松浦志野、宮本圭、吉田めぐみ、森谷千春	在宅看護過程展開演習 4) 在宅看護計画発表 ・優先順位の高い課題についての具体的な看護計画をグループごとに発表 [キーワード] 在宅看護計画	グループごとに発表	[予習] これまでの授業資料を熟読し、様々な事例に対する看護方法を理解する。(学習時間30分) [復習] 授業内容について復習する。(学習時間30分)
12	菱田一恵、種市ひろみ、松浦志野、宮本圭、吉田めぐみ、森谷千春	在宅看護過程展開演習 5) 初回訪問ロールプレイについて講義 6) 初回訪問の行動計画 (個人ワーク) [キーワード] 初回訪問、援助関係形成過程	講義、個人ワーク	[予習] マナーレポートを提出に向け準備する。内容は、①訪問時の礼儀作法 (コートの脱衣場所、畳の歩き方、靴の脱ぎ方、座る場所など)、②尊敬語、謙譲語、丁寧語の使い方、に関するレポートを作成し、指定の期日までに提出する。①については、茶道の作法を参照する。ただし、お手前の方法ではなく訪問時のマナーについて調べる。また、自身の立案した在宅看護計画を授業時に持参する。(学習時間60分) [復習] マナーレポートを完成させ、指定された期日までに事務ボックスに提出する。(学習時間30分) [キーワード] 初回訪問、援助関係形成過程
13	菱田一恵、種市ひろみ、松浦志野、宮本圭、吉田めぐみ、森谷千春	在宅看護過程展開演習 7) 初回訪問の実演 ・初回訪問の場面を実演し発表する。 ・提示された課題用紙を指定の期日までに提出する。 [キーワード] 初回訪問、援助関係形成過程	ロールプレイ	[予習] 各自初回訪問の行動計画を完成させ実演の準備をする。(学習時間30分) [復習] 提示された課題用紙を完成させ、指定の期日までに提出する。詳細は、授業内で説明する。(学習時間30分)
14	菱田一恵、種市ひろみ、松浦志野、宮本圭、吉田めぐみ、森谷千春	在宅看護過程展開演習 7) 初回訪問の実演 (続き) ・初回訪問の場面を実演し発表する。 ・提示された課題用紙を指定の期日までに提出する。 [キーワード] 初回訪問、援助関係形成過程	ロールプレイ	[予習] 各自初回訪問の行動計画を完成させ実演の準備をする。(学習時間30分) [復習] 提示された課題用紙を完成させ、指定の期日までに提出する。詳細は、授業内で説明する。(学習時間30分)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記 (PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	在宅看護学実習	必修・選択	必修
英語科目名	Practicum in Home Care Nursing	対象学年	3, 4年
開講学期	複期	単位数	2単位
代表教員	種市 ひろみ	ナンバリング	PNL34B2
担当教員	種市ひろみ※、菱田一恵※、松浦志野※、宮本圭※、吉田めぐみ※、渡邊明子※、森谷千春※、早坂玉緒※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	多様な健康問題を持つあらゆる年代（ライフステージ）の在宅療養者とその家族に対し、生活の場で提供される看護活動の実際を学ぶ。具体的には、訪問看護ステーションの訪問看護師と療養者宅に同行訪問し、在宅看護過程の展開の実際を学び、可能であれば看護を実践する。また、専門職間連携の場へ参加し、日常的に行われている協働の様子を見学する。実習で得た学びをもとに学内でカンファレンスを行い実習体験を共有して学びを深め、在宅看護の意義や課題を考察する。			
授業の位置づけ	看護と理論の方法の中の「ソーシャルライフと看護」の科目のひとつである。在宅看護学は、あらゆる年代を対象とし、多様な疾病や障害をもちながら地域で暮らしている人々への看護について学修する。そのため、看護学概論、看護理論・看護過程、基礎看護方法論、小児・成人・高齢者・精神・公衆衛生看護学概論、人間関係論、家族関係論、社会福祉・社会保障論、看護倫理、の学修が基盤になる。在宅看護学概論を履修後、在宅看護方法論Ⅰにて多様な対象者への看護展開論を学び、在宅看護方法論Ⅱにて在宅看護技術を学び、在宅看護学実習にて臨地実習を行う。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	△DP1-CC、△DP1-CD、○DP2-CA、○DP2-CB、◎DP2-CC、○DP3-CA			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者とその家族の生活を理解できる。 2. 在宅における看護過程を展開できる。 3. 訪問看護師として倫理的配慮のもとに看護を提供する意義を理解できる。 4. 在宅療養における医療・保健・福祉に関する多職種連携と社会資源の活用的重要性を理解できる。 5. 看護者としての自己の役割を理解できる。 			
先修要件	在宅看護方法論Ⅱ			
関連科目	在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰ・Ⅱ			
学修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習前に関連科目を復習し、事前課題を行った上で臨むこと。 2. 主体的・積極的に実習をすること。 3. 援助を実施する場合は、訪問看護師と一緒に行うこと。 4. 家庭を訪問しての実習のため、訪問マナーやプライバシーには十分に配慮すること。 			
成績評価の方法				
評価方法	実習内容と実習記録による実習目標の達成度（80%）、実習への参加態度（20%）			
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者とその家族の生活を説明できるか。 2. 在宅における看護過程を展開できるか。 3. 訪問看護師として倫理的配慮のもとに看護を提供する意義を説明できるか。 4. 在宅療養における医療・保健・福祉に関する多職種連携と社会資源の活用的重要性を説明できるか。 5. 看護者としての自己の役割を説明できるか。 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
事業所実習中は、教員が事業所へ出向き、課題等に対するフィードバックを行う。 希望者には随時メールで受け付ける。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
NICE 在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして、改訂第2版	石垣和子/上野まり編	南江堂		
参考文献				
<ul style="list-style-type: none"> ・角田直枝：スキルアップのための在宅看護マニュアル、Gakken、2010 ・押川 真喜子：新訂版 写真でわかる訪問看護 アドバンス、インターメディアカ、2020 ・在宅ケア ナースポケットマニュアル：ウィル訪問看護ステーション、医学書院、2019 				
その他				
連絡先・オフィスアワー	連絡先：各実習担当教員の実習用携帯電話（オリエンテーションにて伝える）			
備考				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
実習開始前週 金曜日 午後	種市ひろみ ※、菱田一恵 ※、松浦志野 ※、宮本圭 ※、吉田めぐみ ※、渡邊明子 ※、森谷千春 ※、早坂玉緒 ※	実習直前オリエンテーション	事前オリエンテーションおよび施設別オリエンテーションを行う 【キーワード】 生活の理解、対象者の理解、在宅看護過程、看護師としての倫理的配慮、多職種連携、社会資源の活用	【事前課題】 1. 自己の到達目標をあらかじめ提出する。 2. 事前学習課題(①～⑫)等を直前オリエンテーションまでに、指定の記録用紙に記載する。 ①在宅人工呼吸療法 ②在宅酸素療法 ③吸引(鼻腔、口腔、気管内) ④口腔ケアと嚥下訓練 ⑤在宅経管栄養法(胃瘻の管理を含める) ⑥在宅輸液療法 ⑦排泄支援(排便、洗腸を含める) ⑧在宅膀胱留置カテーテル法 ⑨人工肛門管理 ⑩清潔ケアとフットケア ⑪褥瘡管理 ⑫在宅自己注射法、服薬管理 (学習時間80分)
実習2 日目～ 4日目	種市ひろみ ※、菱田一恵 ※、松浦志野 ※、宮本圭 ※、吉田めぐみ ※、渡邊明子 ※、森谷千春 ※、早坂玉緒 ※、ステーション職員	訪問看護ステーションにて臨地実習	一日2～4件の同行訪問 継続して訪問する療養者(在宅看護過程対象者)の決定 多職種間連携の場への参加	
実習5 日目 (1週 目金曜日 内)	種市ひろみ ※、菱田一恵 ※、松浦志野 ※、宮本圭 ※、吉田めぐみ ※、渡邊明子 ※、森谷千春 ※、早坂玉緒 ※	中間カンファレンス	カンファレンスにおいて実習における学びを発表し、思考を整理し、在宅看護計画立案へとつなげる。	
実習6 日目～ 9日目	種市ひろみ ※、菱田一恵 ※、松浦志野 ※、宮本圭 ※、吉田めぐみ ※、渡邊明子 ※、森谷千春 ※、早坂玉緒 ※、ステーション職員	訪問看護ステーションにて臨地実習	一日2～4件の同行訪問 多職種間連携の場への参加 施設における最終カンファレンス	【実習9日目までの課題】 ・統合カンファレンスにおいて、実習目的の達成に向けて協議したいトピックス・テーマを考えておく。 ・看護過程サマリーを作成し、継続して訪問した療養者の看護に関して整理する。 (学習時間80分)
実習10 日目 (2週 目金曜日 内)	種市ひろみ ※、菱田一恵 ※、松浦志野 ※、宮本圭 ※、吉田めぐみ ※、渡邊明子 ※、森谷千春 ※、早坂玉緒 ※	統合カンファレンス	カンファレンスにて、在宅看護実習の学びを発表・共有し、学習の統合をはかる。	

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記(PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	公衆衛生看護活動論	必修・選択	選択
英語科目名	Public Health Nursing Processes	対象学年	3年
開講学期	前期前半	単位数	1単位
代表教員	板井 麻衣	ナンバリング	PNL34C1
担当教員	板井麻衣※、岡本美代子※、仲里良子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	地域に生活する個人、家族、集団、組織、全てを対象として、健康レベルや地域特性に応じた健康の保持増進を図り、疾病の発生及び悪化を予防するための基礎的な看護活動の方法と実際を学ぶ。			
授業の位置づけ	本科目は看護の理論と方法に位置づけられており、地域に生活する個人、家族、集団、組織、全てを対象として、健康レベルや地域特性に応じた健康の保持増進を図り、疾病の発生及び悪化を予防するための基礎的な看護活動の方法と実際を学ぶ。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	ODP2-1、◎DP2-II、ODP2-III、ODP3-1			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 保健師による公衆衛生看護活動の場、活動内容、方法について理解し、説明できる。 2) 保健師の家庭訪問技術について必要な基礎的知識・技術・態度を習得し、実践できる。 3) 健康相談・健康診査について必要な基礎的知識・技術・態度を習得し、実践できる。 4) 保健師による保健指導について必要な基礎的知識・技術・態度を習得し、実践できる。 5) 保健師のグループ支援における役割、住民の力を引き出す支援について理解し、説明できる。 6) 地域の様々な場面、対象、条件を考慮した健康教育の企画から評価にいたる過程を学び、現場での基本的実践方法について説明できる。 			
先修要件	なし			
関連科目	公衆衛生看護学概論、地域生涯保健活動論、地域診断論、学校保健、産業保健、地域包括ケアシステム論、公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ			
学修上の注意	授業は受け身ではなく、主体的に臨むこと。 授業内容は、考え、理解し、自分の言葉で説明できるようになること。			
成績評価の方法				
評価方法	定期試験（80％）、学習状況および課題レポート（20％）			
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1) 保健師による公衆衛生看護活動の場、活動内容、方法について理解し、説明できている。 2) 保健師の家庭訪問技術について必要な基礎的知識・技術・態度を習得し、実践できている。 3) 健康相談・健康診査について必要な基礎的知識・技術・態度を習得し、実践できている。 4) 保健師による保健指導について必要な基礎的知識・技術・態度を習得し、実践できる。 5) 保健師のグループ支援における役割、住民の力を引き出す支援について理解し、説明できる。 6) 地域の様々な場面、対象、条件を考慮した健康教育の企画から評価にいたる過程を学び、現場での基本的実践方法について説明できる。 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
授業の復習や課題に対するフィードバックは、次回講義またはJUNTENDO-PASSPORTなどを利用して各担当教員が講評や解説を行う。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
公衆衛生看護学. JP		インターメディカル		最新版
国民衛生の動向		厚生労働統計協会		最新版
保健師業務要覧		日本看護協会出版会		最新版
最新公衆衛生看護学総論・各論Ⅰ・各論Ⅱ		日本看護協会出版会		最新版
参考文献				
その他				
連絡先・オフィスアワー	随時(事前にメールで連絡) 板井 麻衣 : m.itai.bq@juntendo.ac.jp			
備考				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	板井麻衣	公衆衛生看護に求められる機能と技術 地域保健活動の基盤となる理論		<p>[予習] 教科書1)3)4)の保健師と公衆衛生看護活動を予め読んで理解しておく。公衆衛生看護学概論、地域生涯保健活動論の内容を理解しておくこと。 (学習時間90分)</p> <p>[復習] 予習した内容と授業で学んだことを復習し、公衆衛生看護活動の場、活動内容、方法についての理解を深める。 (学習時間90分)</p> <p>[キーワード] ヘルスプロモーション、一次予防・二次予防・三次予防、保健行動と保健活動、保健師、保健指導、地域診断、家庭訪問、健康相談、健康教育、健康診査、グループ支援・地区組織活動</p>
2	板井麻衣	地域保健活動の方法と技術 1) 家庭訪問		<p>[予習] 家庭訪問の特徴や対象者、訪問のプロセスについて、教科書1)3)4)を読み理解しておく。 (学習時間90分)</p> <p>[復習] 家庭訪問における保健師の役割と方法についてまとめる。 (学習時間90分)</p> <p>[キーワード] 対象選定と優先順位、家族アセスメント、訪問計画・訪問記録、ケースマネジメント</p>
3	板井麻衣	地域保健活動の方法と技術 2) 健康診査 3) 健康相談		<p>[予習] 教科書1)3)4)を読み、健康診査、健康相談にはどのような場面や対象、相談内容があるかについて調べる。 (学習時間90分)</p> <p>[復習] 健診・健康相談における保健師の役割と方法について、教科書の該当箇所を読み振り返る。 (学習時間90分)</p> <p>[キーワード] ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチ、信頼関係、コミュニケーション技法、カウンセリング技法</p>
4	板井麻衣	地域保健活動の方法と技術 4) 保健指導		<p>[予習] 保健師が行う保健指導の特徴について、教科書を読み理解しておく。 (学習時間90分)</p> <p>[復習] 保健師が行う保健指導の特徴、目的・対象に応じた方法の選択について教科書の該当箇所を読み振り返り、保健指導案を作成する。 (学習時間100分)</p> <p>[キーワード] 保健セルフケア行動、行動変容、エンパワメント、自己効力感、ヘルスリテラシー</p>
5~6	仲里良子	地域保健活動の方法と技術 5) 健康教育		<p>[予習] 教科書1)3)4)を読み、健康教育の目的や対象、プロセスについて学習しておく。 (学習時間90分)</p> <p>[復習] 対象者の特性に合わせた健康教育の方法について考える。 (学習時間100分)</p> <p>[キーワード] 行動変容理論、健康教育企画書・指導案、教育媒体(教材)、健康教育の評価</p>

7	岡本美代子	地域保健活動の方法と技術 6) 住民グループ支援	<p>[予習] 教科書1)3)4)を読み、グループ支援の目的やグループの種類、支援方法について学習しておく。 (学習時間90分)</p> <p>[復習] グループ支援における保健師の役割、住民の力を引き出す保健師の支援について考える。 (学習時間90分)</p> <p>[キーワード] グループ支援、セルフ・ヘルプ・グループ、地区組織化活動、リーダーシップ・メンバーシップ、グループ・ダイナミックス</p>
---	-------	-----------------------------	---

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	地域診断論	必修・選択	選択
英語科目名	Community Health Assessment	対象学年	3年
開講学期	前期後半	単位数	1単位
代表教員	原田 静香	ナンバリング	PNL34C2
担当教員	原田静香※、櫻井しのぶ※、岡本美代子※、仲里良子※、板井麻衣※、岡部花枝※、中西唯公※、鹿島田祐子※、中山久子※、森永みさ子※	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	地域に生活する個人・家族・集団・組織を対象とした、保健師活動の展開に必要な地域診断を行うための知識と技法を学ぶ。				
授業の位置づけ	<p>本科目は看護の理論と方法に位置づけられており、地域に生活するあらゆる健康レベルの個人・家族・集団・組織を対象として保健師活動を展開する上で必要な、アセスメント・地域診断、さらには地域の特性に応じた公衆衛生看護活動を展開するための企画・評価・管理について理論と技術を学ぶ。</p> <p>公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動論、地域生涯保健活動論を通して、公衆衛生看護学の基本的理念・理論、活動方法やその実際について学修したことをつなげて地域診断レポートを作成することによって、本科目の学びはさらに地域の包括的なシステム形成へと繋がり、実践としての公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱへと学習が展開される。</p>				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	△DP1-Ⅳ、○DP2-Ⅰ、◎DP2-Ⅱ、○DP2-Ⅲ、○DP3-Ⅰ				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域診断のプロセスを理解し、実施できる 2. 地域の健康状態を表す社会で活用されている指標(人口動態統計、各種保健統計等)や、自治体等が公開している人の健康行動に関する調査データ、地域の環境や社会資源等の情報を実際に収集することが出来る。 3. 収集した情報を分析し、既存の知識を用いて地域のアセスメントが出来る 4. 既習の学習で得た多様な知識を用いて、健康問題解決に向けた方策を考えることができる 5. 地域の健康水準向上を目指す保健師活動について理解する 6. 世の中で起きている健康課題について興味を持つようになる 7. 主体的に学ぶ姿勢が身につく 				
先修要件	なし				
関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動論、地域生涯保健活動論、地域包括ケアシステム論、公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は受け身ではなく、主体的に臨むこと。自分自身で考え、理解し、自分の言葉で発言できるようになること。 ・講義内ではグループによる協同学習も実施するため、自ら積極的に学習し、メンバーと協働して活動を行うこと。 				
成績評価の方法					
評価方法	定期試験、および地域診断レポートでそれぞれ基準以上の成績を修めること。どちらか一方でも評価が基準を下回る場合は不合格となる。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験 60点以上 2. 地域診断レポート60点以上 <p>事前課題・地域診断レポートの作成と提出(40%)、事前課題・地域診断レポートの評価(40%)、上級課題の提出(詳細は講義内で説明)(20%)</p> <p>*なお、地域診断レポートの質の評価基準は以下の5つを用います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域診断に必要な情報(アセスメントの8側面に該当)が十分に収集できる 2. レポートが理論的に述べられる(データを適切に読み取り、統合・推察・判断し、健康問題を推測するという流れ) 3. 健康問題の抽出が適切である 4. レポートの体裁が適切である(図表の書き方、出典、マップの有無など) 5. GWでの学びや教員コメントに対して適切な修正・改善がなされる <p>※1と2の両方の条件を満たすこと。再試験等は実施しない。</p>				
試験・課題に対するフィードバック方法					
事後課題(復習)で作成した個人レポートは、次の講義(グループワーク)に用いて学習を進めることとなる。よって、グループワークの際に各担当教員からのコメントやアドバイスによってフィードバックを行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	公衆衛生看護学 JP		インターメディカル		
	国民衛生の動向		厚生労働統計協会		
	最新公衆衛生看護総論・各論Ⅰ・各論Ⅱ		日本看護協会出版会		
参考文献					
<ul style="list-style-type: none"> ・保健師業務要覧 日本看護協会出版会 ・エリザベス T. アンダーソン他編、金川克子他監訳：コミュニティアズパートナー地域看護学の理論と実際、医学書院 ・佐伯和子編著：地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド第2版、医歯薬出版株式会社 ・日本公衆衛生協会：2. 地域診断ガイドライン、http://www.jpna.or.jp/sub/pdf/menu04_2_10_02.pdf 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時(事前にメールで連絡のこと) sharada@juntendo.ac.jp				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	原田	<p>地域診断とは何か 保健師活動と地域診断のつながり 地区を知るコミュニティ・アズパートナーモデルとは</p> <p>地域診断のプロセス① モデル中のコアと8側面の視点 地域の情報収集</p> <p>地区踏査とは 地区踏査の方法と地区を見る視点</p>	講義	<p>[予習] 「浦安市紹介動画」にある資料をすべて熟読（視聴）し、課題に回答せよ（詳細は別途連絡）（学習時間60分）</p> <p>[復習] 担当地区の地区踏査を実施し、レポートを作成する。詳細は別途説明する（学習時間60分）</p>
2	櫻井 原田 岡本 仲里 板井 岡部 中西 中山 鹿島田 森永	<p>地域診断のプロセス② 地域診断に必要な情報（人口動態統計、各種保健統計、自治体等で公開されている人の健康行動に関する調査データ等）の入手と活用方法 収集した情報の解釈・分析・統合と判断・推論の考え方</p> <p>演習のオリエンテーション 地域診断の評価について・上級課題について 演習の進め方・課題の進め方 ICEルーブリックについて</p>	講義 GW	<p>[予習] 前回の授業内容・課題について理解しておくこと。（学習時間20分）</p> <p>[復習] 個人課題、グループ課題を出題予定。詳細は別途説明する。（学習時間60分）</p>
3	櫻井 原田 岡本 仲里 板井 岡部 中西 中山 鹿島田 森永	<p>グループワーク① 健康に関する情報収集とアセスメント</p>	GW	<p>[予習] 前回の授業内容・課題について理解しておくこと。（学習時間20分）</p> <p>[復習] 個人課題、グループ課題を出題予定。詳細は別途説明する。（学習時間60分）</p>
4	原田	<p>健康問題の抽出 健康問題の明確化 優先順位の決定 目標の設定 解決の方向性（保健活動の方向性）を考える</p>	講義	<p>[予習] 前回の授業内容・課題について理解しておくこと。（学習時間20分）</p> <p>[復習] 個人課題、グループ課題を出題予定。詳細は別途説明する。（学習時間60分）</p>
5	櫻井 原田 岡本 仲里 板井 岡部 中西 中山 鹿島田 森永	<p>グループワーク② 健康問題の抽出</p>	GW	<p>[予習] 前回の授業内容・課題について理解しておくこと。（学習時間20分）</p> <p>[復習] 個人課題、グループ課題を出題予定。詳細は別途説明する。（学習時間60分）</p>
6	櫻井 原田 岡本 仲里 板井 岡部 中西 中山 鹿島田 森永	<p>グループワーク③ 健康問題の解決に向けた保健師活動の方向性の提案</p>	GW	<p>[予習] 前回の授業内容・課題について理解しておくこと。（学習時間20分）</p> <p>[復習] 個人課題、グループ課題を出題予定。詳細は別途説明する。（学習時間60分）</p>
7	板井	<p>地区活動計画の立案 保健事業の組み立て・予算と施策化 地域診断のまとめ</p>	講義	<p>[予習] 教科書を読み、計画策定のプロセスや予算のしくみについて確認する（学習時間30分）</p> <p>[復習] 地域や住民の状況に合わせた活動を行うための保健師の役割と地域診断のつながりを考える（学習時間30分）</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	学校保健	必修・選択	選択
英語科目名	School Health	対象学年	3年
開講学期	後期後半	単位数	1単位
代表教員	仲里 良子	ナンバリング	PNL34C3
担当教員	仲里良子※、中西唯公※、吉越聖子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	学校保健における保健活動の実際とその方法を学び、養護教諭の果たす役割を学ぶ。児童・生徒の健康問題の現状を理解し、必要な対応方法を学ぶ。学校保健活動と地域保健活動の連携について学ぶ。				
授業の位置づけ	本科目は看護の理論と方法に位置づけられており、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動論、地域生涯保健活動論を通して、公衆衛生看護学の基本的理念・理論、活動方法やその実際について学修したことをつなげて、学校保健における保健活動の実際とその方法を学び、養護教諭の果たす役割、学校保健と地域保健活動の連携について学ぶ。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	ODP2-I、◎DP2-II、ODP3-I				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校保健の構造や仕組みについての理解を深め、関係法規、関係職種役割について説明できる。 2. 現在の児童・生徒の特徴と健康問題を知り、計画立った保健室経営や養護教諭としての活動を考えることができる。 3. 保健管理の目的、対象や構造、内容とその方法、事後措置を整理し、学校保健管理のあり方について説明できる。 4. 個々の対象に応じた支援や保健教育のあり方について説明できる。 5. 学校保健活動を推進する仕組みと地域保健との連携について説明できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	公衆衛生看護学概論、地域生涯保健活動論、公衆衛生看護方法論、地域診断論、産業保健、地域包括ケアシステム論、統合実習、公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ				
学修上の注意	授業は受け身ではなく、主体的に臨むこと。 提示した課題に必ず取り組むこと。 授業内容は、考え、理解し、自分の言葉で説明できるようになること。				
成績評価の方法					
評価方法	課題レポートによる授業への取り組みに対する評価（20%）、定期試験（80%）				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校保健の構造や仕組みや関係法規、関係職種の役割について説明することができるか。 2. 現在の児童・生徒の特徴と健康問題に沿った保健室経営や養護教諭としての活動について説明することができるか。 3. 保健管理の目的、対象や構造、内容とその方法、事後措置を整理し、学校保健管理のあり方について説明できるか。 4. 個々の対象に応じた支援や保健教育のあり方について説明できるか。 5. 学校保健活動を推進する仕組みと地域保健との連携について説明できるか。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
授業の復習や課題に対するフィードバックは、次回講義またはJUNTENDO-PASSPORTなどを利用して講評や解説を行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	公衆衛生看護学 JP		インターメディカル		最新版
	国民衛生の動向		厚生労働統計協会		最新版
	最新公衆衛生看護学各論1		日本看護協会出版会		最新版
参考文献					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 学校保健マニュアル 第9版 南山堂 2) 子どもの心と臨床発達 学陽書房 3) 新訂版 学校保健実務必携 第5次改訂版 第一法規株式会社 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時(事前にメールで連絡のこと) r-nakazato@juntendo.ac.jp				
備考					
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	仲里良子	<p>学校保健と公衆衛生看護 (地域診断から学校保健をとらえる)</p> <p>学校保健の概要 (学校保健の考え方、学校保健のしくみ：組織、構造、法規など)</p>	講義	<p>予習：これまでに講義等で習ったことや参考文献から学校保健の構造や関係法規について調べる。(学習時間120分)</p> <p>復習：学校保健の仕組みについて理解を深め、関係法規、関係職種の役割についてまとめる。(学習時間120分)</p> <p>キーワード：学校保健安全法 学校教育法 教育基本法 保健教育 保健管理</p>	

2	中西唯公	児童生徒の健康問題の現状と学校保健における対応 養護教諭の役割と保健室の機能	講義	<p>予習：学童期、思春期の身体・精神的特徴とどのような方法で健康状態を把握しているかを調べる。 法的根拠や答申などを参考に養護教諭の職務内容、求められている役割と保健室の機能について調べる。（学習時間120分）</p> <p>復習：発達段階と健康問題についてまとめ、対象の特性に応じた対応について考える。 学校や対象の特性を踏まえ、養護教諭の活動のあり方や保健室経営についてまとめる。（学習時間120分）</p> <p>キーワード：発達課題、思春期、学童期、健康状態、保健室、養護教諭、保健室経営計画</p>
3	仲里良子	学校保健の概要（各論） ・保健管理 （感染症、健康診断、健康観察、健康相談、学校環境衛生）	講義	<p>予習：学校における保健管理としての健康診断、健康観察、健康相談、感染症予防、学校環境衛生に関する関係職種、関係法規について調べる。（学習時間120分）</p> <p>復習：保健管理の目的、対象や構造、内容とその方法、事後措置を整理し、学校保健の管理のあり方についてまとめる。学校保健管理における養護教諭の果たす役割についてまとめる。（学習時間120分）</p> <p>キーワード：保健管理、健康診断、健康観察、感染症予防、健康相談、学校環境衛生、学校安全</p>
4	中西唯公	学校保健の概要（各論） ・保健教育	講義	<p>予習：学校における保健教育について学習指導要領などを参考に学年と内容について調べる。（学習時間120分）</p> <p>復習：よりよい保健教育のあり方（健康教育の方法）についてのポイントをまとめる。 個々の対象または集団に応じた支援や健康教育のあり方の実際についてまとめる。（学習時間120分）</p> <p>キーワード：保健教育、保健体育、学習指導要領、学校教育法、食育基本法</p>
5~6	吉越聖子 （非常勤）	学校における学校保健と養護教諭の実際 （現役養護教諭からの講義と質疑応答）	講義 グループワーク	<p>予習：現在の児童生徒に生ずる疾病や健康障害、感染症や心の健康問題の現状を調べる。 法的根拠や答申などを参考に保健室の役割と養護教諭の職務内容、求められている役割について調べる。（学習時間120分）</p> <p>復習：個々の対象に応じた支援や健康教育のあり方の実際についてまとめる。 学校や対象の特性を踏まえ、計画立った保健室経営や養護教諭の活動の実際についての考えをまとめる。（学習時間120分）</p> <p>キーワード：保健室、養護教諭、保健室経営計画、養護教諭による健康相談、健康教育、保健管理</p>
7	中西唯公 仲里良子	学校保健と公衆衛生看護 ・保健組織活動 ・学校保健を推進する仕組みと地域との連携 学校保健の今後の課題と展望 （まとめ）	講義	<p>予習：学校保健を展開する中でどのような職種や機関との協働・連携が必要であり、効果的であるかを考える。（学習時間120分）</p> <p>復習：これまで学んだことから学校保健の概要についてまとめ、対象に応じた対応の仕方をまとめる。（学習時間120分）</p> <p>キーワード：組織活動、学校保健委員会、地域、連携、学校保健の推進</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	産業保健	必修・選択	選択
英語科目名	Occupational Health	対象学年	3年
開講学期	後期後半	単位数	1単位
代表教員	櫻井 しのぶ	ナンバリング	PNL34C4
担当教員	櫻井しのぶ※、岡部花枝※、福田洋※、鈴木真鳥※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	企業の特性に応じて労働者の仕事と健康の調和をはかる産業保健について、実践的に学ぶ科目である。現場で実際に勤務する産業医や産業保健師を講師に迎え、産業保健の現状と課題について学習する。産業保健の概要とその仕組み、労働衛生における健康問題（職業性疾患、生活習慣病、メンタルヘルスなど）について理解する。働く人々の健康と職務との両立を支えるための産業保健活動として、労働衛生の3管理を中心に理解する。			
授業の位置づけ	本科目は看護の理論と方法に位置付けられており、企業の特性に応じて労働者の仕事と健康の調和をはかる産業保健について、実践的に学ぶ科目である。現場で実際に勤務する産業医や産業保健師を講師に迎え、産業保健の現状と課題について学習し、次年度に行う公衆衛生看護学実習Ⅱ（産業）へと繋がっていく。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	ODP2-I、◎DP2-II、ODP3-I			
到達目標	1) 産業保健の法的根拠や制度について説明できる。 2) 現代の労働の現状を踏まえ、労働者の健康問題を考えることができる。 3) 産業保健活動について、労働衛生の3管理の観点から説明ができる。 4) 労働者の健康問題に対応し、労働と健康の調和をはかることで労働生産性の維持向上に貢献する産業保健師の役割について説明できる。 5) 産業保健と地域保健の連携について説明できる。			
先修要件	なし			
関連科目	公衆衛生看護学概論、地域生涯保健活動論、公衆衛生看護学活動論、地域診断論、学校保健、地域包括ケアシステム論、公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ			
学修上の注意	授業は受け身ではなく、主体的に臨むこと。 提示した課題は必ずやってくること。 授業内容は、考え、理解し、自分の言葉で説明できるようになること。			
成績評価の方法				
評価方法	課題レポートと講義ごと的小テストによる知識の確認（20%） 定期試験（80%）			
評価基準	1) 産業保健の法的根拠や制度について説明できるか。 2) 現代の労働の現状を踏まえ、労働者の健康問題を考えることができるか。 3) 産業保健活動について、労働衛生の3管理の観点から説明ができるか。 4) 労働者の健康問題に対応し、労働と健康の調和をはかることで労働生産性の維持向上に貢献する産業保健師の役割について説明できるか。 5) 産業保健と地域保健の連携について説明できるか。			
試験・課題に対するフィードバック方法				
授業の復習や課題に対するフィードバックは、次回講義またはJUNTENDO-PASSPORTなどを利用して講評や解説を行う。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
産業看護学第2版	河野啓子 著	日本看護協会出版会	978-4-8180-2547-9	最新版
国民衛生の動向 2022/2023		厚生労働統計協会		最新版
公衆衛生看護学、JP 第5版	荒賀直子 編	インターメディカル	978-4-900828-81-0	最新版
最新公衆衛生看護学第3版 各論2	宮崎美砂子 編	日本看護協会出版会	978-4-8180-2370-3	最新版
参考文献				
1) 労働衛生のしおり 令和4年度 中央労働災害防止協会（編集） 2) 産業保健マニュアル 改訂8版 南山堂				
その他				
連絡先・オフィスアワー	随時（事前にメールで連絡のこと ssakura@）			
備考				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	櫻井しのぶ	産業保健の目的・対象 産業保健の成り立ちと労働者の健康問題 労働衛生行政と施策	講義	<p>[予習] 教科書の産業保健や国民衛生の動向の労働衛生の項を予め読んでおくこと。 公衆衛生看護学概論の産業保健の資料を読んでおくこと。 (学習時間120分)</p> <p>[復習] 予習した内容と授業で学んだことを復習し、産業保健の概要について理解を深める。 (学習時間120分)</p> <p>[キーワード] 産業保健、労働基準法、労働安全衛生法、ILO、産業保健師</p>
2	岡部花枝	労働者の健康状態の現状と労働衛生における健康問題 産業保健師による企業や対象の特性を踏まえた産業保健活動の展開と産業保健師の役割	講義	<p>[予習] 教科書を読み、産業保健活動における保健師の活動内容や求められている役割について調べる。 (学習時間120分)</p> <p>[復習] 企業や対象の特性を踏まえ、産業保健師の活動のあり方、保健指導方法についてまとめる。 (学習時間120分)</p> <p>[キーワード] 産業保健師、職場環境改善、職業病、保健指導、トータル・ヘルスプロモーション、ワーク・ライフ・バランス、地域職域連携</p>
3~4	鈴木真鳥	IT企業の産業保健師による産業保健活動の実際 企業における労働者の今日的な健康問題（特にシステム・エンジニア職について） 産業保健師の役割 産業保健における今後の課題	講義	<p>[予習] これまで学習した内容から健康管理の内容と関係法規、関係職種についてまとめておく。 (学習時間120分)</p> <p>[復習] 事業所に固有の健康課題と固有の安全衛生組織・機構について理解を深める。産業保健活動の法的根拠をまとめる。 事業所における看護職の職務の実際を理解し、機能集団や組織を対象として行われる労働者の健康管理に果たす看護職の役割を考察する。 (学習時間120分)</p> <p>[キーワード] 産業保健師、VDT作業、過重労働対策、メンタルヘルス</p>
5	福田洋	大企業の産業医による産業保健活動の実際 1 (1) 産業保健の法規と労働衛生管理体制・労働衛生の3管理・職場における災害対策 (2) 健康管理 (3) 健康教育とヘルスプロモーション 国際学会の話題から産業保健の今日的なトピックスについてもとりあげる。	講義	<p>[予習] 公衆衛生看護学概論や教科書から産業保健の構造や関連法規について調べる。 (学習時間120分)</p> <p>[復習] 授業プリントを見直し、職場の安全衛生管理体制と労働衛生の3管理について理解を深め、関係職種の役割についてまとめる。 (学習時間120分)</p> <p>[キーワード] 労働安全衛生関係法規、労働基準法、労働安全衛生法、ヘルスプロモーション、生活習慣病、メタボリック・シンドローム</p>
6~7	福田洋	大企業の産業医による産業保健活動の実際 2 (4) 職業病・作業関連疾患・業務上疾病と作業環境管理・快適職場 (5) 作業管理と職場巡視 (6) 職場における喫煙対策 (7) 職場における健康づくり (8) 職場における感染症対策 (9) メンタルヘルス 事例検討 学会・研究会の活用法	講義	<p>[予習] 教科書を読み、労働衛生における健康問題や産業衛生管理方法を確認する。 (学習時間120分)</p> <p>[復習] 各回の授業で用いたプリントを中心に復習を行なうこと。産業保健活動を行なうためのプロセス及び管理方法をまとめる。 (学習時間120分)</p> <p>[キーワード] 生活習慣病、メンタルヘルス、健康管理、作業管理、作業環境管理、特定健康診査・特定保健指導、定期健康診断、特殊健康診断、健康相談、健康教育、健康増進</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	公衆衛生看護学実習Ⅰ（行政・地域）	必修・選択	選択
英語科目名	Practicum in Public Health Nursing I	対象学年	4年
開講学期	後期前半	単位数	3単位
代表教員	櫻井 しのぶ	ナンバリング	ANL34C1
担当教員	櫻井しのぶ※、原田静香※、岡本美代子※、仲里良子※、板井麻衣※、岡部花枝※、鹿島田祐子※、中山久子※、森永みさ子※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域に生活する個人、家族、集団を対象とし、健康レベルや地域特性に応じた健康の保持増進、健康問題の発生および悪化の予防を支援する看護活動の展開について、実践を通して学ぶ。さらに、保健・医療・福祉のあり方について理解を深め、地域看護活動に必要な実践能力を養う。 2. 看護の応用的、専門的実践活動についての理解をさらに深めるために、自らの学習テーマに沿って、既学習内容を総合的に応用し、主体的に探究する。そしてリフレクションを通して保健師活動の在り方を熟考するとともに、科学的思考能力を高め、公衆衛生看護の実践能力を養う。 				
授業の位置づけ	本実習は保健師科目に関するすべての単位を取得した上で臨む臨地実習である。カリキュラムマップの「看護の理解と方法」のAdvanced Nursing Levelに位置している。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP2-Ⅲ、○DP2-I、○DP2-II、○DP3-I				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健所、市町村における衛生行政の機能と役割を説明することができる。 2. 地域診断実習にて抽出した健康問題について、実習を通して再検討した上でその内容を説明することができる。 3. 地域の特性をふまえた健康に関する看護活動（健康教育、健康相談、家庭訪問、健康診査、地区組織活動など）の実践的な展開方法を理解（一部、指導者の指導の下に実施）できる。 4. 地域における看護職の役割について説明することができる。 5. 保健・医療・福祉の関係機関との連絡調整、社会資源の活用等を通して連携のあり方を説明することができる。 6. 保健医療福祉チームメンバーとして必要な態度を養い、実行できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	公衆衛生看護学概論、保健学概論、地域生涯保健活動論、公衆衛生看護活動論、地域診断論、保健医療福祉行政論、学校保健、産業保健、地域包括ケアシステム論、統合実習、公衆衛生看護学実習Ⅱ				
学修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習担当地域の地域踏査、地域診断を積極的に実施し、担当教員と十分に検討しておくこと。 2. 地域診断より抽出された担当地域の健康課題解決に向け、自らの実習目的・計画を立てること。 3. 事前課題に取り組み、臨地実習に必要な知識と技術を備えて実習に臨むこと。保健師活動に関するDVD教材は図書館に設置してあるため、必ず事前に視聴しておくこと。 4. 実習期間中は臨地の状況によって経験する保健師活動は様々であるが、実習時間内を活用して学生間でのカンファレンスと情報交換を行い、学びを共有する。 				
成績評価の方法					
評価方法	実習内容及び実習記録（60%）、学習者としての姿勢・態度（10%）、実習報告・レポート（30%）				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・行政で行われている保健活動について説明ができるか ・地域や対象集団の特性を把握し、その特性と保健師活動との関連を理解し説明することができるか ・公衆衛生における看護職の役割について述べるができるか 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題等についてのフィードバックは、実習中の個別指導の際に各教員からコメント、またはJ-passへの掲示等で行います。また、希望者には随時メールも受け付けます。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	公衆衛生看護学. JP	荒賀直子・後閑容子	インターメディカル	978-4-900828-81-0	
	国民衛生の動向（最新版）		一般財団法人 厚生労働統計協会		
	最新公衆衛生看護学総論、各論1・2		日本看護協会出版会		
参考文献					
保健師業務要覧 日本看護協会出版会					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時（担当教員へ事前にメールで連絡のこと） 櫻井：ssakura@juntendo.ac.jp 原田：sharada@juntendo.ac.jp 岡本：myokamo@juntendo.ac.jp 仲里：r-nakazato@juntendo.ac.jp 板井：m.itai_bq@juntendo.ac.jp 岡部：（後日提示） 鹿島田：ykashima@juntendo.ac.jp 中山：hnakaya@juntendo.ac.jp 森永：m-morinaga@juntendo.ac.jp				
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護学.jp インターメディカル 2. 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 3. 保健師業務要覧 日本看護協会出版会 4. 最新公衆衛生看護学総論、各論1~2 日本看護協会出版会 				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
	櫻井しのぶ 原田静香 岡本美代子 仲里良子 板井麻衣 岡部花枝 鹿島田祐子 中山久子 森永みさ子	<p>実習内容：</p> <p>1) オリエンテーション ・施設における組織や地域の特徴に関する説明等</p> <p>2) 学内実習 ・既習の知識についての確認 ・健診場面における保健指導の演習 ・家庭訪問演習</p> <p>3) 臨地実習 ・家庭訪問・健康相談・健康診査・健康教育・地区組織活動の育成・地域ケアシステムの創造等、保健師活動の見学や実践 ・住民に対する健康教育の実践 ・健康支援に関する多職種との連携の見学及び説明 ・健康支援に関連する社会資源の見学、及び説明 等</p> <p>4) 実習のまとめ ・実習報告レポートの作成 ・地域診断レポートの完成</p>	<p>実習方法：1グループ3～4名に分かれ、3単位の実習を行う。 実習施設：保健所、市町村、産業保健等の臨地において実習を行う。 詳細は実習要項等に記す。</p>	<p>【予習】</p> <p>1) 以下について既習の知識の復習をしておく。各項目の詳細な内容については実習要項に記載している。予習の項目については、実習前に確認テストを実施する。(各60～120分)</p> <p>①地域保健活動に関する基礎知識について学習する。 ②保健師活動時に必要な知識や技術 ③保健師活動の関連したDVD教材の視聴</p> <p>2) 実習前学内演習の準備 詳細は実習要項に記載している。実習オリエンテーションにおいても該当の資料を配布する。</p> <p>①家庭訪問演習について(約120分) ・家庭訪問計画の立案 ・訪問計画に立案した内容についての手技の確認 ②健康教育の準備(必要時間は実習担当地域の状況による) ・企画書、指導案、台本の作成</p> <p>【復習】 担当地域の健康課題解決に向け、地域に適した保健師活動を考える。(約60分)</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	公衆衛生看護学実習II (産業)	必修・選択	選択
英語科目名	Practicum in Public Health Nursing II	対象学年	4年
開講学期	後期前半	単位数	1単位
代表教員	櫻井 しのぶ	ナンバリング	ANL34C2
担当教員	櫻井しのぶ※、原田静香※、岡本美代子※、仲里良子※、板井麻衣※、岡部花枝※、鹿島田祐子※、久田 雅紀子※、森永みさ子※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	1. 働く人々や組織を対象とし、企業特性に応じた健康の保持増進、健康問題の発生および悪化の予防を支援する産業保健活動の展開について学ぶ。また、産業保健専門職および安全衛生部門の役割を学び、企業内関係部署との連携および地域との連携について理解を深め、産業看護職の役割を遂行できる能力を養う。 2. 産業保健の応用的・専門的実践活動についての理解をさらに深めるために、自らの学習テーマに沿って、既学習内容を総合的に応用し、主体的に探究する。その結果をレポートとしてまとめ、リフレクションを通して産業保健活動のあり方を熟考することとともに、産業看護職としての能力を養う。				
授業の位置づけ	本実習は保健師科目に関するすべての単位を取得した上で臨む臨地実習である。カリキュラムマップの「看護の理解と方法」のAdvanced Nursing Levelに位置している。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	ODP2-II、◎DP2-III、ODP3-I、ODP5-I				
到達目標	1. 企業・事業所における健康支援部門および安全衛生部門の役割を説明することができる。 2. 企業・事業所の特性と健康問題を把握し産業看護職の役割の現状と課題を説明することができる。 3. 他職種・他組織との連携について学び連携における産業看護職の役割を説明することができる。 4. 産業保健における看護職の役割や今後の展望や課題について説明することができる。 5. 産業看護職としてよりよい活動を目指した自己の資質向上のために努力する態度を養い、実行することができる。				
先修要件	なし				
関連科目	公衆衛生看護学概論、地域生涯保健活動論、公衆衛生看護活動論、地域診断論、産業保健、学校保健、地域包括ケアシステム論、公衆衛生看護学実習I (行政・地域)				
学修上の注意	1. 事前に実習先となる企業・事業所の概要を、実習先の企業・事業所ホームページ等を調べてまとめ、そこから抽出した実習先の健康課題解決に向け、自らの実習目的・計画を立てること。 2. 産業保健に必要な知識と技術を備えて実習に臨むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	実習内容及び実習記録 (70%)、学習者としての姿勢・態度 (10%)、実習報告・レポート (20%)				
評価基準	1. 企業・事業所における健康支援部門および安全衛生部門の役割を説明できるか。 2. 企業・事業所の特性と健康問題を把握し産業看護職の役割の現状と課題を説明することができるか。 3. 他職種・他組織との連携について学び連携における産業看護職の役割を説明することができるか。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題等についてのフィードバックは、実習中の個別指導の際に各教員からコメント、またはJ-passへの掲示等で行います。また、希望者には随時メールも受け付けます。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	公衆衛生看護学.jp		インターイカ		最新版
	国民衛生の動向		厚生労働統計協会		最新号
	保健師業務要覧		日本看護協会出版会		最新版
	最新公衆衛生看護学総論、各論1~2		日本看護協会出版会		最新版
	産業看護学		日本看護協会出版会		最新版
参考文献					
随時紹介					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時 (担当教員へ事前にメールで連絡のこと) 櫻井: ssakura@juntendo.ac.jp 原田: sharada@juntendo.ac.jp 岡本: myokamo@juntendo.ac.jp 仲里: r-nakazato@juntendo.ac.jp 板井: m.itai.bq@juntendo.ac.jp 岡部: (後日提示) 鹿島田: ykashima@juntendo.ac.jp 久田: a-hisada@juntendo.ac.jp 森永: m-morinaga@juntendo.ac.jp				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
	櫻井 原田 岡本 仲里 板井 岡部 鹿島田 森永 久田	<p>実習方法：1 グループ 3～10名に分かれ、1 単位の実習を行う。 実習施設：産業保健の臨地において実習を行う。詳細は実習要項等に記す。</p> <p>実習内容：</p> <p>1) オリエンテーション ・施設における組織に関する説明等</p> <p>2) 学内実習 ・保健指導 ・身体計測、及び環境測定 ・実習企業・事業所の特性と保健ニーズを抽出する。</p> <p>3) 臨地実習 ・実習企業・事業所の事業内容・産業保健活動や安全衛生活動についての概要説明を受ける。 ・事業所内を実習企業・事業所の特性を踏まえ、特に労働者の作業環境に注目して見学する。 ・産業保健活動・安全衛生活動について、職場巡視・保健指導・健康教育・安全衛生委員会等の活動を見学する。 ・保健活動・安全衛生活動の法的根拠および企業・事業所の保健ニーズと保健活動の計画、実施、評価など一連の過程を学ぶ。</p> <p>4) 実習のまとめ ・実習報告レポートの作成</p>		<p>予習：</p> <p>1) 以下について既習の知識の復習をしておく。各項目の詳細な内容については実習要項に記載している。予習の項目については、実習前に確認テストを実施する。(各60～120分) ①産業保健活動の根拠や関連する法律を学習する。 ②労働安全衛生に関する行政機構との連携 ③地域における産業保健推進支援体制</p> <p>2) 実習前学内演習の準備(約120分) 詳細は実習要項に記載している。実習オリエンテーションにおいても該当の資料を配布する。 ①特定保健指導計画立案およびロールプレイについて ②健康診断における測定について</p> <p>復習： 実習で学んだ事をもとに、実習先の健康課題解決に向けて、「産業保健における看護職の役割と今後の課題」について考える。(約60分)</p> <p>【キーワード】 労働法規 保健衛生法規 労働衛生の5管理 産業保健総合支援センター トータル・ヘルスプロモーション・プラン</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	看護研究の原理と方法	必修・選択	必修
英語科目名	Principle and Method of Nursing Research	対象学年	3年
開講学期	前期前半	単位数	1単位
代表教員	大西 麻未	ナンバリング	PNL42A1
担当教員	大西麻未※、飯島佐知子※ ※…実務家担当教員	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	研究とは何か、看護における研究の重要性について理解する。また、代表的な研究の種類や方法を知り、自分の関心あるテーマがどんな研究課題になるかを考える。研究論文の批判的吟味の視点について理解することを通して、研究成果を看護実践に適用するために必要な知識・態度を習得する。				
授業の位置づけ	本授業では、看護実践のエビデンスとなる科学的知識を探し活用したり、新たに作り出すために必要な基本的知識を習得することをめざしている。本研究で身につけた知識は、「医療看護研究Ⅰ」「医療看護研究Ⅱ」の基盤となるものである。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP2-Ⅲ、○DP2-Ⅰ、○DP2-Ⅱ、○DP4-Ⅰ、○DP5-Ⅰ、△DP3-Ⅰ				
到達目標	1) 研究とは何か、看護における研究の意義を理解し、今後研究として取り組みたい疑問や問題意識から研究テーマを考えることができる。 2) 基本的な看護研究の種類と方法を説明できる。 3) 研究倫理の考え方や倫理的配慮の方法について理解する。 4) 看護の研究論文を批判的に読むための視点やポイントを理解できる。				
先修要件	なし				
関連科目	ゼミナール、統計学、健康と疫学、保健統計、医療看護研究Ⅰ、医療看護研究Ⅱ				
学修上の注意	自分自身の既習の知識や経験を踏まえて、より深く知りたいこと、問題意識を持っていることはどんなことか、あらかじめ考えて授業に臨むこと。 授業ごとの課題により成績評価を行う。提出期限は厳守すること。				
成績評価の方法					
評価方法	授業ごとの課題60%、論文の批判的評価40%				
評価基準	1) 看護における研究の意義を説明でき、日頃の疑問や問題意識を研究テーマに結びつけることができる。 2) 基本的な看護研究の種類と方法を説明できるか。 3) 研究における倫理的配慮の必要性や基本的方法について理解できるか。 4) 看護の研究論文を批判的に読み、評価することができるか。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
授業内または掲示によりフィードバックを行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	よくわかる看護研究の進め方・まとめ方(第3版)	横山美江	医歯薬出版株式会社	978-4-263-23690-1	
参考文献					
近藤潤子監訳：看護研究-原理と方法-第2版，医学書院，2010.					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時 事前にメールで連絡のこと 大西 mami-o@juntendo.ac.jp 飯島 sijima@juntendo.ac.jp				
備考					
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	大西	看護研究の意義・目的 1. 研究とは何か 2. なぜ看護の研究を行うのか(意義) 3. 看護の研究の事例 4. 研究のプロセス 5. 自分の問いを書き出してみよう	講義	[予習] 事前にテキスト1章(学習時間2時間) [復習] 授業資料とテキストの該当箇所を確認して整理しておくこと。(学習時間2時間) [キーワード] 看護研究、EBM/EBN	

2	大西	研究計画の立案 1. 研究計画書の必要性 2. 研究計画書の構成 3. 研究倫理とは何か、倫理的配慮の必要性と方法	講義	[予習] 事前にテキストp.65-92, 98-125を読んでおくこと。(学習時間2時間) [復習] 授業資料とテキストの該当箇所を確認して整理しておくこと。 授業内で記述した、自分の興味ある研究テーマを振り返り、研究の意義を明確化するために必要な情報や研究計画として不足している部分を確認しておく。 (学習時間2時間) [キーワード] 研究計画書、研究倫理、倫理的配慮
3	飯島	研究のプロセス 1) 研究課題の選択 2) 理論・概念 3) 変数・仮説 4) 標本抽出 5) 信頼性・妥当性 6) データの分析 7) エビデンス・レベル	講義	[予習] 事前にテキスト.17, 65-68, 74-98を読んでおく。(学習時間2時間) [復習] 授業資料とテキストの該当箇所を確認して整理しておくこと。 (学習時間2時間) [キーワード] 理論・概念、変数・仮説、標本抽出、エビデンス・レベル
4	飯島	研究の種類1 因子探索研究、関連探索研究、関連検証研究	講義	[予習] 事前にテキストp.14-34を読んでおくこと。(学習時間2時間) [復習] 授業資料とテキストの該当箇所を確認して整理しておくこと。 (学習時間2時間) [キーワード] 質的研究、記述研究、観察研究 エビデンスレベル
5	飯島	研究の種類2 因果仮説検証研究	講義	[予習] 事前にテキストp.35-44を読んでおく。(学習時間2時間) [復習] 授業資料とテキストの該当箇所を確認して整理しておくこと。 (学習時間2時間) [キーワード] エビデンス・レベル、因果関係、実験研究、準実験研究
6	大西・白川	文献検索演習、研究論文の読み方	講義	[予習] テキストp.69-73(文献検索)、p.154-193(論文クリティーク)を読んでおく。 事前に課題論文を読み、評価表に従って評価しておく。 (学習時間2時間) [復習] 自分の関心あるテーマの文献検索を行ってみる。 課題論文を再度批判的に読んでみる。 (学習時間2時間) [キーワード] 文献検索、批判的吟味
7	大西・白川	文献検索演習、研究論文の読み方	講義	[予習] テキストp.69-73(文献検索)、p.154-193(論文クリティーク)を読んでおく。 事前に課題論文を読み、評価表に従って評価しておく。 (学習時間2時間) [復習] 自分の関心あるテーマの文献検索を行ってみる。 課題論文を再度批判的に読んでみる。 (学習時間2時間)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	医療看護研究I	必修・選択	必修
英語科目名	Health Care and Nursing Research I	対象学年	3年
開講学期	後期後半	単位数	1単位
代表教員	飯島 佐知子	ナンバリング	PNL42A2
担当教員	飯島佐知子、大西麻未、全専任教員	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	根拠に基づいた看護を提供するための情報を探索し、基本的な研究過程を実践することを通して、看護を科学的に実践する態度を養う。				
授業の位置づけ	自ら研究し論文を作成することは、専門職者として不可欠な情報リテラシー高めるために必要な経験であり、大学教育の醍醐味である。看護研究Iで基礎的な方法論を学び、医療看護研究IIでは研究プロセスを実践する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	本科目を学修することで、以下の能力の基礎が身につきます。 ◎DP5-I：生涯にわたり専門職者として研鑽し続ける能力				
到達目標	1) 学生各自が自身の関心あるテーマを選択し、そのテーマに関連する研究論文を収集できる。 2) 収集した論文を読み、批判的に吟味することによって、自身の研究課題を明確にできる。 3) 研究課題に適した研究計画を立案し、研究計画書を作成することができる。				
先修要件	なし				
関連科目	医療看護ゼミナール、看護研究の原理と方法、情報科学、統計学				
学修上の注意	「看護研究の原理と方法」で学んだ知識・技術をもとにして学修する。 学習時間は予習。復習とも80分とする。 指導担当教員との綿密な連絡を取り、研究を進める。自己の関心のあるテーマについて追究できる機会として、主体的に学習する。少人数のゼミ形式で授業を進めるため、学生間で積極的にディスカッションすることが求められる。また事前準備として、読んだ論文について等、プレゼンテーション準備が必要である。具体的進め方は、各指導教員の指示に従う。				
成績評価の方法					
評価方法	ゼミでの発表および参加状況(50%)、研究計画書(50%)を総合して評価する。				
評価基準	1) 学生各自が自身の関心あるテーマを選択し、そのテーマに関連する研究論文を収集できる(和文10件以上、英文3件以上)。 2) 収集した論文を読み、批判的に吟味することによって、自身の研究課題を明確に記述できる。 3) 研究課題に適した研究計画を立案し、研究計画書を作成することができる。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
フィードバックの希望には随時メールで受け付ける。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	よくわかる看護研究の進め方・まとめ方(第3版)	横山美江(2017)	医歯薬出版株式会社		
参考文献					
近藤潤子監訳：看護研究-原理と方法-第2版、医学書院、2010.					
その他					
連絡先・オフィスアワー	各担当教員が対応する				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	各指導教員	研究キーワードの設定、文献収集 [キーワード] 研究課題、文献検索		[予習] (学習時間90分) 看護研究の原理と方法の配布資料とテキストを読み返しておくこと。事前に関心あるテーマのキーワードで文献を検索し、文献リストを作成し文献収集を進めておく。発表等については、担当教員の指示に従う。 [復習] (学習時間90分) ゼミでの教員からの助言や指示を振り返り、次回までの課題に取り組む。
2 3 4 5	各指導教員	文献検討 [キーワード] 文献の批判的吟味		[予習] (学習時間90分) テキストp. 69-73(文献検索)、p. 154-193(論文クリティーク) を読んでおく。事前に課題論文を読み、評価表に従って評価して、発表用資料を作成する。 [復習] (学習時間90分) ゼミでの教員やグループメンバーからの助言や指示を振り返り、次回までの課題に取り組む。
6 7 8 9	各指導教員	文献検討、研究課題・目的の明確化 [キーワード] 文献の批判的吟味、研究目的		[予習] (学習時間90分) 事前にテキストp. 65-92、98-125を読んでおくこと。 複数の文献を精読した結果を統合し、自身の研究課題や目的について検討する。研究の背景として、社会的状況、先行研究で明らかになっていること、明らかになっていないこと、その研究をすることの意義を記述する。 [復習] (学習時間90分) ゼミでの教員やグループメンバーからの助言や指示を振り返り、次回のゼミまでの課題に取り組む。
10 11 12	各指導教員	研究方法の検討 [キーワード] 研究デザイン、サンプリング		[予習] (学習時間90分) 事前にテキストp. 65-92、98-125を読んでおくこと。(学習時間60分)自身の研究テーマに適した研究方法を先行研究を参照しながら記述する。研究デザイン、対象者、調査場所、対象者数、調査項目、データの収集方法、分析方法、倫理的配慮について記述する。 [復習] (学習時間90分) ゼミでの教員やグループメンバーからの助言や指示を振り返り、次回までの課題に取り組む。
13	各指導教員	研究計画書の作成 [キーワード] 研究計画書		[予習] (学習時間90分) 明確にした研究目的、方法を基盤に、研究計画書の作成を進める。 [復習] (学習時間90分) ゼミでの教員やグループメンバーからの助言や指示を振り返り、次回のゼミまでの課題に取り組むこと。
14	各指導教員	研究計画書の完成・発表 [キーワード] 研究計画書		[予習] (学習時間90分) 研究計画書をパワーポイント等で発表する。完成した研究計画書を提出する。 [復習] (学習時間90分) 研究計画書を最終確認して、提出する。

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記 (PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	医療看護研究II	必修・選択	選択
英語科目名	Health Care and Nursing Research II	対象学年	4年
開講学期	通期	単位数	2単位
代表教員	飯島 佐知子	ナンバリング	ANL42A1
担当教員	飯島佐知子 大西麻未 全専任教員	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	「医療看護研究 I」において立案した研究計画を基盤として、研究過程を実践し発表することを通して、看護を科学的に実践する態度を養う。				
授業の位置づけ	教員の指導のもとに、学生各自が「医療看護研究 I」で立案した研究計画に沿って、データ収集、分析評価、論文作成の一連の研究過程を実践する				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	本科目を学修することで、以下の能力の基礎が身につきます。 ◎DP5-CA：生涯にわたり専門職者として研鑽し続ける能力 ◎DP2-CA：医学および関連領域の知識を看護に応用できる能力 ◎DP2-CB：エビデンスに基づいた看護を適切に実践する能力				
到達目標	1) 教員の指導のもとに、学生各自が「医療看護研究 I」で立案した研究計画に沿って、データ収集、分析評価、論文作成の一連の研究過程を実践できる。 2) 研究結果を口演発表し、教員・学生と共有してディスカッションできる。				
先修要件	看護研究の原理と方法、医療看護研究 I				
関連科目	ゼミナール、看護研究の原理と方法、医療看護研究 I、情報科学、統計学、統計演習				
学修上の注意	指導担当教員との綿密な連絡をとりながら、主体的に研究を進めることが求められる。				
成績評価の方法					
評価方法	提出論文の内容(60%)、研究発表の内容(40%)を総合して評価する。				
評価基準	提出論文については以下の7点を満たすこと。 1. 先行研究に関するレビューにより、これまで明らかになっていることを整理して記述している 2. 先行研究に関するレビューにより、これまで明らかになっていないことは何かを明確に記述している。 3. 社会的背景を踏まえて、その研究をする意義が述べられている。 4. 目的が明確である。 5. 目的を明らかにするために適切な研究方法が記述されている。 6. 得られた結果について、先行研究を踏まえた考察が記述されている。 7. 得られた結果から妥当な結論が述べられている。 研究発表については以下の2点を満たすこと。 1. 研究の背景、先行研究、研究の意義、目的について聴衆にわかりやすく説明できる 2. 方法、結果、考察、結論について聴衆にわかりやすく説明できる				
試験・課題に対するフィードバック方法					
論文等に対するフィードバックの希望者には随時メールで受け付ける。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	これからの看護研究「基礎と応用」第3版	小笠原知枝, 松木光子編集	ヌーベルヒロカワ, 2012.		
参考文献					
必要に応じて、担当教員より文献を提示する。 アメリカ心理学会 (APA) : APA 論文作成マニュアル第2版 : 医学書院 2011 小塩真司 : 第3版 SPSSとAMOSによる心理・調査データ解析 因子分析・共分散構造分析まで 東京図書 2018 阿部陽子 訳 : 看護研究のための文献レビュー マトリックス式 医学書院 2012 康永 秀生 : 必ずアクセプトされる医学英語論文 完全攻略50の鉄則 金原出版 2016 近藤潤子監訳 : 看護研究-原理と方法-第2版, 医学書院, 2010.					
その他					
連絡先・オフィスアワー	担当教員に連絡すること				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	各教員	研究計画書の確認、行動計画の立案 [キーワード] 研究計画書、データ収集		[予習] (学習時間90分) 医療看護研究Ⅰで作成した研究計画書を見直し、論文提出・発表までの行動計画を考えておく。 [復習] (学習時間90分) 行動計画に基づき、データ収集の準備を進める。
2 3	各教員	データ収集準備 : 質問紙、インタビューガイドの最終確認・完成、実験手順や物品・環境準備、説明・同意の準備 [キーワード] サンプリング、倫理的配慮、プロトコル		[予習] (学習時間90分) 研究対象に協力を得る方法や説明の仕方を考えておく。 質問紙やインタビューガイドについて他者の意見を得るなどしておく。 [復習] (学習時間90分) 教員やグループからの意見に従って、時間や場所を含むデータ収集方法と手順を確認しておく。
4 5 6 7 8 9 10	各教員	データ収集 [キーワード] データ収集、データ分析		[予習] (学習時間90分) 担当教員の指示に従い、各自のデータ収集に必要な準備を行う。 [復習] (学習時間90分) 担当教員からの指示に従い、データ分析の方法を学ぶなど、次回の授業までの準備を進める。
11 12 13 14 15 16 17	各教員	データ分析 [キーワード] 統計解析、質的分析		[予習] (学習時間90分) 自身の収集したデータ及び研究目的に従い、適切な分析方法について学ぶ。適宜、担当教員に提示するための資料を作成する。 [復習] (学習時間90分) 教員から指示に従い、次回までの準備を行う。
18 19 20 21	各教員	分析結果の整理・考察 [キーワード] データ分析、考察		[予習] (学習時間90分) 分析結果から図表を作成したり、結果の意味について考える。考察に必要な文献を集める。 [復習] (学習時間90分) 教員からの指示に従い、次回までの準備をしておく。
22 23 24 25	各教員	論文作成 [キーワード] 論文の構成		[予習] (学習時間90分) 図表の作成や引用文献リストを作成する。 [復習] (学習時間90分) 教員からの指示に従い、次回までの準備をしておく。
26 27	各教員	研究発表準備 [キーワード] 口演発表		[予習] (学習時間90分) 発表要領を確認しスライド・原稿作成を進める。 [復習] (学習時間90分) 教員の指示に従い、次回までの準備を行う。
28	各教員	論文完成・提出 研究発表会での発表 [キーワード] 研究論文、口演発表		[予習] (学習時間90分) 論文の最終確認、発表練習を行う。 [復習] (学習時間90分) 一連の研究実施過程で学んだことを整理する。

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	看護の質と安全管理	必修・選択	必修
英語科目名	Patient Safety Management	対象学年	3年
開講学期	前期後半	単位数	1単位
代表教員	飯島 佐知子	ナンバリング	PNL44A1
担当教員	飯島 佐知子、大西 麻未、幅下 貞美、會田 秀子、養田 絢子	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	患者の安全は看護師が個別に専門技術を提供しているだけでは十分に確保できない。医療チームで患者の安全な医療を提供するためには、自分が組織の一員であることを自覚し、他のメンバーとの関係性の中で、どのように情報伝達し、行動するかを考える必要がある。本講義では、2011年に世界保健機関（WHO）が発表した「WHO患者安全カリキュラムガイド」を踏まえて、「人間は間違いから逃れない」ことを意識し、「組織人として行動すること」の大切さを学ぶ。「看護の質と安全管理」の回で、医療事故やヒューマン・エラーの種類を学び、組織的な取り組み方を身につける。さらに、「周産期における医療安全管理」の回で、周産期医療におけるリスクマネジメントの実際について学ぶ。			
授業の位置づけ	基礎看護学で学習した患者の安全について、臨床実習を前に病棟で実践されている安全管理の方法について体系的に学び、理解を深める。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	本科目を学習することで、以下の能力の基礎が身につきます。 ODP2-CA：医学および関連領域の知識を看護に応用できる能力 ODP2-CB：エビデンスに基づいた看護を適切に実践する能力 ODP2-CC：健康レベルに応じた看護を展開する能力 ◎DP3-CA：保健医療福祉における他職種と協働・連携する能力			
到達目標	1) 医療事故の定義、看護に関わる医療事故の全国的な発生状況を説明できる。 2) 医療事故の原因、組織としての医療安全対策について説明できる。 3) 看護関連の主要な事故の要因をアセスメントし、予防対策を立案できる。 4) 事故分析を実施し、改善案を立案できる。 5) 事故を起こさないために必要な知識を説明できる。			
先修要件	なし			
関連科目	看護管理学			
学修上の注意	学習時間は予習・復習ともに各回80分 使用テキストは予め読んでおくこと。			
成績評価の方法				
評価方法	授業後の確認テスト・課題（30点）、RCA分析の提出物（20点）期末テスト（50点）により評価を行う。			
評価基準	1) 授業後の確認テスト・課題の評価が70%であること。 2) 転倒事例のRCA分析実施し、根本原因を3つ以上抽出し、結果を要約して記述し、予防対策の立案項目数が3つ以上であること。 3) 期末テストの正解率が60%以上であること			
試験・課題に対するフィードバック方法				
授業後の確認テストについては、回答を公表する。RCA分析については講評を行う。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『看護管理と医療安全』	飯島佐知子、大島由美子編	放送大学出版会 2012		
参考文献				
川村治子：医療安全ワークブック第2版、医学書院、2008 相馬孝博：WHO患者安全カリキュラムガイド、メディカ出版、2013 相馬孝博：患者安全のためのノンテクニカルスキル超入門-WHO患者安全カリキュラムガイド多職種版を踏まえてー、メディカ出版、2014 G. Sherwood, J. Barnsteiner：Quality and Safety in Nursing -A competency approach to improving outcome, 2012				
その他				
連絡先・オフィスアワー	随時 事前にアポイントを取ること。siiijima@juntendo.ac.jp			
備考				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	飯島	看護の質と安全管理① 医療・看護の質の評価と医療事故の定義 1) 医療の質の評価・公表等推進事業における医療安全の評価指標について 2) 医療事故の定義と分類 3) 1999年の「患者取り違い事件」 4) 医療事故の発生状況 [キーワード] 医療事故、インシデント、ニア・ミス	講義	[予習] 使用テキスト①P. 203～223を予め読んでおくこと。過去の新聞などの医療事故報道について記事を集めておく。(学習時間80分) [復習] 授業資料とテキストの該当箇所を確認して整理しておくこと。(学習時間80分)
2	大西	看護の質と安全管理② 医療事故の原因、組織としての医療安全対策 1) 医療事故の原因 2) 医療事故防止の考え方、ヒューマンエラー 3) 国の医療安全対策 4) 組織で取り組む安全対策 5) 事故発生時の組織の対応 6) 安全文化の醸成 [キーワード] 医療事故情報収集等事業、ヒューマンエラー、リスク・マネジメント	講義	[予習] 使用テキスト①P. 203～223, p276～294を予め読んでおくこと。実習経験や事故事例の知識から、医療事故の原因にはどのようなものがあるのか考えておく。(学習時間80分) [復習] 授業資料とテキストの該当箇所を確認して整理しておくこと。(学習時間80分)
3	飯島	看護の質と安全管理③ 療養上の世話における事故の防止 1) 転倒・転落 [キーワード] 転倒・転落		[予習] 使用テキスト①P. 254～275を予め読んでおくこと。(学習時間80分) [復習] 授業資料とテキストの該当箇所を確認して整理しておくこと。(学習時間80分)
4	飯島	看護の質と安全管理④ 事故分析の方法 1) SHELモデル 2) 4 M4E分析 3) 根本原因分析 (RCA) 4) 故障モード影響解析法 (FMEA) [キーワード] 医療事故原因の分析、SHELモデル、4 M4E分析、根本原因分析 (RCA) 故障モード影響解析法 (FMEA)	講義	[予習] キーワードについて事前に自分なりに調べておくこと。(学習時間80分) [復習] 配布資料により講義内容を整理しておくこと。(学習時間80分)
5～6	櫻井、養田、大西、飯島	看護の質と安全管理⑤ 事故分析のグループ・ワーク 1) 根本原因分析 (RCA) 分析を用いて実際に起きた事故事例を分析してみる。 2) 再発防止策を立案する。 3) 発表、講評 [キーワード] 根本原因分析 (RCA)、事故防止対策の立案	講義	[予習] 根本原因分析 (RCA) に関する講義内容を理解しておくこと。(学習時間80分) [復習] 配布資料により講義内容を整理しておくこと。(学習時間80分)
7	大西	診療補助に伴う事故の防止 1) 診療の補助業務の危険要因 2) 与薬 3) 輸血 4) チューブ類の管理 [キーワード] 誤薬、誤注射、チューブトラブル、輸液ポンプ	講義	[予習] 使用テキスト①P. 224～253を予め読んでおくこと。(学習時間80分) [復習] 授業資料とテキストの該当箇所を確認して整理しておくこと。(学習時間80分)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記 (PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	看護管理学	必修・選択	必修
英語科目名	Nursing Administration	対象学年	3年
開講学期	後期後半	単位数	1単位
代表教員	飯島 佐知子	ナンバリング	PNL44A2
担当教員	飯島 佐知子、大西 麻未、幅下 貞美	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	看護職者が、地域社会や組織の中で、他の人々と共に働く上での自身の役割について理解し、質の高い看護を提供するために必要となる基本的な知識・スキルを習得することである。				
授業の位置づけ					
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	本科目を学修することで、以下の能力の基礎が身につきます。 ODP2-CA：医学および関連領域の知識を看護に活用できる能力 ODP2-CB：エビデンスに基づいた看護を適切に実践する能力 ODP3-CA：保健医療福祉における他職種と協働・連携する能力 ODP5-CA：生涯にわたり専門職者として研鑽し続ける能力				
到達目標	1) 看護管理とは何か説明できる。 2) 看護の質を評価する必要性とその方法について説明できる。 3) 看護組織をマネジメントするための理論的枠組みや具体的な手法について説明できる。 4) 日本の医療の現状を分析し、保健医療福祉における看護職の役割について説明できる。 5) 専門職としての自己のキャリア発達の過程や生涯学習の計画を立案できる。				
先修要件	なし				
関連科目	社会保障論、社会福祉論、医療と看護政策				
学修上の注意	講義中は適宜課題を提示する。周囲とディスカッションしながら主体的に取り組むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	講義後の確認問題と課題への取り組み(50%)、定期試験(50%)により評価する。				
評価基準	1) 講義後の確認問題、課題の提出率100%であること。 2) 講義後の確認問題で単元の看護管理に関するトピックスの正解率80%であること。 3) 日本の医療の現状を分析し、保健医療福祉における看護職の役割について考察する課題の評価が60%以上であること。 4) 専門職としての自己のキャリア発達の過程や生涯学習の計画を立案できること。 5) 定期試験の正解率が60%以上であること				
試験・課題に対するフィードバック方法					
フィードバックの希望には随時メールで受け付ける。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	看護管理と医療安全	大島弓子、飯島佐知子編集	放送大学出版会、2018.		
参考文献					
川野雅資監修・平井さよ子編集：看護実践「看護管理学」、日本放射線技師会出版会、2008。 平井 さよ子：看護職のキャリア開発-転換期のヒューマンリソースマネジメント、医学書院、2009。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時、事前にアポイントを取ることを (sijima@)				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	大西	看護管理学と医療の質 1) 看護管理とは 2) 医療の質と質評価の枠組み 3) 質評価の方法 4) 看護の質 5) 質改善活動 [キーワード] 看護管理学、医療の質、質評価、第三者評価、臨床指標、ベンチマーキング	講義	[予習] 看護管理学とはどのような分野か、教科書や既存の知識から自分なりに考えておくこと。テキスト11章を読んでおく。 (学習時間60分) [復習] テキスト11章や配布資料を読み返して整理しておくこと。 (学習時間90分)
2	大西	看護管理と組織 1) 組織とは 2) 組織構造の設計、組織図 3) 組織の中での個人の役割 [キーワード] 組織、組織構造、組織図、看護管理者、社会人基礎力	講義	[予習] 事前にテキスト4章を読んでおくこと。 (学習時間60分) [復習] テキストや配布資料を読み返して整理しておくこと。 (学習時間90分)
3	大西	看護ケアのマネジメント 1) 看護職員の配置 2) 看護提供体制、勤務体制 3) 経営管理論の活用①—科学的管理法、標準化 [キーワード] 組織、組織構造、動機づけ、目標管理	講義	[予習] 事前にテキスト4章、5章を読む。 (学習時間60分) [復習] テキストや配布資料を読み返して整理しておくこと。 (学習時間90分)
4	大西	看護ケアのマネジメント 1) 経営管理論②人間関係論 2) 動機づけ理論 3) 目標管理 4) リーダーシップ [キーワード] 看護提供システム、ケアプロセス、リーダーシップ	講義	[予習] 事前にテキスト5章、6章を読む。 (学習時間60分) [復習] テキストや配布資料を読み返して整理しておくこと。 (学習時間90分)
5	飯島	看護管理学と日本の医療の現状 1) 国民医療費の動向 2) 医療システムの評価の視点（アクセスの公平性、統合性、医療の質、効率性） 3) 日本の医療システムを評価してみる。グループワークにより、3つの視点から評価を行い発表する。 [キーワード] 国民医療費、医療システム	講義	[予習] テキスト2章を読んでおくこと。 (学習時間60分) [復習] テキストや配布資料を読み返して整理しておくこと。 (学習時間90分)
6	飯島	看護関連の診療報酬と病院の費用 1) 看護系学会等社会保険連合 2) 看護関連の診療報酬 3) 診療報酬の改定の動向 4) 病院の費用 5) 病院原価計算 6) 費用効果分析 [キーワード] 診療報酬、費用効果分析	講義	[予習] 事前にテキスト3章、4章を読んでおくこと。 (学習時間60分) [復習] テキストや配布資料を読み返して整理しておくこと。 (学習時間90分)
7	飯島 幅下	看護専門職のキャリア開発 1) キャリアとは何か 2) キャリアに関連する理論、キャリア・アンカー 3) ベナー看護論 4) 看護師のキャリア開発 5) 看護職の多様な働き方 6) 自己のキャリア発達の過程や生涯学習の計画を立案する 看護専門職として社会的役割を果たすために、自らのキャリア発達について、目標管理、クリニカルラダー、継続教育などを学習したキーワードを活用しながら図を作成し、学習計画を立案する。 [キーワード] キャリア開発、クリニカル・ラダー	講義	[予習] 事前に教科書9章を読んでおくこと。 日本の医療の現状、医療の質、目標管理、クリニカル・ラダー、継続教育などの用語の意味、自分自身のキャリア開発について考察しておくこと (学習時間60分) [復習] 専門職として生涯にわたり学習し続け、成長していくために自己を評価し管理していく重要性について考察を深める (学習時間60分)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	医療と看護政策	必修・選択	選択
英語科目名	Health Care and Nursing Policies	対象学年	4年
開講学期	前期後半	単位数	1単位
代表教員	大西 麻未	ナンバリング	ANL44A1
担当教員	大西麻未※ 石田昌宏※ 伊勢田暁子※ 窪田和巳※ 橋本美穂※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	近年の保健医療の動向を踏まえ、変動する社会ニーズにかなった質の高い看護を提供するために、我が国の医療・看護の政策がどのように機能しているか、今後の課題にはどのようなものがあるか、看護職としてどのように政策に関われば良いのかについて理解する。				
授業の位置づけ	国内外の社会の動向およびそれに基づくニーズを理解し、それらの動向に対応する医療・看護政策について知ることにより、社会の変化に応じた看護のあり方を広く考える視点を身につけ、国や地域レベルでの問題解決の方法について理解することをめざす。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	ODP3-I、OD4-I				
到達目標	1) 看護政策とは何かを理解し、学ぶことの重要性を理解できる。 2) 我が国において現在重要な看護政策について理解できる。 3) 変動する社会ニーズと医療・看護政策の関連について理解できる。 4) 看護政策の現状と課題について自分の意見を述べるができる。				
先修要件	なし				
関連科目	看護管理学、法と生活、現代社会と経済、医療の歴史、世界の医療・福祉制度				
学修上の注意	講義では積極的に質問するなど、主体的に参加すること。日頃からニュースなどを通じて、自分の関心のある医療・看護の問題はどんなものか考えておくこと。				
成績評価の方法					
評価方法	授業内での発表(30%)、授業への参加状況(20%)、レポート(50%)				
評価基準	1) 看護政策を学ぶことの重要性について説明できる。 2) 我が国において現在重要な看護政策についてその背景や意義を説明できる。 3) 変動する社会ニーズと医療・看護政策の関連について説明できる。 4) 自分の関心のある医療・看護上の政策を取り上げ、その現状と課題について自分の意見を述べられる。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
発表内容については授業内でフィードバックする。 レポートは授業の全体予定終了後、返却時にコメントをする。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
日本看護協会編「日本看護協会の政策提言活動」日本看護協会出版会、2010 見藤隆子・石田昌宏・大串正樹・北浦暁子・伊勢田暁子「看護職者のための政策過程入門」日本看護協会出版会、2007					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時（事前にメールで連絡のこと） 大西 mami-o@juntendo.ac.jp				
備考	授業のつど資料配布 外部講師の都合により、講義日程は変更になる可能性もあるので、連絡に注意する。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法*	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	窪田	1. 政策とは 2. 医療・看護と政策のつながり 3. 看護政策にはどんなものがあるか 4. 関心ある医療・看護上の問題を考えてみよう	講義	[予習] ニュースなどを調べ（キーワードを参考に）、関心ある医療・看護の問題を考えておく。（学習時間2時間） [復習] ディスカッションした内容も含めて、自分の関心のある看護政策の課題について再度考え、整理する。（学習時間2時間） [キーワード] 医療法、保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保の促進に関する法律、看護の将来ビジョン	

2	窪田	自分の関心ある医療・看護政策の現状と課題についての発表	講義 ディスカッション	<p>[予習] ニュースなどを調べ（キーワードを参考に）、関心ある医療・看護の問題を考えておく。（学習時間2時間）</p> <p>[復習] ディスカッションした内容も含めて、自分の関心のある看護政策の課題について再度考え、整理する。（学習時間2時間）</p> <p>[キーワード] 医療法、保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保の促進に関する法律、看護の将来ビジョン</p>
3	伊勢田	1. 看護政策の決定過程 2. 看護政策実現の例	講義 ディスカッション	<p>[予習] 自分の関心ある医療・看護の問題について、問題点や疑問点を明確にしておく。（学習時間2時間）</p> <p>[復習] 看護政策立案における看護職の役割について整理しておく。（学習時間2時間）</p> <p>[キーワード] ロビー活動、パブリックコメント</p>
4	伊勢田	3. ロビー活動とは 4. 政策立案における看護職の役割	講義	<p>[予習] 自分の関心ある医療・看護の問題について、問題点や疑問点を明確にしておく。（学習時間2時間）</p> <p>[復習] 看護政策立案における看護職の役割について整理しておく。（学習時間2時間）</p> <p>[キーワード] ロビー活動、パブリックコメント</p>
5	橋本	看護政策立案における日本看護協会の役割	講義	<p>[予習] 日本看護協会の役割についてホームページや書籍で調べ、看護職個人とどのような関係にあるか、自分なりに整理しておく。（学習時間2時間）</p> <p>[復習] 日本看護協会の役割と現在の重点政策について整理しておく。（学習時間2時間）</p> <p>[キーワード] 日本看護協会、労働環境、人材確保</p>
6	橋本	看護政策立案における日本看護協会の役割	講義 ディスカッション	<p>[予習] 日本看護協会の役割についてホームページや書籍で調べ、看護職個人とどのような関係にあるか、自分なりに整理しておく。（学2時間2時間）</p> <p>[復習] 日本看護協会の役割と現在の重点政策について整理しておく。（学習時間2時間）</p> <p>[キーワード] 日本看護協会、労働環境、人材確保</p>
7	石田	1. 政策の決定過程 2. 政策決定における国会議員の活動の実際 3. 保健医療政策の今後	講義 ディスカッション	<p>[予習] 国会議員の役割について調べ、疑問点を明確にしておく。（学習時間2時間）</p> <p>[復習] 授業を踏まえ、自分自身の考え方や社会問題を見る視点がどのように変化したか、整理しておく。（学習時間2時間）</p> <p>[キーワード] 国会、国会議員、保健医療福祉政策</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	地域包括ケアシステム論	必修・選択	必修
英語科目名	Community-based Integrated Care Systems	対象学年	3年
開講学期	後期後半	単位数	1単位
代表教員	原田 静香	ナンバリング	PNL41A1
担当教員	原田静香※、伊藤龍子※、大月恵理子※、種市ひろみ※、湯浅美千代※、長瀬雅子※、倉田慶子※、松浦彩美※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	<p>地域包括ケアシステムとは、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援等が一体的に提供される仕組みのことを指し、我が国における介護や医療を取り巻く健康問題を解決していくために必要な施策として推進されています。そこで本科目においては、以下について学び、システムの重要性・必要性について各自が深く考えることを目指しています。</p> <p>1) 地域において疾病や障害を抱えながら暮らす対象者を支援する看護専門職として、健康問題を解決するための仕組みの創造を目指した、地域包括ケアシステムの目的と意義について理解する。</p> <p>2) 地域包括ケアシステムの構築を通して、保健医療福祉の各分野における看護職の役割と連携について学ぶ。</p>			
授業の位置づけ	本科目は医療看護の統合と発展に位置づけられており、DP3に明示されている「関連分野の人々と協働し、看護職者の役割を果たしていく」ために既存の知識をつなぎ、保健医療福祉における他職種と協働・連携する能力を養うことを目的に学びます。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	<p>本科目を学習することで、以下の能力の基礎が身につきます。</p> <p>◎DP3-I：保健医療福祉における他職種と協働・連携する能力</p> <p>○DP2-I：医学及び関連領域の知識を看護に活用できる能力</p> <p>○DP2-II：エビデンスに基づいた看護を適切に実践する能力</p> <p>○DP2-III：健康レベルに応じた看護を展開する能力</p>			
到達目標	<p>1) 地域特性に応じた地域包括ケアシステム概念について理解する。</p> <p>2) 地域包括ケアシステムにおける看護の対象である、高齢者、子育て中の親子、難病患者、重症心身障害児者、精神障害者等、健康問題を持ちながら地域で生活している者への対象理解を深め、看護専門職として支援を行うための、看護職の機能や専門性について分かる。</p> <p>3) 地域包括ケアシステムの構築に関わる概念や理論をもとにしながら、実践事例等を通し政策や関係機関との連携について理解する。</p>			
先修要件	特になし			
関連科目	公衆衛生看護学概論、小児看護学概論、母性看護学概論、成人看護学概論、高齢者看護学概論、精神看護学概論、在宅看護学概論			
学修上の注意	・本科目では、医療・看護の知識の他、医療制度、様々な保健対策、社会資源等の知識をつないで考える必要があるため、事前の準備として既習の学習を振り返っておくこと。			
成績評価の方法				
評価方法	各講義後の課題（50%）、終了時課題レポート（50%）			
評価基準	健康問題を抱えた人々が、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることが出来るために必要なシステムを考え、説明することが出来るか。			
試験・課題に対するフィードバック方法				
課題へのフィードバックは、次回の講義時に講評またはJuntendo-Passportにてフィードバックを行う予定です。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
厚生指針増刊 国民衛生の動向 最新刊	一般財団法人 厚生労働統計協会	同	9784875118305	
参考文献				
<p>・荒神裕之著：看護の現場ですぐに役立つ 地域包括ケアのキホン、秀和システム、2018。</p> <p>・高橋紘士編：地域包括ケアシステム、オーム社、2012。</p> <p>・秋山正子：つながる・ささえる・つくりだす 在宅現場の地域包括ケア、医学書院、2016。</p> <p>・田中滋監修：新版 地域包括ケアサクセスガイド、mcメディカ出版、2020。</p> <p>・筒井孝子：地域包括ケアシステムの深化、中央法規、2019。</p> <p>その他、必要時紹介する。</p>				
その他				
連絡先・オフィスアワー	随時可能。不在のことがあるので事前にメールで連絡のこと。（sharada@juntendo.ac.jp）			
備考	講義進行に合わせて適宜、レデュメを配布する			

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1・2	原田静香	1. 地域包括ケアシステムを必要とする健康問題・地域包括ケアシステムの目的と意義 2. 地域包括ケアシステムに関わる既存の概念・理論の概観	講義、一部演習を行う。	【予習】 使用テキスト（国民衛生の動向第4編 医療提供体制と医療保険）を予め読んでおくこと。（学習時間20分） 【復習】 地域包括ケアシステム構築に必要な要素が説明できるようにしておくこと。（学習時間20分）
3・4	大月恵理子 伊藤龍子 倉田慶子 原田静香	3. 地域社会で次世代を育てていくためのケアシステム ・妊娠から出産・育児に至る切れ目のない子育て支援を目指したケアシステム等 ・障害や疾病等の健康問題を持ちながら地域で生活している子育て中の親子を支援するケアシステム ・重症心身障害児に対応した支援を通し、医療的ケアを必要とする小児在宅医療を推進するケアシステム等	講義	【予習】 使用テキスト（国民衛生の動向 第3編 第2章保健対策「1. 母子保健」「3. 障害児・者施策」「小児慢性特定疾病対策」）を予め読んでおくこと。（学習時間20分） 【復習】 講義を振り返って、学んだ点・気が付いた点を振り返り、指定された箇所に回答すること。詳細は講義内で説明します。（学習時間30分）
5・6	長瀬雅子 松浦彩美 湯浅美千代 原田静香	4. 疾患や障害を患いながら地域で暮らす人々の視点にたったケアシステム ・慢性疾患や難病を患いながら地域で暮らす人々を支援するケアシステム等 ・精神疾患を患いながら地域で暮らす人々を支援するケアシステム等 ・認知症者と介護家族への支援に対応したケアシステム等	講義	【予習】 使用テキストを（国民衛生の動向 第3編 第2章保健対策「4. 精神保健」「2. 老人保健」、第4章疾患対策「1. がん対策」「2. 難病対策」）を予め読んでおくこと。（学習時間20分） 【復習】 講義を振り返って、学んだ点・気が付いた点を振り返り、指定された箇所に回答すること。詳細は講義内で説明します。（学習時間30分）
7	種市ひろみ 原田静香	5. 住み慣れた街で最期までQOLの高い生活を送るためのケアシステムの構築 ・多世代交流を促進するケアシステム等 6. 個人ワーク・最終レポート課題の説明 7. まとめ	講義・演習	【予習】 使用テキスト（国民衛生の動向 第3編 第2章保健対策「2. 老人保健」、第5編介護保険）を予め読んでおくこと。（学習時間20分） 授業内の個人ワークに取り組めるよう、1回目から6回目までの講義内容を振り返っておくこと。（学習時間20分） 【復習】 講義を振り返って、学んだ点・気が付いた点を振り返り、指定された箇所に回答すること。詳細は講義内で説明します。（学習時間30分）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	感染看護	必修・選択	選択
英語科目名	Nursing for Infectious Disease	対象学年	3年
開講学期	前期後半	単位数	1単位
代表教員	川上 和美	ナンバリング	PNL41A2
担当教員	川上 和美※、堀 賢※、横山 久美※、王 迪※、原 光寛※、岩淵 和久※、中山 仁志※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	あらゆる場と対象への看護実践の基盤となる感染看護について、チーム医療の一員として多職種と連携し実践できるための知識と技術を学修する。 感染症をめぐる諸外国および日本の動向と課題を理解したうえで、集団を対象とした感染制御システム、個人を対象とした感染看護および患者をとりまく倫理的課題、地域との連携・協働の実際を学ぶ。				
授業の位置づけ	医療機関（病院）、外来、福祉施設、在宅などのさまざまな場において発生する感染症の予防を目指し、人間の健康を支援するための関連科目、すべての看護分野の知識を基盤とし、小児から高齢者までのあらゆる発達段階の人を対象に必要な感染看護を展開するための知識・技術を学び、分野別実習、統合実習で活用するための科目と位置付ける。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP2-II、ODP2-I、ODP2-III				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症の歴史的変遷と感染症をめぐる国内外の課題、感染症対策の制度について説明できる。 2. 医療機関の多職種連携による感染制御システムと看護職の役割について説明できる。 3. 感染症患者および易感染患者への感染看護と感染予防策について説明できる。 4. 感染看護における倫理的課題と問題解決の方法を説明できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	形態機能学Ⅰ、微生物学、薬理学、臨床検査学、生化学、病理学、臨床医学ⅠA・ⅠB、臨床医学ⅡA・ⅡB、保健医療福祉行政論、基礎看護方法論Ⅱ・Ⅲ、地域生涯保健活動論				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・コースガイドに基づいて進める。 ・コースガイドには、予習・復習課題の提出期日を提示しているので、計画的に取り組むこと。 ・予習課題に基づいて授業を進め、復習課題により学習内容を定着させる。授業内で提示する課題も含め、必ず取り組むこと。 				
成績評価の方法					
評価方法	定期試験（80%）、課題レポート（20%）により評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 近年の感染症の動向と課題、感染症対策の制度について説明できるか。 2. 感染症対策を推進するための医療機関の感染制御システムと関連職種の役割、活動内容を説明できるか。 3. 感染看護の対象者の特徴とアセスメントの視点、ケア方法を説明できるか。 4. 感染看護の実践上で生じる倫理的課題と解決に向けた看護師のかかわりを説明できるか。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題レポートは授業内で解説を行いフィードバックする。 グループワークの発表に対しては、授業内でコメントをフィードバックする。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	看護学テキストNiCE 感染看護学	操華子、川上和美	南江堂	978-4-524-22978-9	
参考文献					
毎回配布される講義資料を活用する。 参考文献 <ol style="list-style-type: none"> 1. 坂本史衣（2019）. 基礎からわかる医療関連感染対策 - 標準予防策からサーベイランスまで 改訂第3版. 南江堂 2. 堀賢（2015）. 感染対策実践マニュアル 考え方と運営のポイント 第3版. じほう 3. 大曲貴夫、操華子 編（2015）. 感染管理・感染症看護テキスト. 照林社 4. 満田年宏訳.（2007）. 隔離予防策のためのCDCガイドライン. ヴァンメディカル 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	質問、相談等は随時メールで受け付ける。 科目責任者：kzkawaka@				
備考	なし				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	川上 和美	感染看護概論 1) 感染看護を学ぶ意義 2) 感染看護の歴史と世界的動向 3) 感染看護と関係法規 4) 感染症をめぐる現状と課題 5) 感染予防における看護職の役割 <キーワード> ナイチンゲール、感染症法、予防接種法、検疫法、感染症看護専門看護師、感染管理認定看護師	講義	予習：感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）について調べる。（学習時間：2時間） 復習：授業資料を読み、感染看護における看護職の役割について整理する。（学習時間：2時間）
2	川上 和美 原 光寛	感染管理看護師の役割と活動 1) 感染制御における感染管理看護師の役割 2) 病院内での手指衛生の推進と評価の実際 3) 職員を対象とした教育活動 <キーワード> エビデンス、感染予防ガイドライン、医療関連感染サーベイランス、手指衛生、職員教育、リンクナース	講義	予習：感染症看護専門看護師、感染管理認定看護師について調べる。（学習時間：2時間） 復習：授業資料を読み、学んだことを整理する。手指衛生遵守向上のために自身ができることを考えてまとめる。（学習時間：2時間）
3	川上 和美 横山 久美 王 迪 原 光寛	感染症患者および易感染患者に対する看護 1) 対象の特徴とアセスメント 2) 感染症患者に対する看護 3) 易感染患者に対する看護 <キーワード> 感染リスクアセスメント、免疫不全、薬剤耐性菌、セルフケア、患者教育	講義 演習	予習：事例を読み、感染症患者および易感染患者に対する感染予防策と看護をまとめる。（学習時間：2時間） 復習：授業資料を活用し、感染症患者および易感染患者に対する看護を整理する。（学習時間：2時間）
4	堀 賢	医療機関における感染制御活動 1) 世界における新興・再興感染症の発生動向とその対応 2) 感染制御とは何か 3) 医療機関における感染制御システム 4) 多職種医療チームによる感染制御活動の実際 <キーワード> 新興・再興感染症、感染制御システム、感染対策チーム（ICT）、感染対策室、感染制御医師（ICD）、アウトブレイク	講義	予習：感染対策委員会、感染対策チームについて調べる。（学習時間：2時間） 復習：配布資料を読み、授業で学んだことを整理する。授業の学びを指定されたフォームへ記述する。（学習時間：2時間）
5	川上 和美 横山 久美 王 迪 原 光寛	感染看護における倫理的課題とその対応 1) 感染看護の実践上で生じる倫理的課題 2) 感染看護における倫理的課題への対応の実際 <キーワード> 感染症法、隔離、偏見、差別、医療資源の配分、個人情報保護	講義 演習	予習：事前に提示される事例を読み、感染症患者に対する感染対策と看護実践上の倫理的課題を考える。（学習時間：2時間） 復習：授業内で検討した事例への対応方法について自身の考えをまとめる。（学習時間：2時間）
6-7	横山 久美 川上 和美 王 迪 原 光寛 中山 仁志 岩淵 和久	さまざまな臨床場面における感染予防策と看護 1) 臨床場面の状況のアセスメント 2) 臨床場面に応じた感染予防策と看護の立案 3) 状況のアセスメントをふまえた臨床場面ごとの感染予防策と看護の発表 <キーワード> 標準予防策、感染経路別予防策、手指衛生、個人防護具、環境清掃	演習	予習：標準予防策と感染経路別予防策について復習する。（学習時間：2時間） 復習：授業資料を読み、提示された場面における感染予防策と看護について整理する。（学習時間：2時間）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	リハビリテーション看護	必修・選択	選択
英語科目名	Rehabilitaion Nursing	対象学年	3年
開講学期	後期後半	単位数	1単位
代表教員	長瀬 雅子	ナンバリング	PNL41A3
担当教員	長瀬雅子※、佐野裕子※、水野恵理子※、島田広美※、北原エリ子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	疾病構造の変化と高齢化社会の進展の中で、看護職者として対応するために、リハビリテーションを包括的（理念、歴史的変遷、その種類）に学ぶ。また、リハビリテーションを必要とする人々の尊厳を守り、QOLを向上するための看護の基本と看護援助の実際を学ぶ。				
授業の位置づけ	リハビリテーションは、機能障害を抱えた人々が社会の中で機能回復または機能獲得をしながら生きるプロセスである。この授業では、急性期、回復期、終末期のすべての時期に関わり、その目的に応じて多職種が連携しながら支援することを学ぶ。そして、これまで履修した科目を基にしながら人々のQOLの向上に貢献する看護とその役割について考察する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	ODP2-CA ODP2-CB ODP2-CC ODP3-CA				
到達目標	1) リハビリテーションの理念と構造、主要な概念について考えることができる。 2) 障害者のとらえ方と障害者の権利、社会保障について説明できる。 3) 主な機能障害のアセスメントと日常生活への影響を説明できる 4) 機能障害のアセスメントを基にその看護ケアを考えることができる。 5) 障害受容とそのプロセスを理解し、心理・精神的援助について考えることができる。 6) 障害をもつ人の生活者としての状況と、その人を取り巻く環境を理解し、生活の再構築への援助を考えることができる。 7) チームアプローチを基にセルフケア獲得への安全、安楽な援助技術を考えることができる。				
先修要件	なし				
関連科目	家族関係論、社会福祉論、社会保障論、保健医療福祉行政論、看護学概論、看護倫理、基礎看護方法論Ⅰ～Ⅲ、生涯発達論、成人看護学概論、成人看護方法論Ⅰ～Ⅳ、高齢者看護学概論、高齢者看護方法論Ⅰ～Ⅱ、在宅看護学概論、在宅看護方法論Ⅰ～Ⅱ				
学修上の注意	・授業は講義を中心とするが、参加型の授業になるよう、予習、復習をして臨むこと。 ・障害がありながら社会生活を送る人々に関心をもち、かつその方たちとの共生、社会的包含に向けた支援や取り組みについて、自分なりの考えや疑問をもって授業に参加すること。				
成績評価の方法					
評価方法	定期試験 100%				
評価基準	1) リハビリテーションの理念と構造、主要な概念、障害者のとらえ方と障害者の権利、社会保障について説明することができる。 2) 身体機能障害を中心に、心理、社会生活、日常生活への影響を含めた全体的なアセスメントを記述することができる。 3) アセスメントを踏まえた、具体的な看護援助を考え、説明できる。 4) 障害をもつ人の生活者としての状況と、その人を取り巻く環境を理解し、生活の再構築に向けた援助を考え、多職種および多施設との連携・協働の方略を述べるることができる。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
フィードバックの方法は、授業内で提示する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
『リハビリテーション看護』 南江堂 『ナーシンググラフィカ リハビリテーション看護』 メディカ出版 『リハビリテーション看護の実践-概念と専門性を示すARNのコアカリキュラム』 日本看護協会出版会 『リハビリテーション専門看護』 医歯薬出版株式会社 『専門性を高める継続教育 リハビリテーション看護実践テキスト』 医歯薬出版株式会社 『超リハ学 看護援助論からのアプローチ』 文光堂					
その他					
連絡先・オフィスアワー	長瀬雅子 mnagase@juntendo.ac.jp				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	佐野	リハビリテーションの基本的考え方とリハビリテーション看護 1) リハビリテーションとは 2) 障害者施策の歴史の変遷 3) 主要概念 (ノーマライゼーション・受容・スティグマ) 4) 病期の特徴とチームアプローチ	講義	[予習] 社会福祉論、社会保障論の該当箇所を復習しておくこと。 (学習時間30分) [復習] 講義内で指示する。 (学習時間60分) [キーワード] ノーマライゼーション・受容・スティグマ、社会保障制度、障害者施策
2	島田	予防的リハビリテーション	講義	[予習] 保健学概論、精神看護学概論、地域生涯保健活動論、形態機能学Ⅰ、臨床医学ⅠA・B、高齢者看護学概論、高齢者看護方法論Ⅰ・Ⅱの知識を確認し、病気や機能低下の「予防」について復習しておくこと。 (学習時間30分) [復習] 講義内で指示する。 (学習時間60分) [キーワード] サルコペニア、フレイル、ロコモティブシンドローム、廃用症候群
3	水野	精神医療福祉とリハビリテーション	講義	[予習] 精神の健康障害と看護「統合失調症」、精神看護方法論「統合失調症の看護」、「精神障害者の退院促進と地域生活支援」について確認しておくこと。 (学習時間30分) [復習] 統合失調症者の地域移行と地域定着に必要な課題と支援について、ノートにまとめておくこと。 (学習時間60分) [キーワード] 精神科リハビリテーション、リカバリー、ストレングスモデル、WRAP (元気回復行動プラン)、ピアサポート
4	佐野	地域におけるリハビリテーション	講義	[予習] 在宅看護論、地域生涯保健活動論の講義を復習しておくこと。 (学習時間30分) [復習] 講義内で指示する。 (学習時間60分) [キーワード] 地域リハビリテーション、社会参加、社会的統合
5	北原	がん医療と終末期リハビリテーション ※骨転移	講義	[予習] 成人看護方法論Ⅳの講義を復習しておくこと。 (学習時間30分) [復習] 講義内で指示する。 (学習時間60分) [キーワード] がん、骨転移、終末期リハビリテーション
6	佐野	リハビリテーションにおける多職種連携 ※慢性呼吸不全	講義	[予習] 形態機能学、臨床医学Ⅰの呼吸器疾患を復習しておくこと。 (学習時間30分) [復習] 講義内で指示する。 (学習時間60分) [キーワード] 呼吸リハビリテーション、多職種連携
7	長瀬	まとめ-生活の再構築に向けた支援	講義	[予習] これまでの講義内容や自分自身が考えたことをまとめておくこと。 (学習時間30分) [復習] 講義内で指示する。 (学習時間60分) [キーワード] リハビリテーション看護、生活の再構築

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記 (PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	エンド・オブ・ライフケア論	必修・選択	選択
英語科目名	End of Life Care	対象学年	3年
開講学期	後期後半	単位数	1単位
代表教員	樋野 恵子	ナンバリング	PNL41A4
担当教員	樋野 恵子※、長瀬 雅子※、高谷 真由美※、奥出 有香子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	生きる意味と死を迎えるか、またいかに看取るかについて考え、人生の最終段階における看護の役割について理解する。エンド・オブ・ライフに特徴的な心身の状態を理解し、症状をコントロールしたり緩和したりするための具体的な方法について学ぶ。また、家族等が抱える苦悩や、エンド・オブ・ライフに特徴的な倫理的課題と医療職者としての役割について学ぶ。				
授業の位置づけ	エンド・オブ・ライフにある人とその家族等に対して必要とされる看護に関わる知識・技術を統合的に理解することで、質の高い看護を提供する実践能力を養う。関連授業科目および看護学実習等における既習の知識や技術、経験を生かしながら、自己の考えを深める。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	ODP1-Ⅲ、ODP2-Ⅰ、ODP2-Ⅱ、◎DP2-Ⅲ、△DP3-Ⅰ、△DP4-Ⅰ				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間のライフサイクルにおける死の意味について理解し、エンド・オブ・ライフの場における看護の役割について説明できる。 2. エンド・オブ・ライフにある患者とその家族等の状況や特徴について理解し、人間としての尊厳を保ちながら、死を迎えるための看護を説明できる。 3. エンド・オブ・ライフにみられる症状と症状コントロール、緩和ケアの具体的な方法について説明できる。 4. 遺族に対するケアの必要性を理解し、遺族への支援における看護の役割を説明できる。 5. エンド・オブ・ライフにおいてどのような倫理的課題があるのかを理解し、支援の方法について説明できる。 6. 学習のプロセスを通して、自己の死生観について考えることができる。 				
先修要件	なし				
関連科目	成人看護方法論ⅡⅢⅣ、高齢者看護方法論ⅠⅡ、在宅看護方法論ⅠⅡ、小児看護方法論ⅠⅡ、精神看護方法論ⅠⅡ、看護倫理				
学修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義・演習の前には、必ず関連する既習科目を復習する。 2. 課題に対し、積極的に資料や文献を活用する。 3. 自らの疑問や課題を持ちながら思考を深め、積極的な姿勢で授業に参加する。 				
成績評価の方法					
評価方法	定期試験（60%）、グループワーク・プレゼンテーション（30%）、授業内レポート（10%）				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の生と死について考え、現時点での生きる意味や死の在り方について、自身の考えを述べるができる。 2. 他者の死生観や死生観など価値観の多様性を理解し、エンド・オブ・ライフにおける看護の役割について説明できる。 3. エンド・オブ・ライフにある患者を支えるために必要な緩和ケアの具体的な方法について説明できる。 4. エンド・オブ・ライフに特徴的な倫理的課題と医療職者としての役割について、自身の考えを述べるができる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題・レポート、グループワーク・プレゼンテーションについては、授業内でフィードバックする。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
<p>小笠原知枝編著『エンドオブライフケア看護学 知識と実践』、ヌーヴェルヒロカワ、2018。 梅田恵・射場典子編『看護学テキストNICE 緩和ケア』第2版、南江堂、2018。 Jane Nicol, Brian Nyatanga "Palliative and End of Life Care in Nursing" 2nd ed., SAGE, 2017. Keri Thomas, Ben Lobo, Karen Detering "Advance Care Planning in End of Life Care" 2nd ed., OXFORD, 2018 . Friedman, M., Bowden, V. & Jones, E., "Family Nursing ? Research, theory, and practice." 5th ed., Prentice Hall, 2003. Veatch, R.M., "The Basics of Bioethics" 2nd ed., Pearson education, 2003. (=品川哲彦監訳『生命倫理学の基礎』メディカ出版, 2004.) Kim K. Kuebler, Patricia H. Berry, Debra E. Heidrich "END-OF-LIFE CARE Clinical Practice Guidelines" W. B. Saunders Company, 2002. (=エンドオブライフ・ケア 終末期の臨床指針, 医学書院, 2004.) シシリー・ソンドース『ターミナルケア 死にゆく人に寄り添うということ』北大路書房, 2017。 長江弘子編『看護実践にいかすエンド・オブ・ライフケア』日本看護協会出版会, 2014。 宮下洋一『安楽死を遂げるまで』, 小学館, 2017。 宮下洋一『安楽死を遂げた日本人』, 小学館, 2019。 清水哲郎・島園進編『ケア従事者のための死生学』ヌーヴェルヒロカワ, 2010。 アトゥール・ガワンデ『死すべき定め』みすず書房, 2016。 井上俊・上野千鶴子他編『病と医療の社会学』岩波書店, 1996。</p>					
その他					
連絡先・オフィスアワー	樋野 恵子 随時（事前にメールで連絡のこと k-hino@）				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	樋野 恵子	ライフサイクルにおける死の概念の発達および死の意味、終末期医療の歴史の変遷と現状	講義	予習：ライフサイクルについて復習する。生きること、死ぬこととはどういうことかを考える。(学習時間：2時間) 復習：社会文化的背景や個人的要因を振り返り、自己の死生観について考える。(学習時間：2時間)
2	樋野 恵子	人生の最終段階に向き合うということ：死にゆく人と周囲の人々の思い	講義	予習：死の受容過程と危機理論について整理する。家族等へのアセスメントについて調べる。(学習時間：2時間) 復習：進行性難病にある人がどのような思いを抱き、人生を選択しようとするのか、家族等の思いを整理し、最善の死とは何かを考える。(学習時間：2時間)
3	高谷 真由美	エンド・オブ・ライフにある患者に対する代替・補完療法による症状緩和：アロマセラピーを中心に	講義	予習：アロマセラピーについて調べ整理する。(学習時間：2時間) 復習：代替・補完療法の種類とエンド・オブ・ライフにある患者に使用する際の注意事項について説明する。(学習時間：2時間)
4	長瀬 雅子	死をめぐる倫理的課題とその対応	講義	予習：脳死と脳死臓器移植について調べる。(学習時間：2時間) 復習：終末期医療における倫理的課題と対処について整理する。自己の死生観について熟考する。(学習時間：2時間)
5	奥出 有香子	死にゆく人々の日常生活を調整し、支えるケアシステム：療養環境調整と退院調整	講義	予習：成人看護方法論Ⅳ(がん看護)で学習した内容を復習する。(学習時間：2時間) 復習：エンド・オブ・ライフにある患者が在宅へ移行する際の課題と看護師の役割、がん終末期患者の退院支援において重要なことを整理する。(学習時間：2時間)
6	樋野 恵子	エンド・オブ・ライフにある患者の看護に必要なスキル① エンド・オブ・ライフにある患者に生じやすい症状と具体的な看護ケアに関するグループ学習	グループワーク	予習：エンド・オブ・ライフにある患者に特徴的な症状について調べる。(学習時間：2時間) 復習：関心をもった症状とケアについて、そのメカニズムとエビデンス、実施時期、具体的方法などについてまとめる。(学習時間：2時間)
7	樋野 恵子	エンド・オブ・ライフにある患者の看護に必要なスキル② エンド・オブ・ライフにある患者に生じやすい症状と具体的な看護ケアに関するグループ学習成果発表、知識の共有	プレゼンテーション、ディスカッション	予習：グループで調べた結果をプレゼンテーション資料にまとめる。(学習時間：2時間) 復習：ディスカッションを通して学んだことを、臨床で実践・活用できるよう整理する。(学習時間：2時間)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	救急看護	必修・選択	選択
英語科目名	Emergency and Critical Care Nursing	対象学年	4年
開講学期	前期前半	単位数	1単位
代表教員	田中 朋子	ナンバリング	ANL41A1
担当教員	田中 朋子、池田 恵、阿久澤 優佳、佐野 裕子、松田 繁	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	<p>急病や事故、災害などにより健康状態が急激に変化した人々や家族の特徴を踏まえた看護を実践するために必要な基礎知識と科学的根拠に基づいた看護実践について学ぶ。</p> <p>健康状態が急激に悪化した人々を救う救急医療の一部に位置づけられる救急看護では、緊急度・重症度を基軸に急性の状態にある患者の病態を適切に評価し、処置や治療に迅速に対応するために必要な援助の在り方を理解し、患者や家族の心理的危機状態に対応し、治療優先になりがちな状況下で患者や家族の自立性を最大限に尊重するための看護実践について考える。</p> <p>また、救急患者における主要病態、救急搬送事例を用いた学習を通して、診断がついていない状態から緊急的な処置や検査が行われる中で診断され、治療、救急外来から救急病棟入室等とつながる一連の流れを理解し、危機的状況にある患者や家族の特徴をふまえて対応する医療者としてのあるべき態度と患者の個別性を反映させた救急看護を実践していくための基礎知識とアセスメント能力を習得する。</p>			
授業の位置づけ	<p>健康状態が急激に悪化した人々の疾患は多岐にわたる。既習の臨床医学の知識は救急看護を学ぶ上で前提となる。大切な人の命を救う救急医療の一部に位置づけられる救急看護では、緊急度・重症度を基軸に危機的状況にある患者の病態を既に修得したフィジカルアセスメントの基礎知識と基礎看護方法論Ⅲで修得した技術を用い、的確にアセスメントできる能力が求められる。生命の危機的状況にある救急患者にケアや処置、治療を迅速に提供するためには、基本的な基礎看護技術や成人看護方法論で学んだ原理原則に則した看護技術の励行が不可欠となる。様々な発達段階にある患者や家族の心理的危機状態に対応し、治療優先になりがちな状況下で患者や家族の自律性を最大限に尊重するためには、小児看護方法論、成人看護学概論、成人看護方法論、高齢者看護方法論、精神看護方法論の知識の修得が基盤となる。</p>			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	<p>【該当するコンピテンシー】</p> <p>本科目を学習することで、以下の能力の基礎が身につきます。</p> <p>△DP1-Ⅲ、○DP2-Ⅰ、○DP2-Ⅱ、◎DP2-Ⅲ、○DP3-Ⅰ</p>			
到達目標	<p>(1)救命救急時や災害時の救急医療の実際を知る。</p> <p>(2)救急医療に関連する看護の専門分野の特徴と多職種との連携の在り方について説明することができる。</p> <p>(3)救急外来や救急病棟における患者家族の特徴と医療看護活動について、説明することができる。</p> <p>(4)急変時や救急時の事例を検討し、対象者の状態に応じた看護実践の方法を判断して実施、評価することができる。</p>			
先修要件	なし			
関連科目	臨床医学、フィジカルアセスメント、基礎看護方法論Ⅲ、成人看護学概論、成人看護方法論、小児看護方法論、高齢者看護方法論、精神看護方法論			
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の一次救命処置（BLS）の基本的方法を復習し授業に臨むこと。 ・授業には予習をし主体的に臨むこと。 ・提示した復習内容を必ず実施すること。 ・演習やグループワークでは、グループメンバーと主体的に意見交換をおこなうこと。 			
成績評価の方法				
評価方法	筆記試験（60％）、演習発表（20％）、授業内レポート（10％）により評価する。			
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・救急医療に関連する看護の専門分野の特徴と多職種との連携の在り方について説明することができるか ・基本的看護の方法をおさえ、対象者に合った看護を学生同士で考察、実践することができるか ・対象者の個別性に応じた具体的な看護方法を提案することができるか 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
課題レポート、グループワーク、プレゼンテーションについては、授業内でフィードバックする。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
成人看護学急性期看護Ⅱ救急看護・クリティカルケア	佐藤まゆみ	南江堂	978-4-524-24164-4	
参考文献				
適宜紹介				
その他				
連絡先・オフィスアワー	田中 朋子 随時（事前にメールで連絡の事 tmtanaka@）			
備考				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1 4 月7日	田中	授業ガイダンス ・救急医療の現状 ・歴史と動向 ・救急医療体制 ・プレホスピタルケア ・救急医療と関連法令 ・救急医療と倫理 ・救急看護とは ・緊急度と重症度の判断 ・家族看護 ・意思決定支援 [キーワード] 救急医療体制、プレホスピタルケア、多職種連携、蘇生法（ガイドライン）、救急看護、危機モデル、重症度、緊急度、トリアージ、JCS（ジャパンコーマスケール）、GCS（グラスゴーコーマスケール）、ECS（エマージェンシーコーマスケール）、生命維持機能モニタリング	講義	[予習] ・救命救急看護における自己の課題について考えてくること。 ・キーワードについて、緊急度と重症度の判断について事前学習を行うこと。（学習時間：2時間） [復習] ・授業資料になる授業計画を確認し、授業全体のイメージをつかむ ・救急看護の対象である患者の身体的特徴、心理的特徴について整理する。（学習時間：2時間）
2 4 月7日	田中 阿久澤	救命救急処置 ・一次救命処置：BLS ・心肺蘇生 ・その他の救急処置 [キーワード] BLS（一時救命処置）、胸骨圧迫、電氣的除細動、酸塩基平衡、救急カート	講義	[予習] 配布資料を基に一次救命処置のCABDを復習しておく。（学習時間：2時間） [復習] 一次救命処置のCABDについて説明できるよう振り返る。（学習時間：2時間）
3 4月 14日	池田	事例で考える救急看護、救命救急処置 [キーワード] 病歴聴取（SAMPLE+OPQRST）、適切な報告：SBAR、胸痛、急性心筋梗塞、大動脈内バルーンパンピング（IABP）、経皮的心肺補助法（PCPS）、ACLS（二次救命処置）、ICU-AW、PICS	講義	[予習] キーワードについて事前学習を行うこと。（学習時間：2時間） [復習] 授業内容を振り返り、整理する。（学習時間：2時間）
4 4 月14日	田中 池田 阿久澤	事例検討（グループワーク） 提示した救急患者の事例について、診断、検査、処置、看護、連携まで一連の流れを考慮し、患者の個性を反映させながら基礎知識を基にアセスメントした内容と援助方法について、自己の記述内容を基にグループワークで検討し、パワーポイント発表と実演発表の準備をおこなう グループワーク	グループワーク	[予習] 事前に配布した事例課題の個人ワークを終わらせておく。また、グループ討議に必要な参考資料を準備する。（学習時間：2時間） [復習] グループで検討した内容と、自己の事前課題内容を比較検討し良い点や改善点について明らかにする。また、6回目の授業で発表できるよう役割分担をし、発表資料の準備を行う。（学習時間：2時間）
5 4 月21日	佐野	急性期のリハビリテーション [キーワード] 早期離床、呼吸理学療法、ICU-AW、PICS 講義	講義	[予習] COPD急性増悪について復習する。（学習時間：2時間） [復習] 授業内容を振り返り看護師として急性期リハビリテーションについて整理する。（学習時間：2時間）
6 4月 21日	田中 池田 阿久澤	事例発表会	プレゼンテーション	[予習] 発表ができるように役割分担等、必要な準備をしておく。（学習時間：2時間） [復習] 発表から事例課題の内容で不足していた部分等について振り返る。また、授業を通して救急看護における事故の課題について考える。（学習時間：2時間）
7 4 月25日	松田	救急医療と救急患者の特徴 [キーワード] 緊急度と重症度 一次評価と二次評価、救急看護、災害医療、DMAT（災害派遣医療チーム）、敗血症、多臓器機能障害症候群（MODS）、多臓器不全（MOF）	講義	[予習] キーワードについて予習し、救急看護の役割について考えてくる。（学習時間：2時間） [復習] 授業内容をもとに、救急医療の実際における救急看護の役割について考える。（学習時間：2時間）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	統合実習	必修・選択	必修
英語科目名	Integrated Nursing Practicum	対象学年	4年
開講学期	前期	単位数	2単位
代表教員	湯浅 美千代	ナンバリング	ANL42A2
担当教員	看護学系専任教員※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	既習の学習内容を基盤として、学生自身が選択した分野の専門的・応用的実践に取り組むことを通じて、看護実践能力を高める。				
授業の位置づけ	4年間の講義・演習・実習を統合し、選択した分野での実習を通して専門的・応用的な看護実践能力を高める。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP5-I、○DP2-I、○DP2-II、○DP2-III、○DP3-I、△DP1-III、△DP1-IV				
到達目標	1) 選択した分野の専門的・応用的な実践活動を展開できる。 2) 実習成果をレポートにまとめることができる。				
先修要件					
関連科目	既習の学習内容全般				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの看護学および関連領域の講義・演習・実習内容を復習し、看護実践能力を高めるための自身の学習課題を明確にしておくこと。 ・選択した分野ごとに技術の復習、文献検討、事故の課題の明確化、実習計画作成などの事前課題が提示される。担当教員によく確認を取り、十分に準備をして臨むこと。 ・3年の1～3月に分野選択の調整を行う。 				
成績評価の方法					
評価方法	実習内容・実習への取り組み状況（70%）、レポート（30%）を総合して評価する。				
評価基準	1) 実習において、求められた看護実践活動を展開できたか。 2) 実習成果をレポートにまとめることができたか。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
実習中、適宜担当教員からコメントする。 実習記録・レポートは実習終了後に各担当教員からコメントを付けて返却する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
各担当教員の指定による。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	不明な点などは科目責任者（湯浅）myuasa@または、担当教員にメール連絡してください。				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
	湯浅美千代	実習オリエンテーション（目標、注意事項等の説明）	オリエンテーション	予習： 既存の学習内容を振り返り、実習分野で学びたいことを、看護実践上の自身の課題と関連づけて述べる。 関連する講義・演習・実習の内容を整理しておく。 復習： 各分野の実習内容を参照し、自身の課題にどのように取り組むことができるかを述べる。 （学習時間：各60～90分）
	各担当教員	各分野のオリエンテーション（実習場所、内容等の提示、事前課題等の提示）	オリエンテーション	予習： 実習分野で学びたいことを整理し、担当教員と話し合えるように準備しておく。 各分野で提示された課題に取り組む。 復習： 各分野で提示された課題に取り組む。 担当教員と共に実習計画の立案を進める。 （学習時間：各120分）
	各担当教員	配置された分野で2週間の実習を行う。	実習	予習： 実習分野および関連領域の講義・演習・実習内容を復習する。 各分野で提示された課題に取り組む。 担当教員の指示に従い、実習計画を洗練させる。 復習： 実習記録を整理する。 レポート課題に取り組む。 実習記録やレポートに対するフィードバックを活用して、実習から得られた学びを整理する。 （学習時間：各60～120分）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	順天堂の先端医療と看護	必修・選択	選択
英語科目名	Advanced Healthcare&Nursing in Juntendo	対象学年	2～4年
開講学期	前期前半	単位数	1単位
代表教員	長瀬 雅子	ナンバリング	ANL44A2
担当教員	長瀬雅子※、植木純※、櫻井順子※、内藤俊夫※、辻村晃※、山路健※、大山彦光※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	診断法の進歩、高度先進医療や先端医療等の新しい知識も含めて、現在の医療を理解する。さらに現在の医療システム、チーム医療（専門職間連携）、看護・医療の継続性について学ぶ。これらの医療の持つ社会的側面や倫理的側面についての考察も深める。				
授業の位置づけ	医療は情報技術、システム工学、ロボット工学などの科学技術の発展とともに、診断法、治療法、医療提供システムなどが目まぐるしく変化しており、保健医療システムにおける専門職の役割や連携のあり方も柔軟に対応する必要がある。教育・研究の中心である大学と特定機能病院としての役割を担う大学病院における先端的な取り組みの一端を知ること、生涯学習の視点を養う。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	△DP1-III △DP2-I ○DP3-1 △DP4-I ○DP5-I				
到達目標	1) 我が国の医療システムの概要と高度医療を提供する医療機関の役割と機能について説明できる。 2) 順天堂が特定機能病院、高度急性期医療、地域医療支援病院等の役割を担うなかで、大切にしている看護の役割と機能を理解する。 3) 先進医療、高度先端医療等の知識を得るとともに、これらの医療の持つ社会的側面、倫理的側面について考え、意見を述べるができる。また、看護職および各専門職種との役割と多職種連携・協働、また課題について説明できる。				
先修要件	なし				
関連科目	臨床医学Ⅰ・Ⅱ、看護管理学				
学修上の注意	現代の保健医療福祉をとりまく諸問題に関心をもつとともに、高度・先端医療を提供する医療施設及びそこで働く看護職の役割について考えることを期待する。				
成績評価の方法					
評価方法	課題レポート 50%、日々の学習状況；予習課題、質疑への積極的な参加 50%				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・高度医療や先端医療などの医療を含めた、現在の医療の仕組みについて述べるができるか。 ・高度医療、先端医療における看護師の役割、ならびにチーム医療や医療の継続性における現状と課題について述べるができるか。 ・現代医療の倫理的課題について述べるができるか。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
フィードバックの方法は、授業内で提示する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
適宜参考文献や資料を提示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	長瀬雅子 mnagase@juntendo.ac.jp ※質問、コメントはメールで受け付けます。直接話す方が良い場合は、不在にしていることがあるので、先にメールでご連絡ください。				
備考	特になし。講義時に資料を配布する。				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	長瀬雅子	現代の保健医療システムの概要と将来の課題	講義	<p>[予習] 医療法、病院の分類と設置基準について勉強しておくこと。 (学習時間60分)</p> <p>[復習] 授業時間内に指示する。 (学習時間60分) [キーワード] 医療制度、病院の分類と機能、特定機能病院、先端医療、専門職間連携、医療の継続性、専門職倫理</p>
2	植木純	医療用アプリ(App)の開発と臨床導入の実際	講義	<p>[予習] 医療に取り入れられているICTは何かを調べてくる。 (学習時間60分)</p> <p>[復習] 授業時間内に指示する。 (学習時間60分) [キーワード] 情報通信技術 (ICT)、セルフマネジメント、アプリケーションソフトウェア(App)</p>
3	辻村晃	ロボット支援手術等について	講義	<p>[予習] ロボット支援手術について予習する。 (学習時間60分)</p> <p>[復習] 授業時間内に指示する。 (学習時間60分) [キーワード] ロボット支援手術</p>
4	山路健	難病患者の継続的な治療と日常生活/職業生活の支援	講義	<p>[予習] 難病をもつ人々への社会保障制度や支援体制について調べておく。 (学習時間60分)</p> <p>[復習] 授業時間内に指示する。 (学習時間60分) [キーワード] 難病医療ネットワーク、難病対策</p>
5	内藤俊夫	国際化への対応	講義	<p>[予習] グローバル化によって生じる健康上の諸問題について復習しておく。 (学習時間60分)</p> <p>[復習] 授業時間内に指示する。 (学習時間60分) [キーワード] 医療ツーリズム、国際化、感染症</p>
6	大山彦光	メタパースの臨床応用	講義	<p>[予習] 遠隔医療とその課題、VRやAIなどのデジタル技術を活用する上での課題について調べ、まとめておく。 (学習時間60分)</p> <p>[復習] 授業時間内に指示する。 (学習時間60分) [キーワード] メタパース、VR、AI、遠隔医療、倫理</p>
7	櫻井順子	順天堂の看護	講義	<p>[予習] 順天堂の歴史と、看護の役割について復習する。 (学習時間60分)</p> <p>[復習] 授業時間内に指示する。 (学習時間60分) [キーワード] 順天堂、先進医療、先端医療、国際認証</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記 (PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	看護職キャリア開発論	必修・選択	選択
英語科目名	Nursing Career Development	対象学年	3年
開講学期	前期前半	単位数	1単位
代表教員	田中 ひとみ	ナンバリング	PNL43A1
担当教員	田中ひとみ※、戸島郁子※、佐藤典子※、根岸万里子※、桜井順子※、堀込 克代※、多田真也※、前田浩※、山下小夜子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	看護職の専門職化が確立してきた背景とキャリア開発の方策を理解する。ここでは臨床の視点で専門職としての看護師のキャリア開発の特徴を多角的に学ぶ。6大学附属病院におけるキャリア開発モデルの提示、高度急性期医療を担う施設で活動する実践者からも看護師モデルを提示する。これらの講義の学びを通して自身のキャリアについて洞察を深める。				
授業の位置づけ	組織における看護職の役割、看護管理、高度な実践を行う看護師の活動などを臨床の視点から幅広く学ぶ。仕事を通じたキャリア開発について自分事として捉え、ビジョンや課題を明確化する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP3-1 ODP5-1				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護教育制度の変遷と時代に求められる看護師の役割と機能を理解する 2) キャリア開発支援に向けた主要な概念と生涯発達の視点からキャリア開発とキャリアデザインについて理解する 3) 医療現場の特徴と看護師のキャリア開発の特徴について関連を理解し、組織におけるキャリア開発の位置づけを理解する 4) 病院組織における看護の役割を理解し、看護部門に必要なマネジメントのあり方について理解する 5) 診療看護師、手術室看護師のキャリア・実践を理解する 				
先修要件	なし				
関連科目	看護管理学、看護の質と安全管理、保健医療福祉行政論、順天堂の先端医療と看護、医療と看護政策				
学修上の注意	専門職として看護を実践するために「看護とは何か」「看護師としてあるべき姿」について考える力を高める。社会の変化に伴う看護職の役割変化・専門分化についても考える。集中してオンライン講義から学んでいただきたい。				
成績評価の方法					
評価方法	定時出席（60%）、講義毎にミニレポート提出（40%）※テーマは講義時間内に講師から指示する				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニレポート内容：学習者自身の視点でキャリア観、キャリア開発に関して述べられている ・平常点（授業に積極的に参加する意欲等） 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
希望があれば個別にミニレポートのフィードバックをする					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	看護サービス管理第5版	中西睦子、小池智子ら	医学書院、2018		
参考文献					
その他					
連絡先・オフィスアワー	問い合わせ等は、随時浦安キャンパス事務室（メールアドレス：urayasu@）まで連絡すること				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1 4/7	田中ひとみ	1. プロフェッショナルとしての看護 2. 看護職の歴史的発展と新たな働き方 3. キャリア開発の方策 4. 順天堂医院の特徴とキャリア支援 〔キーワード〕 看護職の倫理綱領、キャリアデザイン	講義	〔予習〕 使用テキストP. 213～241を読む (第1回～3回まで同様：学習時間70分) 〔復習〕 キャリア開発に関連する用語を整理する 自身の周辺の人々にキャリア観を聴き視点を広げる (学習時間90分)
2 4/7	戸島 郁子	組織におけるキャリア開発の特徴 その1 1. 組織におけるキャリア開発の位置づけ 2. 浦安病院における医療現場の特徴と看護師に求められる役割 3. 看護師のキャリア開発と支援 〔キーワード〕 新人看護師 クリニカルリーダー 看護管理	講義	〔予習〕 使用テキストP. 213～241を読む (第1回～3回まで同様：学習時間70分) 〔復習〕 浦安病院の特徴と看護職のキャリアアップ支援についてまとめる 新人看護師に必要な学習課題をまとめておく (学習時間90分)
3 4/14	佐藤 典子	組織におけるキャリア開発の特徴 その2 1. 組織におけるキャリア開発の位置づけ 2. 高齢者医療センターにおける医療現場の特徴と看護師に求められる役割 3. 看護師のキャリア開発と支援 〔キーワード〕 高齢者医療・政策 キャリア開発 看護管理	講義	〔予習〕 使用テキストP. 213～241を読む (第1回～3回まで同様：学習時間70分) 〔復習〕 キャリア開発に関連する用語を整理する 他者のキャリア観を参考に自分のキャリアプランをまとめてみる (学習時間90分)
4 4/14	根岸万里子	組織におけるキャリア開発の特徴 その3 1. 組織におけるキャリア開発の位置づけ 2. 練馬病院における医療現場の特徴と看護師に求められる役割 3. 看護師のキャリア開発と支援 〔キーワード〕 継続看護 地域連携 キャリア開発 看護管理	講義 (オンライン)	〔予習〕 前回までの講義を振り返り、重要なポイントを整理しておく (学習時間70分) 〔復習〕 練馬病院の特徴と看護職のキャリアアップ支援についてまとめる 1～4回までの講義内容を活用して、自分のキャリアプランを考えてみる (学習時間90分)
5 4/21	櫻井 順子	病院組織におけるキャリア開発 1. 病院内で組織横断的に対応する看護師 2. 医療安全管理者の役割 3. 医療安全管理者としての看護師のキャリア開発 精神科における継続教育 1. 精神科看護に特化した日本精神科看護協会版クリニカルリーダー 〔キーワード〕 病院組織 看護管理者 医療安全管理者	講義	〔予習〕 組織・医療安全管理についてまとめておく (学習時間70分) 〔復習〕 講義内容を振り返り、重要なポイントを整理しておく (学習時間90分)
6 4/21	堀込 克代 山下 小夜子	組織におけるキャリア開発の特徴 1. 組織におけるキャリア開発の位置づけ 2. 静岡病院における医療現場の特徴と看護師に求められる役割 3. 看護師のキャリア開発と支援 〔キーワード〕 新人看護師 キャリア開発 クリニカルリーダー 入退院支援	講義	〔予習〕 前回講義を振り返り、重要なポイントを整理しておく (学習時間70分) 〔復習〕 静岡病院の特徴と看護職のキャリアアップ支援について振り返り、自身のキャリアプランを考えてみる (学習時間90分)
7 4/21	多田 真也、 前田 浩	前半：診療看護師 (NP) の活動 (多田) 1. 診療看護師 (NP) を目指した理由と教育課程 2. 診療看護師 (NP) の役割と活動の実際 3. 診療看護師 (NP) が看護師特定行為研修をマネジメントする意義 〔キーワード〕 看護師特定行為 診療看護師 (Nurse Practitioner)、チーム医療 後半：手術室看護師としてのキャリア-世界で働けるスキルの獲得へ (前田) 1. 「手術看護」ってどんな看護？ 2. 手術室看護師としてのキャリア 3. 手術室で働く専門職の紹介 〔キーワード〕 手術看護 (器械だし看護、外回り看護)	講義	〔予習〕 看護師特定行為、看護師特定行為研修修了者 (通称名：特定看護師)、診療看護師 (NP: Nurse Practitioner) について調べる (多田) 手術室看護の概要について調べる (前田) (学習時間70分) 〔復習〕 講義内容を振り返り、重要なポイントを整理しておく (学習時間90分)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記 (PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	看護健康教育論	必修・選択	選択
英語科目名	Health Education in Nursing	対象学年	3年
開講学期	後期後半	単位数	1単位
代表教員	高谷 真由美	ナンバリング	PNL41A5
担当教員	高谷真由美※、坂本亜弓※ ※実務家担当教員	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	1)看護における教育的援助の位置づけと意義を理解する。 2)様々な健康レベルにある看護の対象者に必要な保健行動を理解し、その人にとっての最適な健康状態を目指す支援について考える。 3)看護の対象者に教育的援助を行なうための具体的な方法を理解し計画を立案する。 4)看護の様々な場面を想定し、そこで必要とされる教育的援助の技術と看護の役割について考える。			
授業の位置づけ	看護の基本的な機能である教育的役割について、他の看護方法論系の授業で学修したことを復習しながら確認し、教育的援助について実践的な理論や方法を付加していく。3年次、4年次の分野別実習の間に行われるため、看護における教育的援助について3年次の実習中の経験から、各自の課題を見出し、講義・演習で学修したことを4年次の実習で活用し確認する。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP2-I ○DP2-II ○DP2-III			
到達目標	1)看護における教育的援助の位置づけと意義について説明できる。 2)様々な健康レベルにある看護の対象者に必要な保健行動について例を挙げて説明することができ、個人にとっての最適な健康状態について自分の考えが述べられる。 3)教育的援助を実施するための計画を具体的に立案できる。 4)様々な場面に適切な教育技術を選んで適用させることができる。 5)をこれまでの経験と講義内容を統合して、看護における教育的援助の重要性と今後の課題を説明できる。			
先修要件	なし			
関連科目	看護学概論、成人（他すべての）看護学概論、成人看護方法論Ⅰ～Ⅳ、地域生涯保健活動論、公衆衛生看護学概論、健康運動方法論、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ、小児看護学実習、高齢者看護学実習、精神看護学実習、在宅看護学実習			
学修上の注意	日常生活や臨床実習での経験から、看護における教育的な援助について、自分の考えや疑問を持って授業に参加する。日ごろから、様々なメディアにおける健康に関する情報や話題に関心を持ち、気になったものは紙媒体や電子媒体に保存しておく。自分や身近な人が健康のために行なっていることに注目し、行動のきっかけや根拠、得られている成果を記録しておく。			
成績評価の方法				
評価方法	教育的援助技術演習課題（2題分）50%、授業内知識確認小テスト（6回分）40%、授業内課題と発表10%			
評価基準	1)看護における教育的援助の位置づけと意義について説明できるか。 2)様々な健康レベルにある看護の対象者に必要な保健行動について例を挙げて説明することができ、個人にとっての最適な健康状態について自分の考えが述べられるか。 3)教育的援助を実施するための計画を具体的に立案できるか。 4)様々な場面に適切な教育技術を選んで適用させることができ、看護における教育的援助の重要性を述べることができるか。			
試験・課題に対するフィードバック方法				
知識確認小テストの結果、および提出課題については2週間以内に個別にフィードバックを行う。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし				
参考文献				
「成人看護学 ヘルスプロモーション」ヌーベルヒロカワ 「患者教育のポイントーアセスメントから評価まで」医学書院 藤沢晃治著 「分かりやすい表現」の技術 講談社 「成人看護学概論」メディカ出版 向後千春著 「上手な教え方の教科書ー入門インストラクショナルデザイン」技術評論社				
その他				
連絡先・オフィスアワー	随時：担当教員にメールで連絡を取る 高谷 (mtakaya@) 坂本 (aysakamo@)			
備考	講義中に配布される資料を使用する。			

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	高谷	1. 健康教育とヘルスプロモーション 2. 看護における教育的な援助とは [キーワード] ヘルスプロモーション、セルフマネジメント、教育的援助、健康教育	講義	[予習]:30分 これまでの実習の中で自分が実施した教育的援助を振り返り、実施したことを整理する。 [復習]:30分 健康教育とヘルスプロモーションという言葉の定義を再確認し、説明できるようにしておく。
2	高谷	1. 看護の中で活用される教育的援助に関する理論と技法 1) 教育的援助に活用される理論 2) 教育的援助に活用される技法 2. 様々な対象者に応じた教育方法 1) アンドラゴジー・ベタゴジー・ジェロゴジー 2) 対象者の特徴に合わせた教育方法の選択 3) 個人・家族・集団を対象にした教育方法 [キーワード] 自己効力感、エンパワメント、アンドラゴジー、ベタゴジー、ジェロゴジー、ステップバイステップ法、目標設定、グループダイナミクス	講義	[予習]:30分 自分が実際に行なった教育的援助を振り返り、その基盤となっている理論を挙げておく。 [復習]:30分 教育的援助に有用な理論と教育技法名を挙げ、その特徴をまとめておく
3	高谷	1. 様々な健康レベルにある対象者への教育的援助① 一慢性期にある人への教育的援助ー [キーワード] 糖尿病、腎臓病、食事指導、 身体活動調整、自己効力感、 行動変容、情緒的刺激	講義	[予習]:30分 糖尿病、腎臓病についての病態と治療、患者に必要な療養行動の内容を整理しておく [復習]:40分 一生続くセルフケア行動の継続を支援するために有用な理論と教育技法をまとめておく
4	坂本	1. 様々な健康レベルにある対象者への教育的援助② 一急性・回復期にある人への教育的援助ー [キーワード] 救急看護、周術期看護、リハビリテーション看護	講義	[予習]:30分 手術前・手術後に必要な教育的援助の内容、急性期・回復期リハビリテーションの概念について授業プリントなどを読み直しておく [復習]:30分 急性期・回復期それぞれの時期に合わせた教育的援助の特徴をまとめておく
5	高谷	1. 様々な健康レベルにある対象者への教育的援助③ 一エンド・オブ・ライフ期にある人への教育的援助ー [キーワード] 緩和ケア、トータルペイン、 エンドオブライフ、家族ケア	講義	[予習]30分：実習中や自分の身近な例などから、ターミナル期に必要な教育的援助をあげてみる。 [復習]30分：ターミナル期の人に教育的援助を行なう場合に最も重要なことは何か説明できるようにまとめておく
6	高谷、 坂本	1. 看護の様々な場面で必要とされる教育的援助 1) 提示された事例の中で、興味のあるものを1つ選択し、教育的援助が必要な状況と内容をアセスメントして絞込み、教育的援助の計画を立案する。(個人ワーク) 2) 立案した計画の実施に必要な指導教材や指導媒体を選択、作成する。(個人またはグループワーク) 3) 指導計画の中の1場面を選んで、ロールプレイを行なって発表する。 4) ロールプレイで気づいたこと、改善案などについて全員で討議する。 [キーワード] 集団指導、個別指導、退院指導、教材化、指導媒体	GW・発表・ロール プレイ	[予習]60分：3、4、5回目の授業の中で、自分が最も興味ある内容を振り返り、重要なポイントを整理しておく [復習]40分：教育的援助を実施する場合に重要なポイントで、これまで意識していなかった内容を整理し、テキストなどで知識を再確認しておく。
7	高谷	1. 現代の社会状況における看護の教育的援助の重要性 2. チーム医療の中で発揮される看護の教育能力とは [キーワード] チーム医療、環境問題、QOL、ヘルスリテラシー、AI教材	講義・GW	[予習]30分：近年社会的に話題になっている健康問題や、健康に影響を及ぼしそうな社会現象について、情報を集めておく [復習]40分：医療チームのそれぞれが、果たしている教育的役割の特徴をまとめてみる

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	ナーシング・スキルアップ	必修・選択	選択
英語科目名	Nursing Skill Advancement	対象学年	
開講学期	後期前半	単位数	1単位
代表教員	齋藤 雪絵	ナンバリング	ANL43A1
担当教員	齋藤雪絵※、鈴木小百合※、村越春那※ ※実務家担当教員	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	4年間に学んだ既習の知識と技術を用いて、複雑な健康問題をもつ対象者への適切な看護を提供するためのエビデンスに基づいた臨床実践能力を身につける。事例課題に沿った実践的なシミュレーション学習を通して臨床実践能力を身につけることができる。			
授業の位置づけ	臨床現場で看護職として職務を全うするために必要となる臨床実践能力を育成する。全ての講義・実習が終了している4年生後期に開講されることから、4年間で学習した知識、技術、態度の総まとめとして位置づける。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	ODP2-I、ODP2-II、ODP2-III、ODP5-I			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の知識・技術を振り返り、自己の課題を見出し、解決方法を提案することができる。 2. 適切な看護を提供するための臨床判断に至った思考のプロセスを説明することができる。 3. 実践的なシミュレーション学習を行うことで、臨床実践能力を身につけることができる。 4. 複雑な健康問題を持つ事例患者に対して適切な看護を提供することができる。 5. 自律した学習を行い、自己の強み・弱みを明確にし、自己研鑽に努めることができる。 			
先修要件	なし			
関連科目	基礎看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、看護理論・看護過程、フィジカルアセスメント、小児看護方法論、成人看護方法論、高齢者看護方法論、精神看護方法論、在宅看護方法論Ⅰ・Ⅱ、母性看護方法論、等			
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4年間で学びを振り返り、自己の課題を明確にして学習に取り組む。 ・ 本科目では、全ての事例について実際の看護場面を再現したシミュレーション学習で行う。 ・ 事例課題ごとの演習計画は、実践できる計画を立案し、シミュレーション学習がスムーズに実施できるように準備する。 ・ シミュレーションは、事例課題ごとに1人1回、実践できるようにする（履修人数により変更する可能性あり）。 ・ テキストや参考文献、eラーニングなどの複数の教材を活用して主体的に学習をすすめる。 ・ グループディスカッションを通して学びを共有したり、疑問点など解決する。 			
成績評価の方法				
評価方法	授業への取り組み30%、演習計画・事後レポート40%、課題レポート20%、学びの発表10%を総合して評価する。			
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題となる事例についての演習計画を不足なく実践可能な計画を立案し、授業に臨んでいる。 2. 適切な看護を提供するための臨床判断に至った思考プロセスを自分の言葉で説明することができる。 3. シミュレーション学習で実践した技術は、患者の安全・安楽、自己の安全が守られている。 4. シミュレーション学習で実践した技術は、適切な時間内に実践できている。 5. 授業を通して学んだこと、自分自身の今後の課題についてレポートに記述している。 6. 授業を通して学んだことについて相手に伝わる発表が実施できている。 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
提出された事後レポート、課題レポートは、コメントを記述し返却する。 シミュレーション学習中に実践した技術は、授業内にフィードバックし、より事例患者に適した方法を検討する。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ	茂野 香おる	医学書院	978-4-260-04211-6	
系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ	有田 清子	医学書院	978-4-260-04212-3	
看護がみえるvol.3 フィジカルアセスメントがみえる		メディックメディア	978-4-89632-781-6	
eラーニング（ナーシング・スキルなど）		ELSEVIER		
参考文献				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版」 株式会社メディックメディア 2. 「看護がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版」 株式会社メディックメディア 3. 「学ぶ・活かす・共有する 看護ケアの根拠と技術 第3版」 医歯薬出版株式会社 				
その他				
連絡先・オフィスアワー	<連絡先・オフィスアワー> 齋藤雪絵：ysaito@ 随時（事前にメールで連絡をください） 鈴木小百合：sayusuzu@ 随時（事前にメールで連絡をください） 村越春那：h.murakoshi.fo@ 随時（事前にメールで連絡をください）			
備考				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1・2	齋藤、鈴木、 村越	1. 授業ガイダンス ・ 授業の進め方 ・ 学習方法について ・ 評価方法について 2. シミュレーション学習とは ・ シミュレーション学習とは ・ シミュレータの使用方の説明 3. 臨床判断とは 4. 課題1 ・ 事例についての説明 ・ 学習内容の説明 ・ 演習計画の立て方 [キーワード] シミュレーション学習、デブリーフィング、実施、評価、臨床実践能力、臨床判断	講義・演習	[予習] ・ これまでの授業、実習を通した自己の課題についてまとめる。 (学習時間60分) [復習] ・ 演習に必要な知識、技術を再確認する。 (学習時間60分)
3・4	齋藤	1. 課題1のシミュレーション学習 ・ オリエンテーション ・ グループで演習計画の意見交換 ・ シミュレーションの実施(個人で行う) ・ デブリーフィング ・ グループでの学びの共有 ・ まとめ 2. 課題2-1の説明 ・ 事例についての説明 ・ 援助計画の立案 [キーワード] アセスメント、思考、観察	演習	[予習] ・ 課題1についての援助計画を立案する。 ・ 必要な知識、わからないことは調べておく。 (学習時間60分) [復習] ・ 演習計画を修正、追記し、不足した内容について必要な知識、技術を再確認する。 (学習時間60分)
5・6	村越	課題2-1 1. 課題2-1のシミュレーション学習 ・ オリエンテーション ・ グループで演習計画の共有、検討 ・ シミュレーション実施 ・ デブリーフィング ・ グループでの学びの共有 ・ まとめ 2. 課題2-2の説明 ・ 事例についての説明 ・ 援助計画の立案 [キーワード] インシデント、アクシデント	演習	[予習] ・ 課題2-1についての援助計画を立案する。 (学習時間60分) [復習] ・ 演習計画を修正、追記し、不足した内容について必要な知識、技術を再確認する。 (学習時間60分)
7・8	村越	課題2-2 3. 課題2-2のシミュレーション学習 ・ オリエンテーション ・ グループで演習計画の共有、検討 ・ シミュレーション実施 ・ デブリーフィング ・ グループでの学びの共有 ・ まとめ 4. 課題1～2の復習 ・ 異なるグループでのディスカッション ・ 自己課題について [キーワード] 状態変化	演習	[予習] ・ 課題2-2についての援助計画を立案する。 (学習時間60分) [復習] ・ 演習計画を修正、追記し、不足した内容について必要な知識、技術を再確認する。 (学習時間60分)
9・10	鈴木	自分が習得したい(苦手とする)技術や課題1・課題2の事例から見直しが必要となった技術を繰り返し実践する。 以下の看護技術を実施し、手順と根拠を確認する。内容は、個人によって異なる。 ・ フィジカルアセスメント ・ ベッドメイキング ・ 移乗 ・ 体位変換 ・ 寝衣交換 ・ 洗髪 ・ 足浴 ・ 陰部洗浄、オムツ交換 ・ 静脈血採血 ・ 注射(皮下、筋肉、静脈内) ・ 一時的導尿・持続的導尿 ・ 洗腸 ・ 経管栄養 他 [キーワード] 安全、安楽、観察、動線	演習	[予習] ・ 課題1～2を通して不足していた技術について、テキスト・動画で手順、根拠を確認する。 (学習時間60分) [復習] ・ 再習得した技術についての活用方法、観察ポイントについて、確認しまとめる。 (学習時間60分)

11・12	齋藤	課題3（多重課題：2人の患者を受け持つ事例を予定している） 3. 課題3のシミュレーション学習 ・ オリエンテーション ・ グループで演習計画の意見交換 ・ シミュレーションの実施（個人で行う） ・ デブリーフィング ・ グループでの学びの共有 ・ まとめ [キーワード] 多重課題、優先順位	演習	[予習] ・ 課題3についての援助計画を立案する。 （学習時間60分） [復習] ・ 演習計画を修正、追記し、不足した内容について必要な知識、技術を再確認する。 （学習時間60分）
13・14	齋藤、鈴木、村越	課題1～3まとめ 学習成果の発表	講義、発表	[予習] ・ 課題1～3について疑問があればまとめておく。 ・ 学習成果の発表準備をする。 （学習時間120分） [復習] ・ 疑問に思った点や必要となる知識、技術を再確認する。 （学習時間60分）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	国際保健	必修・選択	選択
英語科目名	International Health	対象学年	3年
開講学期	前期前半	単位数	1単位
代表教員	若林 律子	ナンバリング	PNL45A1
担当教員	若林 律子※、湯浅 資之※、白山 芳久※、岡本 美代子※、上野 里美※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	世界の人々の健康問題と健康格差について理解を深め、そうした健康課題にどう対処していくべきかを学修する。				
授業の位置づけ	グローバリゼーションが進む現代社会に柔軟に対応でき、多様な価値観を理解し、適切な判断と問題解決ができるための理論と方法を学修し、国際的視野を持って活動できるための基礎と位置づける。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP4-CA：国際的視野をもって活動できる基礎的能力				
到達目標	(1) 国際保健、グローバルヘルスの基本理念と目標について、概要を述べることができる。 (2) 世界の、特に開発途上国の健康課題や健康格差についての現状を説明することができる。 (3) 世界の、特に開発途上国の健康問題へ看護職はどのように取り組んでいるのかを述べるすることができる。 (4) 主要な国際援助機関の役割について説明することができる。				
先修要件	なし				
関連科目	保健学概論、保健医療社会学、健康と疫学、保健統計、公衆衛生看護学概論、地域生涯保健活動論、地域保健活動論、世界の医療・福祉制度				
学修上の注意	授業資料には授業内容と復習課題も掲載しているので、必ず復習課題に取り組むこと。グループワークは、メンバーと協力し合い積極的に取り組むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	レポート評価（30%）、グループワークを含む授業参加度（70%）				
評価基準	(1) 国際保健、グローバルヘルスの基本理念と目標について、概要を述べることができる。 (2) 世界の、特に開発途上国の健康課題や健康格差についての現状を説明することができる。 (3) 世界の、特に開発途上国の健康問題へ看護職はどのように取り組んでいるのかを述べることができる。 (4) 主要な国際援助機関の役割について説明することができる。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題等に対するフィードバックは授業内で行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし					
参考文献					
日本国際保健医療学会編「国際保健医療学 第3版」杏林書院 2013 丸井英二・森口育子・李節子編「国際看護・国際保健」弘文堂 2017 湯浅資之著「ヘルスプロモーションの原点回帰」ライフ出版社 2021 岡本美代子編著「海外で国際協力をしたい人のための活動ハンドブック」遠見書房 2021					
その他					
連絡先・オフィスアワー	・金曜日12:30~14:00 又は ・随時（事前にメールで若林に連絡のこと r.wakabayashi@juntendo.ac.jp）				
備考	特になし				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1 (5/12)	湯浅 資之	国際保健学の概要 【キーワード】 国際保健、グローバルヘルス、健康格差、健康の社会的決定要因	講義	【予習】 ・国際保健、グローバルヘルスについて事前に調べる（学修時間：2時間） 【復習】 ・国際保健とグローバルヘルスの目的、課題、対策について整理する（学修時間：2時間）
2 (5/12)	白山 芳久	国際保健を支える仕組み 【キーワード】 世界保健機関、国連児童基金、世界銀行、国際協力機構、SDGs	講義	【予習】 ・国際援助機関について事前に調べる（学修時間：2時間） 【復習】 ・国際援助機関の役割、国際保健政策について整理する（学修時間：2時間）
3 (5/19)	岡本 美代子	国内外におけるグローバル社会と人々の健康 I (グループワーク1 なぜ赤ちゃんは死んでしまったのか) 【キーワード】 やさしい日本語、在外邦人、在日外国人、外国とつながる人々、多文化看護、後発開発途上国	講義 GW	【予習】 ・自分の生活圏にいる「外国とつながる人々」について考える ・「やさしい日本語」について調べる（学修時間：2時間） 【復習】 ・国内外のグローバル社会がもたらす人々の健康への影響について整理する（学修時間：2時間）
4 (5/19)	岡本 美代子	国内外におけるグローバル社会と人々の健康 II (グループワーク2 後発開発途上国の人々の健康①) 【キーワード】 保健指標、感染症、予防接種、安全危機管理	講義 GW	【予習】 ・後発開発途上国について調べる（学修時間：2時間） 【復習・グループワーク課題】 ・後発開発途上国より1国に焦点を当て、その国の文化・社会背景をふまえて保健指標を読み取り、健康課題と対策について整理する。4-7コマ目を通した課題（学修時間：2時間）
5 (5/24)	上野 里美	後発開発途上国における健康課題 【キーワード】 保健システム、保健プログラム	講義 GW	【予習】 ・前コマで提示したグループワークを進める（学修時間：2時間） 【復習・グループワーク課題】 ・授業をふまえて、グループワークを進める（学修時間：2時間）
6 (5/24)	上野 里美	後発開発途上国における健康課題への対策 (グループワーク3 後発開発途上国の人々の健康 ②) 【キーワード】 保健システム、人材育成、保健プログラム、持続可能性、住民参加、自立支援	講義 GW	【予習】 ・国際保健活動について事前に調べておくこと。グループプレゼンテーションに向けての準備を進める（学修時間：2時間） 【復習・グループワーク課題】 ・授業をふまえて、グループワークを進める（学修時間：2時間）
7 (5/26)	岡本 美代子 若林 律子	国際保健学のまとめ (グループワーク4 グループプレゼンテーション) 【キーワード】 国際保健、国際保健活動	講義 GW	【予習】 ・国際保健で使用した資料を再度読む。グループプレゼンテーションの準備を整える（学修時間：2時間） 【復習】 ・国際保健学で学んだことを振り返り整理する（学修時間：2時間） 最終レポート課題：本科目で学んだことについてA4用紙1枚程度にまとめる

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	災害看護	必修・選択	選択
英語科目名	Disaster Nursing	対象学年	4年
開講学期	前期前半	単位数	1単位
代表教員	櫻井 しのぶ	ナンバリング	ANL41A2
担当教員	櫻井しのぶ※、杉田学※、野村智久※、中西唯公※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	災害による人や社会への影響、災害に対する社会的対応システム（発災前の準備、発災後の対応等）、国際的視野から捉えた災害看護の在り方等を理解し、災害に対する看護職の役割を学修する。また、災害医療活動に必要な基本的な知識及び技術やその方法について学び、他の医療職者や他職種と連携した支援の在り方を学修する。				
授業の位置づけ	災害による人や社会への影響、災害に対する社会的対応システム（発災前の準備、発災後の対応等）、国際的視野から捉えた災害看護の在り方等を理解し、災害に対する看護職の役割を学び、災害医療活動に必要な基本的な知識及び技術・方法と他職種と連携した支援の在り方を学修することで、既習の看護や科目を統合する位置づけとなる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP2-I ○DP2-II ○DP2-III ○DP3-I ○DP4-I				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害による人や社会への影響について説明できる。 2. 災害に対する社会的対応システム（発災前の準備、発災後の対応等）について説明できる。 3. 災害時要援護者への支援内容と課題について説明できる。 4. 地域における災害保健活動について説明できる。 5. 災害時の国際的看護活動の重要性と課題について説明できる。 6. 日本のDMAT活動内容と連携について説明できる。 7. トリアージの考え方とその方法を修得する。 				
先修要件	なし				
関連科目	地域生涯保健活動論、救急看護				
学修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1) 既習の知識を活用し、学修に臨むこと。 2) 講義に出されている演習課題についても積極的に取り組む。 3) 演習には全出席を求める。 4) 災害看護において関連する知識として、同時期に学修する「救急看護」と関連付けながら授業に臨む。 5) 地域生涯保健活動論での学びを復習しておく。 				
成績評価の方法					
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) レポート課題(70%) 2) 各講義事の課題や演習の取り組み状況(30%) 				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害による人や社会への影響について説明できる。 2. 災害に対する社会的対応システム（発災前の準備、発災後の対応等）：災害サイクルに応じた内容について説明できる。 3. 災害時要援護者への支援内容と課題について説明できる。 4. 地域における災害保健活動について説明できる。 5. 災害時の国際的看護活動の重要性と課題について説明できる。 6. 日本のDMAT活動内容と連携について説明できる。 7. トリアージの考え方とその方法を修得する。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
<p>課題や演習における評価は全体を総括して、講義の中でフィードバックする。 其々の講義における課題の回答やレポートの記載内容にて到達目標の達成度を判断する。 課題等に対するフィードバックの希望者には随時メールで受け付ける。</p>					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
酒井明子他、災害看護、南江堂、2018。 適時提示します。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	・随時（事前にメールで連絡のこと ssakura@juntendo.ac.jp まで）				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	櫻井しのぶ	1) 災害・災害看護の概念と歴史 2) 災害サイクルと災害の種類と疾病構造 3) 災害発生時の社会システム 災害に関する制度 災害時の支援体制 災害時のリスクコミュニケーション 4) 災害サイクル別における看護活動 5) 災害時の多職種連携の在り方	講義	[予習] 自然災害の概要について調べてくる。(学習時間2時間) [復習] 関心を持った過去の災害について調べ再考する。(学習時間2時間)
2	櫻井しのぶ	災害における支援の実際 1) 災害要援護者への看護 2) 災害時のメンタルヘルス 3) 災害特有の疾病 4) 災害時における避難所での健康管理	講義	予習 災害時における要援護者の人がどのようにダメージを受けているのかネット等で調べておく(学習時間2時間) [復習] 災害時の支援者として被災者への声掛けにどのように気を遣うべきなのかサイロジカルファーストエイドのサイトを閲覧して、自分の考えとしてまとめる。(学習時間2時間)
3	中西唯公	地域における災害保健活動 1) 平常時の災害予防対策と保健師活動 ① 地域の実態把握 ② 住民の実態把握 ③ 自治防災活動などのネットワークづくり ④ 地域防災の実際 2) 災害時の保健師活動の実際 ① 急性期・亜急性期の地域保健活動 ② 復旧・復興時の地域保健活動 3) 長期の災害後の地域復興支援における看護職の役割やその支援の実際	講義	[予習] 地域における復興の例をネットで探して、実際の課題は何かについて調べる。(学習時間2時間) [復習] 東日本大震災や今までの水害被害にあった地域のその後の復興において何が問題でどのような解決が可能であるのか?今までの講義を参考に自分の考えをまとめる。(学習時間2時間)
4	杉田学	1. 国外における災害時の支援活動 1) 国際緊急援助の概要 2) 国際的な災害時緊急援助の支援調整体制 2. 国際緊急援助における看護師の役割 3. 国際緊急援助隊医療チームと救助チームの活動	講義	[予習] 1回~3回の授業を復習し参加する。(学習時間2時間) [復習]授業の内容を振り返り、授業で触れなかった海外における災害についてもその概要を調べる。(学習時間2時間)
5	野村智久	国内における災害時の支援活動 1) 災害時における医師の役割 2) 災害時における看護師の役割 3) 災害時の他職種連携 4) 日本のDMAT活動 5) 災害計画と広域搬送 6) 災害時に必要な技術(トリアージ他)	講義 GW	予習]前回の授業内容を復習し参加する。(学習時間2時間) [復習]日本のDMATの現状を整理する。(学習時間2時間)
6	杉田学 野村智久	机上シミュレーション 発災時の初動とマネジメント 1) 災害時の初動 2) 人員配置とBCP 3) トリアージと根本治療 練馬病院を例に取り、その想定の下に事例を展開しながらグループで災害が起こった時の対応を考え発表し、災害医療担当の医師や看護師らとディスカッションを行う。	講義 GW	[予習]災害時の役割とトリアージの方法について調べる。(学習時間2時間) [復習]シミュレーションの重要ポイントを整理する。(学習時間2時間)
7	櫻井しのぶ 中西唯公	1) 災害支援及び看護活動に関する課題と展望 2) 国内外での災害後の地域保健活動の実際を事例と共に学ぶ	講義 GW	[予習] 6回の授業内容を整理し、災害時の支援に対する課題と展望をまとめ整理し参加する。(学習時間2時間) [復習]7回の授業を通し、レポート整理に必要な情報収集をする。(学習時間2時間)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記(PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	多文化の医療と看護（海外研修）	必修・選択	選択
英語科目名	Multicultural Healthcare and Nursing	対象学年	2～4年
開講学期	通年	単位数	2単位
代表教員	櫻井 しのぶ	ナンバリング	ANL45A1
担当教員	櫻井しのぶ、野崎真奈美、若林律子、寺岡三左子、池田恵、金子育世、岡本美代子、中山仁志、寺岡三左子、宮本圭、板井麻衣、野村菜摘、中西唯公、グロウ デボラ アン	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	異文化を理解し、グローバルな視点での看護実践や研究の展開、異文化看護領域のリーダーシップに資する基礎的能力を養う。				
授業の位置づけ					
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP4-I、ODP1-II、ODP3-I、ODP5-I				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 訪問国の文化について述べるができる。 2) 訪問国の看護教育、看護師の職域（APN、CNS、NP、NA、NM等）、チーム医療について述べるができる。 3) 訪問国の保険制度・医療の現状と課題、日本と比較した長所・短所を述べるができる。 4) 訪問国の大学病院・総合病院における先端医療について述べるができる。 5) 訪問国の医療福祉保健関連施設等におけるケアについて述べるができる。 6) 訪問国の健康に関する信念と実践について述べるができる。 				
先修要件	なし				
関連科目	看護学概論、フィジカルアセスメント、小児看護方法論、成人看護方法論、高齢者看護方法論、周産期の看護、ターミナルケア論、看護管理学、臨床医学Ⅰ、臨床医学Ⅱ、実践看護英語、英語多読多聴Ⅱ、医療英語講読				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問国によって違うが、最小催行人数は2名、最大催行人数は30名とする。催行人数が満たない場合は科目として成立しないことがある。 ・ 国内外の社会事情などにより催行不可能な場合もある。 ・ 研修に参加するには以下の条件を満たす必要がある。 <ol style="list-style-type: none"> 1) TOEFLスコアが400点以上かつ2回目以降のスコアが上昇していること。満たない場合は2023年4月のTOEFL受験を考慮する。 2) GPAが2年生は2.3以上、3-4年生は3.0以上であること。 ・ 教室での講義（浦安・訪問国）、訪問国での医療関連施設見学やシャドーイング実習などを行う。 ・ 訪問国での講義や演習は順天堂医療看護学部との協定や提携を結んでいる大学等で行う。 ・ 研修期間は各々の訪問国により違うが、大学の学生寮あるいはホテルに滞在する。 ・ 講義・医療施設見学等では研修場所によっては翻訳担当者が逐語訳を行うが、ほとんどの研修場所においては通訳は無い状態であるので、講師・施設紹介担当者に英語で質問すること。かなりの英語力を必要とするため、自主的にも語学力を磨いておく。 ・ 提示した予習、復習は必ず行うこと。 ・ 研修終了後、研修の成果について報告書を作成する。内容には以下の点を含める。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 訪問国の文化、看護、医療に関して新しく学んだこと 2) 健康に関する信念と実践についての訪問国と日本との比較 3) 自分自身のビジョンの変化 				
成績評価の方法					
評価方法	日々の学習状況 40%、レポート 60%				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問国の文化について述べるができるか。 ・ 訪問国の看護教育、看護師の職域（APN、CNS、NP、NA、NM等）、チーム医療について述べるができるか。 ・ 訪問国の保険制度・医療の現状と課題、日本と比較した長所・短所を述べるができるか。 ・ 訪問国の大学病院・総合病院における先端医療について述べるができるか。 ・ 訪問国の医療福祉保健関連施設等におけるケアについて述べるができるか。 ・ 訪問国の健康に関する信念と実践について述べるができるか。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポートは、提出後2週間以内にフィードバックを行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
随時紹介					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時（事前にメールで連絡のこと ssakura@ 迄）				
備考	随時紹介				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	金子 グロウ	浦安キャンパスでの講義 1. 日常生活英会話	講義	[予習] 英語での自己紹介の内容を考え、練習する。(学習時間60分) [復習] 入国審査・税関での対応、自己紹介、外食・ショッピング等、講義内で学んだ英会話を繰り返し練習する。(学習時間60分) [キーワード] 入国、自己紹介、生活における英会話	

2	金子 グロウ	2. 日常生活英会話	講義	<p>[予習] 英語での説明を考えながら折り紙の練習をする。日本文化（書道、花見、盆踊り、寿司屋等）について起源・特徴等を調べておく。(学習時間60分)</p> <p>[復習] 講義内で学習した内容を繰り返し練習する。サンキューカードを作成する。(学習時間60分)</p> <p>[キーワード] 日本文化紹介、ディスカッション</p>
3	金子 グロウ	3. 医療英語、プレゼンテーション	プレゼンテーション	<p>[予習] 事前に提示したテーマについてグループ学習し、スライドと発表原稿を作成する。(学習時間60分)</p> <p>[復習] アドバイスに沿ってスライド・原稿を修正し、プレゼンテーションの練習をする。医療関連の専門用語・イディオムを見直す。(学習時間60分)</p> <p>[キーワード] 医療英語、プレゼンテーション</p>
4~6	櫻井しのぶ、野崎真奈美、若林律子、寺岡三左子、池田恵、金子育世、岡本美代子、中山仁志、寺岡三左子、宮本圭、板井麻衣、野村菜摘、中西唯公、グロウデボラ アン	<p>【訪問国での講義】</p> <p>1. 訪問国の医療保健福祉制度について</p> <p>2. 訪問国のヘルスケアシステム</p> <p>3. 訪問国の看護制度や看護の役割について</p>	講義、グループワーク	<p>[予習] 日本の医療保険制度についてまとめる。(学習時間60分)</p> <p>[復習] 訪問国の保険制度、医療の現状と課題について振り返り、日本との比較における長所・短所をレポートに記述する。(学習時間60分)</p> <p>[キーワード] 社会保障制度、医療保険、ケアシステム、医療組織、看護管理</p>
7~9	櫻井しのぶ、野崎真奈美、若林律子、寺岡三左子、池田恵、金子育世、岡本美代子、中山仁志、寺岡三左子、宮本圭、板井麻衣、野村菜摘、中西唯公、グロウデボラ アン	<p>【訪問国での講義】</p> <p>1. 訪問国の看護実践における特性</p> <p>2. 訪問国の看護教育</p> <p>3. 訪問国の医療福祉保健関連施設における看護ケアの実践</p>	講義、グループワーク	<p>[予習] 日本における看護教育の仕方、看護ケアの特性や特徴、看護の役割についてまとめる。(学習時間60分)</p> <p>[復習] 訪問国の看護の現状と課題について振り返り、日本との比較における長所・短所をレポートに記述する。(学習時間60分)</p> <p>[キーワード] 看護ケア実践、看護教育、チーム医療</p> <p>[講師] 未定</p>
10	櫻井しのぶ、野崎真奈美、若林律子、寺岡三左子、池田恵、金子育世、岡本美代子、中山仁志、寺岡三左子、宮本圭、板井麻衣、野村菜摘、中西唯公、グロウデボラ アン	訪問国での研究活動や国際交流の実践	演習	<p>[復習] 順天堂大学における国際交流活動の実践を知り、考えたことをレポートに記述する。(学習時間60分)</p> <p>[キーワード] 国際学会、大学院、留学、共同研究</p>
11~18	櫻井しのぶ、野崎真奈美、若林律子、寺岡三左子、池田恵、金子育世、岡本美代子、中山仁志、寺岡三左子、宮本圭、板井麻衣、野村菜摘、中西唯公、グロウデボラ アン	<p>【訪問国での演習】</p> <p>1. 訪問国での大学・医療施設見学</p> <p>2. 訪問国での看護現場の実践（病棟や福祉保健関連施設等で）</p> <p>3. 訪問国の対象者毎の支援が必要な場面におけるケア活動</p> <p>4. 看護教育の現場</p> <p>5. 実際の看護師とのディスカッション</p> <p>* 訪問国によって演習を行う施設に違いがあるが訪問国においてそれぞれの目的を持って、国際的な視野のもとに、主体的に取り組み、質疑応答や討議などを行う。</p>	演習、グループワーク	<p>[予習] 日本における医療保健福祉制度の実践について関係法規等も含めて調べる。スケジュールに沿って見学もしくは演習を行う場所や施設が日本においてはどうかを調べておく。(各回ごとに学習時間60分)</p> <p>[復習] 見学や演習、実際の看護師等から聞いて学んだことや考えたことをレポートに記述する。(各回ごとに学習時間60分)</p> <p>[キーワード] 医療制度、ケアシステム、看護の役割</p>
19	櫻井しのぶ、野崎真奈美、若林律子、寺岡三左子、池田恵、金子育世、岡本美代子、中山仁志、寺岡三左子、宮本圭、板井麻衣、野村菜摘、中西唯公、グロウデボラ アン	<p>【訪問国での看護学生との交流、研修のまとめ、総合討議】</p> <p>1. 訪問国での看護学生との交流を通して、本国と日本の比較により発見した看護の実践や役割、課題などを話しあい、看護観を深める</p> <p>2. 訪問国の保健医療福祉現場の見学や演習、現地での生活及び様々な交流を通して、国際的視野からみた人々の健康課題や看護の在り方、今後日本の看護職や看護学生に求められる役割や責任、多様な文化背景を持つ対象への看護支援の在り方などについて、プレゼンテーションを行い、討議をし、自分の考えを表現する。</p>	グループワーク、プレゼンテーション	<p>[予習] 事前に選択したテーマに関することと、訪問国での見学や演習で発見した内容を統合して、英語にてプレゼンするための準備を行う。(学習時間90分)</p> <p>[復習] 総合討議などを通して、訪問国と日本との比較において考えたことをレポートに記述する。(学習時間60分)</p> <p>[キーワード] 国際比較、異文化コミュニケーション、国際的な看護の課題</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）



順天堂大学 医療看護学部

浦安キャンパス

〒279-0023 千葉県浦安市高洲2-5-1

TEL:047-355-3111

<http://www.nurs.juntendo.ac.jp/>

学生番号	
氏 名	